プロレス大好き超愛してる！ なプロレス増刊号!!
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
プロレス大特集
やっちゃっても
いいんだね？
enterbrain MOOK
2009 APRIL
860yen
"2009年のプロレス"とは何か？
プロレスに
ダマされたいぞ!!
欠場中でも表紙をゲット!!
巻頭カラーで恐妻家の真実に迫る！
天山広吉
&天山ファミリー
ウワサの"永田会"を特別開催!!
永田さん×嶋大輔
『週刊プロレス』佐久間編集長も大満足の
『ドラゴンゲート』に
学びました!!
知る人ぞ知る"心の師弟"対談実現！
ウルティモ・ドラゴン×
石田光洋
プロレスを巡る"底が丸見えの底なし沼"対談
水道橋博士×
マッスル坂井
あの柳澤健による徹底ロングインタビュー
1993年の
アジャ・コング
プロレス映画の最高傑作!!『レスラー』に泣け!!
町山智浩
プロレス団体の社長はツライよ!!
菅林直樹 新日本プロレス
高木三四郎 DDT
甲田哲也 NEO
マット界をぶち壊した『スガッスル』に肉薄！
菅 賢治 日本テレビプロデューサー
「猪木を殺せ！」ひさしぶりのトルコ節!!
ユセフ・トルコ
kamipro Special 2009 APRIL
印刷・製本 大日本印刷株式会社
©2009 ENTERBRAIN,INC. ©2009 DOUBLECROSS

CONTENTS

史上最大の振り幅でお届けします

# プロレスにダマされたい!!

PRO-WRESTLING



Presents



表紙写真／乾晋也

2009 APRIL

純度120パーセントの
プロレス特集号!!

●●●以外で

# プロレスにダマされた人に捧げる!!

「最近の『kamipro』はMMAしか載ってないじゃないか!」

というプロレスファンのリクエストにお応えして、純度120パーセントのプロレス増刊号を作ってみました!! テーマは——、ボンヤリしてますが〝ダマされたくなるプロレス〟です。

よく「ダマされたと思って……」という誘い文句がありますが、この増刊号にはダマされたくなるプロレスの魅力が詰まっております。たぶん。みんな真剣です。猪木をやっつければマット界が安泰になると唱えるユセフ・トルコ翁も——本当にそうなるかどうかはともかく——本気も本気、あのエネルギーには本当にダマされたくなる。

たとえば天山や永田さんが魅力的なのは、リング上の活躍もさることながら、アングルを超えたところの人間味からでしょう。映画評論家の町山智浩さんの話や、柳澤健さんが聞き手を務めたアジャ・コングのインタビューは、〝プロレスの裏側〟を鷲づかみにする内容でもあるんですが、それでもきっと「プロレスにダマされたくなる!」のは請け合いです。そんな一冊です。

——そういえば、かつて我らが破壊王・橋本真也が横浜アリーナの駐車場で村上和成に襲撃され、あわれ血ダルマとなってしまいました。そのとき破壊王は横浜アリーナの警備員に真顔で助けを求めたそうです。

「警察の方ですか……!?」

プロレスラーはやっぱりこうでなくちゃいけない!!

理恵さん＋"天山ジュニア"雄大くん

# "家族愛"!?対談

# 天山"恐妻伝説"の真相に迫る!!

**昨年、悲運の天山劇場で再ブレイクした天山が昨年末に突然、網膜剥離で緊急手術となって1.4東京ドームを欠場！今回は現在療養中の天山にお見舞い企画……ではなく、この機会にウワサの"恐妻伝説"を奥さん、天山ジュニアら天山ファミリーを招いてズバリ直撃！ 天山の家庭での驚愕の真の姿とは？**

聞き手／真下義之　撮影／乾晋也　試合写真／平工幸雄　写真協力／新日本プロレス

——今回、天山さんを大フィーチャーして表紙と巻頭カラーでドドンとやらせていただきます！

**天山**　ホンマですか！（嬉しそうに）。表紙なんてひさびさだなあ～。

——で、今日は"恐妻伝説"で知られる奥さんと天山ジュニアの雄大くんもご登場いただいて、真相をうかがいたいな、と。

**嫁**　ただ、申し訳ないですけど、撮影のほうは……。

**天山**　いいじゃん！　巻頭カラーなんて最初で最後だよ！

**カメラマン**　じゃあ、対談してるときの引いた画とか横顔ぐらいにしますので。

**嫁**　はい、それくらいなら。

——雄大くんにはのちほど話を聞くとして、まずはお二人のなれそめから。

**天山**　そこからですか！（笑）。95年の1月に仙台で会って、かれこれ14年になりますかね。ある選手が、「プロレス好きな女の子たちがいるんで、食事でもどう？」って誘ってくれてね。

——最初は、「絶対、振り向いてくれないだろうな」と思ったとか。

**天山**　そうなんですよ！　「いいなぁ」とは思いましたけど、「無理だろうな」って。

**嫁**　でも、この人は凱旋帰国した直後で「身体を維持しなきゃいけない」ってしゃべらず延々食べてたんです。しかも食べ終わったあと「もう一軒、焼肉屋に行きません？」って（笑）。

——なぜ焼肉屋に（笑）。

**嫁**　当然、「行きません」となって、お別れしたんだよね（笑）。

**天山**　食い足りなかったし、ほとんど話もしてないし、「ちょっと行きません？」みたいな（笑）。

**嫁**　その居酒屋でも、お茶漬けを「何十杯食べるんだ？」ってぐらい食べてたのに。

**天山**　話に入れなかったから、「食ってれば、振り向いてくれるかな」と思って（笑）。

——完璧に間違いですね（笑）。

**天山**　でも、それから1カ月ぐらいして道場に電話があったんですよ！

**嫁**　道場に電話してないよ！　誰かと間違えてんじゃない？

**天山**　あれ？　そうだっけ……。もう噛み合わんなあ～！

——ワハハハハハ！

**天山**　とにかく「連絡来た！　チャンスかな？」って思って。

**嫁**　友だちに「天山のサインがほしい」って言われて「もらってあげるよ」みたいなノリでもう一度会って、それで携帯番号を交換して……。あとはよく覚えてないですね（笑）。

——付き合うきっかけは？

**天山**　この人変わってるんですよ！　付き合うときって普通「付き合ってください」とか言いますよね？

**嫁**　言わないんじゃない？　中学生じゃないんだから。

——ある程度は言うと思います（笑）。

**天山**　だから、「俺、ホンマに付き合ってんのかな？」と不安で不安で……。その頃は仙台と東京で遠距離恋愛みたいな感じで、行ったり来たりだったし。

——天山さんは、「遠距離が面倒くさくなって、東京に呼んだ」とか。

**嫁**　昔は試合も多くて、1カ月に一回くらい。会っても半日や一日だったから、「東

（恐妻家でも？）ハッピーになってええんちゃう？
"悲運の猛牛"天山広吉×"天山の嫁"理恵さ
天山ファミリー"

京のウチに来たら？」と言われたんです。

—でも、レスラーとのお付き合いをご家族は心配しませんでした？

**嫁**　母方のおじいちゃんがプロレス好きで母も小さい頃から観てたんで、理解は早かったですね。でも東京で異性と一緒に住むってことは心配だったと思います。

—そりゃ、そうですね。

**嫁**　でも、私は決めたら譲らない性格なんで最終的に「じゃあ、行きなさい」と。そこからずーっと同棲して。披露宴をしたのが二人とも32歳のときだもんね？

—ちなみにこれがそのときの様子ですね（と当時の『週プロ』を出す）。

**嫁**　懐かしい！　雄大も見る？

**雄大**　あ〜っ、ママ、キレイ！　……パパ、キモい！

—ワハハハハ！　いまいくつですか？

**雄大**　5歳！

—パパは好き？

**雄大**　……パパ、キモい！

**天山**　わけわかんないですね（笑）。

**雄大**　（雑誌を指さしながら）あ、この人もキモい！

—あ、それはケロちゃんっていう人ですね（笑）。

**嫁**　そういうこと言わないの！

—話を戻すと、媒酌人は蝶野（正洋）夫妻でしたね。

**天山**　当時、一緒のチームやったんでね。最初は坂口（征二）会長にお願いしようと思ったんですけど、「さんざんやったからいいよ」と。で、蝶野さんに快く受けてもらえて。

—橋本（真也）さんはもうZERO—ONEに行かれてましたし。

**嫁**　橋本さんは当日大会もあったので披露宴は来れなくてビデオレターでしたけど……。それがまた下ネタ全開のビデオレターで。しかも30分ぐらいあって（笑）。

**天山**　あれはヒドかったなぁ。星野（勘太郎）さんや坂口会長のモノマネを始めちゃうんだから。

—下ネタとモノマネで30分（笑）。さすが破壊王ですね。あと披露宴で天山さんが「愛してるよ」と言ったら、奥様は「わかってるよ」と返事されたとか。

**天山**　普通「私も愛してる」って言うのに絶対返さないんですよ！　「わかってるよ」とか「ふ〜ん」ばっかりで。「愛してる」なんて言われたことないですもん！

**嫁**　私は言わなくてもいいかなって。結婚してすぐ子どもも生まれたから、子どもに愛情がいっちゃって（笑）。

—天山さんは結婚当時に「理恵ちゃん」と呼んでたみたいですが、奥さんは？

—"家族愛"!?対談

想像以上に"いいキャラ"だった天山の嫁・理恵さんだが、それ以上に衝撃的だったのは天山の過剰なまでの内弁慶ぶり！　家庭内でも身勝手な態度、なんとオラオラ調で口答えなど、恐妻伝説の原因は天山自身にあったのだからさすがだ。

## 人を憎くなったりしないんですけど夫に殺意が芽生えちゃったんです（嫁）

**嫁**　その頃は「広吉」ですね（サラリと）。

—呼び捨てですか（笑）。

**嫁**　でも、山本家の母に怒られまして。それがキッカケでケンカみたくなったよね。

—呼び捨てでケンカ寸前に。

**嫁**　でも、子どもが生まれてから「パパ」「ママ」ですね。子どもは「天山！」とか言ってますけど（笑）。

—息子も「天山」呼ばわり（笑）。あと、（佐々木）健介さんも恐妻家ですけど、天山さん的には「ウチのほうが上だ！」と。

**嫁**　絶対に佐々木さんのほうが上です！　北斗（晶）さんにはかなわないって！

**天山**　変わんないんじゃない？

**嫁**　いや、向こうが優勝だよ！

—なんのトーナメントですか（笑）。

**天山**　でも、自分は一度殺されかけてますからね……。

—天山さんが台所でタオルで首を絞められたって伝説がありますよね。

**嫁**　あの〜。人を凄く憎くなったり、大っ嫌いになることって、あまりないじゃないですか？　殺意が芽生えることもないですけど芽生えちゃったんですね。

—ワハハハハ！

**嫁**　なんかすぐに暴言吐くんですよ。ケンカして、「そこ言っちゃいけないんじゃない？」ってことを。「使えねえな！」とか「クソヤロー！」とか。

—家でもオラオラ口調で。

**嫁**　こっちもスイッチが入って、言い返すと、「うるせえんだ、オラ！」って。

**天山**　つい、カッとなって。自分は手は出さないけど、モノに当たっちゃうんですよ。

**嫁**　私が大事にしてたお皿とか、子どもが大事にしてるオモチャを壊されるとカチンとくるじゃないですか。そのあと部屋の隅で携帯とかいじってるうしろ姿とか見ると、「殺っちゃおうかな？」って（笑）。

**天山**　しかもね、自殺に見せかけようとするんですよ！

—ワハハハハ！

**嫁**　「死にたくて死にました」と見せかけるために。で、必死に考えた結果「タオルかな」と。ただ……意外と死なないんですよね、人って。

—ワハハハハ！

**嫁**　軽い殺意じゃ絶対死なないんです！

**天山**　で、最初は「たいしたことないな」と思ってたから、こっちも「やれるもんならやってみろ！」と。

—最後は、ニードロップを首元に落とされたらしくて。

**嫁**　首を絞めてたらイスがうしろに倒れたから「何かしないと！」と思って首にグーッとヒザを押しつけたんです。……でも、ギリギリで我に返って、やめたんですけど。

—天山さんは、台所でタップしたとか。

**嫁**　ええ。しかも突然「ワハハハ！」って笑うんです。人ってホントに苦しいときって笑うんだなって（笑）。

**天山**　あまりにヤバすぎて笑っちゃいましたね（笑）。

—ただ、いままで天山さんの言い分しか聞いてなかったんで、こうして聞くと……。

**嫁**　絶対、こっちが悪いですよね！　あと「ママってラクでいいよね〜、家でテレビ観てゴロゴロしてるだけで」とか言われたこともあって、「幼稚園行ったり、お付き合いもあるし家事もしてるし、大変だよ」って言うと、「俺のほうが大変だよ！　毎日プロレスやってんだよ！」と。で、最後は「じゃあ、おまえがプロレスやれ！」と。

――子どもですか（笑）。

**嫁**　こっちも「出ていいなら、出ますが？」と言ったら、「じゃあ、やれよ！」って。どう考えたって、私が出たところで何もできないじゃないですか？

――GBHも困りますよね（笑）。あと天山さんの必殺技アナコンダバイスの原型になった"猛牛裸絞め"を考案されたのは奥さんだったとか？

**嫁**　昔、テレビを観ながら「技を思いついた。やらせて！」って言われてやられたら、私は身体が柔らかいので痛くなかったんで、「全然痛くないんですけど」みたいな（笑）。そこでも「じゃあ、おまえやってみろよ！」と。

――またですか（笑）。

**天山**　こっちも一生懸命考えたのに、バカにされたくないじゃない？

**嫁**　で、私が適当にガーッて絞めたら、「うわ！　痛い〜っ！」って。

――ワハハハハ！

**天山**　「これは使えるな」と（笑）。

03年2月23日に行なわれた天山と理恵さんの披露宴は、なんと5時間にもわたるロングラン披露宴に。最後の理恵さんがお母さんへの感謝の手紙を読んでいる場面では、なぜか横にいた天山が理恵さん以上に大号泣!!　会場の爆笑と一部の涙を誘っていたというからやっぱりビバ天山！　なのだ。

# 天山ファミリー"家

**嫁**　でも、私が教えたのと技のポイントが違うから「そうじゃないのよ」って教えてるんです（笑）。

――そんな奥さんも、02年の9月に試合中にムーンサルトを失敗して病院送りになったときは、凄く心配されたみたいで。

**嫁**　金本（浩二）さんとヒロ（斉藤）さんから電話をいただいて、「頭から落ちたけど、心配しないでくれ」って言われたんですけど、「知らないほうがよかったな」と。

――確かにそうですね（笑）。

**嫁**　夜中だったから会いにも行けないし。ただ、それよりも一緒に住み始めたぐらいのとき一度記憶を失なったまま、帰ってきたことがあったんですね。

**天山**　G1の両国大会で佐々木さんとやったときね。途中で張り手を食らって、記憶が飛んじゃって。控室に帰っても「これから試合やりますからガウンください！」と。「もう終わったよ」と言われても「これからじゃないですか！」とかわけわかんないこと言って。

**嫁**　ヒロさんが車で家まで送ってくれて。で、ヒロさんは「ちょっとおかしいけど気にしないで」と（笑）。

――気にしますよね。

**嫁**　気にしますよ！　当時はプロレスラーのことがよくわからないですから。しかも家でもコスチュームとガウンの心配をずっとしてるんです。ヒロさんは「車が両国に停まってて、そこにコスチュームとガウンが入れてある」って伝えてあるんだけど、「俺のコスチュームとガウン！」って。

――どんだけ大事なんだ、と。

**嫁**　それが一番驚いたんで、金沢のときは「意識がある」と聞いて、安心したんです。

――天山さんは、病院のベッドで「家も買ったし、入籍も決めたのに、理恵ちゃんに

## いつ何時でも目が離せない!!　天山"悲運"劇場史

**02年9月6日　石川県産業展示館**
西村修との試合中にムーンサルトで脳天から突っ込み自爆。脳震盪状態となり、病院に緊急搬送される。

**05年2月20日　両国国技館**
小島聡との三冠とIWGPのダブルタイトルマッチで59分45秒、脱水症状でKO負けという歴史的大失態。

**08年2月17日　両国国技館**
ケガからの復帰戦にもかかわらず試合後GBHから追い出され、追放処分に。

**08年4月27日　大阪府立体育会館**
飯塚との友情タッグで真壁＆矢野のタッグ王座に挑戦も、飯塚がまさかの裏切り。GBHにボコボコにされる。

**08年10月8日**
都内の交差点をミニバイクで右折しようとしたところ路線バスと接触事故も、右肩打撲とスリ傷程度の軽症だった。

**08年12月10日**
恒例の『プロレス大賞』発表もG1タッグと最強タッグを制した"大本命"天山＆小島聡はなぜか優秀タッグに選ばれず。翌日の謝罪会見後にはGBHの飯塚に襲撃され、真壁からは「死にゃあよかったのに」と罵倒される。

**08年12月29日**
翌年の1・4東京ドーム大会ド直前に突然、網膜剥離が発覚し緊急手術。やむなくまさかの長期欠場となった。

# 子どもに「フ○ック」とか言ったら、すっかり覚えちゃって(笑)(天山)

てんざん・ひろよし■1971年3月23日、京都府京都市生まれ。G1クライマックスを3度制覇、IWGPヘビー級王座は4度戴冠。08年は悲運がつきまとう"天山劇場"で再ブレイクも、年末に網膜剥離で緊急入院。復帰を目指して自宅で絶賛療養中。183cm、115kg。

怒られる」と心配してたみたいで。
**嫁**　その大会のあと「婚姻届を出しに区役所に行こう」と決めてたんですよ。
**天山**　だから「怒られるな」と(笑)。その試合も脱水症状に近い状態で……。
――あ、脱水症状といえば、そのあと小島(聡)さんと、IWGPと三冠ヘビー級のダブルタイトルマッチ(05年2月20日、両国国技館)で、「59分45秒、脱水症状でKO負け」っていう奇跡的な試合をしてますね。これも「意識を取り戻したら、嫁さんに説教された」とか(笑)。
**嫁**　そう。あんな試合をしながら、おかしいほど前向きなんですよ!
**天山**　最初は「もう生きる資格はない」ってぐらい、もの凄い落ち込んだんですよ。でも、みんなから「大丈夫、なんとかなるから」と励まされて、だんだん「やったことはしょうがないな」と思ってきて(笑)。
――皆さんは励ましても、近い人は「反省しろ」って言わないとマズいですよね。
**嫁**　ですよね? みんなに「気にすんな」って言われて調子に乗って全然気にしないから、「そこは落ち込もうよ」と言ったら、キレるんですよ!　……だから、この人が話すことは、私が全部悪いことになってますけど、こっちが悪いんです!
――天山さんが震源地で。
**嫁**　しかも表ヅラが意外といいじゃないですか? 幼稚園のママさんにも「いつも穏やかでリングと違うね」とか言われるんですけど、「いや、家でもリング同様の暴れっぷりです」みたいな(笑)。まぁ、子どもがいるとクッションになるんですけど。

## ―“家族愛”!?対談

(ここで、雄大くんが再登場)
――パパとママはどっちが好きかな?
**雄大**　(即答で)ママ!
**嫁**　パパがいないことが多いので、そこはしょうがないよね～。
――子どもにはさすがに手は出さないですよね?
**天山**　出さないですね。……ま、ナメられたらやりますけど。
――やってどうするんですか(笑)。
**嫁**　たまに「このクソガキ!」とか言うから、カチンとくるんですよ。
**天山**　聞こえないよう言ってるつもりなんですけどね。一度、「フ○ック!」とか言ったら、すっかり覚えちゃって「フ○ック! フ○ック!」って(笑)。
――5歳児に教えちゃダメですよ(笑)。雄大くんはプロレスラーでは誰が好き?
**雄大**　う～んとね。内藤(哲也)! あとは稔!
――稔はいなくなっちゃったね。
**雄大**　あと(プリンス・)デビット。あと外道さん!
――外道さんはいまパパをイジメてるけどいいの?
**雄大**　いい! カッコいい!
――飯塚(高史)さんはどう?
**雄大**　……つるっぱげじゃなくて前のほうがいい。いまはヤダ。
**天山**　あ、それはなんで? なんでかな～?(嬉しそうな表情で)。
**雄大**　ん～……、なんか疲れた。
――ワハハハハハ!
**嫁**　真壁(刀義)さんも好きなんでしょ?
**雄大**　好き!
――ＧＢＨばっかじゃないですか!(笑)。
**嫁**　ＧＢＨのとき、みんなにかわいがってもらって遊んでくれたりしてたんでね。
――パパの好きなとこは?
**嫁**　一つあるじゃん?
**雄大**　……オモチャ買ってくれるとこ。
――金銭的なつながりですか(笑)。で、そんな天山さんは、昨年は路線バスに激突するバイク事故もありましたけど、年末にまたもや大変なことが起きて。
**天山**　(真剣な表情で)ええ。突然だったんですよ。年内の試合が12月26日に終わってホッとしたところで、27、28日と目がおかしくなって。29日の朝に起きたら、視界の上が半分黒くかかっちゃって。夕方にあわてて眼科に行ったら、「網膜剥離の可能性がある」と言われて。それで大きな病院に……。ん?
**嫁**　クックックック……。
**天山**　泣いてるのかと思ったら、笑ってんのかよ!
**嫁**　だって、自分が全部手配したかのように言ってんだもん!(笑)。
――ワハハハハ! こうやって天山さんのウソが作られてくわけですね。真相の解説をお願いします!
**嫁**　午前中に首の治療から帰ってきたんですけど、そこでまずブチキレながら、「ちょっと～、目が見えねえんだけど!」って。
――ワハハハハ!
**嫁**　凄い剣幕で帰ってきて。「眼科行けば?」って言ったら、再度ブチキレながら「眼科ってどこだよ!」って。
**天山**　年末だから、やってないとこもあるかなって(小さな声で)。
**嫁**　で、私が2カ所ぐらい電話したら年内は終わってて。近くの眼科を思い出して電話したら「4時半までやってる」と言われたんです。

どうだいこの勇姿！　この天山の十八番技・アナコンダバイスの原型"猛牛裸締め"は理恵さんが考案。さらに理恵さんは天山の師匠・大剛鉄之助氏から海外電話があると「練習してないんです！」とチクったりもしていたというから気が抜けないのだ。

**天山**　そこにギリギリ間に合って。そんなヒドいことになってると思わなかったんで……。

**嫁**　その報告も「網膜剥離だってよ！」「いまから違う病院に行かなきゃいけないから送ってけ！」って。それがまた夕飯時だったんですよ。

――よりによって夕飯時に（笑）。

**嫁**　私はガマンできるけど、子どもがいるから「タクシーか電車で行ったら」って言ったら「乗せてってくれてもよくない？」ってキレだしたんで結局車で送ってったんです。

**天山**　で、救急病院で3時間ぐらい待たされて。翌日の30日の午前中に入院して、大晦日に手術して……。

**嫁**　入院した日にも手術はできたんだけど、31日に救急に来る先生が「網膜剥離のエース」って聞いたんで。そしたら絶対トップですよね？　31日は仏滅だったんですけど。

**天山**　えっ、そうなの？

**嫁**　教えたら「絶対にやらない」って言うと思ったから教えなかったの。

**天山**　マジで!!

**嫁**　彼のお母さんが日とか時間を凄く気にされる方で、でも「大安の普通の先生か？」「仏滅のエキスパートか」といったら仏滅でしょ？

――天山さんも気にされるんですか？

**天山**　ええ。日とか方角とか。こっちの方角は行かないほうがいいとか……。

――そのわりにバイク事故を起こしたり（笑）。

**天山**　おはらいしても、あんま変わらないんですよねぇ……（暗い顔で）。

――ま、自分が変わらないとダメでしょうね（笑）。年越しは病室で？

**天山**　大晦日には毎年食べてるソバを買ってお見舞いに来てくれたんですけど、でも2時間ぐらいしかいなくて。寂しい大晦日だったなぁ～。だって夜10時に消灯ですよ！

# 天山ファミリー"家

## いまは毎日家にいるんですけど……あまり使えないというか（嫁）

――でも、いまはご自宅で療養中で「家族が優しい」っておっしゃってましたけど。

**天山**　でも、だんだん元に戻ってきて。

**嫁**　毎日いると3食どうしていいかわからないし。でもあまり外に出るのもどうかと思うし。あまり使えないというか（笑）。

――最後に、今後の復帰予定は？

**天山**　目はちゃんと治したいし。目以外にも首とか肩とか腰もこの際シッカリ治したいんで、「もうちょっと休ませてもらおうかな？」と思ったら、この人に「治ったんならやればいいじゃん！」って冷たく言われて。

――ワハハハハ！　あとGK（金沢克彦）さんがコラムに書いてましたけど、炊飯器のタイマーをセットする係なんですか？

**天山**　ええ。この前、金沢さんと電話してたとき、「炊飯器のタイマーするの忘れた！」と言っちゃって、それを書かれたみたいで（笑）。

**嫁**　家に帰ってきたら、ごはん炊けてなかったんですよ。それなのに楽しそうに話してるから。「ごはんは？　ごはんは？」って聞いてもシカトするから、「ごはんはぁああああ！」って叫んだのが、聞こえてたんでしょうね（笑）。

――GKの耳元に奥さんの雄叫びが（笑）。ちなみに天山さんの大好きなパチンコはどうなんですか？

**嫁**　全面禁止ですね！　本人がまったく時間を守らないのと、理解ができない額まで使うのと。あとパチンコ屋の場所が幼稚園のママさんとかが通る地域だからイヤじゃないですか？

**天山**　一回誰かがチクッたんだよねぇ。「ご主人がパチンコ屋さんに入っていくの見ました」って。

**嫁**　悪気はなくて、「昨日パパさん見たんですよ」ってぐらいですけど。

**天山**　よけいなことして！

――ワハハハハハ！

**嫁**　でも普通は、昼からお父さんがパチンコ屋にいたらマズイじゃないですか。それなのにリタイアされたおじさん、おばさんとさきいか食べたりしながら、パチンコやってて。アメとかもらったり、凄いフレンドリーなパチンコ屋になってて（笑）。

――何をやってるんですか（笑）。

**天山**　それぐらいいいじゃないですか！（笑）。ジュースをオゴってもらったり。家よりやさしくしてもらえるんで。

**嫁**　土曜、日曜に行くぐらいならいいんですけど、平日の朝に並んでまで行くようなことはちょっとねぇ。

**天山**　並んだことなんかないよ！

**嫁**　ウソ！　この前、「整理券がなくなった」とか言ってたじゃん？

**天山**　いや……それは、平澤（光秀、新日本プロレス）がくれたんだよね（と小さな声で）。

――ワハハハハハ！　末長くお幸せに!!　今日はありがとうございました。

【09年2月5日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】

名勝負のあとも物語は続く!
## 闘いのネバーエンディング・ストーリー!!
4.5両国で棚橋vsアングル戦決定!

試合後、チャンピオンベルトを腰に巻くと、大歓声を送られた棚橋。昨年の一連の闘いぶりによってファンの信用を得た証拠だろう。今年は棚橋の年になるのか!?

かつてはフィニッシュにも使ったテキサスクローバーホールドを、腕十字に対する返し技で使った棚橋。このへんのプロレスセンスも目を見張るものがあった。

新日本プロレスの真のエース決定戦の意味合いもあったこの試合。棚橋vs中邑はこれまで何度も実現しているが、間違いなく今回がベストバウトだった。

そして最後は熱戦のタイトルマッチで締める!
# ーランド"を観た!

文／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

t 209 NEW JAPAN ISM』両国国技館

1・4東京ドームを成功させた新日本プロレスが放つ、ドーム後初のビッグイベント、2・15両国国技館。

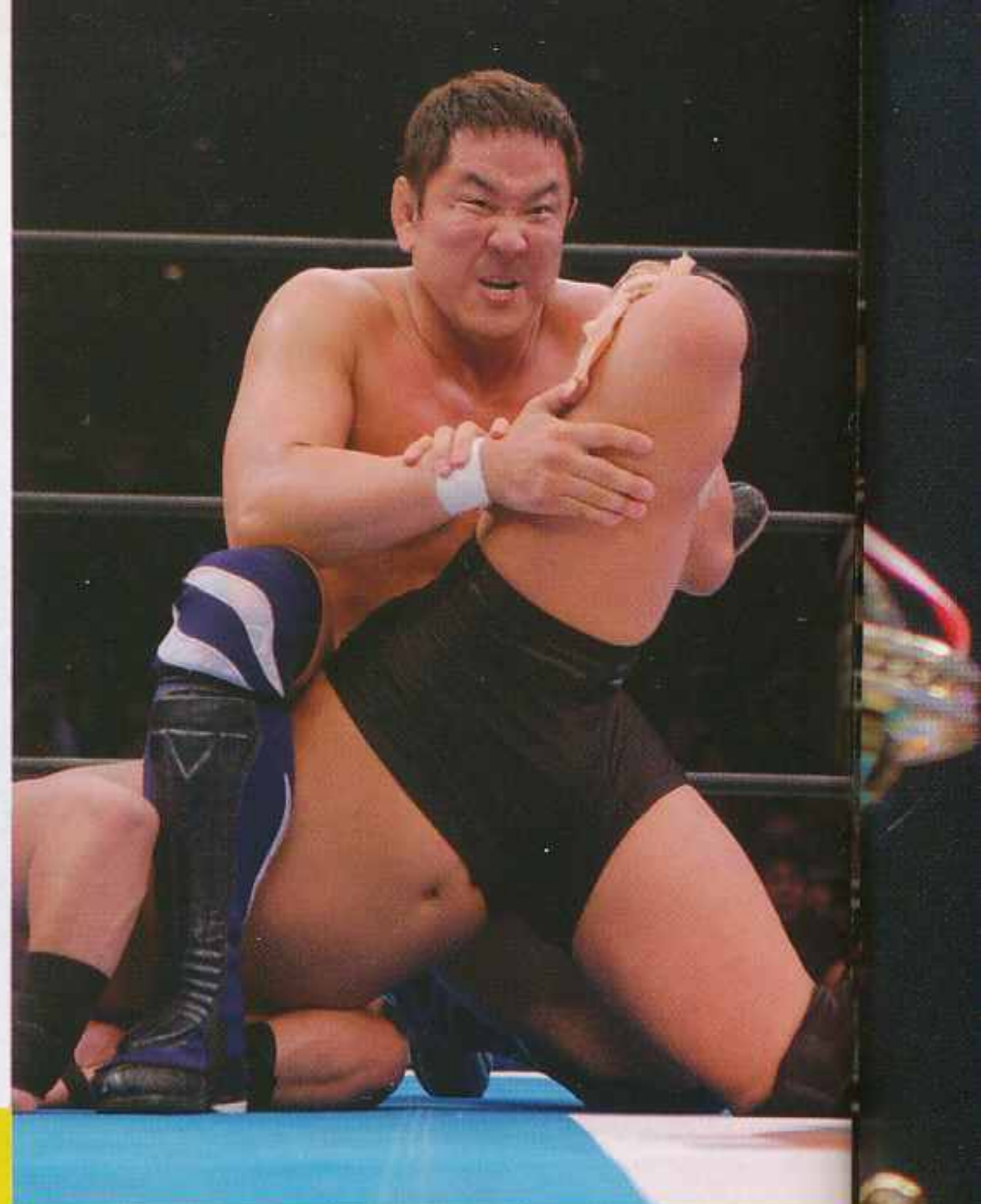
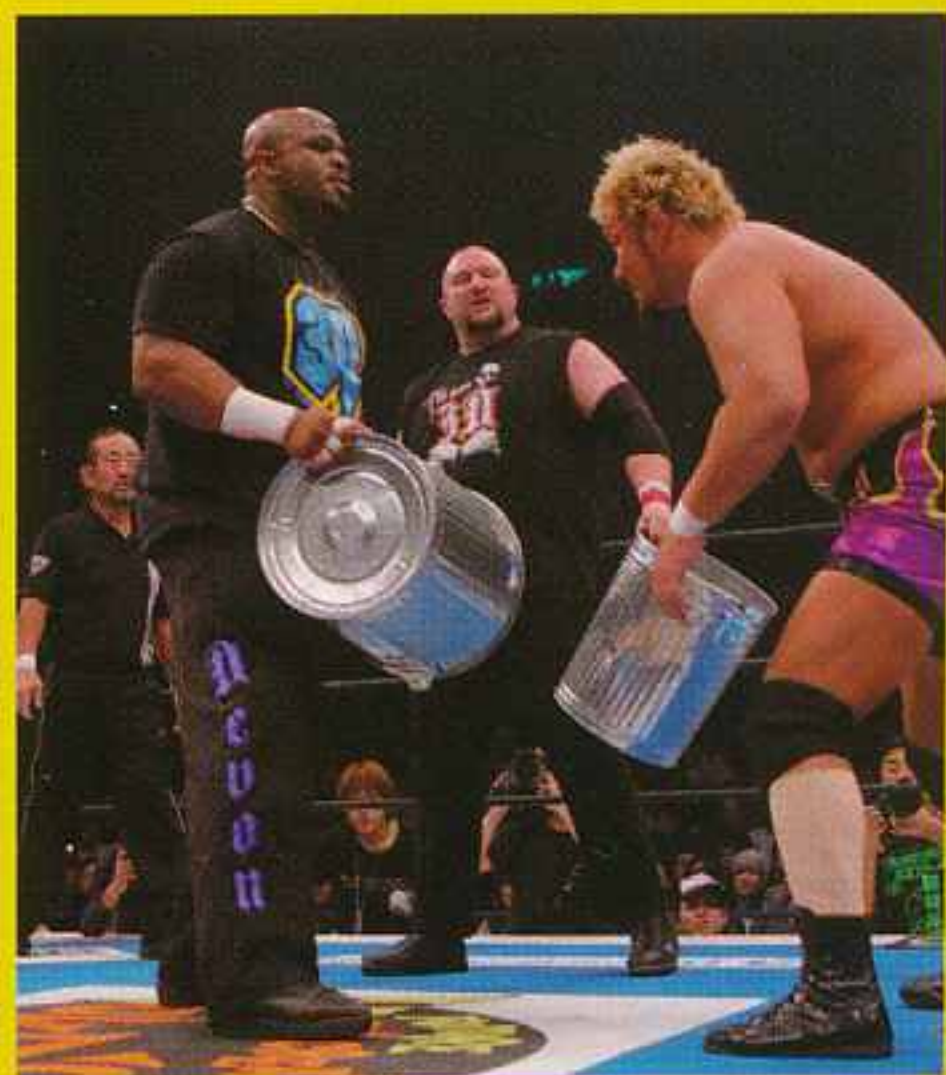
新日本の勢いは本物なのか、その試金石となる大事な大会だったが、結論から言えば、またしても爆発。新日本の地力を見せつけるようなイベントとなった。

今回はカードもビッグマッチにふさわしいラインナップが出揃ってい た。強豪ガイジン同士の闘いからルチャリブレ、ジュニアのタイトルマッチにハードコアマッチ、世代闘争、最後はシングルのタイトルマッチ。しかも、バラエティに富んでいるだけでなく、それぞれが一級品だ。

そのラインナップは、猪木を頂点にハルク・ホーガンらメジャー外国人、タイガーマスクとライバルのマスクマン、維新軍らがいた80代の黄金期すら思い起こさせる。まさに〝闘いのワンダーランド〟。ストロングスタイルから遠く離れたと思われた現代の新日本が、じつは格闘技の呪縛から解き放たれたとき、黄金期に近い雰囲気を醸し出し始めたのだ。

そして、一番評価すべきなのは、これだけの豪華ラインナップがすべてメインの露払いとして機能しているところだ。セミまでの盛り上がりで、お膳立てはできあがった。あとは若き二人のエースに任せたといったところだろう。そして、棚橋と中邑は見事にその期待に応えてみせた。

序盤はバックの取り合い、腕の取り合いという、基本をじっくり見せたうえで、後半の大技に移っていく見事な流れ。チャレンジャー中邑も格闘技スタイルとプロレスの融合が

1.4ドームに続き、二度目の来日をはたしたメキシコの英雄ミスティコ。現地のライバル、メフィスト相手に好勝負が期待されたが、ヒザ負傷のため本領発揮とはいかず。それでもできうる限りの無重力ファイトを展開した。

昨年2月、永田さんの突然の脳血流障害で流れた永田vs後藤洋央紀戦が1年越しで実現。今回は後藤のほうがヒザを痛めていたが、鬼神・永田はそのヒザを容赦なく攻め、白目を出すまでもなく完勝した。

チーム3Dが、GBHを三たび撃破してIWGP王座防衛。チーム3Dはあいかわらずどこのリング上にあがっても、会場をおおいに盛り上げる。まさにプロのタッグ屋だ。

元WWEのスーパースター、カート・アングルが、新日本のトップガイジン、バーナードを特異のアンクルロックで撃破。アングルのような大物が登場するだけで、イベントの厚みが全然違ってくる。

ライガーが4年ぶりの王座挑戦で奮闘したが、最後はタイガーが新技デストロイスープレックスで勝利。試合後、謎のブラックタイガーが音もなく現われ、ツームストンで宣戦布告した。

## 強豪ガイジン、ルチャ、ジュニア……そして

# "闘いのワンダー

### 2.15 新日本プロレス『Circuit 2009

ちぐはぐだった頃の中邑ではない。総合格闘技流の関節技が見事に〝プロレス技〟になっていた。

そして、中邑の関節技に対し、冴えに冴えていたのが棚橋の返し技。中邑の腕十字のクラッチが切れる瞬間にエビ固めでフォールにいったり、下からの十字を潰してそのままクローバーホールドにいく。この〝格闘技〟を〝プロレス〟で切り返す様は、髙田延彦をドラゴンスクリューから足4の字固めという〝どプロレス〟で破った武藤敬司を観るかのようだ。

最後はハイフライフローで文句なしのスリーカウント。以前は一部のファンから「ボディプレスがフィニッシュ?」などと揶揄されたこの技が、文句なしのフィニッシュになったのは、棚橋がトータルで成長した証なのだ。

そして好勝負の末のハッピーエンドだけで終わらないのが、いまの新日本だ。ベルトを腰に巻いた棚橋に、すぐさまカート・アングルが挑戦を表明。こうして次回4・5両国のメインは、棚橋vsアングルというビッグカードが早くも決定! 次回の両国の先行販売チケットが飛ぶように売れたのは言うまでもないだろう。

プロレスのおもしろさは、連続ドラマのおもしろさだ。かつて古舘伊知郎が言った「闘いのネバーエンディング・ストーリー」が、いまの新日本では展開されている。この流れは4・5両国、5・3福岡と大きくなりながら続いていき、夏のG1へとつながっていくことだろう。

いまならまだ間に合う。新日本に乗れ!

# ブルージャスティス 永田裕志

「“アホー”じゃないよ“アラフォー”だよ」

## “男の勲章”輝くアラフォーたちによる晩餐!

# 「永田会」とは何か?

つっぱることが男の〜、たった一つの勲章〜だって、この胸に信じて生きてきた〜♪
てことで、石原裕次郎ばりにブランデーグラスが似合う二人によるビッグな対談が実現!
勲章だらけの男たちが永田会、そしてアラフォーの生きざまについて大放談!
とにもかくにも大人の男の魅力に酔いしれろ!　ペイ!(永田さん調)。

聞き手／鈴木佑　撮影／金山フヒト　試合写真／乾晋也

**永田**　どうも嶋さん、ごぶさたしてます!(敬礼ポーズで)。

**嶋**　いやー、しばらくですね、永田さん。ご活躍はいつもテレビで観てますよ!

—お二人はひさびさの再会なんですね。今回は芸能界の永田さんファンで構成された「永田会」とはいったいなんなのか、その全貌に迫りたいな、と(笑)。

**永田**　そんな大げさなもんじゃないんですけどね(笑)。

**嶋**　一応、僕が永田会の会長なんですけど、やろうやろうと言いながら最近は全然できてないんですよね〜(残念そうに)。だから今日みたいな機会は凄く嬉しいですよ!

—では、今回は09年度の第一回永田会ということで。

**永田**　永田会の復帰戦ですね(笑)。

—そもそもこの会はどういう経緯で結成されたんですか?

**嶋**　僕がもともと永田さんの熱烈なファンだったんですよ。それで、芸能界のプロレスファンで集まったときに、僕が「永田選手ファンの人、手挙げて!」って聞いたら、けっこう隠れ永田さんファンがいることが発覚して(笑)。で、たまたま永田さんと僕に共通の知り合いがいたんで、あいだをつないでもらったのがきっかけですね。たしか最初にお会いしたのは04年頃だったかな。

—嶋さんは永田さんのどんなところに惹かれたんですか?

**嶋**　やっぱりミスターIWGPとしてベルトをずっと防衛してる姿に魅せられましたね。ファンを飽きさせないパフォーマンスが、まさにエ

# 「永田会」会長 嶋大輔

ンターテイナーっていうか。とくにあの白目ですよ！　あれを見ると「おお〜っ、今日もイッてんな〜」みたいな（笑）。

――あの表情は大会場でも大型ビジョンに映ると、場内が大盛り上がりですもんね（笑）。新日の関係者に話を聞いたところ、最近会場にビジョンを設置するのも、永田さんの表情を大きく見せたいっていうのがあるみたいで。

**永田**　僕の顔芸のためですか！

**嶋**　きっと永田選手の白目は数字を持ってるんですよ（笑）。

**永田**　あんまり頭にはよくないでしょうけどね。興奮しすぎてブチッていっちゃったらヤバいですし（笑）。

――ちなみに永田会の会員にはほかにはどういった方が？

**嶋**　ビビる大木もそうですし、業界関係者でもけっこういますよ。

――嶋さんに大木さんだと、なんだか『ラジかるッ』ファミリーみたいですね（笑）。

**嶋**　あ、ホントだ（笑）。あとはやるせなすの石井ちゃんとか。大木は永田さんに質問ばっかしてますね。あと、一丁前にダメ出しまでするんですよ！

**永田**　「いま第3世代が引いてどうすんですか！　僕がどれだけ新日本にお金注ぎ込んだと思ってんですか！」とかよく怒られてますね。

――ダハハハハ！　そう言われて永田さんは？

**永田**　いや、もう「あ、すいません。頑張ります」って平謝りですよ（笑）。

**嶋**　永田会はいままでに4〜5回くらいやりましたかね。だいたい六本

# 永田裕志×嶋大輔

見てみぃ、この浮世離れした表情！　赤く血にまみれながら、白く目をひん剥く、青い正義こと永田さん！　世にプロレスラーは数多けれど、顔の動作一つでここまで観る者を震撼させる猛者がいるだろうか？　まさに顔で銭の取れるレスラーだ！

木とか麻布あたりで。

**永田**　あとは銀座で偶然お会いしたこともありましたよね？

**嶋**　そうだそうだ！　あのときは「あちらに永田さんがいらっしゃってます」って言われて驚きましたよ。守備範囲が一緒みたいな（笑）。永田会のいいのは、みんなで食事しながら他愛もない話でワイワイ盛り上がるところでしょうね、リラックスできるというか。

**永田**　そうですね。でも嶋さんは基本的に飲まれないんで、僕が呑んべえぶりを発揮してるって感じですけどね（笑）。

**嶋**　永田さんがまたお酒が強いんですよ！　乱れてるところを見たことないですから。いつも帰り際も「じゃ、また！　失礼します」って足取りがしっかりしていて。そのまま闇に消えてくから、次はどこに行くんだろうみたいな（笑）。

**永田**　いやいや、まっすぐウチに帰ってますって（笑）。

――永田さんは嶋さんのことは以前からもちろんご存知で？

**永田**　そりゃ、子どもの頃からテレビで観てたスターですからね。中学校の同級生とか、不良に憧れた連中は嶋さんとか横浜銀蝿のリーゼントを真似してたもんですよ。

――永田さんもバッチリとリーゼントをキメて？

**永田**　僕は母親が学校の先生やってたんで、さすがに無理でしたけどね（笑）。でも、僕は野球部で坊主頭だったってこともあって、嶋さんの出で立ちには憧れましたよ～（シミジミと）。

**嶋**　そんな、よしてくださいよ（笑）。

**永田**　いやいや、ホントですよ！　それに歌がカッコよかったじゃないですか、『男の勲章』。だから凄く恐縮するんですよ、そういう方が僕のファンだって言ってくださることが。

**嶋**　いえいえ、こちらこそ大好きなプロレスラーとお近づきになれたわけですから。ファン冥利につきますよね。

――嶋さんは小さい頃からプロレスファンだったんですか？

**嶋**　もちろん！　アントニオ猪木さんのファンだったんで、熱心に新日を観てましたよ。全日はテリー・ファンクが来たときは観てましたけど、それ以外は新日ばっかりですね。

――ご自分で格闘技やスポーツの経験は？

**嶋**　空手と野球ですね、あとはストリートファイト（笑）。

――実戦経験アリ、と（笑）。

**嶋**　なんでもアリの闘いなんて僕が先駆けですよ！　アスファルトでやってましたから。まぁ、ガキの頃は先輩が怖かったんで、「行け！」って言われたら行かなきゃしょうがないですし。身内にボコボコにされるより他人にやられたほうがまだいいやって感じで。

**永田**　さすがに修羅場をくぐられてますね（笑）。でもそれ、僕もわかりますよ。上の言うことは絶対ですもんね。

――永田さんも学生時代は先輩に絶対服従みたいな感じで？

**永田**　まあ、そうですよね。もちろん人をぶん殴りにいけっていうのはなかったですけど、夜中に顔にイタズラ描きされて「買物行ってこい」とかはありましたよ。でも、新日の道場に入ってからはなんだかんだと要領よく切り抜けてましたね。先輩の餌食になるのは天山が多かったですから（笑）。

――アマレス三銃士だとあの方も要領が悪かったって聞きますが？

**永田**　ああ、あの大きい人ですか？　確かに彼はけっこう穴がありましたね（笑）。

**嶋**　中西さんですよね？（笑）。僕、中西さんと初めて会ったときの印象が強烈なんですよ。初対面なのに、なぜかいきなり「いつもお世話になってます」って挨拶されて（笑）。

――それは戸惑いますね（笑）。

**嶋**　「えっ？」って思って、マネージャーに「俺、中西さんと会ったことある？」って確認したんですけどね、「ないです」って言われて（笑）。律儀でいい方だなぁと思いましたけどね。そのときは「こちらこそ」ってお返事したんですけど、なんとも言えない微妙な空気になってしまって。

――野人ワールドに引き込まれましたか（笑）。さて、お二人の共通点として、人前に立つお仕事をされているわけですが、プロとして何か心がけてることはありますか？

**嶋**　僕は「ファンのために頑張ってる」っていうのは、きれいごとだと思ってるんですよね。自分の生きざまを見て共感してくれたりとか、応援してくれる人が真のファンだと思ってるので。そういう意味では、ありのままの自分を見せていきたいというか。

**永田**　僕は細かい心がけでいうと、極力サインや記念写真とかファンサービスには努めるようにしてますね。若手のときに長州さんの付き人をやってたんですけど、当時の長州さんってファンが来ると、「何コラッ！」って絶対に寄せつけないんですよ。

**嶋**　そういえば昔、長州さんが六本木の『瀬里奈』の前で、夜中に身体のデカい人とケンカしてるの見たことありますよ。「長州力だ！」ってギャラリーもいっぱい集まってきちゃって。そのときも舌ったらずで怒ってましたけどね（笑）。

**永田**　イケイケの頃でしょうね（笑）。長州さんがそういうスタイルだから、

# じつは僕にも『ハッスル』からオファーがあったんですよ（嶋）

僕もそうしなきゃいけないのかなと思ってたんですけど、アメリカ遠征のときに現地のマネージャーに注意されたんですよ。「ファンには絶対にサインしてあげろ」って。で、確かにパッと周りを見るとベビーもヒールも関係なく、ハルク・ホーガンやケビン・ナッシュみたいなスタークラスでさえも、あたりまえのようにファンサービスに徹していて。そこからプロとして考え方が変わりましたね。

**嶋**　やっぱりファンあっての仕事だから、大切にしないといけない部分はありますね。

――ファンを大切にするという意味でいうと、ここ最近の新日はドーム大会も成功して、またかつての勢いが戻ってきたというか、昇り調子になってきてますよね。

**永田**　嶋さんとお会いした頃の新日は買収問題や選手の離脱なんかでバタバタしてましたよね（笑）。ファンも不安だったでしょうし。

**嶋**　やっぱりいちファンとしていまの新日を観ていると、こっちの視線に立ったマッチメイクをしてくれてるなっていうのは思いますよ。観戦していて安心できるっていうか。僕の中ではプロレスっていえばやっぱり新日ですから！

――その中で嶋さんは、永田さんにはこれからどういった活躍を期待しますか？

**嶋**　それはもう、永田会の会長としては、またIWGPという名の〝男の勲章〟を獲ってもらわないとね（笑）。いまは棚橋（弘至）選手とか中邑（真輔）選手とか若い世代が台頭してますけど、まだまだ永田さんに頑張ってもらわないと。

**永田**　時代的にはもうタナたちが主役になってもおかしくないと思うんですけど、客観的に彼らの試合を観たときにちょっと目につくところがあるんですよ。正直、まだまだ全然脅威には思ってないですから（キッパリ）。

**嶋**　うん、頼もしい！

**永田**　メインを張る彼らの試合よりも、僕の試合が評価されることもけっこうありますしね。嶋さんのようなファンの方の「いまこそ永田裕志！」って声が集まれば、ベルト挑戦の気運も高まるんじゃないですかね。まぁ、自分からズケズケと「俺が俺が」って歳でもないですし（笑）。

**嶋**　でもホント、いまのアラフォーを侮ったらいけませんよ！

**永田**　最近、自分の7～8年前の映像を観たんですけど、とにかくコンディションがいいんですよ。いまの若い世代に比べて全然俺のほうがイケてんじゃんって勝手に自分で思っちゃうくらいに。アラフォー世代、いいかもしれないですね（ニヤリ）。

――アラフォーといえば、昨年末に第3世代で組んだ試合のあとのやりとりは秀逸でしたね（笑）。

**永田**　ああ、ありましたね～。天山、中西、金本（浩二）、小島（聡）、そして僕で組んでね。試合後にみんなで「アラフォーで頑張っていこう！」って気勢を上げてたら、中西さんはアラフォーって言葉を知らなかったのか、あんまりピンときてないみたいだったから、僕が「アホーじゃないよ、アラフォーだよ」って言ったら、マスコミとかみんな大爆笑して（笑）。

**嶋**　ハハハハハ！　中西さんて、さんまさんの番組（『さんまのSUPERからくりTV』）に出てたじゃないですか？　ガチで普段からあんな感じなんですか？

**永田**　あのまんまの人なんですよ、ホントに。

**嶋**　俺、すげえ演出家がいるんだなって思ってたんですよ（笑）。

**永田**　あれは演出が入ると逆につまんないと思いますよ、中西さんは不器用だからモロにバレちゃうんで。あの人はナチュラルだからおもしろいんですよ。

**嶋**　相談に対して中西さんが「声を出せ！」とか、「走れ！」とか突拍子もないこと言って、全然解決になってないのがすげえおもしろくて（笑）。

**永田**　まぁ、アラフォー世代の絶妙なスパイスですよ（笑）。

――あと、お二人のフィールドである芸能界とプロレス界のつながりでいうと『ハッスル』がありますけど、どうご覧になってますか？

**永田**　もう、ああいう手法はやりつくしたのかなって感じもしますけどね。やっぱりHGがデビューした頃がピークだったんじゃないですか？　それにHGは学生プロレスをやってたっていうのもあるんでしょうけど、受け身とかロープワークとかプロレスの基本ムーブが、小川直也よりも全然うまかったっていうのがインパクトありましたし（笑）。あれ見たと

06年1月4日、村上和成との一戦に臨む永田さんのセコンドとして嶋さんが花道に登場！　試合は嶋さんの応援の甲斐もあって永田さんが激勝！　嶋さんはこのときのことを「いや、もうド緊張しましたよ！　迫力ありすぎてつっぱれなかったな～（笑）」と述懐。

## ブルージャスティスかく語りき！　永田さん語録

### 「いいんだね、殺っちゃって？」

【04年1月4日『ワールドプロレスリング　新春プロレスSP』内より】

WJプロレスの消滅に伴い、新日本に出戻り参戦してきた佐々木健介に永田さんは激高！「生活が苦しくて新日本しか働き場がないって言えばいいんですよ！」と、キラーモード全開で健介をバッサリ一刀両断、そして続けて飛び出したのがあまりにも有名なこのセリフだ。ちなみに今回の取材で永田さんにこのセリフについて尋ねたところ、「俺、よくこのこと聞かれるんですけど、どこで言ったか覚えてないんですよね。ヒョードル戦のときかな？　そんなわけないか（笑）」と、おどけた表情。やっぱり永田さんは最高です！

### 「みんな離れてく……」（号泣）

【04年3月12日　東京・国立代々木第二体育館大会】

ことの発端は、蝶野が試合中に永田さんを裏切り、当時魔界倶楽部の村上和成と結託したこと。試合後、永田さんは唇を震わせながら「蝶野は新日本を放棄したということ。オレは流されない。新日本が大好きだし、一人になってもここで闘う！」と涙ながらに決意表明。こんな永田さんの健気な姿に思わずキュンとなる女性ファンも多いはず。大人の男は母性本能をくすぐるものなのだ。

### 「俺は踏み台か！」

【05年1月23日　東京・後楽園ホール大会】

当時の新日社長だった草間政一氏は、会社を立て直す方針として第3世代を若手の踏み台にすると公言。これに真っ向から反抗の姿勢を見せたのが我らが永田さんだ！「このままでは選手は消耗品。ようやく上に立つようになると、次の新しいスターを作っていく」と、会社の意向を痛烈批判！これがファンの共感を呼び、ついには「俺は踏み台か？」Tシャツまで発売されるほどに！永田さんの一言はTシャツにしたくなるほど重いのだ。

### 「試合も結婚と一緒だよ、攻めなきゃ！」

【08年3月15日『DREAM・1』の煽り映像】

佐藤大輔制作による煽り映像で大好評だった永田兄弟劇場の一コマ。ほのぼのとした雰囲気で繰り広げられる仲むつまじい兄弟談義の中で、永田さんは結婚間近の弟・克彦を独自の理論で叱咤！この劇場は『DREAM・5』でも繰り広げられ、永田さんは克彦の嫁がヨガインストラクターなのを引き合いに「試合もヨガと一緒だよ！」と、またもや独自の理論を展開。永田さんの一言はもはや哲学だ。

きは「マジ？　ここまでできんの？」ってビックリしましたけどね。

**嶋**　へ～、HGってプロが見てもビックリするくらいの技量なんですね！

——そういえばHGさんも『ラジかるッ』ファミリーですね（笑）。

**嶋**　あ、ホントだ（笑）。あいつ、『ラジかるッ』の忘年会のときに「嶋さんも『ハッスル』出てくださいよ」とか言いだすから「何言ってんだ、おまえ！」ってすぐに拒否ったんですけどね。

——嶋さんも立派な体格ですし、ご自分がリングに立ちたいと思ったことは？

**嶋**　いや、僕にとってリングは神聖なものですから、やたらめったら部外者が上がっちゃいけないって思ってるんですよ。僕、和泉元彌さんの試合を観たときは口アングリしちゃいましたもん。いくらなんでもこりゃないだろって。じつは僕にも『ハッスル』からオファーがあったんですよ、和泉さんが試合に出た頃に。

——あ、そうだったんですか⁉　それは衝撃の事実です（笑）。

**嶋**　で、「和泉さんとガチでやらせるんだったらやるぞ」って言ったら、その話はそれで流れたんですけどね（笑）。だって僕にはリングでああいうことはできないですよ。

——おそらくツッパリ系の硬派キャラをやってほしかったんですかね。

**嶋**　まさしくそのとおりです（笑）。で、たまたまなんかの番組で和泉さんに会ったんですけど、「こりゃガチでやったらまずいな」ぐらいに細かったんでね。まぁ、実現しなくてよかったですよ（笑）。

## まだまだ若い選手たちには存在感で負けませんよ！（永田）

## アラフォー世代の底力を見せつけてやってください！（嶋）

しま・だいすけ■1964年5月22日、神奈川県出身。81年に横浜銀蝿の『ツッパリハイスクールRock'n Roll（試験編）』で銀蝿の弟分としてデビュー。翌年、『男の勲章』をリリースし、大ヒットを記録。現在は『ラジかるッ!!』をはじめ、ドラマに映画と幅広く活躍中。

ながた・ゆうじ■1968年4月24日、千葉県出身。92年レスリング全日本選手権優勝後、新日本プロレス入門。同年9月14日、山本広吉（現・天山広吉）戦でデビュー。01年IWGP王座を奪取し、10度防衛の記録を達成。ミスターIWGPとして白目を剥きながら奮闘中。183cm、108kg。

# 永田裕志×嶋 大輔

——でも、嶋さんが参戦してたら世間も巻き込んでたでしょうね。セコンドに永田さんがついて（笑）。

**永田**　前にドームの僕の試合で嶋さんにはセコンドについてもらったことありますから、その逆パターンになるのかな（笑）。

**嶋**　まぁでも、僕はやっぱりプロレスはおちゃらけでやっちゃいけないものだと思いますね。

——嶋さんのプロレスへの愛情を感じますね。

**嶋**　最近はプロレスの会場にちょっと行けてないんですけど、テレビでいつも永田さんの背中を見て、俺も頑張らなきゃって励まされてるんですよ。やっぱり身体を張ってる姿を見ると刺激になりますよね。

——永田さんはいまが選手として円熟期なんじゃないですか？

**永田**　いまは選手寿命っていうのがほかのスポーツも含めて、全体的に延びてますよね。トレーニング方法とかケアの仕方もいろいろ発明されてますし。たとえば、天龍さんだって50代になってもまだ元気にやってるわけじゃないですか？　あの年齢であれだけ受け身が取れて、ビシッと強烈な攻撃ができるのは凄いですよ。だから自分もまだまだできるなって。その姿を見せることでファン、とくに同世代の方に少しでも勇気を与えられればって思いますね。

**嶋**　要は生きざまを見せつけられるかですよね。なんでもそうなんですけど、格好から入る人って多いじゃないですか？　ゴルフでも技術よりウェアから、みたいな。いまの若いプロレスラーを見てると、そっち系の選手が多いのかなって思うところはありますね。プロレスは格好じゃない、生きざまなんだっていうのを、永田さんを見てると感じるんですよ。

——自分を剥き出しにするというか。

**永田**　まだまだ若い選手には存在感じゃ負けないですよ！　昔、さんざん猪木さんに「怒りを見せろ」って言われたんですよね。「試合はケンカなんだから怒れよ、殴れよ」って。殴られたらムッとする、その感情をストレートに試合で出せよってことなんですけど。いまの若い連中は感情が見えにくいっていうか、試合のへんなところでアピールしたりするのが目立ちますからね。もっと感情を剥き出しにしないと。

——その点、永田さんや中西さんは剥き出しっていうかズル剥けって感じで（笑）。

**永田**　ハハハハハ！　ズル剥けかぁ。まぁ、アラフォーは大人の男たちですから（笑）。

**嶋**　そうそう！　大人の男、アラフォー世代の底力をリングで見せつけてやってくださいよ！　永田会で全面的にバックアップしていきますから！

**永田**　ありがとうございます！　今年は厄年ですけど、厄年のヤクは役目のヤクと捉えて頑張りたいですね。これからもサポートよろしくお願いします！

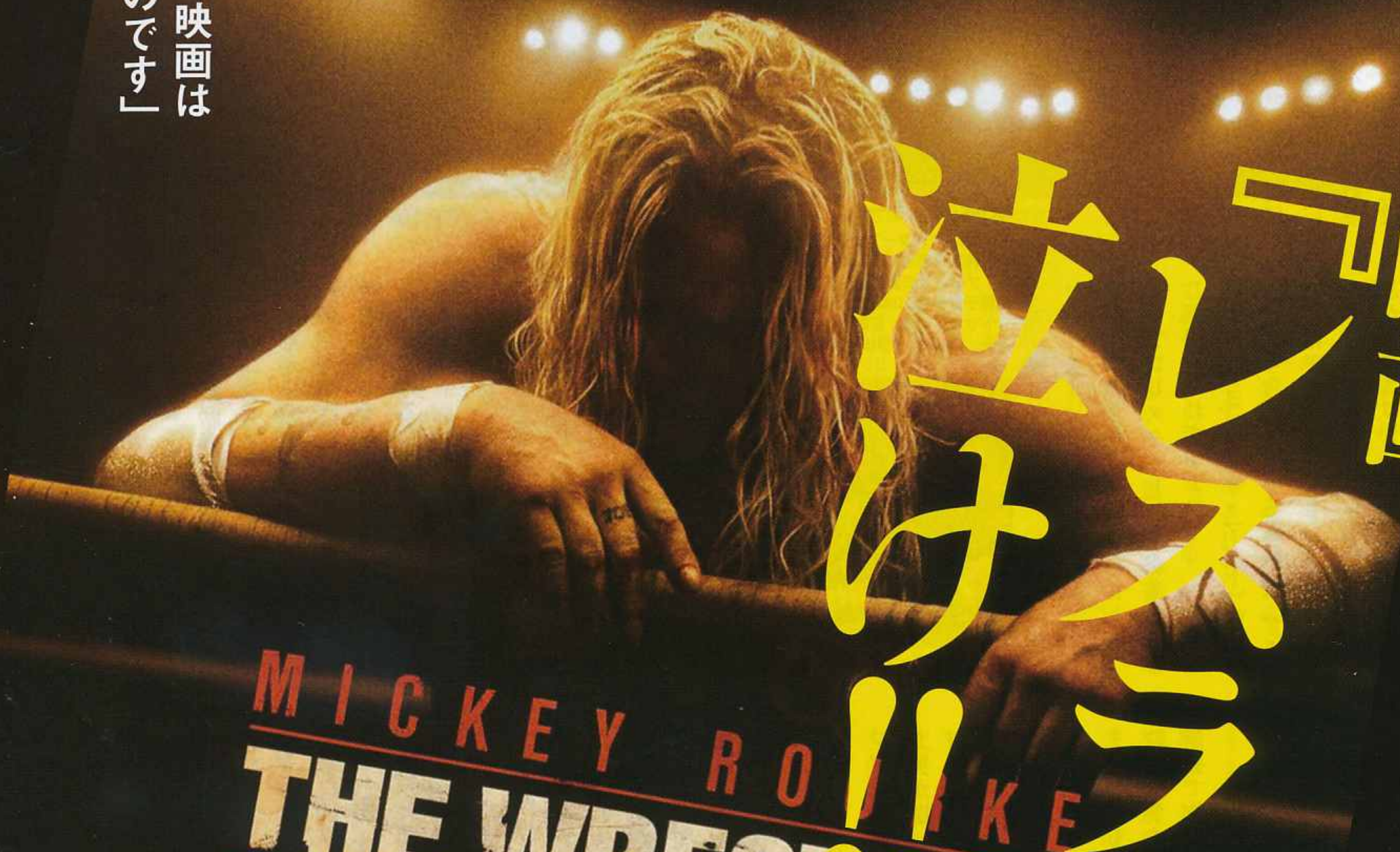
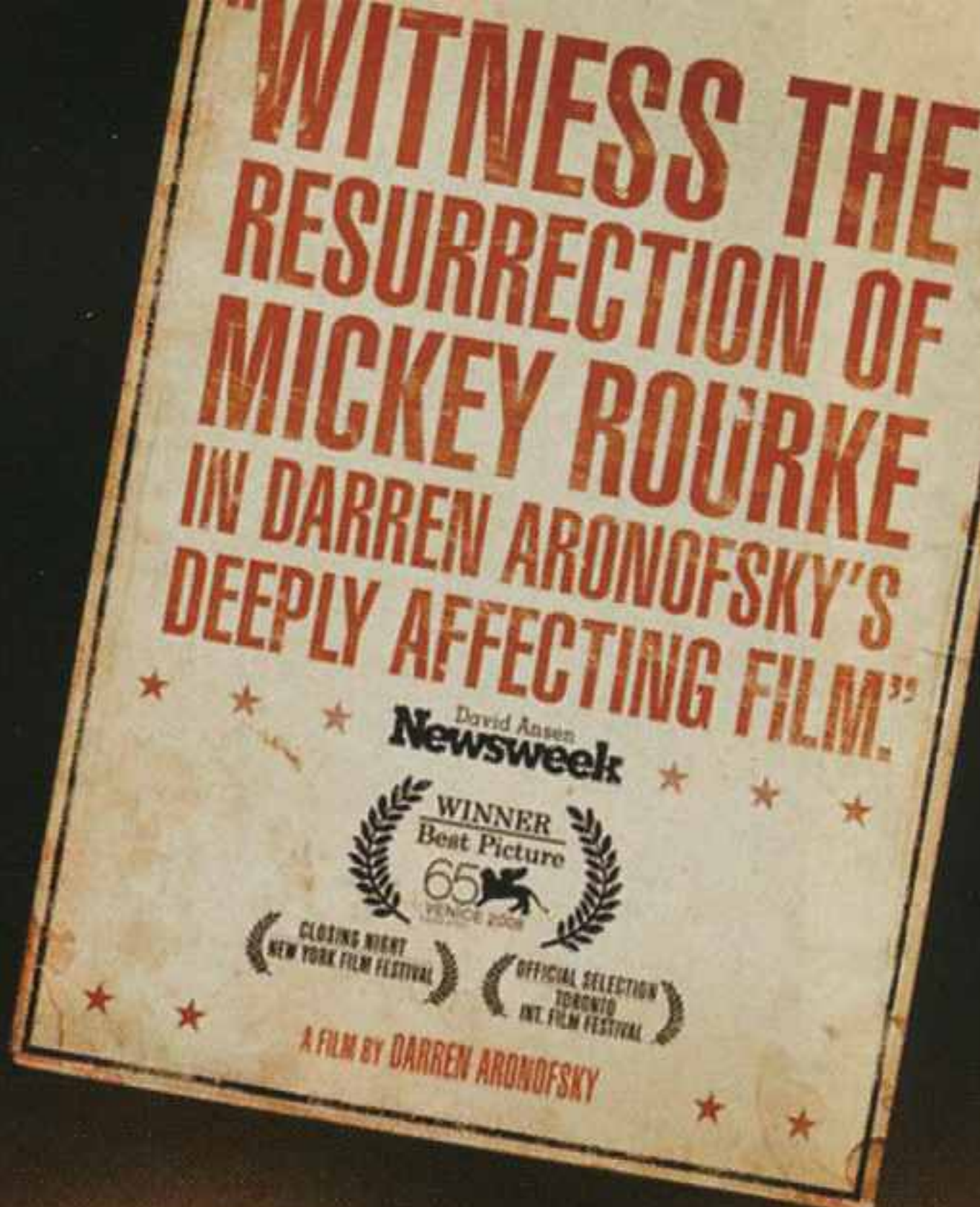
**嶋**　こちらこそ！（二人でガッチリ握手）。

——今後の永田会の発展を祈って今回はお開きにしたいと思います。今日はありがとうございました！

【09年2月5日／都立大学駅近くの『バロン』にて収録】

プロレス・カミングアウト時代の"奇跡的大傑作"

# 映画『レスラー』に泣け!!

「どこまでが演技なのか？ この映画はミッキー・ロークの人生そのものです」



アメリカ在住の映画評論家

## 町山智浩

いま、最も影響力のあるアメリカ在住の映画評論家、町山智浩氏がベネチア映画祭金獅子賞、アカデミー賞主演男優賞にもノミネートされたミッキー・ローク主演の映画『レスラー』（日本では初夏公開予定）を一足先に語りつくす! 町山氏も「08年のベストワン!」と大絶賛した、奇跡的なプロレス映画の実態に迫ります!!

聞き手／真下義之　映画写真提供／P2

──今回うかがうのは今年のアカデミー賞主演男優賞にノミネートされた（この取材はアカデミー賞授賞式前に収録）『レスラー』というミッキー・ローク主演のプロレス映画なんですけど。これは、町山さんの08年のベストワン作品ということで。

**町山**　もう、ダントツですね。

──ベストワンにされた理由は？

**町山**　監督とか俳優にとって、その映画のために彼の生涯があったような運命の映画がときたま存在するんですが、それが『レスラー』ですね。ミッキー・ローク自身の実人生と主役の落ち目のレスラーの人生が重なり合って、さらに「プロレスとは、俳優とはいったいなんなのか」ということが描かれてしまった奇跡の映画ですよ。

──その話だけで観たいですね（笑）。

**町山**　99年に『ビヨンド・ザ・マット』っていう映画がありましたよね。

──プロレスラーの悲哀や裏側を描いたドキュメンタリー作品ですね。

**町山**　『レスラー』はそれにインスパイアされた映画です。『ビヨンド・ザ・マット』は、試合前の打ち合わせを見せてしまった革命的なドキュメンタリーでした。

──日本でもカミングアウトの最初の波として話題になりました。そのあとミスター高橋本も出ましたが。

**町山**　高橋本はつまんないですけどね（笑）。『ケーフェイ』と同じレベルで、「プロレスは八百長だからダメだ」って書き方してるから、「何十年もプロレスやってきて、そのレベルかよ！」と思ってね。

──ワハハハハ！

**町山**　レスラーへの敬意が全然ないんだもん！　でも、『ビヨンド・ザ・マット』は見事に価値観の逆転をしました。プロレスが「インチキだ」と言われてるのは、「わざと技を受けてる」「芝居だろ？」ってことでしょ。でも『ビヨンド・ザ・マット』は「だからこそ凄いんだ！」と言ったんです。「プロレスは敵の攻撃をわざと受けるだろ？　そのほうが凄いだろ？」と。だって真剣勝負の格闘技は敵の技を防御するでしょ。自分のダメージを最小限にするでしょ？

──技を受けないのが格闘技ですね。

**町山**　自分の身を守るのが人間の本能ですよね。でも、プロレスは本能に逆らう。わざと攻撃を受ける。さらに「どれだけ受けられるか？」で尊敬される。『ビヨンド・ザ・マット』の主役はミック・フォーリーです。彼がなぜ偉大か？　凄い必殺技があるわけではない。なにしろ攻撃は手につけたソックスを敵の口に突っ込むだけですから（笑）。彼の得意技はバンプなんですよ。

──いわゆるクレイジー・バンプの達人ですよね。

**町山**　2階席から叩き落されたり、場外のコンクリートにパワーボムで後頭部から叩きつけられたり。ところがどんな技を持つレスラーより尊敬されている。「プロレスはわざと敵の技を受けるからダメ」なんてレベルを超えちゃうわけですよ。

──プロレスラーという職業の凄まじさにシビれますよね。

**町山**　『ビヨンド・ザ・マット』の試合前に打ち合わせをする風景で、ザ・ロックはミック・フォーリーの娘さんの頭をなでて「よしよし、いい子だね」とかニコニコしながら言うんですが、そのあとリングでお父さんをパイプ椅子でメッタ打ちにするんですよ（笑）。憎んでるわけじゃない、というか友だち同士なのにミックの頭が割れて骨が見えるまで叩く。殴られるほうもわざと殴られている。完全に異常な世界ですよ！

**映画『レスラー』とは?**

80年代の大スターで、その後低迷していた俳優ミッキー・ロークが人生の再起を懸けるプロレスラー役で出演、人生を投影した演技で高評価。プロレスの裏側もリアルに描いた問題作。08年ヴェネチア映画祭金獅子賞受賞。09年アカデミー賞で主演男優賞、助演女優賞にノミネートされている。日本では初夏にシネマライズ、TOHOシネマズ シャンテ、シネ・リーブル池袋ほかで全国ロードショー。

**映画『ビヨンド・ザ・マット』とは?**

99年制作、日本では01年に公開。カミングアウト時代の先駆けとしてプロレスの壮絶な舞台裏やプロレスラーの悲哀を描いた傑作ドキュメンタリー。ミック・フォーリーとザ・ロックの試合打ち合わせ場面やドラッグに溺れたジェイク・ロバーツの姿などが話題を呼んだ。

## これは『ビヨンド・ザ・マット』にインスパイアされた映画なんです

──それに近い世界が『レスラー』でも描かれている、と。

**町山**　シナリオライターは、『ビヨンド・ザ・マット』を観て驚いて「これをドラマにしよう」と書いたんです。監督のダーレン・アロノフスキーはニューヨークのコニーアイランド出身で、サビれた遊園地の見世物小屋に子どもの頃から通ってた人。そこには90年代まで見世物小屋があって〝毛むくじゃら女〟とかがいたんです。

──いわゆるフリークスですね。

**町山**　プロレス自体、サーカスのリングが発祥ですから。お客さんと怪力男が闘ってお金を賭けてたのが最初です。そういうこともわかって描いてるのが『ビヨンド・ザ・マット』や『レスラー』なんです。

──逆にいままでプロレス映画ってまともなものがなかった気がして。

**町山**　要するに「ガチである」って前提で作っちゃうからですよね。

──その境界が日本だといまだに難しいんです。

**町山**　WWEがカミングアウトした理由は、株式上場するために「演劇である」と公言する必要があったんですけど。じゃあ、WWEがスポーツとしてダメかっていったら全然ダメじゃないですよ。演劇だからって身体の酷使の度合いがヌルいわけじゃない。むしろ喧嘩やスポーツの勝負で相手を攻撃するのは普通のことですが、納得ずくで身体を痛めつけ合う行為はあきらかに異常ですから（笑）。そこが凄い。

──映画の舞台はデスマッチ系のインディー団体ですね。

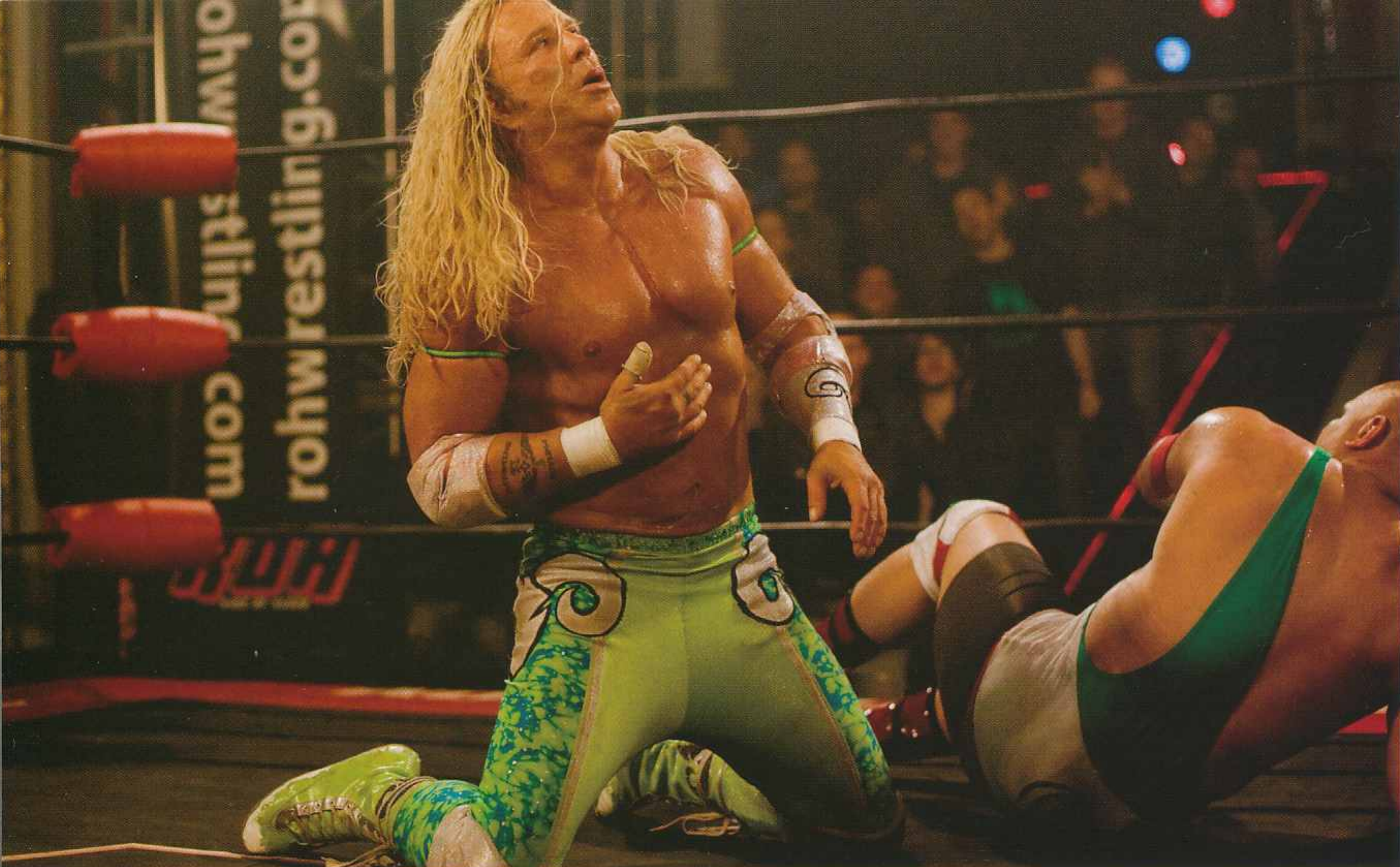
**町山**　東海岸のCZWです。でもミッキー・ローク演じるランディ・ザ・ラム・ロビンソンは元WWF（現WWE）のレスラーらしい。彼は80年代、イラン系のレスラーと抗争して国民的ヒーローでした。これはハルク・ホーガンとアイアン・シークの80年代の抗争劇がモデルです。

──ランディはかつてのホーガンでしたか。

**町山**　長い金髪がトレードマークで、星条旗を振り回して、イラン人をやっつけるレーガン政権時代の愛国心高揚の試合をしてた男。アクションフィギュアや、ファミコンにまでなってる。スーファミじゃなくて最初のファミコンです。でも、それから20年後のいまはすっかり落ち目で、フィラデルフィアやニュージャージーの体育館でドサ回りしている。最初の試合では、いきなりカミソリを仕込むシーンがじっくり映されます。

──うわ～。それはヤバイですね。

**町山**　安全カミソリの刃を二つに折って、手首のバンデージに隠すんです。で、試合でヒールにターンバック

## 落ちぶれたミッキー・ロークは月5万のアパートに住んでいた

1月末には報道陣を前に「『レッスルマニア25』に参戦する」と発言したミッキー・ロークだがマネージメント側は否定。こちらの今後の動向にも注目だ。

# 映画『レスラー』に泣け!!

ルに叩きつけられ、ヒールが観客にアピールしてるスキに自分で額をカットするのを全部写してるんです。

——そこまでやってますか?

**町山** そこまで血みどろの試合をするけどギャラは2万円しかもらえない(笑)。家はトレーラーハウスで家賃2万円ですけど、それも払えなくて鍵をかけられちゃってる。で、食うためにスーパーの裏で冷凍室から肉を運ぶ仕事をしてる。若い頃はスーパースターだったけど、全部クスリと女に使っちゃって、何もかも失なってしまった。そのへんは『ビヨンド・ザ・マット』に登場するジェイク・ロバーツをモデルにしてます。ロバーツも80年代WWFのスーパースターでしたが、酒と女とクスリで金を使いはたして、家族も捨てて、いまは貧しくドサ回りしている。で、十数年会っていない娘に会いに行くんだけど、「あたしとママを捨てたくせに!」って拒絶されてしまう。

——それが同時にミッキー・ロークの実人生ともリンクしてくる、と。

**町山** ロークには子どももはいないんですけどね。僕はミッキー・ロークの直撃世代なんです。彼も80年代のスーパースターでした。でも、明朗快活なヒーローではなくて非常に屈折した、複雑なアンチ・ヒーローでした。一番好きな映画は『ランブルフィッシュ』なんですけど。

——フランシス・コッポラ監督の青春映画ですね。

**町山** ロークが演じるのは〝バイクボーイ〟っていう暴走族。ケンカは誰よりも強くて、頭も抜群にいいけど、世の中がすべてが見えてしまって真剣に生きられなくなってる。その実存主義的な虚無感が本当に素晴らしかった。それでミッキー・ロークはマーロン・ブランドとかジェームス・ディーンの再来とか言われて大スターになった。でも、途中からだんだんおかしくなってきて。

——おかしくなってきましたか。

**町山** 彼はもともとフロリダの不良少年なんですけど、たまたま俳優で売れただけで、ハリウッドのパーティ三昧の生活に引きずり込まれた。そのチャラチャラした世界が全然肌に合わなかった。バカバカしくなって、仕事をバンバン断るようになった。たとえば『アンタッチャブル』の主演をオファーされたのに断っちゃった。代わりにケビン・コスナーが演じてメガヒットするんですが。

——もったいない話ですね。

**町山** その一方でギャラ目当てで『ハーレーダビッドソン&マルボロマン』って大失敗作に出て、みんなにバカ映画のバカ主役だとバカにされて、さらにやる気がなくなって。それで「もうオレ、俳優なんてうんざりしたからボクサーになる」と言いだした。もともと俳優になる前にボクシングは少しやってたんですけどね。インチキな俳優業よりも実際に手ごたえを感じられる仕事がしたかったと言っています。でも、映画業界からは「何様のつもりだ」と決定的に嫌われてしまった。

——日本でもボクシングの試合をしましたね。

**町山** 一応KOしたけど、腰が引けた状態のネコパンチでね(笑)。30すぎて始めたんですが、8試合ほどやって、結局芽が出なくて辞めました。それでまた俳優に戻ろうとしたんですが、もう居場所はなかった。

——ハリウッドでの居場所が?

**町山** 売れてた頃にさんざんワガママしたからね。しかも顔がもうハンサムじゃなくなってしまった。ボクシングでも全然防御できなくて、顔をかなり殴られたんです。鼻や頬骨やら陥没骨折しちゃってボロボロ。それで整形手術したんですが……。

——今度は整形ですか。

**町山** ところが整形手術をやりすぎて顔がへんになってきちゃった。これじゃ俳優として仕事がもらえない。で、金がなくなってバイクや車のコレクションを手放して、豪邸を売って……。そういう状況でも奥さんはサポートしてくれたんですけど、ロークは泥酔して奥さんを殴って逮捕されて、奥さんに逃げられて、ちやほやしてた友だちも去ってしまって、一人ぼっちで月5万円のアパートに住むところまで落ちぶれたんです。

——うわ〜。まさに映画の役と……。

**町山** 同じなんですよ! トレーラーハウスが2万円でアパートは5万円だから3万円しか違わない(笑)。で、一時は「落ちぶれたところを見られると恥ずかしいから、食べ物を買うときは24時間営業のスーパーに夜中にこっそり行って顔を隠して買った」そうです。

——まさにドン底ですね。

**町山** もう完全に自暴自棄になって……。フロリダでバイク屋をやってた弟から仕送りしてもらってなんとか暮らしている状態で。ところがその弟がガンになっちゃった。でも、ロ

ークにはフロリダに見舞いに行く飛行機代もなかったんです。

# 映画『レスラー』に泣け!!

——そこまで貧乏でしたか。

**町山**　で、弟の奥さんから飛行機代を借金して行ったら、病院で看護婦さんに呼び出された。「あなたがお兄さんですね」って言われて「弟さんはあなたのことが心配で心配で、安らかに死ぬこともできないんですよ。ほんの少しでいいから弟さんを安心させてください」と。それを聞いてミッキー・ロークは凄いショックを受けて、弟を抱きしめて「悪い兄貴だった。自分を捨てて一生懸命、真面目にやり直すから信じてくれ。安心してくれ」と懺悔して、弟も「わかった」と。彼の腕の中で死んでいった……。

——………。

**町山**　ちょうどその頃、日本からガッツ石松さんと輪島功一さんがミッキー・ロークを訪ねて「元気出せよ」って慰めてるんですが、そのあたりから彼は一生懸命仕事を始めたらしいですね。どんな役でも全部受けて。

——ガッツさんのおかげで。

**町山**　ガッツさんのおかげで。で、少しずつ、ミッキー・ロークのファンが仕事を持ってきました。ロバート・ロドリゲスって監督が『シン・シティ』って映画で復活させようとしたり、そして少しずつうまくいき始めたところで、『レスラー』でブレイクしたんですよ。

——まさに今回は起死回生ですね。

**町山**　ただ、最初は主演を「ニコラス・ケイジにやらせる」って話もあったんです。ニコラス・ケイジならハリウッドの映画会社が大作級の予算を出すと言っていた。ところがケイジは監督とうまくいかなくて、次にシルベスター・スタローンにやらせるという話もあったけどうまくいかず、最終的に「ミッキー・ロークがいるじゃないか?」と。監督もシナリオライターもミッキー・ローク世代なんで。ただ、映画は動き始めたけど、今度は「こんな落ち目の俳優に金なんか出せるか!」って、お金を出す人が引いちゃった。

——またもや窮地ですね。

**町山**　で、超低予算映画になりました。

——試合場面はどんな感じで?

**町山**　大日本プロレスにも上がってたネクロ・ブッチャーとデスマッチをします。COD(ケイジ・オブ・デス)形式で、ありとあらゆる凶器を使って。試合前の打ち合わせでネクロ・ブッチャーが「今日はこれ持ってきたよ」って見せるのは工業用のステープラー。デカいホチキスですね。あれを互いに打ち合ったり、有刺鉄線を巻きつけた机にラダーの上から叩きつけたり、有刺鉄線で腹がグバーッと裂けて血が噴き出して……。これでギャラは2万円(笑)。

——やっぱり2万円(笑)。

**町山**　金かかるのにね。試合後、ロッカールームで大量の痛み止めとステロイドを買うんですよ。ほかのレスラーから。

——えっ?　それはアメリカのプロレス界はどんな反応なんでしょう?

**町山**　CZWも協力してますし、「事実だからしょうがない」ってことなんでしょうね。でも、ローク扮するランディはヒザやられちゃって、ちょっと足を引きずってる。レスラーってみんなどこか壊れてるでしょ。痛み止めなしじゃ、生きていけない。

——どこまでも凄まじいですね。

**町山**　で、クスリや試合のせいで心臓はもうボロボロ。ランディの必殺技はフライングボディプレスとかダイビングヘッドバッドなんですが、とうとう医者に「次、やったら死ぬよ」と言われる。でも、プロレスを辞めた

元人気レスラーのランディ(ミッキー・ローク)は、スーパーでバイトをしながらインディー団体でドサ回りの日々だったが、心臓発作でドクターストップに。ボロボロ人生にどんなケリをつけるのか?

## どこまでホントで演技なのか?　この映画はプロレスそのもの

ら彼には何も残されてないんですよ。

——プロレス以外には何もない、と。

**町山**　働いてるスーパーの裏の暗い通路を通っているだけで、彼の耳にはどこからか大歓声が聞こえてくる。20年前のマジソン・スクエア・ガーデンの歓声が。あのときの興奮から逃げられない囚人なんですよ。

——自分の成功体験から抜け出せないわけですね。

**町山**　それでもなんとかプロレスをあきらめようとして、娘に会って、「まともなお父さんになるから」と言うんです。「俺は愛する者たちを裏切って、何もかも失なった。確かにバカな人間だった。全部俺の責任だ。でも嫌わないでほしいんだ」と涙を流すんですけど、それはもう演技なのかミッキー・ローク自身なのか、観てるほうも演じてるほうもわからない境地なんですよ!

——はぁ～っ。演技でも自己投影でもあるわけですか。

**町山**　そういう意味では、この映画自体がプロレスなんですよ!　映画の中でランディはなじみのストリッパーに求婚するんですが「私があなたにやさしくしたのは仕事だから」って言われちゃう。「あなたは現実とステージの区別がついてないわ!」って。でも、それがプロレスなんですよ。

——まさに虚実皮膜というか。

**町山**　どこまでホントで、どこまで演技か、やってるほうもわからない。それこそプロレス的です。天龍(源一郎)さんに昔インタビューしたとき、天龍さんが延髄斬りでスタン・ハンセンをリング上で失神させた試合のことを聞いたんですが……。

——サンドイッチ延髄斬りで、失神させた事件ですね。

**町山**　前後で挟まれたんでハンセンは受け身が取れず気絶しちゃった。で、天龍さんはハンセンが意識を取り戻すまで時間を稼ぐために場外乱闘に持っていった。でも、ハンセンは大恥をかかされて怒り狂って「天龍を潰す!」と言うわけです。「そのとき、どうしたんですか?」と聞いたら、「潰されることにしたよ」って。

——あえて、潰されましたか。

**町山**　「ハンセンの気が晴れるまで殴らせることにしたんだ」と。次の試合で、ハンセンはウェスタンブーツの踵で延々と天龍さんを殴り続けた。血みどろの天龍はまったく無抵抗という異常な試合。自ら制裁を受けてるわけです。公開処刑ですよ。

——処刑をテレビ放送してしまったというか。

**町山**　だからプロレスって演劇もスポーツも超えたものなんですよね。で、この映画のラストは……(と以下、ラストシーンまで説明)。

——うわ～……。これは、ぜひ映画館で観てもらいたいですね!

**町山**　ただね、先ほど言ったように、プロレスはどれだけ相手の技を受け

られるかで評価されますよね。ローク扮するランディは背中にキリストの刺青を彫っているんですが、まさに彼はキリストなんですよ。

――プロレスラーはキリスト!?

**町山** ヨーロッパにはパッションプレイ（受難劇）の伝統があります。キリストが十字架を背負わされてムチで打たれる処刑の模様を再現する芝居で、各地の村で演じられてきたわけです。みんな、それを観て「イエス様は私たちの罪を受けてくれるんだ」と感動する。いろんな宗教の教祖がいますけど、キリストがもっともカリスマ的なのは殉教者だからです。彼はすべての技を受けた。そこにプロレスの原点があるんですね。

――プロレスに受難劇の影響が?

**町山** プロレスが宗教的、演劇的なものに進化したのは、おそらく受難劇との合体があったと思います。プロレスが始まった頃は格闘技だった。

プロレスの裏側を描くことで逆説的にプロレスの壮絶さを知らしめるこの作品。映画の中では試合の打ち合わせシーンをはじめ、ステロイドや痛み止め投与なども描かれているが、はたして日本のプロレス界の反応はいかに？

それがいつしか「技を受けて、受けて、最後に逆転する」ってパターンになったのはカソリックの受難劇が原点だろう、と。主人公のランディはポーランド系ですが、ポーランド系ってカソリックなんです。ミッキー・ローク自身はアイルランド系で、やはりカソリックなんですね。初期のプロレスラーってポーランド系やハンガリー系が多いんです。「なんとかスキー」みたいな名前で。ルー・テーズもハンガリー系ですから。

――確かにそうですね。

**町山** ……まぁ、プロレスラーもロックスターも、人間的にダメな人が多くて、酒やクスリで若いうちに死んじゃうじゃないですか？　それを「バカだ」とか言う人がいるけど、そんなの小市民のタワゴトですよ！　ケンカして、麻薬やって、博打やって、女といっぱいヤッて、早死にする人がいたっていいじゃないですか。99パーセントの人間は意味もなく自分を守りながらこぢんまりと生きていて、メチャクチャやって滅びる人を見て一瞬スカっとして、でも、ああならなくてよかったとホッとして……。人がやらないことを代わりにやってくれる人は必要なんですよ。それが英雄なんだから。

――小市民を代表してデタラメな人生を送ってくれる、と。

**町山** だから凡人たちの生贄なんですね。英雄とかカリスマというのは、

## プロレスの原点はカソリックの受難劇にあると思います

自分を守らない人のことです。それは善人に限らず、悪いヤツでも同じことですね。強くて敵をガンガン倒し続けるだけの男が人から尊敬されるかというと、じつはそうでもない。勝つこと自体は誰でもできるから。できないのはあえて攻撃を受けること、自分を捨てること、自分を守らないことですよ。だからプロレスでも物語でも攻撃する側は悪役で、その攻撃を受け、耐え続ける者が英雄なんです。本当に人が尊敬するのは、勝つ人ではなくて負けない人。この映画のランディは汚れたキリストなんですよ！

――非常によくわかりました!!　最後にミッキー・ロークはこの映画でアカデミー主演男優賞にノミネートされてますが、「今年の（WWEの）『レッスルマニア25』に出る」って発言をして騒動になりましたね。

**町山** ロークはリングの快感を知ってる男ですからね、WWEに誘われて思わず「出たい」って言っちゃったんでしょう（笑）。ランディとまったく同じですよ。そのあと、マネージャーが出場を否定する声明を出しましたけど、「真面目な俳優としてアカデミー賞をもらえるかもしれないのに、リングに上がって人生ダメにしたこと忘れたのか？」って。でも、ステージと現実の区別がつかない人がホントのレスラーですから、ミッキー・ロークもそうなんです。

――ホントにミッキー・ローク業をまっとうしてますね。

**町山** あ、最後にもう一個、ミッキー・ロークってあれだけ稼いだお金をなくしちゃったのは、相当に友だちなんかにバラまいたからですよ。若い頃からみんなにオゴりまくって、なくなっちゃったみたいで。

――阿修羅原みたいじゃないですか！　まさにプロレスラーですねぇ。

**町山** プロレスラーなんですよ！　だから、ホントにこの映画を観ると「ステロイドやったぐらいでガタガタ言うな」「そういう人生だってあるんだよ」と思いますね。だって、俺たち小市民にはできない人生を生きてくれてるんだもん!!

【09年2月11日／電話取材で収録】

まちやま・ともひろ■1962年7月4日、東京都生まれ。映画評論家、コラムニスト。95年に『映画秘宝』を創刊。97年に渡米し、現在はカリフォルニア州バークレー在住。映画のみならずアメリカ文化全般を日本に発信し続けている。

**町山氏の新刊をプレゼント!!**

アメリカのステロイド問題の闇とは？　現在発売中の町山氏の新刊『USAスポーツ狂騒曲 アメリカは今日もステロイドを打つ』（集英社）を3名様にプレゼント！　応募詳細は111ページ参照!!

# 毎興行満員御礼!!

## “プロレス界一”好調な理由はいったいなんなのか!?

# に学びに来ました!

**プロレス界の苦境が続くさなか、その煽りを受けずに好調をキープしている団体がある。それがドラゴンゲートだ。打つ興行ほとんどが満員というその好調ぶりはいったいどこから来るのだろうか。このプロレス特集号を機に、『kamipro』も学ばせてもらいに来ました!**

構成／松下ミワ　写真／平工幸雄

遅ればせながら、ドラゴンゲートに学びに来ました!

というわけで、今回のプロレス特集を行なうにあたって企画会議を行なった際、じつは『kamipro』編集部員の約半数からドラゴンゲート(以下、ドラゲー)の企画が提案された。

「プロレス」というテーマに基づいてそれぞれが企画を持ち寄ったが、「現在のプロレス」といえばいま一番元気なのはドラゲーだという意見が多数、もうすぐ入社5年目ながらいまだにプロレス初心者の域を出ず、格闘技方面の取材ばかりを担当している私、松下ミワも、なぜか直感的にドラゲーの企画をその会議で挙げたのだった。

ただ、ここ最近『kamipro』ではなぜかドラゲーを扱っていなかったようだ。その理由をこの機会に考えてみたのだが――、我が編集部にはアントン研究をライフワークにしている編集長のジャン斉藤を筆頭に、アメプロ人間の坂井ノブ、変態UWF信者の堀江ガンツ、どインディ団体にはムダに詳しい阿修羅チョロ、自称ノアヲタの真下義之といったように、それぞれが自由奔放、自分の趣味嗜好に走りすぎ、なおかつ『kamipro』という雑誌自体にプロレス&格闘技含めて「特定の団体の情報は固定で載せよう」という思考がまったくない。こういう状況になったのも、そのいいかげんさが原因なんじゃないかと想像する。プロレスを知らない自分が言うのもなんだけど、本当に『kamipro』はプロレス雑誌なんだろうか……。

# 率直な感想として、好調な団体にはやっぱり理由があった！

しかし、こうした編集部においても今回ドラゲーが話題に上った理由といえば、やはり一つは『週刊プロレス』でのドラゲー特集である。昨年末、表紙に「DRAGON GATEに学べ！」と打った号が発売され、〝プロレス不況〟と言われる昨今、確かにドラゲーからは景気が悪い話はまったく聞こえてこない。というか、むしろその逆で、日々編集部に流れてくるリリースには「観衆：〇〇〇〇人（超満員）」と、ほぼすべてに満員マークがついているではないか。マット界が決してイケイケ状態ではない中、ドラゲーはいかにしてこの好調さをキープしているのだろうか。単純にそこが大きな疑問だった。

今回はその謎を解明すべく、編集部で最もプロレスを知らない私がイチからプロレスを学ばせてもらうことになったのだ。

そもそも自分の中のプロレス観というと、入社前は知識も含めてほぼゼロ。そのため、99パーセント以上が『kamipro』内部で体感した情報から得たものだ。つまりどういうことかというと、ほぼ『ハッスル』や『マッスル』などエンタメ路線のプロレスから培われたと言ってもいいくらいの認識なのである。おそらくこれは〝曲がった教育〟なのだろうと思いつつも、それが自分の中ではプロレスの〝常識〟となっている……。

そんなプロレス観を持つ私の中のドラゲーのイメージといえば、「かっこよくて派手な選手が多い」ということと「技がアクロバティック」という点だ。ほかのプロレス興行と比べて圧倒的に女性ファンが多いことはよく聞くし、元格闘家の渡辺久江が熱狂的ファンになっていることは、なぜかいつも編集部・阿修羅チョロから聞いている。

ただ、曲がったプロレス思考を持つ人間からすると、たとえば「ミスター高橋本」の存在にとらわれないプロレスは成り立つのか、また芸能人を巻き込むような大仕掛けは観客動員や注目度の面で必要ないのか、そういう要素がないプロレスはどうやって人気を生んでいるのか、そんな疑問が湧いてきてしまうのだ。

そうした〝邪悪な〟思いを胸に、今回、岡村隆志社長にインタビューさせてもらうことができた。次のページからは、そのあたりも含めてドラゲーが人気においても経営的にも好調な理由をいろいろお聞かせいただいた。では、好調な理由はなんだったのか？　その答えは岡村社長の言葉から読み取っていただきたいと思うのだが、率直な感想としては「やっぱり好調な興行には理由があるんだなあ～」ということだった！　ズバリ言って勉強になります！

そんな思いを抱きつつ、岡村社長インタビューの2日後、後楽園ホールで行なわれたドラゲーの興行に足を向けたのだった。この日も岡村社長の予告どおり、観衆はもちろん超満員だ。

試合は予定時間どおりに始まり、シングルマッチから複数人数タッグ、チャンピオンシップマッチなど6試合が組まれている。最初に抱いていた印象どおりアクロバティックな技が披露されるのだが、シングルにしてもタッグマッチにしても、0・1秒のズレもなく畳みかける技の攻防にはただ圧倒されるばかり。

この人たちはどんだけ運動神経がいいんだ！　そして、どんだけ練習してるんだよ！　という驚きが最初に抱いていた〝邪悪な〟疑問を忘れさせる。

お客さんもただ技に驚き、マイクに沸く。私がプロレス初心者だと知っているベテランプロレスカメラマンの平工さんは「ドラゲーはリズムで観るものだ！」と教えてくれた。休憩時間ともなれば、売店前に人がごった返しており、女子トイレにはいままで後楽園では見たことないような長蛇の列ができている。

ドラゲーの興行を目の当たりにしたことで、岡村社長に話していただいたことにより理解が深まった気がした。ドラゲーが好調な理由がイベント、経営戦略の両方を知ることでますます説得力が増したような感じである。岡村社長は常に「満員宣言」をしていると聞いたが、そのとおり、ドラゲーの興行はきっと次回も満員なのだろう。

というわけで、次ページからの岡村社長インタビューは読者とともに、いいかげん&個人主義な『kamipro』編集部の人間にもお送りしたいと思う。

（※などと、ここまで偉そうなことを書いているが、ホントにプロレス初心者によるページなので、もしこのドラゲー企画で間違ってる、勘違いしている部分があったら、ぜひどなたでもお教えくださーい！）

昨年末に発売された『週刊プロレス』には好調なドラゲーを表紙にピックアップして「GRAGON GATEに学べ!」というコピーが打たれた。今回はそのとおり、勉強させていただいた次第です。

## 初心者による初心者のための ドラゲー選手紹介

**CIMA**
闘龍門旗揚げ当初からのメンバーであり、DRAGON GATEの中心選手。首のケガからようやく昨年12月福岡国際大会で復帰するも、これが敗戦に。今後の展開は……!?

**鷹木信悟**
キャリア4年でドリームゲート王者に君臨した実力派。ベビーユニット、ヒールユニット、無所属と立ち位置を点々させており気まぐれな面もあるが、常に話題の中心にいる。

**ドラゴン・キッド**
闘龍門初期メンバーの一人で、多彩な技の数々とその切れ味に、リング上ではひと際目立つ存在に。現在は鷹木信悟が〝大将〟を名乗るユニット『KAMIKAZE』に所属している。

**土井成樹**
昨年12月福岡国際大会で鷹木信悟からドリームゲートのベルトを奪い第10代王座に君臨、ドラゲー事実上のトップに。3月の両国大会では新日本の金本浩二と団体の威信を懸けて闘う。

**吉野正人**
ドラゲー中量級最強の証であるオープン・ザ・ブレイブゲート王者。「スピードスター」というニックネームが示すとおり、技の速さはピカ一。会場人気が最も高い選手の一人。

**B×Bハルク**
ドラゴンゲートきってのイケメンファイター。試合前には女性ダンサーを引き連れて、キラキラの衣装にサングラスという出で立ちでジャニーズ顔負けのダンスを披露するのが特徴。

**YAMATO**
ヒールユニット『〝新生〟リアル・ハザード』のリーダー。昨年12月福岡国際大会では首のケガから復帰したばかりのCIMAをスリーパーで失神させるというクレイジーぶりを披露。

トップに直撃!! 好調の理由を教えてくださ～い!

「決して我々がいい状況というわけではないんですよ」

GRAGON GATE代表

# 岡村隆志

ドラゲー好調の理由をズバリ、トップに直撃! 本誌初登場の岡村隆志代表に、プロレス団体経営の秘訣、そしてドラゲーが考えるプロレス観にも迫ってみた。ここにプロレスが生き残るヒントはあるか!?

聞き手／松下ミワ 撮影／平工幸雄

# 5000人の会場よりも500人の会場×10回という考え方なんですよ

──このたびプロレスだけを取り扱った『kamipro』の増刊号が発売されるんですが、いま最も元気なドラゴンゲートからプロレスを学ばせてもらおうと思ってやってまいりました！

**岡村** ホンマですか？ 僕、プロレスわからないんですけどね（笑）。

──そうなんですか!?

**岡村** ヘタしたらウチのビッグマッチでもメインカードを知らないくらいですよ（笑）。経営に徹してる身ですから。それでもよかったらなんでも聞いてください。

──やっぱり一番おうかがいしたいのは、いろんなプロレス団体が苦戦を強いられてるこのご時世に、なぜドラゲーは多くの熱狂的ファンを生み出せてるのかということなんですけど、そもそも現状のプロレス界についてはどう捉えてますか？

**岡村** まず大前提として、決して我々がいい状況であるとは思ってないということですね。要は、ウチは現状維持してるだけなんです。全体的に下がってるからうまくいってるように見えるのかもしれないですけど、ウチはそれに比べたら「これだけ必死こいてやっても、これかよ！」という現状維持の難しさを感じていますね。

──そういう意味ではやはり〝不況〟は感じている、と。

**岡村** じゃあ10年前はどうだったか。たとえば大阪だとビッグマッチといえば京セラドームとかでさんざん興行が行なわれてましたけど、いまはウチが府立第一（大阪府立体育会館第一競技場）でやったぐらいでビッグマッチだと言われてますからね。だから全体が低迷しているからこそウチが注目されてるだけの話ですよ。

──逆に言うと、最も危機感があるのがドラゲーなんでしょうか。

**岡村** まあ私自身、本当に他団体、ヘタしたらウチの団体のプロレスも観ないんで、具体的にほかの団体がどうなんだというのはわからないんですけどね。

──ただ、『週刊プロレス』で「DRAGON GATEに学べ！」というコピーが表紙に打たれた号があったじゃないですか。そういう部分でもやはり注目を集めていると思うんですが、あの号が出たときにはどう思われました？

空中殺法にしても大人数のタッグマッチにしても、寸分の狂いもなく技が次々と展開されるのがドラゲーの特徴の一つ。観客に目を話させない仕掛けがいちいち散りばめてある。

**岡村** 『週プロ』さんが評価していただいて表紙になったというのは単純に嬉しいですよね。ただ、じつはこの記事が出たすぐあとにみんな集めてミーティングやったんです。要は「凄く評価してくれてありがたい記事なんやけど、勘違いだけはせんといてくれ！」って話をしたんですよ。

──はー！ それは気を引き締めるためにということですよね。

**岡村** 即行で集めましたね。こういうことを書かれるとちょっとしたことでも周りからは「いい気になって」と言われるんで、選手にもスタッフにも「そこは注意してくれ」と言いました。逆に、現状維持するのにもこれだけ大変なんだということをよく考えてくれって。

──とはいえ、ちょっとは天狗になってもいいところだと思うんですけど。

**岡村** いやいや、たとえば僕は「毎興行満員にする」ということを宣言してるんですけど、中には「一回ぐらい外してもええんちゃう？」と思う人もいるかもしれないですよね。でも、僕は一回でも許さんという考えなんですよ。それをやったらウチは終わると思ってますから。

──ハードルが高いんですねえ。岡村社長というと本当に有言実行というか、実際に毎大会チケットをさばいているという話を聞きました。

**岡村** そうですね。ただなんでかというと、要はウチは無理してないんですよ。たとえば300人入る会場でも満員は満員じゃないですか。だから、いまは少し方針は違いますけど、昔は5000人の会場よりも500人の会場×10回という考え方だったんです。そうすると、リスクを分散できるでしょ。

──なるほど。確かにそれは堅実ですね。

**岡村** それをやることでマスコミさんとかの取り上げ方が少なくなるのはわかってたんですけど、やっぱり食っていくことを考えると僕らはそっちなんですよ。だから崩れないんです。僕らはここ最近になってスポンサーさんがどうのこうの言ってますけど、やっぱりウチは実券勝負。つまり、最大のスポンサーはファンということですよ。

──本来なら基本なのかもしれないですけど、凄く新鮮に聞こえます。

**岡村** それに、要は何かの意思によって潰されるのがイヤなんです。自分とこでダメになるのはしょうがないけど、たとえばスポンサーさんが倒れてウチまで倒れるというのは不本意じゃないですか。だからあくまで基本の衣食住を満たしたうえで、じゃあ贅沢しようかというときにスポンサーさんに協力していただくという考え方なんです。

──逆に、マスコミの取り上げ方が小さいというのはリスクにはならないですか。

**岡村** ぜんぜん気にならないですよ。こっちは表紙になったりすると「よかったなあ、表紙になって。思い出になるよなあ」ぐらいですから。

──リスクの話で言うと、プロレスが苦戦を強いられる状況になった理由の一つに、いわゆる「ミスター高橋本」でプロレスの仕組みが暴露されたというのがあると思うんですよ。そういう状況の中で、これまでと同じようにプロレスを続けていくこ

とに不安はなかったですか？
**岡村**　全然なかったですね。かけらもなかったです。逆に、僕思ったんですよ。テレビで悪人が出てるシーンとかあるじゃないですか。観てると「こいつ悪いヤツやなあ、むかつくわー」と思うシーンもあると思うんですけど、これってその役者の力量があるからこそだなって。

——要するに、その世界観に引き込まれているからこそじゃないか、と。

**岡村**　おもろいから食いつくし、だから来週も観ようと思う。でも冷静に判断すると、それはその役者が悪いわけでもなんでもなくて、世界に取り込まれてるだけなんですよね。それはけっこうプロレスの理想形かなと思いますね。

——岡村社長の中では「世間を取り込む」ことに関して、どう考えてますか？

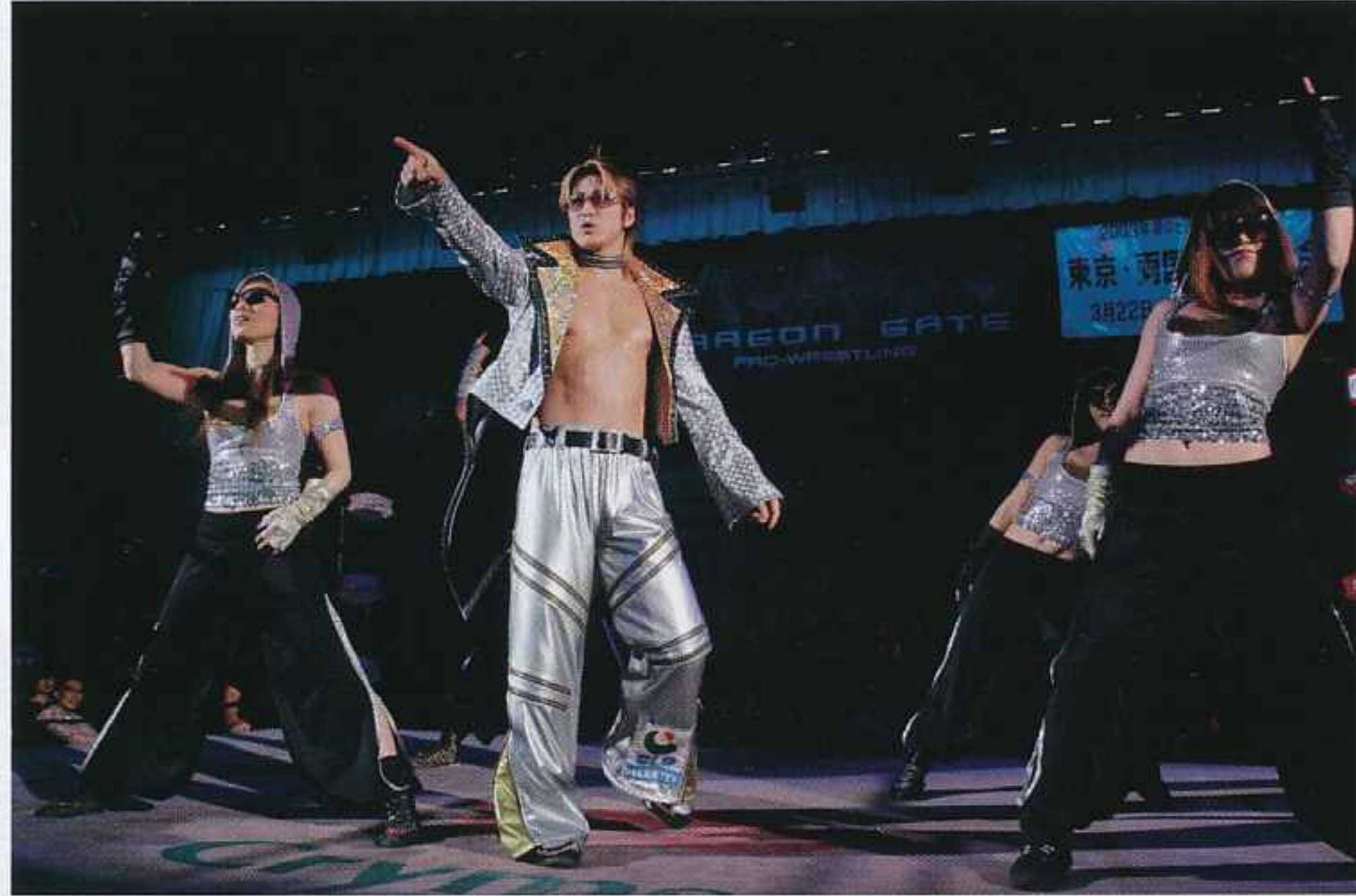
**岡村**　世間は入れ替わりが激しいと思うんですね。たとえば格闘技で考えるとすると、梶原一騎先生の『空手バカ一代』がブームになったときに、昔はそういうのが出たら影響を受けて自分も道場に通うような世代だったと思うんですけど、いまはそうじゃない。言えば、ゲームとかで消化する程度ですよ。だから、一人の人間がマスコミに大きく取り上げられたからといって、観客動員に結びつくかというのはクエスチョンですね。これはもう十何年前の話ですよ。

——そう考えると、世間を取り込むには何が重要になってくるんでしょうか？

**岡村**　常に新しいファンを巻き込むことですよね。ウチの興行でも、ある程度会場に通ったらお客さんもやっぱり飽きちゃってて、次のファンが来るというのが繰り返されてるんですよ。だから、新しく入ってくる人にちゃんと観てもらう、と。

——そのためには常に新しい仕掛けをするということですか。

**岡村**　もちろん。だからリング上のことは選手に任せてますけど、僕はたとえば競艇、競輪、そして今度はパチンコにも入り込みますけど（スポンサーであるパチンコメーカーTAKAOからパチンコ台を発売）、違う要素からお客さんを引っぱってくるというのは積極的にやっていきたいと思ってます。ずーっとウチを応援してくれるファンがいらっしゃればいいですけど、本当に10年も応援してくれるファンなんてごく少数やろうし。

——ドラゲーといえばイケメンレスラーがたくさんいることで有名ですが、そういう部分もファンの入れ替わりを見越して、

ドラゲーといえば、女性人気が高いことで有名だが、選手の見栄えやパフォーマンスは選手自身のプロデュースによるものだそう。これぞ魅せる商売の心構えということか。

## やっぱり一番は選手やスタッフの給料を落とさないようにすること

新しいファンが入りやすくなるような仕掛けだったりするんですか？

**岡村**　たとえば、ウチのストーカー市川なんかはプロレスラーやから結婚できたという典型例だと思うんですよね。じつは一回離婚して、またいまの彼女と結婚しようかとしてるんですけど（笑）。

——そ、そうなんですか。

**岡村**　だからレスラーだからモテるという選手もいると思うんですけど、アイツは別として、ウチのB×Bハルクとか、もしプロレスラーをやってなかったとしてもカッコいいじゃないですか。ウチはそういう選手が多いと思うんですけど、そういった入り口も大事ですよ。

——それは戦略的にプロデュースされてるんですか？

**岡村**　そこは各自が自分でプロデュースしてるんでしょう。当然、女の人なんかは単純にそこが入りやすさになりますし。

——それにしても岡村社長は「リング上のことにはタッチしない」とおっしゃってますよね。それは意識的に割り切って経営に専念されてるんですか？

**岡村**　このスタンスは過去10年変わってないです。ヘタしたら結果も『週プロモバイル』で知るくらいですもんね。まあ、僕にはそういうセンスがないのはわかってるんで口を出さないほうがいいかなって。

——リング上のことに口を出さなかったり、知らなかったりすることで不具合が生じることってないんですか？

**岡村**　ないですね。口を出したほうが不具合は生じるんじゃないですか？

——へんな質問ですけど、そうするとリング上にも口を出さない、興行もあまり観ない岡村社長にとって、どんなところにやりがいを感じていらっしゃるんでしょうか？

**岡村**　やっぱり選手やスタッフの給料をちゃんと落とさないようにすることです。まあ、ウチも10年も経つと結婚してる選手も出てきますし、やっぱり生活を確保してあげるというのが一番じゃないかなと思いますね。本当は僕もファンのほうを向いてないといけないのかもしれないですけど、やっぱりそこは選手のほうを向いちゃってるんですよね。

——はー！　でも選手にとっては、ある意味それが一番「選手として評価してもらってるんだな」と感じる部分ですよね。

**岡村**　結局、僕がソフトの部分で夢ばっかり追っちゃうと、肝心なところが疎かになるでしょ。もし私が「こんな素晴らしいプランがある。だから悪いけど給料はナシ

1年間に200大会ほどイベントを開催しているドラゲーだが、「必ず満員にします」と宣言する岡村社長。リング上のパフォーマンスもさることながら、営業努力も相当なものだろう。

# ウチはアルバイトは禁止。プロレスだけでメシを食えてる部分にファンは憧れる

# 岡村隆志

な」とか言って通用するかというと、通用するわけないじゃないですか。だから多少ケガしようが何しようが、選手には頑張っていただいてますよ。細かいことを言うと、リング設営からポスター制作まで、全部選手がやってますから。

――試合だけが仕事じゃない、と。

**岡村** それに、ウチはアルバイト禁止ですからね。「どっかで働くぐらいやったらチケットを売らんかい！」って言ってますから。選手含めスタッフの力を結集していけば、やっていけると思うんですよ。

――そうすることによって、リング上のことに集中できますもんね。

**岡村** お客さんがどう思ってるかはわからないですけど、「プロ」と名乗ってるからにはアルバイトしながらやるもんではないし、プロレスだけでメシを食うてることに対してファンも憧れてるのに、アルバイトというのはおかしいでしょ。

――アルバイトじゃないにしても、たとえば副業をしてる選手って格闘家にも多いんですけど、そうすると選手もリングに上がらなくなるというパターンがよく見られるんですよ。

**岡村** だからウチもレギュラー参戦するようになったらサラリーマン以上の給料が入るようになってますから、やっぱりレギュラー目指して頑張らせてますよ。

――チケットに関しても、長年経営されてる中でチケットを売る数は岡村社長は誰にも負けたことがないとうかがいました。

**岡村** え……？ なんで知ってるんですか⁉（驚いて）。

――いや、編集部の人間が教えてくれたんですけど……。

**岡村** そんなことまで知ってんのかいな。なんか怖いなあ（笑）。でも、それがあたりまえでしょ。もしそれを超えられたら、僕はなんのために存在してるかわからないし、「売れ」と言っといて自分が売らなかったらバカですもん。

――言葉だけではそうかもしれないですが、実行するのって大変じゃないですか。

**岡村** まあでもトップ選手もかなり売りますよ。結局、ウチの選手はドラゲーは自分らで作り上げた団体という意識が高いんですよ。だから、たとえば下の選手が出てきても一生懸命育てるんですね。なぜかというと、自分らが上がろうとしたら下を育てないと上がれないからなんです。だから絶対にコケ落としたりとかはありえないんです。

――でも下の選手の成長はプレッシャーにはならないんですかね。

**岡村** プレッシャーだと感じないんじゃないですか？ それ以上のことをやろうとしてるし、考えてる理想が高いですよ

――いままでのお話をうかがっていると、岡村社長はプロレス団体を経営していくうえで、いままでのプロレス団体の経営はお手本にしてないような気がするんですよ。いったいどういうところからその手法を取り入れてきたんですか？

**岡村** まあ、いろんな話を聞くうえでいい部分を吸収しているという感じですけどね。たとえばセールスを行なう企業の方からうかがったときに、要はいままでは「拡大、拡大」って言ってたけど、いま拡大はやめた、と。それよりも各地区で1件あたりの単価を上げるようにしてるんやというのを聞いたことがあるんです。それで「あれ？」っと思ったんですよね。じゃあ、ウチもあんまり無理して大きくするより、いま年に1回興行している会場を2回にしてみよう、とか。ちょっとやり方を変えてもいいんじゃないかということですよね。そういうことを話しているうちにヒントを得てるという感じですよ。

――そういう堅実なドラゲーが今度3月22日に両国大会を行ないますが、これはかなり勝負どころになりそうですね。

**岡村** 大変ですよ。ビッグマッチをやる場合、確実にチケットを買ってもらえるお客さんが思いあたったり、あるいは売ってくださる人が確実にいたり、そういう条件が5つ以上重ならないと怖くて打てないんですけどね。

――では両国は条件が重なったということですか？

**岡村** いや、重なったという発想より、重ならすんです。そうするのが私の役目ですから。

――ああ、勉強になります！ では最後に、岡村社長が考えていらっしゃるドラゲーの目指す方向ってどんなことですか？

**岡村** ウチはあくまでも末永くですよ。いつまでも残ってることが一番です。企業としては、ですけどね。プロレス界の歴史というものがあるからこそ、ウチがこのやり方で成り立ってるというのはあるんですが、それでもちょっとでもいいから上に上がりながら末永くというのが私の考えるドラゲーの道ですよ。

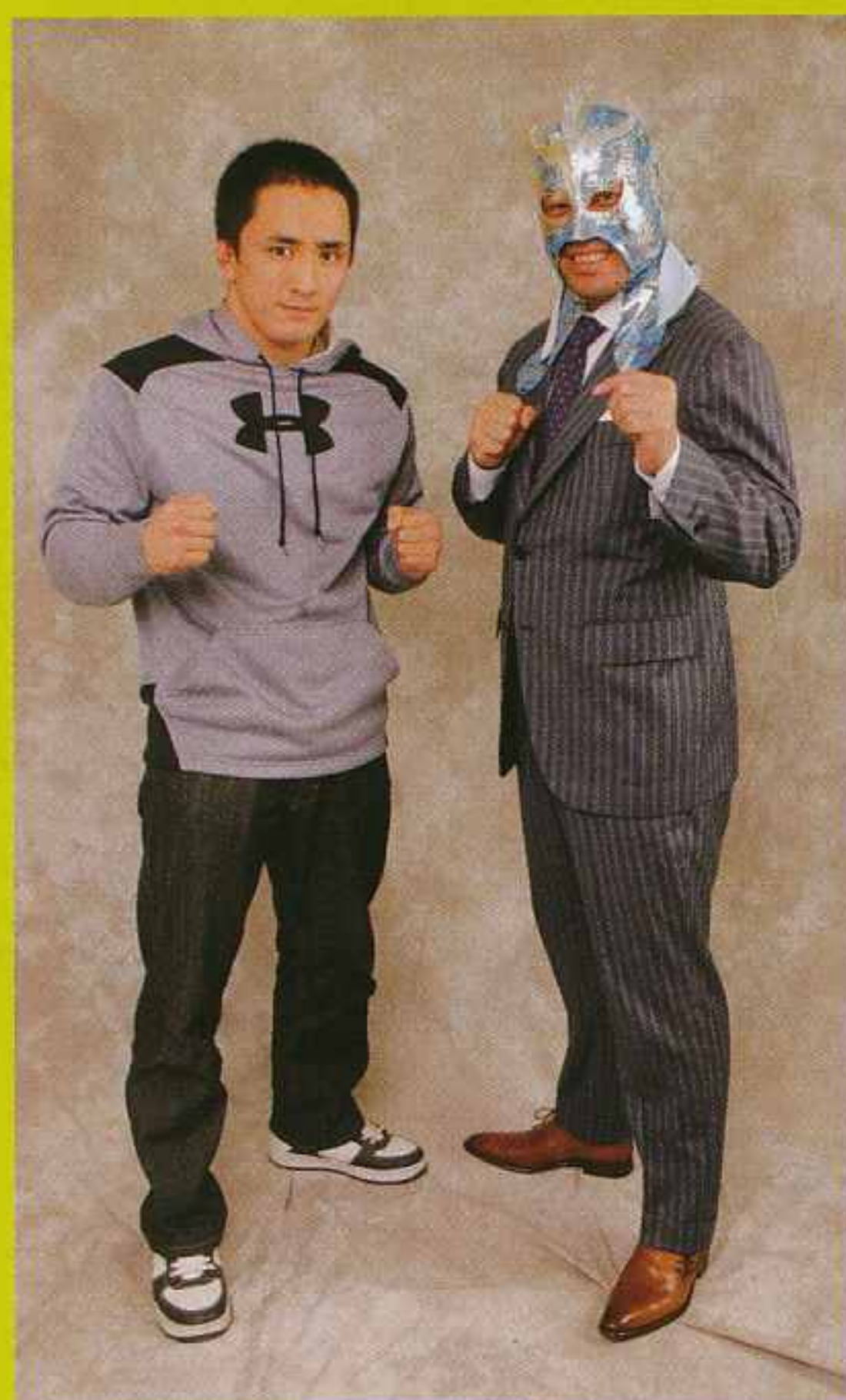
【09年2月10日／都内・某ホテルにて収録】

おかむら・たかし■1964年9月4日、兵庫県出身。闘龍門JAPAN時代から社長に就任。「プロレスには興味がない」と主張する異色のプロレス団体経営者であるが、ごくたまにリングに上がって試合をすることも。ちなみに、武輝道場出身の空手家でもある。

# ウルティモ・ドラゴン

# 石田光洋

格闘技界の“エスペランサ”は
プロレス少年だった!

## 心の師弟対談

## 「闘龍門5期生になるはずでした（石田）」

いまプロレス界は、メジャー団体からインディーまで、
あらゆるところでウルティモ・ドラゴンの弟子たちが活躍している。
それだけ「闘龍門」は人材を輩出しているということだが、
いま総合格闘技DREAMで活躍中の“エスペランサ”石田光洋も
じつは闘龍門に入門を希望していた一人なのだ。
プロレス界と格闘技界の“小さな巨人”同士の心の師弟対談がここに実現した!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／山口比佐夫

**石田**　はじめまして、石田光洋といいます。

——お二人は初対面なんですか？

**ウルティモ**　はじめまして（ニッコリ）。

**石田**　はい、そうなんです。今日は緊張しています（苦笑）。

——石田選手が総合格闘家になる前に、プロレスラーを目指していて、闘龍門に入門希望を出していたんですよね？

**石田**　じつはそうなんです。

**ウルティモ**　プロレスラーにならなくてよかったね（笑）。

——いまの活躍を観ると、そう思いますか？

**ウルティモ**　そりゃそうでしょ。ちょっと聞いたんですけど、入門前にドクターチェックかなんかで引っかかって、闘龍門に入らなかったんだよね？

**石田**　ちょうど当時、腰が慢性的によくなくて、入門前に近くの接骨院に行ったら「ヘルニアだから格闘技はやめなさい」って言われたんですよ。もう、それを聞いてお先真っ暗みたいになっちゃって、合格通知はいただいてたんですけど「今回は辞退させてください」という手紙を出させていただいたんです。

**ウルティモ**　ま、基本的にほとんどの人に合格通知出してるんですけどね（笑）。

**石田**　そうなんですか!?

# 身体の小さい人に勇気を与えてくれてありがとうございます！

「石田くんの試合をじっくり観てみたい」というウルティモ校長の希望で、対談前に観てもらったのが一昨年大晦日『やれんのか！』でのギルバート・メレンデス戦。強豪相手にジャーマンやノーザンライトボムふうのスラムで叩きつける石田に感心していた。

ウルティモ　「こいつは絶対にトラブル起こすだろう」って感じたヤツとか、あまりにも年齢がいってる人とか以外は、基本的に合格させるというコンセプトでやってたんで、断ったのはこれまで5人ぐらいなんですよ（笑）。でも、そこでドクターストップがかかったのは運命じゃないですかね。神様が「プロレスに行くなよ」ということだったんだと思いますよ。

石田　そうだったのかもしれないですね。

――闘龍門に応募するくらいだから、石田選手はもともとプロレスファンだったんですか？

石田　はい、大好きでした。友だちの影響で、小学校の4～5年生ぐらいから観るようになって。当時は闘魂三銃士が凄かった時代なんですよ。

ウルティモ　自分らがタイガーマスクや猪木さん、藤波さんに憧れたのと一緒で、闘龍門に入ってきた子は闘魂三銃士、あとは全日四天王に憧れた人が多かったですよね。

――あとは『スーパージュニア』の世代ですよね。

ウルティモ　いや、でもライガーやサスケ、それから俺に憧れてたとかは、聞いたことないですよ。

――そうなんですか（笑）。

ウルティモ　意外とそういう子は少なくて、武藤さんのファンとかが多かったんですよ。

――でも、石田選手は当然、ウルティモ・ドラゴンの試合はご覧になられてたんですよね？

石田　はい。新日本プロレスとWARの対抗戦（92年）のときに初めて観たんですけど、ヘビー級の対抗戦は殺伐として「おまえら潰してやる！」って感じだったのが、ジュニアの試合はクリーンで「やりましょう！」みたいな感じで、それが凄く好きでしたね。とくにエル・サムライ選手とのタイトルマッチに勝ったあとのマイクに感動しました。

ウルティモ　でも、あのマイクアピールは、あとで控室で長州さんにえらい怒られましたけどね（笑）。

――そうなんですか。たしか「新日本に入門できなかった自分がチャンピオンになれた。皆さんも勇気を持ってください」みたいなことを言ったんですよね？

ウルティモ　そうです。でも、長州さん曰く、ああいうのはダメらしいんですよ。

石田　ボクは凄くカッコいいな、と思ったんですけど。勇気をもらえたし。

ウルティモ　でも、実際そうじゃないですか。ボクも小さいし、石田くんも小さいから、周りの知り合いに「プロレスラーになる」とか言ったら「バカか、おまえ」って言われたと思うんですよ、たぶん。

石田　はい、言われましたね。

ウルティモ　自分もやっぱり言われたんですよ。でも、その俺が新日本でベルトを獲れた、だからみんなもあきらめないでっていうね。あれが闘龍門の始まりだったんだと思いますよ。やっぱり誰にでもチャンスはあるんですよ。だから、石田くんみたいな、俺と同じ身体が小さい人が活躍しているっていうのは嬉しいし、ましてや闘龍門5期生に応募してくれた人が、いま大成功してるっていうのは非常に嬉しいですよね。

ルティモ・ドラゴン

石田　ボクも実際、闘龍門には入ってないんですけど、プロを夢見ていながら、身長が足りなくてあきらめていた人って凄く多かったと思うんです。そういう人たちに夢を与えてくれたというか、希望を持たせてくれたんで、ボクが言うのもへんですけど、この場を借りてお礼を言わせてください。ありがとうございました！

ウルティモ　どういたしまして（笑）。こうやって言ってもらえるのは凄く嬉しいんですけど、自分がIWGPジュニアのチャンピオンになって、ああいうことを言えたのも、メキシコに行ったからなんですよ。最初にメキシコに行ったとき「なんだ俺よりちっちゃいヤツ、たくさんいるじゃないか」と思いましたからね。

――ちっちゃくても大丈夫だと気づかされた。

ウルティモ　そうなんです。ずっと日本にいたら、プロレスラーは身体が大きくて、スクワットがたくさんできなきゃダメ

もし石田が闘龍門に入門していたら、同期となっていたのがこのメンバー。ドラゲーの土井成樹や吉野正人、全日本のジュニアで活躍する近藤修司、“brother”YASSI、新日本のミラノコレクションA.T.らの顔が見える。

# 石田光洋×ウル

## 石田くんが闘龍門に来なかったのは運命がそうさせたんだよ

だっていう固定観念で育っていたと思うんですよね。でも、メキシコには小さくても素晴らしいレスラーがたくさんいた。だから「身体の大きさは関係ない」って気づいたんですよね。たまたま自分はそれを日本に紹介しただけなんですよ。

――デビュー前にメキシコに行けたからこそ、ほかの日本人レスラーとは違う発想ができた、と。

**ウルティモ**　そうそう。やっぱり新日本でデビューして、若手レスラーやってたら違ったと思うんですよ。「プロレスは強さを求めなきゃいけない」って頭になってて、きっと当時の俺の兄貴分だった船木（誠勝）さんや、鈴木みのると一緒に（第二次）UWFに行ってたと思うんですよ。

――船木さんの子分みたいな感じで（笑）。

**ウルティモ**　そう。ずっとそのまま子分やってて、前座の第1試合や第2試合でいつも負けてたと思いますよ（笑）。

――新日本でデビューできていたら、逆にウルティモ・ドラゴンの才能が花開かなかった可能性が高いわけですね。

**ウルティモ**　石田くんだって、あのとき闘龍門に入ってたら、やっぱりいまの石田くんはないわけだからね。やっぱり運命ですよ。もし闘龍門に入ってたとしたら、5期っていうと、誰と同じなのかな？

――土井成樹選手、アンソニー・W・森選手と同期ですね。

**石田**　あと、ボクは闘龍門をあきらめたあと高田道場で会員として練習を続けて、そのとき同期で（現・闘龍門メキシコの）堀口ひろみ選手がいました。

**ウルティモ**　ひろみと一緒だったんだ。

**石田**　はい。総合格闘家になったあと、彼がメキシコでベルト巻いてるのを『週刊ゴング』とかで見て、「すげえな、負けてられないな」みたいな感じで思ってましたね。

――闘龍門って、いろんな才能を掘り起こしていたんですね。

**ウルティモ**　いままでのプロレス団体って、入門の段階でふるいにかけてたじゃないですか。でも、自分の場合は「とにかくみんなにやらせてみよう」っていうやり方なんです。で、突然凄い才能を発揮する子がいるんですよ。格闘技のジムでもいるんじゃないかな。

**石田**　いますね。

**ウルティモ**　そうでしょ？　とりあえずやらせてみると「あれ？　こいつこんなことができるんだ」っていう才能に気づくんですよ。俺、総合格闘技は全然わかんないですけど、プロレスに関しては、日本は育て方がヘタだよね。とりあえず入門の時点でもの凄い厳しいことやって、ほとんどがいなくなっちゃうじゃないですか。それも意味のないことやらせるでしょ。ヒンズースクワット3000回とかね。異常なしごきに耐えられないっていうだけで、素晴らしい才能をずいぶん失なってるんですよ。

92年11月22日、両国国技館。ウルティモは新日本初登場でエル・サムライを破りIWGPジュニア王座を奪取。試合後マイクを握り「ボクは6年前、新日本の練習生をしていましたが、身体が小さすぎるということで結局、（正式な）入門はできませんでした。でも、いまこういうふうにベルトを巻くことができました。皆さんも勇気を持ってください！」とアピールした。

――レスラーになるのに、無駄に高すぎる壁があったわけですね。

**ウルティモ**　ただ一方的に新弟子の関節極めまくってイジメて自己満足してるような先輩がいたりとか。それじゃ強くならないですよね。格闘技ってたぶん出稽古とか、いろんな強い人たちとやってレベル上げてくでしょ？

**石田**　そうですね。

**ウルティモ**　昔のプロレス道場って新弟子イジメて、何も教えないんですよ。へんな話、覚えられると困るじゃないですか。

――自分より強くなられたら困るわけですね（笑）。

**ウルティモ**　だから結局、プロレスが総合格闘技と向き合ったときに勝てなかったと思うんですよ。だからこそ、プロレスもみんなにちゃんとチャンスを与えて、才能を伸ばしてあげるっていうふうにしていかないとね。たぶん格闘技はそういうことをしてきたから、日本の格闘技のレベルって上がったと思うんですよ。

**石田**　そうだと思いますね。

**ウルティモ**　たぶん石田くんが格闘家になろうと思った頃って、まだヘビー級が中心だったんじゃないですか？

**石田**　確かにヘビー級が中心でしたね。

**ウルティモ**　もちろんヘビー級はヘビー級でおもしろいと思うんだけど、小さい人はやっぱり動きが速いからわかりやすいですよね。だから、いまはK―1だって軽いほうが人気があるしね。だからここ2～3年は彼の時代が来るんじゃないですか。いい時期に格闘家になれたって感じじゃない？

**石田**　そうですね。

**ウルティモ**　これが10年ぐらい前だったら脚光浴びてないかもしれないもんね。

**石田**　そうですね。PRIDEに軽量級はありませんでしたし。

――軽量級の時代が来たときに、ちょうど自分のプライムタイムが合ったっていう。

**ウルティモ**　やっぱりその人の運命ですよね。俺だってさ、30年前にプロレスやろうと思ったら、たぶんできてなかったでしょ。逆にいまだったら、俺ぐらいの身体の選手はたくさんいるから、その中で目立とうとしても大変だっただろうしね。

――浅井さんもやはり、タイミングがよかったわけですか。

**ウルティモ**　そうですよ。成功する人って絶対ね、そういう運の持ち主なんですよ。もちろん努力してない人っていないと思うんですけど、運という部分はそれでもホントに大きいと思う。

――いま石田選手は総合格闘技のトップクラスで活躍されていますけど、一度くらいプロレスのリングに上がってみたいとか、そういう気持ちはありませんか？

**石田**　ボクですか？　いや、それはプロレスラーに対して凄く失礼になるんで。もしやるんであれば、ちゃんと1から練習し

ないとダメじゃないかな、と思ってます。それでもプロレスは凄くおもしろくて好きというのは、いまも昔も変わらないんで、ずっとこのままプロレスファンでいると思います。

**ウルティモ**　やっぱり、プロレスと格闘技って、まったく違うものじゃないですか。交わらないほうがお互いがいい発展をしてくんじゃないかなって思うんですよ。ただ、石田くんの場合は、総合格闘技の試合をしていても、プロレスが好きなんだなっていうのはわかりますけどね。そうじゃなきゃ、ジャーマンスープレックスを狙いませんよ。

――でも、その総合の中にプロレスのエッセンスが知らず知らずのうちに入ってるという（笑）。

**石田**　やっぱり大技はやりたくなりますね（笑）。

**ウルティモ**　あと入場時にマスク被って入場するのはおもしろいかもしれないですね。プロレスの匂いをプンプン出して入場したり試合をするとプロレスファンが応援しますよ。そうだ石田くん、ちょっとマスク被ってみる？（と言って鞄からマスクを取り出す）。

**石田**　えっ……いいんですか!?（マスクを手に取って）すげぇ！

――もちろん本物マスクですよね？

**ウルティモ**　俺がニセモノ持ってくるわけないでしょ（笑）。

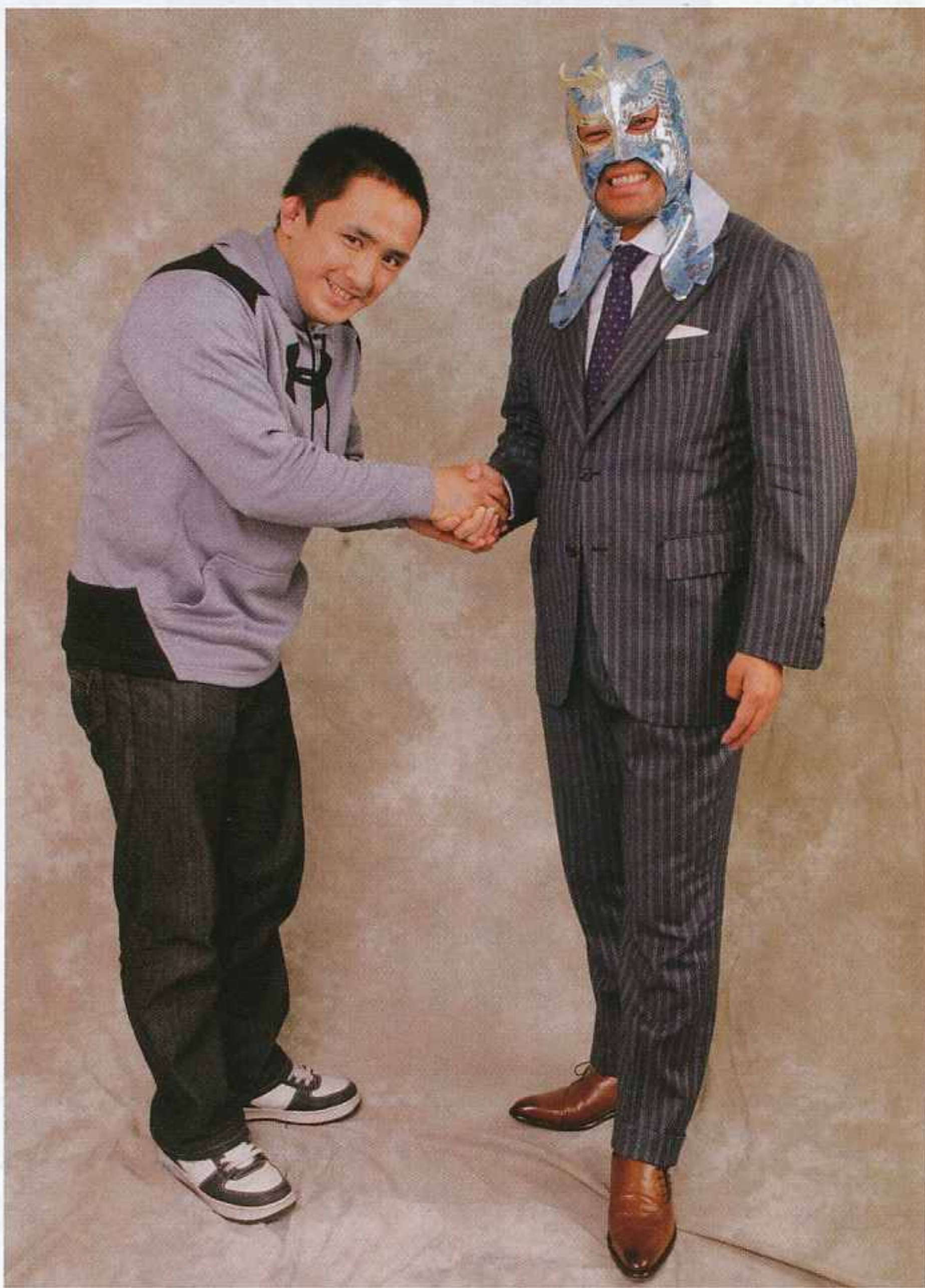
**石田**　凄いです！　このマスクは凄いです！　やっぱり憧れますよ。

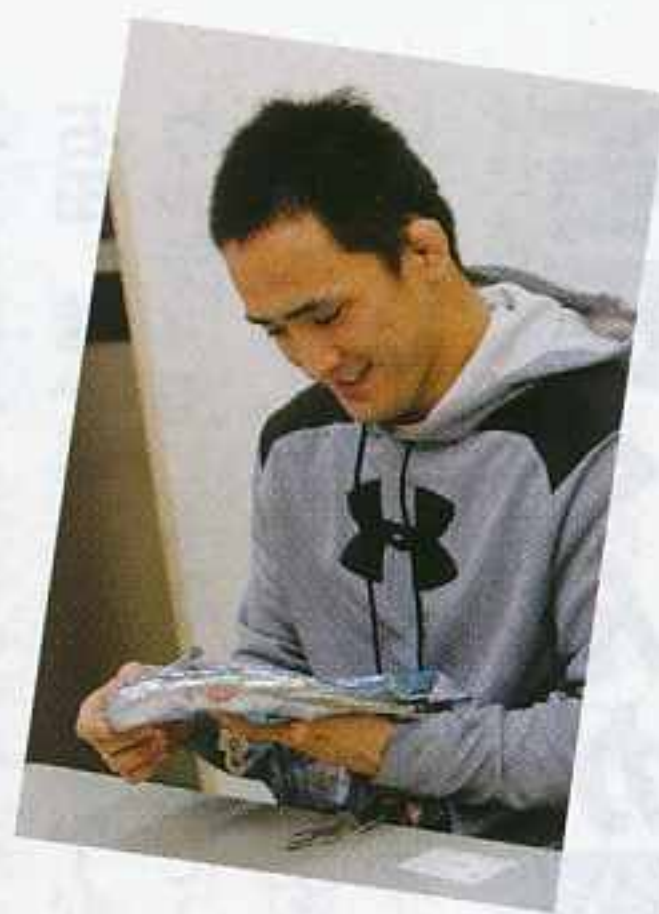
――ラメが美しいですよね。

**ウルティモ**　自分の場合は、ここ2〜3年は入場がすべてだと思ってますから（笑）。腕の調子もよくないし、試合もあまりできないから、入場で魅せよう、と。ミル・マスカラスだってそうじゃないですか。

# 石田光洋×ウルティモ・ドラゴン

**石田君は格闘家だけどプロレスラーだよじゃなきゃジャーマンなんて出さないでしょ**

**いまも昔も変わらずボクはこれからもずっとプロレスファンでいると思います**

石田光弘■1978年12月29日、茨城県出身。01年に修斗でデビュー。06年よりPRIDE武士道のリングに上がり、同年、修斗でも環太平洋ウェルター級王座を奪取。08年のDREAMライト級GPではベスト8。同年9月にストライクフォースでアメリカ白星デビューを飾った。168cm、70kg。

Ultimo Dragon■1966年12月12日、愛知県出身。本名・浅井嘉浩。87年に単身メキシコに渡りデビュー。91年にマスクマン、ウルティモ・ドラゴンに変身。97年からプロレスラー養成学校「闘龍門」をメキシコに設立し、数多くの人材を輩出している。172cm、85kg。

あこがれの"本物"マスクを手にした石田はご覧の表情。すっかりプロレスファンに戻っているようだった。

――逆に言えば、マスカラスばりにコスチュームに気を使ってるわけですね。どうですか石田選手、本物のマスクは？

**石田**　ヤバイですねえ。ヤバイです！　ホントにカッコいいです！

――石田さん、すっかりマスクに夢中ですね（笑）。

**石田**　すいません（笑）。

**ウルティモ**　マスクがほしかったらさ、今回の巡業が終わったら1枚プレゼントしますよ。

**石田**　ホントですか！　あ、ありがとうございます！

**ウルティモ**　巡業が終わったら、堀江さんに渡しとくから、受け取って（ニッコリ）。石田くんはアメリカでも試合してるんでしょ？

**石田**　はい。去年、ロサンゼルスで試合しました。

**ウルティモ**　できるだけ、いろんな国で試合したほうがいいと思いますよ。やっぱり、いろんな人間とやる、いろんなお客の前で闘うっていうのは、プロレスでも格闘技でも大事だと思うから。

**石田**　そうですね。

**ウルティモ**　じゃあ、これからも頑張って。

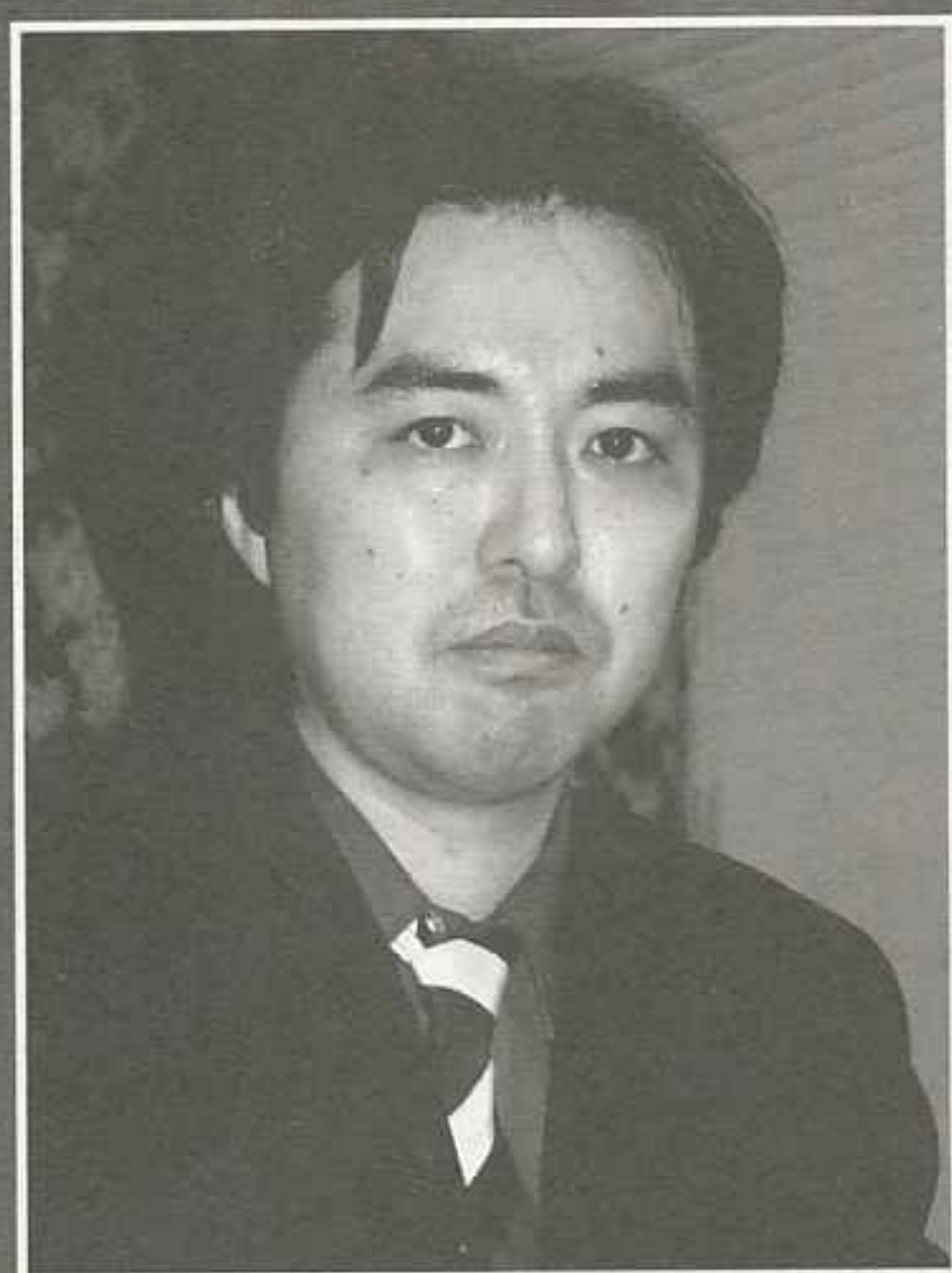
**石田**　はい。ありがとうございます！

――では最後に、お二人にマスクを被ってもらって撮影をお願いします。

**石田**　いや〜、本物のマスクが被れるなんて感動ですね。本当にありがとうございました！

【09年2月7日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

こんな時代のプロレス団体社長に直撃!!

# 社長はつらいよ!!

女子プロ団体社長

メジャー団体社長

インディー団体社長

## 大不況?
## それを言っちゃあ、おしまいよ!

世界的な大不況時代が到来、リストラやコストカットはもはや常識のこのご時世に、
プロレス団体はサバイバルできるのか?
メジャー団体からインディー、女子プロまで最前線で指揮をとる社長たちに直撃!!

## 社長はつらいよ!!
# メジャー団体の場合

# 「ウチの社員の給料は安い。でも、ここから上げるんです!」

## ザ・堅実路線の“業界の盟主”

## 新日本プロレス
# 菅林直樹社長

かつて迷走につぐ迷走を続けていた新日本プロレスが、
ユークス体制になって以降の積み重ねで、
いまや安定感バツグンの団体に大変身! その堅実路線の舵を取っているのが、
いままでの社長とはまったくタイプの違う、営業畑出身の菅林直樹社長。
厳しい大不況時代の“業界の盟主”に聞く、絶好調の理由とは?

聞き手/真下義之 大会撮影/平工幸雄

# 一番つらかったのは、この2年半で30通の辞表を受け取ったことです

——今日は、この大不況時代にプロレス界の社長はどうやってサバイブしているのかをうかがえればと思います。菅林さん、社長業はやっぱりつらいですか？

**菅林** そうですねぇ……。いや、公式にはつらくないです（笑）。

——公式には（笑）。本音では厳しい面もあるでしょうけども。

**菅林** 社長になる前は、よく「このつらさはやらないとわからない」とかいう経営者のインタビューも読みましたけど、実際やってみて「そのとおりかな」と（笑）。ただ、一般の会社の社長さんたちの商品って、ケガとかしないじゃないですか？

——普通はしないですよね。

**菅林** でも、僕たちが相手にしてるのは生身の人間ですし、しかも常人とは違う肉体と精神の持ち主たちですから。

——一筋縄ではいかなそうですね（笑）。いままで社長として、一番つらかったことはなんですか？

**菅林** 最初につらさを感じたのは、社長というか、経営陣に加わったときですかね。

——菅林さんは、05年12月に新日本がユークスの子会社になったとき、ユークス側から副社長に指名されましたよね。

**菅林** あの時期、かなり離脱者が出ましたし、結果的に新日本プロレスの社員から約30通ぐらい辞表を受け取りましたから。

——辞表を30通も!?

**菅林** この2年半で約30通です。普通の会社の社長なら、そんなに受け取るなんて考えられないでしょ（笑）。それに、訴状が届いたときに僕の名前宛だったのも衝撃的でしたし。

——確かに新日本プロレス宛に訴状が来れば、菅林社長の名前で届きますよね。それは、ドラゴン（藤波辰爾）の退職功労金の訴訟事件とか？

**菅林** ……その件に関しては、コメントを差し控えさせてもらいますけど。ただ、普通の社長ってなかなか訴えられないですよね。そこはプロレス界ならではでしょう。

——新日本の歴代社長は濃いキャラばかりでしたけど、菅林さんはじつに常識人ですよね。

**菅林** いざ、社長になって一番困ったのが、マスコミさんとかの前に出ないといけないじゃないですか？

——ええ。プロレス界は、〝顔出し〟が基本ですから。

**菅林** 僕はいち社員のときから「マスコミには、選手が対応したほうがいい」と思ってたんです。で、代わりのスポークスマンを立てようと思って画策したんですけど……ダメでしたね。

——言うことを聞いてくれなかったんですか？

**菅林** 意外と難しかったです。一番適してるのが蝶野（正洋）さんだと思ったんですが、話したらそういうタイプじゃなかったというか。

——ただ、菅林社長の体制になってから、新日本の経営はグングン上向き状態ですよね。

**菅林** そのへんの手応えはありますね。ただ、それがダイレクトな数字に反映されるのはまだまだ先なのかな、と。上向きといっても利益的にドーンと上がったわけでもないですから。

すがばやし・なおき■1964年7月13日、北海道札幌市出身。新日本プロレス代表取締役社長。新日本プロレスに入社後は営業アルバイトのまま、福岡国際センター大会を担当したこともある叩き上げ。営業担当として種子島、四国、九州、大阪を経て本社に戻り、ユークス体制後の07年3月に社長に就任。現在、"業界の盟主"に返り咲いた新日本プロレスを牽引する堅実路線の6代目社長。

——まぁ、菅林社長以前は大会ド直前でカード変更したり、土壇場で土下座外交したり、IWGP選手権があっという間に終わったり、あまりにもムチャクチャでしたから。

**菅林** いままでの30何年かのツケをドン！と手渡されたというか。そのバトンも正式に渡されたんじゃなく、「落ちてるから、誰か拾ってくれ！」みたいな状況でしたし（笑）。で、拾ったらバトンがズッシリと重くて、いまは少しずつ少しずつ軽くしてる最中ですね。

——その新日本は、かつて〝業界の盟主〟なのは自明だったんですけど、ここ数年はその立場が揺らいできてましたよね。で、そこも去年くらいから復活したと思うんですけど。

**菅林** でも、ほんのこないだまで、〝業界の盟主〟といえば、ノアさんでしたよね。だから、僕たちは「盟主はノアさんだ」と思ってたんです。……というのは、けっこう本音なんですよ。ここ数年、我々はいかに新日本を立て直すかで必死だったんで、盟主がどうこうなんて考えられなかったんです。そういう評価は嬉しいけど、結果的についてきただけでしょうね。

——そのノアが今年の3月で地上波打ち切り、というニュースが流れました。

**菅林** 詳しい話は聞いてないんですが、日テレさんと衛星放送のG+（ジータス）と、両方なくなるわけじゃないんですよね？

——「G+は存続する」ってウワサもありますね。

**菅林** ここ数年で、いろんな構造がガラッと変わっちゃったんでしょう。ただ、現実的にプロレスをテレビで流してもらうためには数字（視聴率）も必要だし、スポンサーも必要です。でも、僕らはいいコンテンツを作っていくしかないですから。それに、やっぱり所属選手にはデカくていい車に乗って会場に来てもらいたいじゃないですか？

## 〝絶好調〟新日本プロレス 右肩上がりの動員実積比較!!

数字はすべて、主催者発表

以前の新日本は、ファン無視の迷走三昧状態だったが、07年の菅林社長体制以降は、着実にお客を満足させる方針で内容も安定。左の数字を見てもわかるとおり、観客動員も持ち直した。（数字によって、満員表記が違うのは会場のレイアウトが違うため）今年の1・4東京ドームで4万人動員。09年度は両国を2大会も増やす方向というから、この絶好調ぶりは本物だ!!

| 06年～07年 |
|---|
| **06年** |
| 2月19日 両国国技館 観衆・8,000人 |
| 8月12日 両国国技館 観衆・7,800人 |
| 8月13日 両国国技館 観衆・11,000人（満員） |
| 10月9日 両国国技館 観衆・10,000人（満員） |
| **07年** |
| 1月4日 東京ドーム大会 観衆・28,000人（満員） |

| 07年～08年 |
|---|
| **07年** |
| 2月18日 両国国技館 観衆・11,500人 |
| 8月11日 両国国技館 観衆・7,800人 |
| 8月12日 両国国技館 観衆・11,500人（超満員） |
| 11月11日 両国国技館 観衆・6,500人 |
| **08年** |
| 1月4日 東京ドーム 観衆・27,000人（満員） |

| 08年～09年 |
|---|
| **08年** |
| 2月17日 両国国技館 観衆・9,500人 |
| 8月11日 両国国技館 観衆・8,500人（満員） |
| 8月17日 両国国技館 観衆・11,500人（超満員札止め） |
| 10月13日 両国国技館 観衆・9,000人（超満員札止め） |
| **09年** |
| 1月4日 東京ドーム 観衆・40,000人 |

―ええ。そういう夢はできるだけ守りたいですよね。

**菅林** しかも、できれば国産じゃない車で来てほしいな、と（笑）。そのためにもテレビは絶対に必要不可欠でしょうね（真剣な表情で）。

―車のためにもテレビは必要（笑）。気になるのは、「テレ朝の『ワールドプロレスリング』は大丈夫なのか？」ってことなんですが。

**菅林** 我々も危機感は常にあります。テレ朝さんとはいい関係は築けてはいますけど、そういう声が上がらないためにも、気は抜けませんね。

―気が抜けないという意味では、先日の1・4東京ドーム大会は4万人の動員という好成績を収めましたけど、社長としてはもうちょっと上を見込んでたようですね。

**菅林** ええ。試合内容はよかったですし、演出もスムーズにいったし、スタッフもできる限りのことはしたと思うんです。ただ、それでも目標にギリギリ届かなかった。大会後には、強がって「いい結果だ」と言い続けてたんですけど。正直、動員はもっと伸びると思ってましたね。最後に2階のジャンボスタンドを開放しましたけど、あの入りの倍……いや、3倍くらいは入ってほしかったなって。

―確かにジャンボスタンドはごく限られたスペースの開放でしたね。

**菅林** 開催直前にチケットは伸びたんですけどね。ただ、あの時点で最高のカードは提供できたと思うんです。それなのに目標に達しないという、厳しい現実に直面しましたね……。ちょうど、昨年の10月ぐらいから世界経済がおかしくなってる中、「プロレスファンだけは違う」と、どこかで慢心してたんです。でも、影響がないわけないんですよね。ファンの皆さんも働いて給料をもらってるわけですから。

―ジャンボスタンド開放に関しては、昨年末に「開けられそうだ」って情報をいただいたんです。現場のスタッフは「大々的にアピールしよう！」と思われたけど、社長は凄く慎重だったようですね。

**菅林** 本音を言えば、僕もイケイケドンドンでやりたいんですよ（笑）。ただ、決断するなら、確実に数字を残さなきゃいけない。単純に「チケットが売れてるから、スタンドを開けましょう」っていうのは簡単ですけど、タダじゃないんですよ。

―あ、タダじゃない？

**菅林** ジャンボスタンドを使用すれば、そのぶん使用料がかかりますから。プラスして、場内整理のアルバイトや、制服の警備も配置しなきゃいけない。だから、費用対効果で「開けました、損しました」では、困るわけです。

―さまざまな〝別途料金〟が発生するんですね。

**菅林** 昔の新日本なら、それでよかったんです。勢いと見てくれ重視で、華やかにすればよかったけど、いまは〝花〟も〝実〟も取らなきゃいけない。ホントは言う必要ないんですけど、こういう時代ですから（笑）。

# 昔は見てくれ重視でよかったが いまは〝花〟も〝実〟も必要です

ドーム大復活! 今年の1.4東京ドーム大会は、ひさびさに4万人台を動員する大盛況。だが、菅林社長はさらに“上”を見据えていたのだ。

―東京ドームに関して言うと、マッチメイク会議でも、「一番意見が厳しいのは社長だ」とうかがいました。

**菅林** やるなら、一番いいアイデアを出さないといけないですよね。少しでも興味をそそらないカードを出したらお客さんはチケットを買ってくれませんから。その反面、すべてのカードがメインイベント級でもお客さんは疲れるじゃないですか。

―バランスが大事ですよね。

**菅林** イベントはお客さんの集中力的にも、3時間前後が一番いいんですよ。でも東京ドームだと試合数が増えますし、休憩も入れなきゃいけない。休憩を入れるとお客さんの集中力も欠ける。そういう総合的な部分で厳しくジャッジしてます。こっちもだてに東京ドームを20年もやってないんで（笑）。

―東京ドームは、菅林さんは最初の大会から関わられてましたか？

**菅林** ええ。最初は、インカム持って走り回らされてました。で、（ビッグ・バン・）ベイダーが出番のときに僕が呼びに行ったら、いきなり裏拳を目に食らったんです（笑）。

―呼びに行っただけで、ベイダーハンマーを⁉（笑）。

**菅林** ちゃんと「ミスター・ベイダー」って、敬意を込めて話しかけたんですけどね。試合前で気が荒れてたのかもしれない。ただ、許せなかったのは僕が片目を押さえてうずくまったとき視界に入った、一緒に場内整理をしてた同僚が凄い勢いで逃げていく姿なんです。それだけはシッカリ見えたんですよ（笑）。

―ワハハハハ！

**菅林** いまもその人の名前は覚えてますけどね。もう辞めちゃいましたけど（笑）。

―ちなみに、菅林さんもコスト面は見直しされたんですか。前々社長の草間（政一）さんも「いろいろ見直した」とおっしゃってましたけど。

**菅林** 草間さんがもたらした一般的な会社のシステムは、確かに一部は有効だったと思います。それまで、相当にドンブリ勘定のところがありましたし、僕が経営陣に加わって、内情を見て驚きましたから。

―それまで非常識すぎたというか。菅林さんの代になって、社員の給料はどうなんでしょう？

**菅林** じつは、僕が社長になる前に一度、ガクンと下がったんですよ。

―サイモン猪木社長時代ですね。

**菅林** ただ、いまはどこの企業も、

## 社長の一日
### 新日本プロレス 菅林社長の場合

**2月16日（月）**

**7時 起床**
朝食は洋食。新聞は『朝日』。3年前までテレビ朝日関連会社だったので。

**9時～9時30分 通勤**
電車とバスを乗り継いで。

**10時 営業会議**
地方大会の担当営業マンを決め、目標販売数や予算などを決めていく。

**11時30分 セクション部長会議**
各部署の部長（経理部、総務部、興行部、営業部、ライセンス事業部）が集まり、各セクションの問題点、売り上げ状況や戦略を話し合います。

**13時 昼食**
いつもは愛妻弁当だが、この日は和食。

**13時30分 4・5両国大会チケット仕分け**

**14時30分 会見資料チェック、会見原稿確認**

**15時 2・15両国大会一夜明け記者会見**

**16時 選手ミーティング**
選手会やトレーナー、レフェリー代表者と現場との話し合い。

**17時 2・15両国大会反省会**
券売やイベント内容、進行、演出など反省点を指摘し合い、次回大会までに改善するようにする。

**18時 面接一件**
新入社員面接。営業マンの入れ替わりが激しいため、募集があれば随時行なっています。

**19時 会食**
他団体関係者やスポンサー関係の方などとよく食事しながら、勉強させてもらってます。この日は会社近くのハチミツ二郎さんの店でお鍋。

**21時～22時 帰宅**

**23時 自宅にて**
WOWOWで放送中の『CSI-3』と『水曜どうでしょう』再放送のどちらかを観たり、読書は佐伯泰英か浅田次郎の新刊を読んでます。

**25時 就寝**

この日、2.15両国の一夜明け会見に登場した菅林社長。いつもクールな社長も、超満員の観客動員に「非常に満足」と合格点を出した。

## メジャー団体の場合

大手企業でもそうですよね。給料を下げるか？ 会社が倒れるボタンを押すか？ ほとんどは「給料が下がっても頑張ります」っていう選択になると思うんですけど。

——逆に、そのタイミングで辞める方もいらっしゃるでしょうし。

**菅林** そうですね。ただ、それは責められないですよ。家族があったりローンがあったり、事情は人それぞれでしょうし。だからこそ、いま残ってる社員は大事にしたいですし、これは自信を持って言いますけど、いまの新日本は給料は安いです！

——自信を持って安いですか（笑）。

**菅林** ただし、それをここからみんなで上げるんですよ！

——業績が上がれば、給料も上がってくるわけですから。

**菅林** でも、これ以上は下がらないですよ（笑）。もう底は打ったんです。だから今後は、なんとか上げたいですし、社員には、「とにかく働け！」とハッパをかけてます。

——ちなみにレスラーや社員の査定ポイントはどこらへんなんですか？

**菅林** これは、ちょっと言いづらいですね（笑）。反則をいっぱいしてるから、ヒールの人の給料を上げないわけじゃないですから。まぁ、レスラーに限って言えば、最低限の条件は、キチンと練習された身体でリングに上がるってことですね。

——新日本では、たとえリングで人気があっても、道場に顔を出さない選手への評価は厳しいみたいですね。

**菅林** 去年からは、相談役の山本小鉄さんが目を光らせてくれますから。僕らもレスラーのことはわからない部分がありますけど、小鉄さんは練習をしてるかしてないか、一日でコンディションがわかりますから。選手は気が抜けないですよ。

——なるほど。そんな菅林さんが社員をまとめるコツは？

**菅林** やっぱり社長も社員と一緒に働くってことじゃないですかね？

——ああ、ほとんど顔を出さなかったり、すぐ帰っちゃう社長もいますけど、菅林さんも社員と一緒に遅くまで働いてるんですか？

**菅林** そういうときもありますし、人手が足りないときは、チケットにハンコ押したりね（笑）。

——社長自ら押してましたか（笑）。去年の10月の両国大会でドームの先行発売もやられてるみたいですね。

**菅林** それも人手が足りないからなんですけどね。じつは、そのときファンから「社長が売ってるよ、カッコ悪い」って声が聞こえたんですけど……あれはショックでしたね（笑）。

——「社長、やる気あるなあ！」って声じゃなく。それはヘコみますね（笑）。あと菅林さんは、社長室もないみたいで。

**菅林** 草間さん時代はあったんですけど、いまは社員と同じフロアにあります。それに車も解約して、いまは電車通勤ですから。

——社長も電車通勤でしたか。

**菅林** ただ、こういうのってホントの正解はわかんないですよ。社長ってどうしたらいいのか。精一杯やってますけど、余裕はないですね。

——社員のやる気の出させ方はありますか？ 怒鳴ったりするようなイメージはないですけど。

**菅林** 怒鳴ることはないですね。僕自身、若いときに上司から怒鳴られても決して「やってやろう」とは思わなかったし、かえって反発しましたよね。内心「俺のほうが仕事してるじゃねえか！」と思ったり（笑）。

——口ばっかりじゃないか、と。仕事は部下に任せますか？ それともマメにチェックします？

**菅林** 最初は全部任せてたんですよ。でも、最近は、「ここはよくないな」と思ってる部分は自分で神経質なほどチェックしてます。あと、社員によって、対応は分けたりしますね。ある大会を任せてる営業マンは黙ってても大丈夫だけど、こっちの営業マンは、一日の終わりに「やったか？」って確認しないと安心できなかったり。……というのも、ウチの営業は入って5年未満の社員がほとんどなんですよ。

——あ、新日本の営業はヤングライオンのみでしたか。

**菅林** ここ数年で、中堅、ベテランがゴッソリいなくなっちゃったんで。その状況でやってきたんで、現場で相当鍛えられてるハズなんです。

——この時代、地方でプロレスのチケットを売るって難しそうですし。

**菅林** と思いますよ。でも、長州（力）さんは知ってたり、蝶野さん、（獣神サンダー・）ライガーさんを知ってる人は多いですからね。そういう意味でもレジェンド世代は大事ですし。永田（裕志）選手、天山（広吉）選手なんかも知名度は高いですし。

——その天山劇場は去年、かなりブレイクしましたね。

**菅林** 天山選手といえば、僕が指示して、天山&飯塚（高史）の友情タッグTシャツを作らせたんですよ。

——あ、あれは社長自ら発案したんですか。

**菅林** で、大阪府立体育会館で飯塚が裏切った日の前日に、大阪の闘魂ショップで友情タッグのサイン会をしたんですけど、そこで150枚も売れたんです。チビッコも「頑張ってね！」って言ってて、その声も僕は聞いてるんですけど、その翌日に飯塚が裏切ったあと、売店のスタッフから「アレはひどい！」ってクレームが入って。

——ワハハハハ！ そりゃ、怒りますね。

**菅林** 当然、在庫が残りますから。「作れ」って言った手前、残るとダメなんですよ。だから僕は、「シャレで売ろう」と言ったんです。「『この世の中に友情なんてないんだ』ということがわかるし、有意義なんじゃないか」とか言って。

——とにかく売り続けろ、と。

**菅林** でも現場のスタッフは、さすがに売らなかったですね。「ファンのこと考えたら、売れませんよ！」と。

——そりゃ、そうですね。

**菅林** ただ、天山劇場は我々もどこに行くのかがわかんないです。リン

ハッピーになってもええんちゃう？ 08年は新日本のリング上の中心にいた天山だったが、リング外でもバイク事故に網膜剥離とシュートな天山劇場が勃発する不運ぶり。今年は挽回できんのか？

## 天山の年俸が700万円っていうウワサがあるけど、それはない

## 今シリーズは、地方大会が絶好調 不況時こそプロレスの役割がある

グ上がドラマチックなのはいいとして、突然、バイクでバスとの接触事故に遭ったり、新日本と全日本のタッグリーグで優勝して、いよいよ東京ドームっていうときに、いきなり網膜剥離になっちゃうんですから。

―まさにコントロール不能。僕らも、去年の活躍を見て、1・4の主役は天山だろうなって思ってたのに。

**菅林**　よくも悪くも目が離せないですよ（笑）。ただ、戻ってきて、天コジ（小島聡）タッグの位置が保証されてるかっていうと、それはないですからね（キッパリ）。

―あ、ゼロスタートの可能性もありますか？

**菅林**　おおいにあるでしょう。そういえば、どっから出たかわからないけど、「天山の年間のギャラが７００万円」ってウワサがネットで出てるみたいじゃないですか？

―あ、なんかそうみたいですね。

**菅林**　ハッキリ言っておきますけど、さすがにそれはないです。……でも、このまま休んでたら、そうなりますよ！（キッパリ）。

―ワハハハハ！

**菅林**　だって、仕事してないんだもん（笑）。まぁ、しっかり身体を治して早く戻ってほしいですけど。

―ただ、この不景気で、プロレスはもちろん総合格闘技もなかなか厳しい時代に入ってきてますね。

**菅林**　……じつは、新日本って90年代初頭にバブルが弾けたときに一番お客さんが入りだしたんですよ。

―いわゆる90年代のドーム全盛期ですか？

**菅林**　そうです。そのあと、00年代初頭にITバブルがハジけたときに今度は総合格闘技のチケットが一気に売れだしたんです。で、こないだの2月1日の長野大会は東京ドームのあとで、普通ならお客さんは入らない時期なんですよ。でも、プレイガイドも当日券も凄く売れて、パンパンの超満員になったんです。

「05年の秋にメキシコに視察に行ってから、ずっと呼びたいと思っていた」とルチャの"神の子"ミスティコ来日に尽力した菅林社長。その神業ぶりを次に観れるのは、5.3福岡大会？

―ごく自然に売れたわけですね。

**菅林**　そしたら、今シリーズはどこも地方の動員が絶好調なんです。だから、もしかしたら「不況でムシャクシャするから、楽しもう」って娯楽の選択肢に、もう一回プロレスが加わったのかなって。まだ事例が少ないんで、断言はできませんが（笑）。

―勧善懲悪やハッピーエンドを求めるなら、プロレスは最高ですから。

**菅林**　それに、以前の新日本は斜に構えたお客さんが多かったですけど、いまのファンはホントにエンジョイしに来てますから。僕が行ったメキシコもアメリカもそうでした。でも、客層は決して裕福な客層ばっかりではないんですよ。

―世界的に見たらプロレスって、ブルーカラー層の文化ですからね。

**菅林**　日本のプロレスの生い立ちも、戦後、景気がどうしようもない時期に元気を与えたわけですよね。不況時こそ、そういう役割があるんじゃないかな、と。プロレスは世の中になくても生活できますけど、きっとそういう役割があるんです……と信じてやるしかないな、と（笑）。

―なるほど（笑）。あとドームの試合後に、マスコミに観客動員の原動力を聞かれて、菅林社長は"ルチャリブレの神の子"ミスティコの名前を最初に挙げられたみたいで。

**菅林**　（即座に）ミスティコはホントに売れたんですよ！

―現場のスタッフは、「ノアとの対抗戦効果」とか言うのかと思ったら最初に「ミスティコ」っておっしゃったから、ズッコケたらしくて。

**菅林**　（聞かずに）こんなにルチャファンがいるのかってぐらい、数字が動いたんですよ!!

―ワハハハハ！　ミスティコは菅林社長が呼びたくて仕方なかったみたいですね。

**菅林**　当日も、飛行機に乗れなかったとか、ニセモノが来るんじゃないかとか。いろいろ言われましたけど、ホント、無事に来日してよかったですよ（しみじみと）。

―スタジオジブリの鈴木（敏夫）プロデューサーは、「仕事は公私混同でやったほうがいい」と言われてますが、社長もそういう気持ちは？

**菅林**　ありますね。よく「趣味を仕事にしたら趣味に生きられない」って言いますけど、一緒にやったほうが絶対おもしろいですよ。それでお金もらったほうが幸せだと思います。

―そう考えると、昔からプロレスファンだった菅林社長もいまの地位は夢のような感じで……。

**菅林**　（さえぎって）いや、それはないですね。

―あ、それはない（笑）。

**菅林**　プロレスに関われるのは嬉しいですけど、社長業はまだまだ発展途中ですし、ホントに大変ですから。

―じゃあ最後に、今年の目標をお聞かせください。

**菅林**　今年は例年より、両国大会をより多く、6回は打つ予定です。2月、4月、8月が2回と10月は確定ですけど、もう一大会増やす予定ですね。それと、今年は5月3日に行なう福岡大会（福岡国際スポーツセンター）を地方のプロレス起爆のきっかけにしたいですね。

―キャパシティ的にはそんなに大きくないですけど、ビックリするようなカードを組まれるんですか？

**菅林**　東京のファンが福岡に行かなきゃいけないぐらいの大会にしたいですね。中洲に事務所も構えますし。2・14の両国大会が終わったら、僕も本格的に乗り込みますから！

―またもや自ら。じゃあ、チケットの手売りもやりますか？

**菅林**　そうですね。めげずに何度でもやりますよ！（笑）。

【09年2月10日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】

### 君の街にも新日本がやってくる!! 新日本プロレス3、4月スケジュール

**『旗揚げ記念日～STRONG STYLE 37th ANNIVERSARY～』**

3月6日（金）
東京・後楽園ホール 19:00開始

**Circuit 2009 NEW JAPAN CUP ～Soul on Ring～**

3月8日（日）
愛知・愛知県体育館 18:00開始

3月14日（土）
埼玉・久喜市総合体育館 18:00開始

3月15日（日）
東京・後楽園ホール 18:30開始

3月16日（月）
新潟・燕市民体育館 18:30開始

3月17日（火）
埼玉・熊谷市民体育館 18:30開始

3月20日（金）
香川・高松市総合体育館 18:00開始

3月21日（土）
広島・県立ふくやま産業交流館 18:00開始

3月22日（日）
兵庫・尼崎市記念公園総合体育館 16:00開始

**EXCITING BATTLE in 沖縄 2009**

3月29日（日）
沖縄・沖縄県立武道館 16:00開始

**Resolution'09**

4月5日（日）
東京・両国国技館 17:00開始

社長はつらいよ!!
インディー団体の場合

両国ピーターパン

# 「顧客満足度はどの団体にも負けない自信があります!」

## 8.23両国国技館初進出!
DDTプロレスリング
# 高木三四郎社長

新日本プロレス・菅林社長に続いて登場するのは、
今年8月に両国国技館進出を発表したDDTプロレスリングの高木三四郎社長だ。
06年1月の後楽園大会で行なわれた社長争奪ロイヤルランブルを制し、
ホントに社長に就任した三四郎は、現在DDTの無差別級王者にも君臨するなど
リング内外で大活躍。社長歴3年を越えた三四郎社長の本音を直撃!

聞き手/阿修羅チョロ

## インディー団体の場合

──高木さん！　いきなりですけど、やっぱり社長はつらいですか？

**高木**　う～ん、つらいっていえばつらいですよ。常になんらかの責任感に追われてるプレッシャーはありますし、責任が発生すると結局は自分に来ちゃいますからね。

──それはあるでしょうね。単純にいまＤＤＴではユニオンや『マッスル』といった別ブランドだけでなく、スポーツバーやカレー屋まで多角的に経営されているので、時間はいくらあっても足りないんでしょうし。

**高木**　そういう意味では正直しんどいですね。ぶっちゃけ、やめられるんだったらやめたいですよ（苦笑）。

──具体的に何をやめたいですか？

**高木**　いや～、全部やめてお金をもらう立場になりたいですね（苦笑）。

──社長ならではの悩みですね。ちなみに社長をやっていくうえで喜びはどういったところになります？

**高木**　やっぱり、会社の決算だったり、月々の売り上げが緩やかにでも伸びていたりすると嬉しかったりしますね。ちなみに自分が社長になってから一度も業績は落ちたことはないんですよ（ちょっと得意げに）。

──それは凄いじゃないですか！

**高木**　まあ、非常に緩やかな右肩上がりなんですけどね（笑）。

──単純に興行収入が伸びていってるっていう感じなんですか？

**高木**　いや、興行収入というか興行にまつわる収益は若干落ちてます。でもそれは若干ですよ。年間にすると１００万（円）もいかないぐらいで。その代わりというか、飲食業とかいろんなことを始めたじゃないですか。

──歌舞伎町のスポーツバー『ドロップキック』や中野の『フレンチカレー・ミツボシ』の経営が順調だ、と？

**高木**　そうなんですよ。それが意外と伸びてるんでトータルで見ると緩やかながら右肩上がりで。

──それは何よりです。ＤＤＴは旗揚げから、すでに10年越えてますけど、ぶっちゃけ、これまで経営的な危機は何度かあったんでしょうか。

**高木**　自分が社長になってから大きな経営危機はないですね。これからはわかんないですけど（笑）。

──世間の不景気もそれほど影響はないですかね？

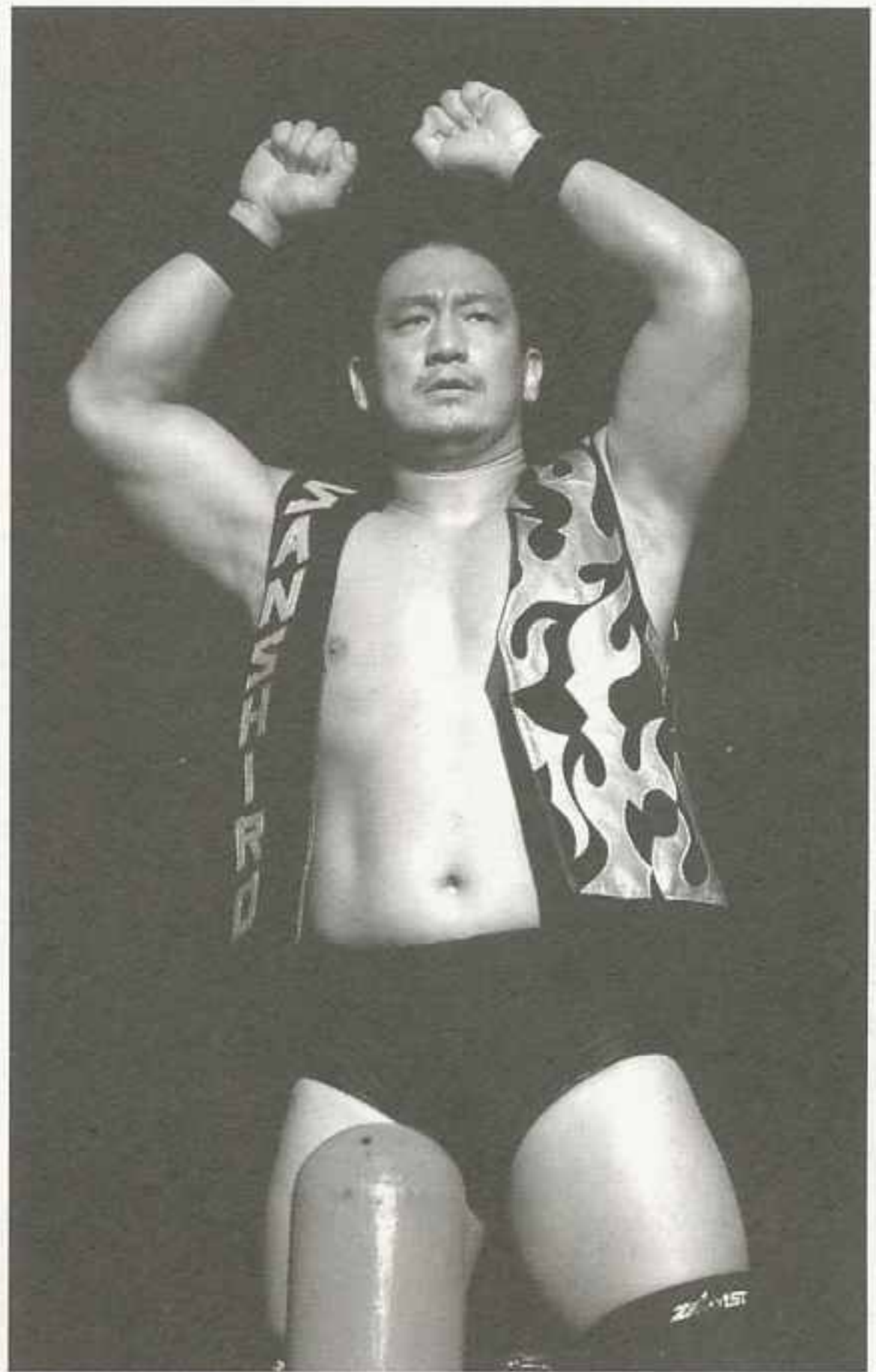
**高木**　ウチに関していえば、プロレスの興行収益は若干厳しくなってきてるかなって思うんですけど、ほかの部分でカバーできてるんでなんとかなってるって感じで。でもプロレスのほうでも無駄な赤字興行が少なくなったっていうのはありますね。

──無駄な赤字興行といいますと？

**高木**　以前は、新木場（１ｓｔＲＩＮＧ）を毎週やってたんですけど、その赤字が大きかったんですよ。結局、新木場でマイナスになって後楽園大会で返すっていう感じだったんですけど、それも厳しくなってきて。

──いまは新木場で毎週はやってないですよね。

**高木**　いまは新木場の回数を減らして、平日の興行もやめて土日だけに変えたり、あとは新木場でやるのは同じなんですけど、違うブランドの興行を立ち上げたりして、そこで収益を上げようとしたりしていて。その中でも、ちょっと前までユニオンは本当にヤバかったんですよ。

## 自分が社長になってから一度も業績は落ちたことはないです！

たかぎ・さんしろう■本名・高木規。1970年1月13日、大阪府出身。95年2月、PWC渋谷大会でのトラブルシューター高智戦でプロデビュー。現KO-D無差別級王者。昨年4月には太田出版より自叙伝『俺たち文化系プロレスDDT』を出版。175cm、95kg。本音満載の高木三四郎の『新宿御苑ではたらく社長レスラーのblog』アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

──ヤバかったというのは？

**高木**　別ブランドの中でもユニオンだけが毎回赤字で。だから、もう何度も解散しようと思って、みんなを呼んで「ごめんな」って話したときもあるんですよ。でも「もう無理だわ」って言うと、みんな目がウルウルするんですよ（笑）。

──まあ、そうなるでしょうね。

**高木**　そうなると、こっちとしても「もうちょっとかけてみるか。わかった」って言うことになるんですけど、そんな会議を一昨年から去年にかけて3回はやってますから。

──でも、最近のユニオンは新木場よりキャパの小さな北千住の会場（『シアター１０１０』）をメインにやってますけど、そこでは超満員を続けてるみたいですね。

**高木**　ようやくちょっと芽が出てきた感じで。ユニオンを盛り上げるのに一番手っとり早いのは自分だったり飯伏（幸太）だったりＤＤＴの人間を出すことなんですよ。でもそれをやっちゃったら彼らのためにならないので、自分は本当にギリギリのところまで出ないで彼らの頑張りに期待したんです。

──高木さんは昨年11月にユニオンの大会でエース格の石川（修司）選手とタイトルマッチをやって、超満員札止めになったんですよね。

**高木**　札止めっていっても２００人とかですけどね（笑）。まあでも、パンパンになったんで「よく頑張ったな」って思ったんですけど、そこで経営者の顔が出てきて、石川との試合後に、「おまえ、後楽園でやれ」って言ったんですよ。

──エッ、２００人の会場をいっぱいにしたところでいきなり後楽園って、ちょっと無謀すぎませんか⁉

**高木**　いや、２００人パンパンに入れることができたら後楽園も意外と早いんですよ。だって、後楽園なんて１０００人入ったら格好はつくわけで１０００人ってことはたったの5倍じゃないですか。

──そうとも言いますけど（笑）。

**高木**　今回、ＤＤＴで両国進出を決めたのもそうなんですけど、自分の経営的なものってほとんど勘なんですよ。機運が高まってるか高まってないかは勘で判断するというか。

──ユニオンの後楽園もＤＤＴの両国も高木さんの勘では「イケる」と？

**高木**　そうですね。ＤＤＴでは飯伏とかＨＡＲＡＳＨＩＭＡの台頭もあったし、機運的にはそんなに悪いほうじゃなかったと思うんですけど、たぶんこのままだったら、たまに後楽園でやるレベルで終わっちゃうなって思ったんですよ。

──そこで、あえて両国国技館という高いハードルを自ら設定したわけですね。

**高木**　そういう感じですね。最近よく言ってるのが「自分の中で限界を作るな」ってことなんですけど、自分もそうだし、ほかの選手のモチベーションを上げるためにも大きな勝負をやらなくちゃいけないなって思って両国をやろうと思ったんですよ。

──そういうきっかけがあったんですね。ＤＤＴって設立からどれぐらいになるんでしたっけ？

**高木**　旗揚げが97年なんで、もう12年目になりますね。

──プロレス団体で10年越えるのは大変なことだと思いますが、その中でＤＤＴの方向性も変わってきてま

すよね。エンタメ団体というイメージが強いとは思うんですけど。

**高木** そうだとは思うんですけど、ここ数年感じるのは、ウチに限らずいまのプロレスファンって凄くリアルなものを求めてると思うんですよ。

―リアルなプロレスですか？

**高木** 結局、エンターテインメントってなんだっていうものをFMWとDDTがほぼ同時期に発信してきて、わりといい線までいったと思うんですよ。で、2004年にWWEが初めて日本に来て凄く盛り上がりましたけど、僕はWWEって日本にはマッチしないと思っていて。

―それは国民性という意味で？

**高木** そうですね。もともと日本人の感性からいったら、純粋にどっちが強いかどっちが勝つかのほうが興味あるじゃないですか。

―それはありますよね。それがミスター高橋本だったり、『PRIDE』の影響だったりで変わっていったところもあると思うんですけど。

**高木** そういった時代の流れの中でDDTではデタラメなことをやってきたと思うんですけど、でも、お客さんの観る目が変わったなっていうのを最近になってまた感じていて。最近のファンってプロレスに純粋な攻防を求めているというか、要するに、あんまりエンターテインメント的なものは受け入れられなくなっているというか……。

## エンタメ的な部分ではDDTは『マッスル』には敵わない

―エンターテインメント的な味つけよりも、純粋な試合内容を重視するファンが増えているんですかね。ここ最近でいうとKENTA vs中嶋勝彦戦であったり、丸藤正道vsカズ・ハヤシ戦のような。

**高木** そうです、そうです。時代的に好まれてるプロレスはそっちだなって感じますね。

―それは何か原因があるんですかね？

**高木** まあ、やっぱりウチでいうと『マッスル』とかが出てきちゃったからじゃないですかね（笑）。

―味方のはずの『マッスル』が原因でしたか。『マッスル』はある意味、エンタメプロレスとしては、行くところまで行っちゃった感じはありますからね（笑）。

2月13日、両国国技館前にて8.23両国大会の会見が全選手出席のもと行なわれた。会見では大会タイトルが『両国ピーターパン～大人になんてなれないよ～』に決まったことを発表。ピーターパンコスプレでノリノリで登場した三四郎社長だったが、最後はイタリア軍からデスケーキを食らい失神……。

**高木** 『マッスル』は完全にエンターテインメントなプロレスとして振りきりすぎちゃったんですよ。で、あれはあれで一つのスタイルが完全にできちゃってるわけじゃないですか。『kamipro』さんでも大槻ケンヂさんとマッスル坂井が対談させてもらったり、著名人でも評価してくれる人が出てきてますし。

―浅草キッドの水道橋博士なんかも凄くハマってるみたいですし。

**高木** そこの部分では、『マッスル』は『ハッスル』さんだったり、いわゆるエンタメプロレスと言われている団体以上の広がりを見せてると思うんで。そうなると、DDTで『マッスル』に近いものをやろうとしても敵わないし、じゃあDDTにしかないものって言ったら、試合内容もそうなんですけど、"勧善懲悪"の流れ重視っていうか、後楽園での最終決着戦までに至るところの見せ方だと思うんですよ。

―最終戦までのストーリーをしっかり作るってことですよね。

**高木** そう……だと思ってやってきたんですけど、いまのお客さんは流れは流れで重要視しながらも、わりと一話完結的なものを求めてきてるような気もしていて。プロレスうんぬんよりも、世間的な不況の影響もあると思うんですけどね。

―不況もあって、毎回会場で流れを追うのもしんどいというファンも増えてるんでしょうね。

**高木** たぶん、そこだと思うんですよね。ウチのウリの一つだった「連続ドラマ」っていう見せ方だと毎回内容を追えなくなってきている、と。それに、いま東京って興行がメチャクチャ多いじゃないですか。

―一部では"プロレス冬の時代"なんて言われながらも、こと興行数だけはもの凄く増えてますからね。

**高木** そんな中で「これも観たい、あれも観たい」ってなると、ストーリーものよりも単発のもののほうがストレスもないし、受け入れやすいってことだと思うんですよ。

―ストーリーがわからないと、どうしてもストレスが溜まりますよね。

**高木** テレビの連続ドラマもそうですけど、やっぱり山があるじゃないですか。プロレスもやっぱり波があって、今日はバッドエンディングっていうときもあるわけですよ。実際にちょっと前まではバッドエンディングでも次の展開を楽しむみたいな余裕がお客さんにもあったと思うんですよ。でも最近は「なんで4000円とか5000円払って、イヤな思いをして帰らなきゃいけないんだ」って感じなんで（苦笑）。

―世知辛い世の中ですね（笑）。

**高木** ホントそうですよ。これもウチに限らずだと思うんですけど、本気で嫌われるベタなヒールっていないじゃないですか。

―いないですよね。真壁（刀義）さんなんかもヒール人気がありますし。

**高木** そんな中、難しいとはわかっていながらも本気で嫌われるヒールを作りたいなっていうのはずっと考えてるんですけどね。

### えっ、こんなにあるの？ DDT関連興行

**★DDTプロレスリング**

1997年に高木三四郎、野沢一茂（現・NOSAWA論外）、三上恭平（現・MIKAMI）を中心に旗揚げしたプロレス団体。2月19日現在、KO-D無差別級王者は高木三四郎、KO-Dエクストリーム級王者は星誕期、CMLL認定KO-Dタッグ王者は飯伏幸太&ケニー・オメガ組。今年8月23日に両国国技館に初進出。

**★ユニオンプロレス**

1994年に旗揚げされるも翌年活動停止に。その後、05年にDDTの別ブランドとして旗揚げ。代表はかつてDDTでマネージャーとして活躍したナオミ・スーザン。主な所属選手は石川修司、諸橋晴也、木高イサミ、726、チェリー。今年8月30日に後楽園ホールに初進出。

**★マッスル**

04年10月に北沢タウンホールで旗揚げされたマッスル坂井主宰のプロレス興行。今年は毎月29日になんらかの『マッスル』関連イベントを行なうことを宣言しているが2月はどうなった!?

**★Cruiser's Game**

05年6月にスタートしたMIKAMIプロデュースの軽量級中心のDDT別ブランド興行。

**★ハードヒット**

08年3月にスタートした、ロストポイント制を用いた格闘色の強いDDTの別ブランド興行。中心選手は飯伏幸太、毛利昭彦、石川修司、タノムサク鳥羽。

**★新北京プロレス**

06年1月の『マッスル9』内でその存在が紹介され、07年6月に新木場1stRINGで初の日本興行を行なった中国のプロレス団体。現在まで日本では3大会を行ない、いずれも超満員の大盛況に。主な所属選手は趙雲子龍、老師トウ・ゴー、ジャイアント馬譲。

**★BOYS**

ターゲットはズバリ女性という、各団体のイケメンファイターを中心としたプロレス興行。08年11月の第1弾興行は女性は入場無料という大盤振る舞い。中心選手はHARASHIMA、KUDO、円華。塾長は男色ディーノ似のジャニー江田島。

**★でら名古屋プロレス**

高木三四郎が監督を務める名古屋に本拠地を置く地元密着型プロレス団体。地域対抗戦が基本コンセプトで、これまでK-DOJO、バトラーツ、大阪プロレス、大日本プロレスと対戦。主な選手は高井憲吾、SHIGERU、入江茂弘。

——いまの時代でも勧善懲悪の世界っていうのは全然アリだと？

**高木**　僕はアリだと思ってるんですけど……、いないんですよね。徹することができる人が。あとは下世話な言い方をすると、こっちの団体でヒールをやってても、あっちのプロモーションではベビーだったりとかもあるわけじゃないですか。それだとファンは乗れないですよね。

——本来なら団体で縛って、ほかの団体には出さないっていうことができればいいんでしょうけど。

**高木**　それが一番ですよ。でも、どこもそこまでの金がない（苦笑）。

——あ、問題はそこでしたか（笑）。

**高木**　そういうのもあって、ヒールを作るのは難しいんですけど、それに代わるかたちで、さわやかなプロレスラーっていうんですかね？　そういうのがいまはウケてるんですよ。

——さわやかなプロレスラーがウケてる!?（笑）。

**高木**　自分は一過性の流行だとしか思ってないんですけど、ここ2～3年ぐらいのプロレスの主流は女性にウケるプロレスなんですよ。やってることはハードなんですけど、要するに乱入とか反則もない肉体と肉体をぶつけ合うさわやかなプロレス。自分なんかが好きな勧善懲悪プロレスっていうのはわりと冷めて観られちゃうんで、自分はさわやかなプロレスはあまり好きではないんですけどね。

——勧善懲悪とさわやかなプロレスは対照的な感じもしますし（笑）。

**高木**　……そのへんのさじ加減もプロレス団体の社長は考えなきゃいけないわけです（苦笑）。

## 坂井は、「一万人規模に見せる作品を作れる」って張りきってます

——さじ加減という意味では、今度の両国大会はマッスル坂井さんがレスラーを一時休業して演出など裏方を担当するんですよね。

**高木**　そうですね。実際にアイツが試合が出ないことでいい方向にいってるところもあるんで（笑）。

——あ、そうなんですか（笑）。

**高木**　『マッスル』って本来なら一年に何回もやるもんじゃないと思うし、アイツが選手としてDDTに出るとなれば、客はどうしても『マッスル』的なものを期待しちゃうじゃないですか。そういうのもあって何度かアイツをストロングスタイル路線にしようと思ったんですけど、致命的に……、ねぇ？（苦笑）。

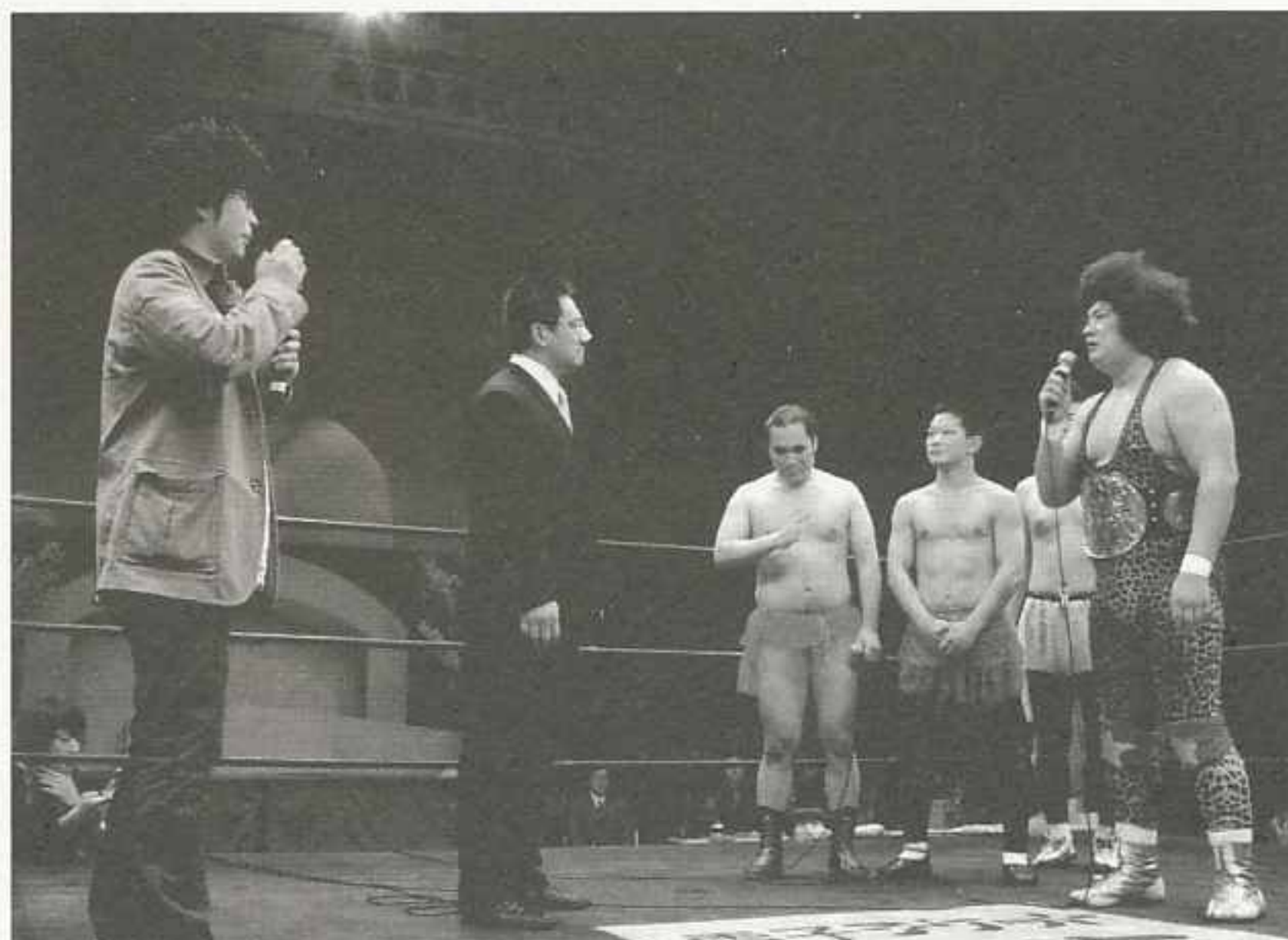
——何か致命的な欠点でも？

**高木**　本人もその気になったところもあったんで、森嶋（猛）選手とのシングルとか、三沢（光晴）選手との試合を組んだんですよ。でもプロレスラーとしては致命的だと思うんですけど、痛いのがイヤなんでしょうね。ローキックとかよけようとしますから（笑）。

——それはいただけないですね（笑）。でも選手としてはともかく、裏方としての評価は高いわけですよね？

**高木**　メチャメチャ評価してますよ。映像面とかはクラブATOMだったりジオポリスでやってた頃の全盛時に戻りましたから。それに両国でやるって話をアイツに最初にしたとき、「僕は裏方でやりたいです」って言ってきたんですよ。

——そんなやり取りがありましたか！

**高木**　「選手として出なくていいの？」って聞いたら「いいです。だって、一万人規模に見せる作品を作れるわけじゃないですか」って言って。

DDTプロレスの社長は三四郎だが、映像やグッズ関係などを手がける有限会社DDTテックの社長はマッスル坂井こと坂井良宏が務めている。8.23両国大会では社長レスラーの三四郎と演出担当の坂井の強力社長タッグに期待しましょう。アッと驚くサプライズもあるらしいですよ!

それを聞いて「コイツの考えはもとからそうだったよな」って思って。たぶん、『マッスル』で武道館大会をやれる日が来ても、もしかしたらアイツは出ないかもしれませんよ。

——満足のいく作品を作るためには裏方に徹することもいとわない、と。

**高木**　そうだと思いますよ。もともとアイツは映画監督がやりたかったわけだし、たぶん、そういうポジションで自分の欲求を満たすことができるタイプだと思うんですよね。

——プロレスラーにありがちな「俺が、俺が」精神はそれほどない？

**高木**　そこもレスラーに向いてないと思うところで（笑）。でも、アイツから「裏方でやりたい」って聞いたときに、「全部、坂井に任せよう」と思いましたね。わかりやすい言葉でいえば演出家ですけど、僕はDDTの両国大会という一つの作品の監督が坂井だと思ってるんで。

——坂井監督の両国デビュー戦でもある、と。それによって、これまでDDTは観なかったファンも両国大会は注目する人も多いでしょうし。

**高木**　でしょうね。そういった部分でもアイツには期待してますね。具体的に何をやるっていうのはこれからになるんですけど、ウチが両国でやるからには、それ相当の仕掛けも当然考えてますから。

——楽しみにしてます！　ズバリ集客のほうは自信あります？

**高木**　超満員にするっていうよりも来たお客さんに「本当に凄い興行だったな」って思わせるためにおもしろくしなくちゃいけないなっていう気持ちのほうが強いですね。超満員

### 社長の一日　DDTプロレスリング　高木社長の場合

**2月16日（月）**

**7時　起床**
メールチェック。格闘技、プロレスポータルサイトをチェック（週プロモバイル、kamipro、スポナビ、ブラックアイ2、angleJAPANetc）。mixiチェック（主にマイミクの日記チェック、観戦記などをキーワード検索で見ることも）。2ちゃんねるチェック（wjスレ、DDTスレ、ターザンスレ……etc）。選手、関係者、ファンの方々のブログチェック（DDT選手のブログ、高木加代子のたまご日記、須山浩継さんのブログ）。ちなみに移動時間は携帯で見てます。一日に二回は充電してます（笑）。

**10時　練習**
ゴールドジムで和田良覚さんのパーソナルトレーニング。パーソナルがない日はジムでのトレーニングorリング練習。

**12時　ランチ・休憩**
ランチ後はメールチェック。ときおりパワーランチ（ランチタイムにおけるビジネスミーティング）をしてます。その際は14時まで。

**14時　各種会議**
基本的にこの時間帯は各種会議やらミーティングを行なってます。経営会議、経理担当とのミーティング、飲食店舗会議、興行ミーティング（進行、運営に携わる会議）、営業会議、DDTテックとの番組制作会議。

**18時　休憩**
メールチェック。各ポータルサイトでのニュースチェック。だいたい、起床してからやるチェック事項をここで再チェック。サイトによってはニュースの更新がこの少し前に行なわれることが多いので。

**19時30分　各店舗視察**
『ミツボシ』、『ドロップキック』にて食事をしながらコミュニケーションをはかってます。

**21時30分　営業**
盛り場での営業。

**24時　帰宅・就寝**

を目指すよりも超満足の大会を作らなきゃいけないというか。ウチのコンセプトは基本的に〝カスタマーズ・サティスファクション(顧客満足度)〟をいかに高めるかですから。

――超満員よりも超満足だ、と?

**高木** それは両国に限らずなんですけど、今回はとくにその部分に重点を置いていますね。もちろん自信もありますし。

――高木さんは昔はイベントサークルを主宰したり、選挙にも出たりと人脈が広いことでも有名ですけど、DDTを旗揚げしてから集客のためにその人脈を使うことはほとんどなかったと言ってましたね。

**高木** そうなんですよ。イベントサークルをやってた頃は1000人、2000人ぐらいのパーティはバンバンやってたんで、たとえば後楽園ぐらいのキャパを埋めることって全然できるんですよ。でも、僕はちょっとプライドが高いんで(笑)、その程度の規模の動員で声をかけるっていうのはイヤだったんです。

――プライドが許さなかった、と?

**高木** そうですね。まあでも、さすがに今度の両国ではそのへんのリミッターも外してやろうと思ってるんですよ。僕がイベントサークルで最後にやってた時期から、もう10年経ってるんですよ。だから、僕が最後に面倒見てた後輩とかもみんないい年齢になってるんで、それをフル活用しない手はないなと思って、ちょこちょこと連絡とり始めたんですけど、「30枚買います」とか「スポンサーつけます」って言ってくれるヤツもいて。

――頼もしい後輩ですね。

**高木** 彼らにとっても、今回両国で大会をやるって聞いて「勇気を与えられた」って言ってくれて。正直、イベントサークルってスーパーフリーの件もあってカスみたいな業界って思われてる部分もあるんですけど、僕らがやってた当時っていうのは純粋に内容的にも満足できるものをやってたっていう自負もありますからね。

――スーパーフリーとは一緒にしてくれるな、と(笑)。

**高木** それは思いますね。で、自分が社長になって経営権を取ったのは03年の10月からなんですけど、その年の12月29日と翌年の1月12日っていう、二週間の間隔で後楽園大会をやったことがあったんですよ。

――社長になって初の試練ですか。

**高木** そうですね。自分が社長になって経営権を取ったってことは、赤字も全部自分に降りかかってくるわけで。だから、そのときは寝ずに営

# DDTの中で一番チケットを売ってるのは自分ですから

## インディー団体の場合

社長はつらいよ!

業して両大会とも実券で1200人ぐらいは入れて成功させたんですよ。さすがにそのときはしんどくて1月の後楽園が終わって家に帰ったあと、バターっと服を着たまま倒れたのをいまでも覚えてますね(苦笑)。

――社長としては、それ以来の大勝負になるわけですか?

**高木** そのあとの自分の結婚式も同じぐらい大変でしたけど(笑)。

――結婚式は六本木のヴェルファーレにリングを組んでやってましたね。

**高木** あのときも神経やら何やらかなり使いましたからね。まあ、今度の両国大会っていうのはひさびさに興行が終わったら倒れるぐらいの営業をやりたいと思ってます。

――ドラゴンゲートの岡村(隆志)社長はいまでもどの選手よりもチケットを売っているみたいですけど。

**高木** そうなんですよね。一回、岡村社長に「選手じゃないのに売れるんですか?」って聞いたことがあるんですけど、「俺が一番売らないとみんなついてこないでしょ」って言ってましたから。「やっぱりこれだよな」って思って。自分もDDTの中では一番チケット売ってますからね。

――さすが社長ですね!

**高木** やっぱり、団体のトップは一番チケットを売らないとダメだと思うし、今度の両国でも僕は1000枚は売ろうと思ってますから。

――1000枚! すでにレッスルエキスポの動員は超えましたね(笑)。

**高木** いやいや、あの大会は超えないと話にならないと思うんで(笑)。それに岡村社長との違いで言えば自分は現役でレスラーをやってるわけじゃないですか。

――社長レスラーですからね。

**高木** さっきも言ったとおり、いまのファンは勧善懲悪的なものじゃなくストレートなプロレスを求めてるんで、自分はそういうプロレスにもしっかり対応できないとイヤなんですよ。それもあって和田(良覚)さんにお願いしてトレーニングを見てもらってるんですけどね。

――和田さんはK-1ファイターや総合格闘家のパーソナルトレーナーとして活躍してますけど、いまプロレスラーで指導をしてるのは高木さんだけみたいですね。

**高木** やっぱりレスラーとしても、ほかの選手に負けたくないっていうのはあるんで、正直多少お金はかかりますけど、若い連中には負けてられないなって。それぐらいやらないと下の人間はついてこないと思うし。

――何から何まで全力投球なんですね。社長としてレスラーとして、今後の活躍を期待してます!

【09年2月9日/都内・大森にて収録】

---

### プロレスよりも儲かってる!?
## DDTプロデュース飲食店

DDTといえば別ブランド興行だけでなく別業種での活躍も有名。ここでは、都内・歌舞伎町のプロレス&スポーツバー『ドロップキック』、都内・中野のカレーショップ『フレンチカレー ミツボシ』を紹介しま〜す!

07年7月に都内・歌舞伎町にオープンしたDDTプロデュースのプロレス&スポーツBar『ドロップキック』。初代店長のMIKAMIは両国大会に専念するため現在休業中だが、誰かしら選手はいるはずです。

■『ドロップキック』TEL.03-3209-8688
東京都新宿区新宿歌舞伎町1-4-12 新宿ミヤタビル5F

昨年11月に都内・中野にオープンした『フレンチカレー ミツボシ』。店長は現役レスラーにして、開店前は福岡の有名フレンチレストランで修行を積んだ猪熊裕介。味はもちろんのことオシャレな店内も大好評。

■『フレンチカレー ミツボシ』
TEL.03-3388-9070
東京都中野区新井2-1-1(JR中野駅北口から徒歩3分)

社長はつらいよ!!
女子プロレス団体の場合

# 「業績は右肩上がりですし、NEOは“冬の時代”ではありません!」

## 気がつけば女子プロ最大手
## NEO女子プロレス
# 甲田哲也社長

社長特集の最後に登場するのはNEO女子プロレスの甲田哲也社長。
“冬の時代”などと言われることも多い女子プロレスだが、定期的に後楽園ホールで大会を開催、
女子プロではすっかり激減しまった地方興行も積極的に行なうなど、
やたらと元気なNEOの経営術とは?
“プロレスLOVE”あふれる甲田社長に話を聞いてみました!

聞き手／阿修羅チョロ

## 社長になったのは、やるのが自分しかいなかったのが半分です

——いきなりですけど、やはり社長はつらいですか？

**甲田**　ボチボチですね。つらいこともあるし、つらくないこともあるし。

——そうですか。『kamipro』読者的には、甲田社長のことも知らない方もけっこういると思いますので、基本的なことからうかがいたいのですが、社長になられたのはいつぐらいになるんですか？

**甲田**　なんだかんだでNEOができて今年の5月で9周年になるんですよ。なので、ほぼ丸9年ですね。

——どういった経緯で社長になられたんですか？

**甲田**　NEOの前にネオレディースという団体があったんですけど。

——スマックガールをやられていた篠（泰樹）さんが代表を務めていた団体ですね。

**甲田**　そうですね。自分は篠に誘われてこの業界に入ったんですよ。それで、ちょっとお手伝いやなんやしているうちに団体に入ってっていう、そんな感じですね。

——もともとプロレスファンだったみたいですが。

**甲田**　女子プロに限らずプロレスは子どもの頃から普通に観てましたね。

——学生時代からUWFを観に博多に密航したり、女子プロに限らず幅広く観戦してたみたいで。

**甲田**　密航してたのは大学生の頃ですね。自分が大学に入ったのは平成元年で卒業する平成4年までっていうのは、たぶんプロレスが一番おもしろかった時期だと思うんですよ。あの頃ってFMWとかユニバーサルとかインディーが出てきて、SWSも含めて全部で10団体ぐらいあっていろんなスタイルが観れましたからね。

——いい時代でしたよね。で、社長になられたときは、いろんな問題があって社長をやらざるをえない状況になった感じなんですか？

**甲田**　やらざるをえなくなったっていうか、やるのが自分しかいなかったっていうのが半分と、でも「やろうかな」っていうか、やる気はあったんですよ。

——やる気はあったんですか？

**甲田**　自分は性格的に本当に嫌だったら周りの人がどう言っても義理人情に流されず「すいませんけど、それは抱えられないです」って言ったと思うんですよ。それを受けたっていうことは、いま思えば、「じゃあ、やってやろうか」っていうのがあったんじゃないかなって思いますね。

——まあ、野心的な感じで、この業界にフロントとして入ったからには、団体の代表にまで上りつめてやろうとやろうと思っていたとか？

**甲田**　野心というよりは、自分で「こういうやり方をすれば、もっとうまくいくんじゃないか」とか、「こういうやり方をすれば、もっと団体はよくなるんじゃないか」っていう思いはあったんで。

——社長になったときっていうのは経営的に順風満帆なスタートというわけではなかったんですよね？

**甲田**　そうですね。結局、前の体制がダメになってるわけですよ。選手とかにも満足にギャラが払えてないとか、そういう事態の中で何かを変えなきゃいけないわけなんですけど、そこで篠さんはまた大きいことを言ってくるわけですよ。「原宿の前に神宮スタジオというのがあって、そこで定期興行をやっていけば、テレビがついて、そのタイアップでどこかの業者がついて」とか。

こうだ・てつや■1970年9月6日、長野県出身。都立大学（現・首都大学東京）経済学部卒業。2年前にアイスリボンのさくらえみとリング上で婚約寸前となるも破局。野球では野村克也監督のファンのため楽天イーグルスを応援中。愛読書は梶原一騎劇画全般。甲田社長ブログアドレス→http://blog.livedoor.jp/jrallstar/

——いかにも篠さんが言いそうなことというか（笑）。

**甲田**　そういうのは、言ってみればブタの妄想じゃないですか。そうじゃなくて現実にやるんだったら、いまは月に何人ぐらいのお客さんが定期的に来ていて、ギャラを含めていくらの経費がかかるんであれば会場費はいくらのところでやらなければいけないとか、ちゃんと計算しないと回っていかないわけですよ。

——そうでしょうね。

**甲田**　そういう考え方で僕は「板橋産文ホールとか北沢タウンホールでやらなきゃいけないでしょう」っていう言い方をして、篠さんとは割れたかたちになるんですけど。そういうのがきっかけで自分の考えでやり始めたっていう感じですね。

——大学を卒業されて、そのまま女子プロレスに関わるようになったというわけではないんですよね？

**甲田**　一度、コンピューター関係の会社で、いわゆるSEをやってましたね。そこに7〜8年いたんですけど、その終わりぐらいに篠さんと知り合ってしまって（苦笑）。

——そうでしたか（笑）。女子プロ団体の社長というと、当然女子レスラーを相手にやっていかなきゃいけないわけですけど、そこでの戸惑いはありました？

**甲田**　そんなにないですね。それは単に自分がプロレス界に限らず、男の従業員を使って社長業をやったことがあるわけじゃないので、違いがわからないっていうのもあると思うんですけど。

——女子プロに限らず、プロレス団体の経営というのは、非常に特殊というか、ほかの業種とは比べられないところもあると思うんですが。

**甲田**　そうですよね。それまでいたところは非常に真っ当な会社で、ボーナスも半期で50万円ぐらいは出てたと思いますし。

——真っ当というか、素晴らしい会社だと思います（笑）。

**甲田**　そういう会社からプロレス業界に入って、初めて人にだまされることってあるんだと思いましたね。

——アハハハハ！　プロレス業界に入って、初めてだまされることを知りましたか！（笑）。

**甲田**　仕事を頼んでお金を払うなんていうのは、ごくあたりまえの話じ

### どうなってるの？ 2009年の女子プロレス

**現存する主な女子プロ団体は以下のとおり！**

**★NEO**
主要選手　井上京子、田村欣子、松尾永遠
社　長　甲田哲也

**★JWP**
主要選手　コマンド・ボリショイ、日向あずみ、春山香代子
社　長　篠崎清

**★LLPW**
主要選手　神取忍、立野記代、ハーレー斉藤
社　長　遠藤美月

**★OZアカデミー**
主要選手　尾崎魔弓、ダイナマイト・関西、アジャ・コング
校　長　カルロス天野

**★息吹**
主要選手　松本浩代、Ray、エスイ
代　表　吉田万里子

**★アイスリボン**
主要選手　さくらえみ、真琴、希月あおい
代　表　佐藤肇

**★センダイガールズ**
主要選手　里村明衣子、DASH・チサコ、仙台幸子
社　長　新崎人生

**★伊藤道場**
主要選手　伊藤薫、浜田文子、上林愛貴
代　表　伊藤薫

**★WAVE**
主要選手　GAMI、桜花由美、春日萌花
代　表　竹石辰也

ゃないですか。でも、この業界はそういった約束が普通に無視されるわけですよ。「世の中にはこういうこともあるんだ」って思いましたね。

――やはり、プロレス業界というのは、いわゆるドンブリ勘定が多い世界なんですかね？

**甲田**　そうです……というか、そうでしたね。結局、自分が入った頃は、まだ全女があって、女子プロレスの一番トップと言われる団体が「借りた金は返さない」がモットーみたい会社だったんで（笑）。

――まあそうでしたよね（笑）。

**甲田**　トップの団体がそんな感じだったので全体的にそんな雰囲気があって。けっこう最近は変わったと思うんですけど。

――そんなこんながありながら、もう10年近く女子プロ業界に携わってきたわけですけど、ここ数年、プロレスは元気がないと言われ、その中でも女子プロレスは冬の時代なんて言われることも多いじゃないですか。

**甲田**　まあ、そうですよね。

――後楽園ホールでも大会ができなくなっている団体も多い中で、NEOでは後楽園でも定期的に大会を開催してるわけですが、よくここまで立て直したなっていうイメージも強いんですけど。

**甲田**　どうなんですかね？　ドラゴンゲートの岡村（隆志）社長が、『週プロ』さんのインタビューで「ウチはこの10年、右肩上がりだよ」って言い方をしてたんですけど、そう言われるとNEOもこの9年、ずっと右肩上がりなんですよ。

――それは凄いじゃないですか！

# この業界に入って、初めて人にだまされることってあるんだな、と

©NEO女子プロレス

昨年大晦日の後楽園大会には現在TNA所属のアメージング・コングことアッサム・コングが参戦。アメリカNo.2団体のトップレスラーだけに参戦交渉は困難をきわめたらしいが、最後は甲田社長の粘り勝ち。さすが、社長!

**甲田**　ただ、それはドラゲーみたいに10だったのが100になったのと、ウチみたいに1だったのが10になったのとは違うかもしれないですけど（笑）、まあ右肩上がりは右肩上がりなんで。そういうのもあるんで、先ほど言われたように〝冬の時代〟っていうのはよく言われてると思うんですけど、たぶんドラゲーの人にとっては実感ないわけじゃないですか？

――まあ、ないでしょうね。

**甲田**　そういう意味では、ウチも「女子プロレス冬の時代」ってよく言われるけど、自分に言わせれば「冬の時代」っていまだに言ってる人の周りが冬の時代であって、自分はそんなふうには思っていないというか。じゃあ、毎月後楽園ホールが満員になるのがあたりまえで、それに比べたらって言うけど、ウチは2ヵ月に1回の後楽園が満員っていうのを2年ぐらい続けていますから。

――そうみたいですね。

**甲田**　結局、昔、全女やガイアとかいい時代を経験した人たちが、「いや〜、冬の時代で」って言ってるだけであって、自分らにしてみれば、ここのところは安定してやってきてるんで、〝冬の時代〟と言ってほしくないなっていう気持ちはありますね。

――これから言わないようにします（笑）。『週プロ』では「ドラゲーに学べ」なんて特集もありましたが、ほかの団体で意識するところはあります？

**甲田**　やっぱり、ドラゲーさんは凄いと思いますね。今度ウチに入る予定の中3の子がいるんですけど、その子もやっぱりドラゲーファンなんですよ。その子も言ってたんですけど、彼女が住んでるところではドラゲーは地上波でやってるらしいんですね。

――ドラゲーは九州や名古屋とか、けっこう地上波でやってるんですよね。

**甲田**　九州の一般の人たちは、プロレスというと新日本とかノアっていうより、ドラゲーらしいんですよ。ウチに入ってる子でも二人がドラゲーファンでしたし。へんな話、ドラゲーの女子部っていうのができたら、女子プロは全部持っていかれるっていう危機感は凄くありますね。

――それは脅威ですよね。選手を育成するノウハウはバッチリありますし。

**甲田**　そういうのもあるし、やるとなったら「そこに入りたい」ってなるでしょうし。だから、そこに関しては凄い危機感はありますよ。それはやめてくれ、じゃないですけど（笑）。

――岡村社長に話を聞いたところ、いまのところ女子部の構想はないみたいですけど。

**甲田**　それはよかったです（笑）。でも実感としてあるんですけど、いまプロレス界に入ってくる女の子っていうのはドラゲーファンがほとんどです。逆に言ったらドラゲーファンが入りたくなるような女子団体はなんなのかっていうのは考えてますけどね。

――たとえばですけど、『kamipro』では女子プロレスはほとんど扱ってないわけですが、社長として意識することはあります？

**甲田**　やっぱり、『kamipro』を読んでいるような人たちって、女子プロは知らないとか興味がない人が多いと思うんですよ。でも、そういう人たちっていうのは、プロレスや格闘技に対してお金を払うってい

## 社長の一日 NEO女子プロレス 甲田社長の場合

**2月16日（月）**

**9時 起床**
メール確認。チケット予約メールに返信。ぴあ、ローソンのホームページ上でチケット残席状況を確認し、少なくなっているところに追加委託。本日の準備品確認など。

**10時 会場入り**
本日の会場でもある道場に到着。近くのジャスコでおにぎりを購入し、朝食兼昼食。イスを並べるなどの会場設営。選手と本日の試合に関してのミーティングや確認事項の通達。

**13時45分 客入れ**
当日券販売、もぎり、グッズ販売などの仕事。

**14時 試合開始**
試合中は音響係。この日はメインでアイスリボンの真琴に刃物で襲われるスキットあり。

**15時30分 大会終了**
会場の後片づけなど。

**16時30分 会場撤収**
いったん帰宅。適当に休憩しながら夕食にインスタントラーメン。ブログ執筆。ブログは完全に業務のため面倒でも頑張って更新。5月大会チケットデザインをイラストレータで行ない、プリントパックに発注。適当にネットで情報チェック。プロレスポータルサイトではブラックアイ2、カクトウログが主。新聞は読まないので、その他、世間一般ニュースもすべてネットからです。

**19時30分 打ち合わせ出発**
移動の電車内では携帯の『週プロモバイル』、『レディリンモバイル』などで情報チェック。ブログ閲覧。携帯にお気に入り登録されているのは、須山浩継さん、ロッシー、さくらえみ、高橋奈苗、華名、木村響子、植松寿絵、栗原あゆみ、Ray、コマンド・ボリショイ、中島安里紗、ピンキー真由香、市井舞、チェリー、息吹、藤本つかさ、石田亜矢子、千春、仲村由佳。

**21時 打ち合わせ**
新木場の喫茶店でフリー選手と今後の打ち合わせ。小腹がすいたのでトーストで夜食。

**23時30分 帰宅**
4月開催の九州大会のチケットにハンコを延々と押す作業。

**26時 就寝**

# 女子プロレス団体の場合 社長はつらいよ!!

うことに対しては免疫があるわけじゃないですか。

――まあ、そうでしょうね。

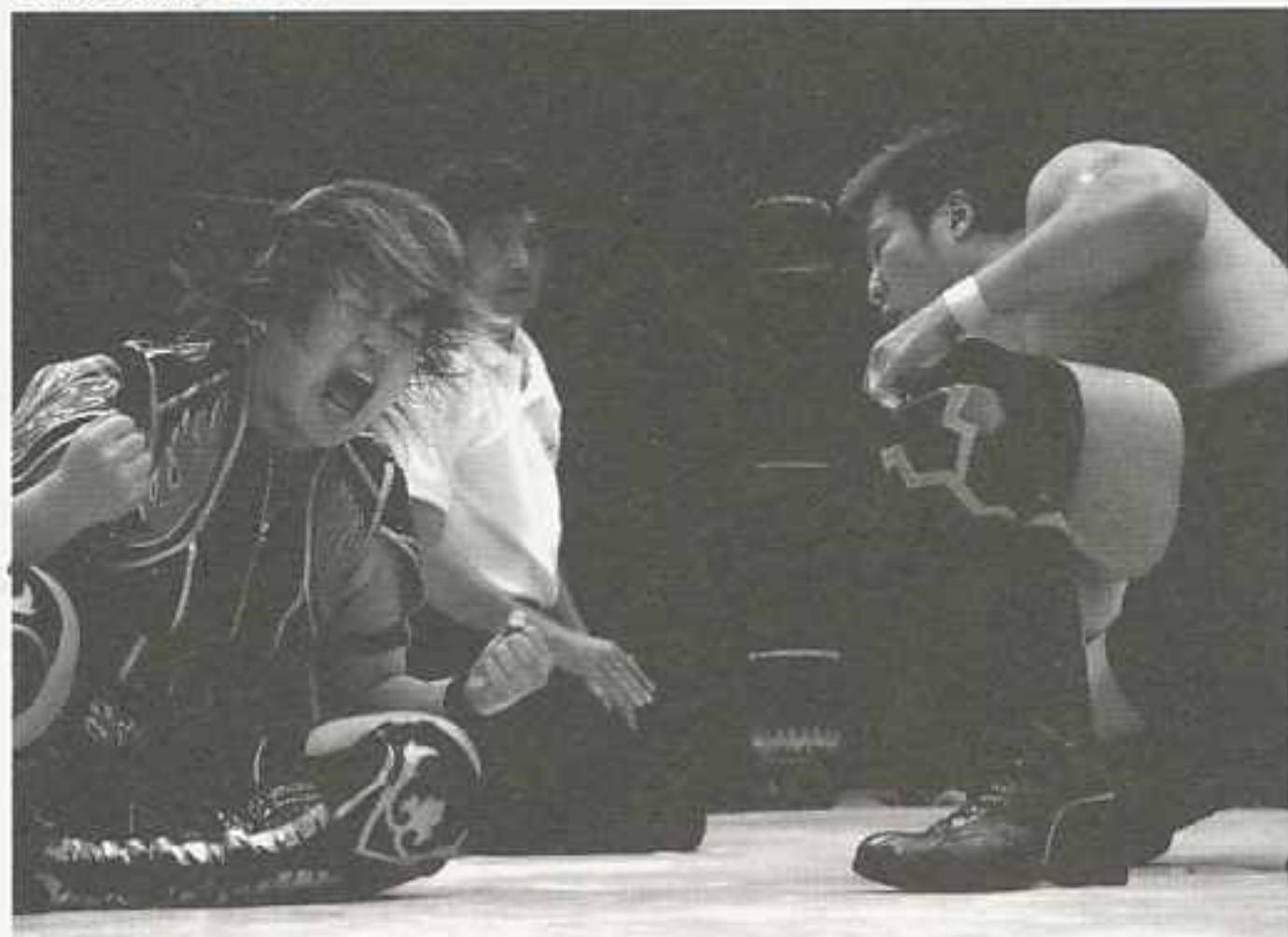
**甲田** そう考えたらプロレスを観たことがない人に対して、一生懸命「来なよ」っていうよりはハードルは全然低いと思うんですよ。なので、まずはそういう人たちに少しでも興味を持ってもらってパイを広げていきたいとは思いますね。

――そのためには具体的に何か考えていることはあります？

**甲田** いまはファンの人とかでもわかったかのように「もっと世間一般に目を向けないとダメですよ」って言うじゃないですか。自分に言わせると結局、世間一般イコール、地上波なんですよ。

――世間一般イコール、地上波？

**甲田** ええ。もうそれがすべてであって。どれだけインターネットで頑張ってプロモーションしようが、どれだけ雑誌に載せてもらおうと頑張ろうが、一番影響力があるのは地上波に出ることだと思うんです。結局、いまは世間一般の人たちが知ってる女子プロレスラーっていったら、ジャガー横田であり、北斗晶であり、神取忍の3人なんですよ。極端に言うと。

――その3人は地上波によく出てますからね。

**甲田** ウチらぐらいの世代だったら、アジャ・コングなんかもCMで瀬戸朝香と一緒に出たりして知ってると思うんですけど、いまの小学生や中学生ぐらいになると、テレビに出てない人は知らないわけですよ。結局、プロモーターからも言われるのはそういった知名度のある選手ですから。「ジャガーさん出れないの？」って言われたらこっちも動けますけど、「北斗さん出れないの？」とか「神取さん出れないの？」って言われても、どうしようもないんで。

――どうしようもないですよね（笑）。女子プロレスがブレイクするには、地上波の力がないと不可能ですか？

**甲田** そう思いますね。現実、地上波をつけれるかって言われたら夢のまた夢なんですけど（笑）。まあ、いまは段階的にほかのプロレスだったり格闘技は興味があるけど、女子プロレスは興味がないっていう人たちを取り込んで、後楽園をもっといっぱいにして、さらにその上もいっぱいにしていく中で、次の段階で地上波っていうふうに段階を踏んでいくしかないなっていう気がしてますね。

――話は変わりますけど、NEOのマッチメイカーは甲田社長だと思っていいんでしょうか？

**甲田** 全部自分です。

――他団体の交渉も含めて全部？

**甲田** そうですね。自分は思うんですけど、マッチメイクの合議制ってありえないと思うんで。合議制でいろんな人が意見を言うのはいいかもしれないけど、最後に決める人は誰っていうのがハッキリしてないことには絶対いいカードなんて生まれないと思うんですよ。

――10年近くやってるだけあって、実感がこもってますね（笑）。マッチメイカーとしては、昨年は元気美佐恵の相手として全日本の小島聡選手をブッキングしたわけですが、あの試合は内容も含めて評価が凄く高かったですよね。

**甲田** あの試合に関しては、元気が闘いたいと言ったことが大きかったと思うんですけど、確かにいろんなところで評価をしていただきましたね。アイスリボンのさくらえみさんは「プロレスラーが認められるってこういうことなんだ」って言ってたんですよ。元気美佐恵っていうのは、それまでずっと女子のトップでやってきて、認める人は認めてたかもしれないけど、本当の意味で認められたのは小島戦でしたからね。

――引退直前になってようやく認められた、と（笑）。

**甲田** そうですね（笑）。ホントに自分もマッチメイクして、「これが届くってことなのかな」っていうのは凄く感じたところがあったので。ホントに小島さんには自分も感謝してますね。

――普段、女子プロを観ないようなマスコミとかも小島vs元気戦は観に行ってましたからね。『東スポ』大賞の女子プロレス部門でノミネートされてましたし。

**甲田** そうですよね。『東スポ』大賞にノミネートされたっていうのは、言い方は失礼かもしれないけど、元気vs小島戦しかその年は女子プロレスの試合を観なかったっていう人たちも多かったと思うんですよ。

――それはあるでしょうね。

**甲田** そういう人たちに届くためには何をするかっていうのを考えていけば、自然と男子とか総合しか観ない『ｋａｍｉｐｒｏ』の読者にも届くものが提供できると思うので。そういうところを意識するのは大事なんだとあらためて思いましたね。

――そうですか。ちなみにいまNEOにはフロントは何人いるかたちになるんですか？

**甲田** 自分だけですね。9年間ずっとそうですけど。

――お手伝い的な人が何人かいるような感じで？

**甲田** 興行をやるときは当日券売り場に来てくれる人、売店に来てくれる人、音響係とか興行のたびにお手伝いをしてもらってる感じで、普段は誰もいないですね。

――正直、もう一人ぐらい人手がほしいんじゃないですか？

**甲田** いればいるにこしたことはないんですけど、その人に払うお金のことを考えたら、自分でやっちゃったほうがいいというか（笑）。

――ではこれからも一人で頑張ってください！（笑）。

**甲田** 頑張ります。3月は後楽園大会もあるんですけど、ウチでは一見さんとかしばらくプロレスを観てない人にも来てもらいたいっていう気持ちから、1500円という席を作ってるんですよ。

――それは激安ですね！

**甲田** まあ、1500円だったら、つまらなくてもあきらめがつくというのもあると思うので（笑）、ゼヒ『ｋａｍｉｐｒｏ』読者の皆さんも会場にお越しいただければと思っています。

【09年2月5日／都内・鶯谷にて収録】

## 男子や総合しか観ない『kamipro』読者にも観てもらいたいです

© NEO女子プロレス

翌月に引退が決まっていた元気美佐恵が男子のトップ相手にド迫力バトルを展開し、選手・関係者からも評価が高かったのが昨年11月の後楽園大会での元気vs小島聡の一戦。『ハッスル』よりも先にアイドルに試合をさせたこともある甲田社長には、話題性&内容ともにこの試合を上回るマッチメイクを期待!

# スガッスルとは何か？

**『スガッスル』の菅総統が降臨～!!**

**昨年の大晦日、長らく視聴率民放第一位を死守してきた格闘技番組をその座から引きずり降ろしたのは、『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!大晦日年越しSP!!』だった。第1部は桜庭vs田村の因縁に匹敵する(?)山崎邦正vsモリマン、第二部では『笑ってはいけない新聞社24時!』を放送。TBS『Dynamite!!』を上回る平均視聴率を獲得した。**

**中でも目を引いたのは、第一部の山崎邦正vsモリマンの最中、ガースーとしておなじみの菅氏が菅総統として突如降臨。『スガッスル』開催を宣言するや、佐々木健介、武藤敬司らプロレス界のトップスターが次々に登場し、試合を敢行！　とくにマスクマンのダイナマイト四国に扮したココリコ遠藤章造vs小川直也では、1年前に離婚した遠藤の元妻・千秋がキューティー元四国としてサプライズ乱入！　KO寸前の遠藤を救出したのだった。**

**そして、事前に何も知らされておらず茫然自失の遠藤は、ピカデリー梅田に促されるまま「千秋、愛してるよ～」と絶叫――！　極上の〝プロレス〟を見せつけるからたまらない!!**

**このように、視聴率ばかりか内容までも完敗を喫してしまった『Dynamite!!』、『ハッスル』……。こうなったらマット界を根こそぎブチ壊した菅総統に話を聞くしかないだろ！　スガッスル、スガッスル!!**

――いまのプロレス・格闘技界にとって「大晦日」と「お笑い」は重大なキーワードになっているんです。以前は大晦日に格闘技番組が3局同時に放映されたりしましたし、莫大な放映権料や世間へのアプローチという意味もあって、大晦日のテレビ放送はマット界に絶対に欠かせなくなっていまして。

**菅**　昔はフジテレビでもやってましたもんね。

――で、なぜ「お笑い」なのかといいますと、この時代にどういうふうにプロレスの魅力を伝えていけばいいのかという試行錯誤の末に、お笑いという手段を用いられるケースが多くなってるんですね。

**菅**　なるほどね。

――で、大晦日の『スガッスル』を拝見させていただいて、プロレス・格闘技界が手を焼いている「お笑い」、そして「大晦日」という壁をあたりまえのように突破しちゃったなというのが正直な感想だったんです。そこでぜひ管さんのお話を聞きたいなと思ったんですね。

**菅**　あ、そうでしたか(笑)。もともと『ガキの使いやあらへんで!!』(以下『ガキ』)を大晦日にやろうと思ったきっかけは、格闘技全盛のときに山ちゃんvsモリマンをやりたかっただけなんです。真剣に格闘技をやってる人たちから見れば「ふざけんなよ！」っていうことをやりたかった(笑)。でも、昔は上層部にまったく聞き入れてもらえなくて。本来は格闘技全盛のときにやるからこそ価値があるって感じがしてたんだよね、ボクは。

遠藤章造演じるダイナマイト四国に、元・妻の千秋のキューティー元四国が救出に現われた！　最近のテレビにありがちな、説明のテロップやナレーションが繰り返されることなく、しっかりとそのドラマ性を伝えるんだから脱帽だ。

## 『スガッスル』は、山ちゃんvsモリマン収録の場つなぎでした

――それは最高ですよね。その山ちゃんvsモリマンのあいだに『スガッスル』という架空のプロレス団体を取り入れたのは、どういう意図があったからなんですか？

**菅**　それはテレビ収録である前に一つの〝興行〟だと思ってたからですよ。入場料は取ってないですけど、収録会場のディファ有明に1000人以上のお客さんが来てるじゃないですか。いつものスタジオ収録とは違って、たびたび休憩を取ることはやりたくない。でも、山ちゃんの体力的な問題がある(笑)。

――あんなハードな試合をぶっ通しでやるわけにいかないですよね(笑)。

**菅**　それにネタの段取りもあるじゃないですか。そのあいだに収録を止めると、せっかく来ていただいたお客さんに申し訳ないですから。

――すると、あの『スガッスル』は、収録の場つなぎのためにやったということですか？

**菅**　そうです(キッパリ)。

――うわ～、その企画に『Dynamite!!』と『ハッスル』は視聴率はおろか、内容でも負けたんですねぇ。

**菅**　それに山ちゃんvsモリマンは18時半から約2時間も放送もしなきゃいけないってことを考えると、いくらなんでもそれだけでは厳しいなあ、と。だからボクらがめったに会えないような本物のプロレスラーに来ていただいたし、そうそう、そこでボクが一番感動したのは関根(勤)さんのジャイアント馬場さんだったんですよね(アントキの猪木と対戦)。

――あ、じつはボクもそうなんですよ!!　関根さんは馬場さんの死後、馬場さんのモノマネをずっと封印されてたわけですから。

**菅**　あれを生で観れるんだからテレビマンをやっててよかったなと思ったよね……(しみじみと)。ボクもまさかやってくれるとは思ってなかったですから。

――いったいどうやって実現したんですか？

**菅**　いや、そこは若手がやったことだからちょっとわからないですけど。実現しなかった猪木vs馬場で大晦日という舞台なら……という理由もあったのかもしれないですね。

――そんな奇跡的な出演を含めて、場つなぎ以上の仕上がりになったというか。

**菅**　そうなんですよね。申し訳ない

**『スガッスル』の菅総統が降臨〜!!**

**昨年の大晦日、長らく視聴率民放第一位を死守してきた格闘技番組をその座から引きずり降ろしたのは、『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!大晦日年越しSP!!』だった。**

**第1部は桜庭vs田村の因縁に匹敵する(?)山崎邦正vsモリマン、第二部では『笑ってはいけない新聞社24時!』を放送。TBS『Dynamite!!』を上回る平均視聴率を獲得した。**

**中でも目を引いたのは、第一部の山崎邦正vsモリマンの最中、ガースーでおなじみの菅氏が菅総統として突如降臨。『スガッスル』開催を宣言するや、佐々木健介、武藤敬司らプロレス界のトップスターが次々に登場し、試合を敢行！　とくにマスクマンのダイナマイト四国に扮したココリコ遠藤章造vs小川直也では、1年前に離婚した遠藤の元妻・千秋がキューティー元四国としてサプライズ乱入！　KO寸前の遠藤を救出したのだった。**

**そして、事前に何も知らされておらず茫然自失の遠藤は、ピカデリー梅田に促されるまま「千秋、愛してるよ〜!」と絶叫――――！　極上の〝プロレス〟を見せつけるからたまらない!!**

**このように、視聴率ばかりか内容までも完敗を喫してしまった『Dynamite!!』、『ハッスル』……。こうなったらマット界を根こそぎブチ壊した菅総統に話を聞くしかないだろ!　スガッスル、スガッスル!!**

――いまのプロレス・格闘技界にとって、「大晦日」と「お笑い」は重大なキーワードになっているんです。以前は大晦日に格闘技番組が3局同時に放映されたりしましたし、莫大な放映権料や世間へのアプローチという意味もあって、大晦日のテレビ放送はマット界に絶対に欠かせなくなっていまして。

**菅**　昔はフジテレビでもやってましたもんね。

――で、なぜ「お笑い」なのかといいますと、この時代にどういうふうにプロレスの魅力を伝えていけばいいのかという試行錯誤の末に、お笑いという手段を用いられるケースが多くなってるんですね。

**菅**　なるほどね。

――で、大晦日の『スガッスル』を拝見させていただいて、プロレス・格闘技界が手を焼いている「お笑い」、そして「大晦日」という壁をあたりまえのように突破しちゃったなというのが正直な感想だったんです。そこでぜひ菅さんのお話を聞きたいなと思ったんですね。

**菅**　あ、そうでしたか(笑)。もともと『ガキの使いやあらへんで!!』(以下『ガキ』)を大晦日にやろうと思ったきっかけは、格闘技全盛のときに山ちゃんvsモリマンをやりたかっただけなんです。真剣に格闘技をやってる人たちから見れば「ふざけんなよ！」っていうことをやりたかった(笑)。でも、昔は上層部にまったく聞き入れてもらえなくて。本来は格闘技全盛のときにやるからこそ価値があるって感じがしてたんだよね、ボクは。

遠藤章造演じるダイナマイト四国に、元・妻の千秋のキューティー元四国が救出に現われた！　最近のテレビにありがちな、説明のテロップやナレーションが繰り返されることなく、しっかりとそのドラマ性を伝えるんだから脱帽だ。

## 『スガッスル』は、山ちゃんvsモリマン収録の場つなぎでした

――それは最高ですよね。その山ちゃんvsモリマンのあいだに『スガッスル』という架空のプロレス団体を取り入れたのは、どういう意図があったからなんですか？

**菅**　それはテレビ収録である前に一つの〝興行〟だと思ってたからですよ。入場料は取ってないですけど、収録会場のディファ有明に1000人以上のお客さんが来てるじゃないですか。いつものスタジオ収録とは違って、たびたび休憩を取ることはやりたくない。でも、山ちゃんの体力的な問題がある(笑)。

――あんなハードな試合をぶっ通しでやるわけにいかないですよね(笑)。

**菅**　それにネタの段取りもあるじゃないですか。そのあいだに収録を止めると、せっかく来ていただいたお客さんに申し訳ないですから。

――すると、あの『スガッスル』は、収録の場つなぎのためにやったということですか？

**菅**　そうです(キッパリ)。

――うわ〜、その企画に『Dynamite!!』と『ハッスル』は視聴率はおろか、内容でも負けたんですねぇ。

**菅**　それに山ちゃんvsモリマンは18時半から約2時間も放送もしなきゃいけないってことを考えると、いくらなんでもそれだけでは厳しいなあ、と。だからボクらがめったに会えないような本物のプロレスラーに来ていただいたし、そうそう、そこでボクが一番感動したのは関根(勤)さんのジャイアント馬場さんだったんですよね(アントキの猪木と対戦)。

――あ、じつはボクもそうなんですよ!!　関根さんは馬場さんの死後、馬場さんのモノマネをずっと封印されてたわけですから。

**菅**　あれを生で観れるんだからテレビマンをやっててよかったなと思ったよね……(しみじみと)。ボクもまさかやってくれるとは思ってなかったですから。

――いったいどうやって実現したんですか？

**菅**　いや、そこは若手がやったことだからちょっとわからないですけど。実現しなかった猪木vs馬場で大晦日という舞台なら……という理由もあったのかもしれないですね。

――そんな奇跡的な出演を含めて、場つなぎ以上の仕上がりになったというか。

**菅**　そうなんですよね。申し訳ない

# 『スガッスル』は、芸人のある種の壮大なコントみたいなもの

ですけど、山ちゃんのほうがかすんだみたいなところがありましたけどね（笑）。そこはボクらの本意ではないんですけど。

——菅さんはその中で、〝菅総統〟を演じられましたけど、『ハッスル』はご存知だったんですか?

**菅**　知ってますけど、べつにやりたかったわけじゃないですよ（苦笑）。『ガキ』って20年以上前にボクが企画書を書いて、プロデューサーと演出をずっとやってきた番組ですけど、いまは編集所に行くわけでもないんです。で、若手がボクなんかをシンボリックなものとして『黒光り新聞』だとかいろいろと遊びたいんでしょ（笑）。

——菅さん個人としては、必要以上に『Dynamite!!』や『ハッスル』を意識されてはいなかったというわけですね。

**菅**　うん。そこに関しての意識はないですね。もちろん、個人的に録画をして後日、観させていただくっていうのはありますよ。そういえば、大晦日当日だったか元旦だったか、泰葉からメールがあったんですよ。「菅さんに負けました」と。「なんじゃ、コイツ」とか思いましたけど（笑）。

——泰葉さんとは古くからの知り合いだそうですね（笑）。

**菅**　まあ、自分らの番組に何かしら取り込んでるということはないですよね。結果的にそう見えたんなら、そうかもしれないですけど。ただ、そこに頼りきったパロディということではない。

——でも、今回の山崎vsモリマンや『スガッスル』は、格闘技以上にリアルだったし、プロレス以上に作り込まれたドラマがあったと思うんです。

**菅**　そう言っていただけるのは嬉しいですね（笑）。

——とくに遠藤さんと千秋さんの絡みなんかは、笑えるし、泣けるしで。

**菅**　あれはホントにダマテンですからね。遠藤くんはホントにまったく知らなかったわけです。だからこそ茫然自失な顔が撮れたと思いますし。

——最後にピカデリー梅田が出てくるタイミングも、最高でした!!

**菅**　あそこらへんは、現場の演出の連中がずいぶん育ってきて優秀になりましたから。だから、「笑ってはいけないシリーズ」のほうで言うと、ほぼ24時間、一瞬も収録を止めないんですよ。メシも含めて休憩が一切ない。演者も大変でしょうけど、次々に仕掛けないといけない演出のほうがもっと大変なんですよね。そういうところで言うと、（『スガッスル』も）あれぐらいはやんなきゃダメっていう。

——そうですか（笑）。

**菅**　あれ、お客さんがまったくいない状態っていうのは、まあ考えられないですけども、いない状態ならあそこまでの段取りのよさとか臨場感は一切出ないでしょ。

——何も知らされていない遠藤さんがとるリアクションによって内容も変わってくるでしょうしね。

**菅**　そこは完璧なリアクションをしてくれるだろうと思ってましたからね。『スガッスル』も芸人さんがやるある種の壮大なコントみたいなものじゃないですか。コントっていうのはオチが決まってるわけですよね。そこに向かっていかないと、オチも何もないのにやったって、ただガチャガチャやってるだけになる。「ここに向かってやります。そのための段取りはこうです」っていう流れでやるんだけど、それがいかにリアルであるかっていうのは問われてくると思うし、リアルじゃないコントって、いまの時代は受け入れられないです。

——リアルじゃないから引き込まれないということですね。

**菅**　だからいまって、純然たるコント番組は成立しにくいと思うんですよ。それはボクらにも多少の責任はあるのかもしれないけれど、ダウンタウンのフリートークだって基本的には漫才そのものだし、さんまさんの『恋のから騒ぎ』はボクが企画書を書いた番組ですけど、あれもある種のコントなんですよね。そのトークがあまりにもレベルが高くなったから、もう純然たるコントでは見せることは難しくなってるというか。

——リアルという話でいえば、山崎vsモリマンはどこまで決めてやってるんだろう?　って思ったんです。

**菅**　そうですね、最初に『ガキ』のレギュラー番組でショボくやったときは、山ちゃんはそれこそ「すいませんけど、ボク、本気でモリマンのパンツを脱がすかもしれませんよ!」って吠えてて（笑）。二人とも前貼りまでつけてやったんですよ。でも、モリオって強いんですよ。山ちゃんはまったく歯が立たなかった。一瞬でも山ちゃんが勝ちそうもない（笑）。

——ガッチガチの真剣勝負だったんですね（笑）。

**菅**　最初はホント一発で倒してましたからね（笑）。さすがにそれは「尺の問題もあるから……」っていう申し入れは、モリマンにしたかもしれなかったですけど。

——かといってべつに真剣勝負じゃないわけではないんですよね。

**菅**　うん。二人はマジですよ。こないだの大晦日でいえば、フォークダンス対決は、「音楽が鳴っているときはちゃんとフォークダンスをやってください」って伝えて、フォークダンスの先生もちゃんとフリを教えて。で、「あとはガチでやってください」と。

——試合は二人に任せているんですね。山崎さんは山崎さんで、自分の役割を理解しつつ演じてるわけですよね。

03年当時、大晦日格闘技番組の全盛期に山ちゃんvsモリマンをやりたかったと菅氏。03年の大晦日視聴率戦争で、日本テレビは『猪木祭り』で惨敗しているだけに、『ガキ』の民放1位奪取は何か因縁めいたものを感じるのである。

**菅** まあ、根本理念としてはそうでしょうね。「おまえが勝ってどうすんだよ!?」というのはありますし（笑）。

——ダハハハハ。でも、山崎さんは負けようと思って闘ってるわけではないですもんね。

**菅** そうなんですよ。負けようと思ってたら、やっぱりそれは所作で出ちゃうじゃないですか。そうなったらつまらない。だから、もう最終的にはボクらにはわからない、二人の息みたいなところがあるんだよね（笑）。実際に取っ組み合ってる二人にしかわからない何かがあるんでしょう。それは芸人としての息でもあるし、テレビで流れるという前提があっての真剣勝負ですから。

——そこはプロレスにも通じますねえ。話は変わりますが、TBSの格闘技番組って、純粋な格闘技番組というよりはショーアップされた格闘技を意識して作ってるみたいですけど、それはどう思われますか?

**菅** やっぱり格闘技でコアなファンだけを相手にしていたら、地上波で成立しないじゃないですか。5〜6パーセントの視聴率じゃソフトの価値はないですもん。やっぱり最低でも12〜13パーセント獲って初めてソフトとしての価値があるわけで。もちろんスポーツの文化は大事にしなきゃいけないけども、まず第一線でやるためにソフトとして価値があるのかってところが問われますね。

——文化の前にテレビソフトしてどうなのか。

**菅** まずはそこでしょ。だって地上波でやるってことは、そういう場所に出てきて評価を受けるってことじゃないですか。それがイヤだったらBSとか衛星でやんなよっていう話だから。地上波に出てくるってことは、まったく知らない人にもおもしろいと思わせなきゃいけない。それはスポーツだろうが芸能だろうがまったく同じことだと思うのね。だから、TBSさんのやり方は、ボクはまったく間違いじゃないと思いますね。そりゃあ純粋な格闘技ファンにとってみれば、確かにイライラするところはあるけれども、そこは妥協しないと放送しなくなってしまうわけだから。

——『ガキ』にしても、もっといい時間帯で流す話がたくさんあったそうですね。

**菅** 昔からありましたけど、ボクはずっと断ったんですよ。それは『ガキ』が『ガキ』じゃなくなるから。時間帯が変われば、やっぱりいろいろ変えなきゃいけないっていう。

——最近、深夜で好調だった番組をゴールデンにもってきて、まったく違う番組になって潰れてしまうパターンが多いですよね。

### スガッスルとは何か?

『スガッスル』には、武藤敬司、佐々木健介、小川直也など、世間に顔を知られたレスラーが参戦。芸人のプロレス参戦が相次ぐ中で、"芸人のリング" に混じることでレスラーの凄味を見せつけた。これってけっこう有効だと思う。

## 地上波では、知らない人にもおもしろいと思わせないとダメ

**菅** それは絶対にやっちゃいけないんですよ。でも、ゴールデンでやるからには、変えざるをえないんです。昔の『ガキ』は深夜1時40分からやってましたから、2年間も。で、いまでもあの時間帯（22時56分〜）だから、小学校低学年は寝ているという設定でやってるわけですよ。だから保護者とかPTAに苦情や抗議をされても、「それは子どもを寝かせないほうに問題があるんじゃないですか?」って反論できる。要するに、大人のためにやってるんだということですよね。ただ、ゴールデンタイムで流すとなると、小学生も観ているという条件のもとやらなきゃいけない。そうすると、いまの『ガキ』の内容では成立しないです。

——格闘技に置き換えても、それはよくわかるお話ですね。

**菅** で、大晦日に『ガキ』をやるときは、まず小学生も観てるんだという前提で作らなきゃならない。小学生にも多少はわかるようにしないといけない。

——いま格闘技で問題になってるのが、そこのバランスなんですよね。いろんな層に届けないといけないけど、そうするとどうしても軽くなってしまう。

**菅** そこは難しいですよねぇ。いまは年代によって興味はずいぶんと異なるし、すべての要素を満たしていたとしても、ヒーローにはなれないじゃないですか。ヒーロー不在の時代ですよね。

——力道山なんかはお年寄りから子どもまで認知されてましたけど、いまはあらゆる年代に共通したヒーローはどのジャンルにもいないですよね。

**菅** いないですねぇ。そのスポーツをまったく知らなくても、顔を見りゃあ名前がパッと出るのがホントのスターですからね。野球でいったら長嶋（茂雄）さんで終わりでしょうし。ボクサーでも、日本中すべての人が知ってる選手はいないですからね。

——逆にわかってもらおうとするのも、迷走しかねないでしょうね。

**菅** 「笑ってはいけないシリーズ」でいうと、ちっちゃい子どもが観ても一瞬にしてわからないところが往々にしてあるでしょ。で、「笑ってはいけない」自体の意図は、去年のオンエアぐらいからやっとみんなわかってくれたんですけど。以前は「なぜケツを叩いたりするんだ?」っていう苦情が殺到したんですよ（笑）。

——そうだったんですか（笑）。

**菅** なぜ痛い思いをしてまで人間は笑うかというところをボクらは見せたいわけですよ。叩くことじゃない（笑）。こっちが大仕掛けしてないところで、「こういうことで笑うの?」とかね。そこを突き詰めていくと、ちょっと哲学みたいなことにもなっていく。見てほしいのはじつはそこなんです。この企画はやっぱり松本人志

## 『ガキ』は視聴者の世代交代に成功。プロレスはどうなんですか?

という天才が考えた素晴らしい企画だと思うんです。芸人でありながら笑ってはいけない。ああ、この人はやっぱ天才だなって思うし、あの人の天才的な発想をボクらが映像にしていくわけじゃないですか。まあ、今回はクレームの電話とかはほとんどなかったです。

――しかし、それくらい世間はわかってくれないところはあるんですね。

**菅** 今年もなんとかやりたいとは思いますけど、ただ、もうパターンないぞ～という悩みもあるんですよ。山崎vsモリマンをまたやるのは厳しいでしょうし。

――あ、ホントですか。我々の業界にとっては、やらないほうが助かります(笑)。

**菅** アハハハハ。もし今年もやれば大晦日は4年目ですけど、定着するまで3年かかるんですよね。

――格闘技も大晦日にやっているとは認知されてるんですけど、いまは認知されてる選手が少ないんですよね。

**菅** ああ、そうなんですか。プロレスってファンの世代交代はしたんですか?

――いや、いまはテレビ中継も目立った時間帯でやってないですし、入ってくる間口が狭いので、世代交代がしきれてないんですね。

**菅** そっか。あのね、『ガキ』の視聴者層は世代交代したんですよ。昔は当時の中学生や高校生、若いサラリーマンがターゲットだった。それから10年経つと、ティーンはティーンじゃなくなっていく。新しい視聴者は増えていかない。そうすると空洞ができたんですよね。

――なじみの視聴者の中には観なくなる人も出てきますし。

**菅** 昔のレーティングは、一年間で20パーセントを切る週が一度もない年もあったんですよ。平均が22パーセント台っていう、気が狂ったみたいな時代もあったんだけど。

――バケモノですねぇ(笑)。空洞化したときは慌てました?

**菅** どこかで世代交代しないとヤバいだろうなとは思いました。で、それまでずっと「DVDを出そう」って言われてたんだけど、こういう時期に出したって意味がないと思ってて。そのとき「松ちゃんの一人ぼっちの廃旅館」っていう企画があって、それは『ガキ』の中でブツ切りにして4週か5週くらいにわたって流した。で、業界の人から「楽しみでしょうがないから。いっぺんに見せてくれる?」って文句を言われて(笑)。確かにもっともな話だから、深夜にまとめて流したんですよ。そしたらもの凄いみんな喜んでくれたから、「待てよ、このタイミングでDVDを出したほうがいいんじゃないかな」と。そしたらやっぱり枯渇感ってあるから、どうしてもほしいんでしょうね。30万セットぐらい売れたんですよ。

――『ガキ』で放送して、まとめて再放送したにもかかわらず!

**菅** で、そのときにその時代の中高生がバクッと食いついた。こんな番組は観たことないって。それで一気に世代交代したんですよ。だからいまの『ガキ』のターゲットは、完全に昔の視聴者はどいてもらってます。

すが・けんじ■"ガースー"の愛称でおなじみの名物テレビマン。現在、日本テレビ制作局次長。『ガキの使いやあらへんで!!』以外にも、多くの人気バラエティ番組を企画。『ガキ』には出演者として頻繁に登場、裏でも表でも欠かせない存在である。

「ほかはもう完全に無視していい。観たってもうわかんないんだから。そういう作りをしなさい」って。だって、往年のスターが当時のままのファンに囲まれてるという絵って、ちょっと痛々しいじゃないですか。たとえばサザン(オールスターズ)が凄いのは、いまの中高生だって大好きだし、お父さんやお母さんも一緒に共有できるところですよ。そこには戦略は絶対にあると思いますけどね。

――昔と同じことをずっとやってるわけじゃないでしょうね。

**菅** うん。だから『ガキ』は昔のほうがもっと乱暴なことをいっぱいやってましたよね。「どうせ誰も観てねえんだから、好き勝手にやるぞ!」みたいな。それが『ガキ』のテイストでもあったし、ポリシーでもあったんですけど、ただ20年前のテレビの状況といまとは、まったく違うしね。当時の世代交代がうまくいかなかったら、『ガキ』も厳しかったでしょうね。

――大晦日の放送もなかったかもしれない、と。

**菅** なかったでしょうね。『ガキ』を大晦日にやるってことは、一年に一回のボクらの意地なんですよね。いまは笑いに携わってる人間として、いまはショートセンテンスのお笑いだけっていう状況の中でね、芸人が性根を据えて、身体も張ってる。笑いに携わってる人間として「これがホントの笑いなんじゃないの?」と。「ですよ」とは思わないけど。「これぐらい1から10まで計算して、演出もして、それでも必死に、真摯に、笑いって突き詰めなきゃいけないんじゃないの?」っていうボクらの気持ち、意地の張り方が詰まってるんです。いまのままでは、司会ができる芸人というのは生まれてこないと思うんです。だって2分しかしゃべれないんだもん。そんな人に1時間番組の司会は任せられない。だって1時間番組をやるってことは、収録の3～4時間のあいだ、ずっとしゃべってるってことですからね。

――いまのお笑いの土壌では厳しいんじゃないか? と。

**菅** ショートセンテンスの芸ばかりをやっている以上は誰も出てこないです。もちろん、いま出てる芸人たちがニセモノだとは思ってないけども、ホンモノとしての力を出すスペースがないっていうのが、かわいそうだなあとは思うんですよね。だから『さんま御殿』なんかは、若手の芸人さんをゴールデンタイムの番組に出してあげないとと思って始めたんです。

――これもマット界に通じる話ですね。

**菅** 新人の歌手も出れない、ましてやお笑いの若手なんて出るスペースがない。10年前ってそういう時代だったんですよ。そこで明石家さんまというスーパースターの力を借りて始めた。そこで若手が顔を売って、スターになってくれれば、何チャンネルに出ようが、そんなことはボクにはどうでもいいわけで。

――そうすると、今年の大晦日も菅さんの意地が見れそうですね。

**菅** まだ放送するかわからないですけどね。でも、やる気はあります(笑)。

――怖いなあ。でも、期待してます!(笑)。

【09年2月6日/日本テレビにて収録】

# 強さ”である!!
# マッスル坂井

昨年、出版されたマッスル坂井監修の『八百長★野郎』(小社刊)をあの水道橋博士が大絶賛! これをきっかけに、いまやすっかり『マッスル』中毒に。博士の大ファンだった坂井も激しく呼応し、相思相愛対談がついに実現!

聞き手/真下義之 撮影/タイコウクニヨシ
大会撮影/平工幸雄

# "笑い"とは"強

# 水道橋博士×マ

## 文系"相思相愛"対談‼

『マッスル』中毒の博士と、博士信者の坂井が初対面‼

**博士**　どうもどうも。アレ、今日が初対面だっけ？（笑）

**坂井**　はい。でも全然、初めて会った気がしません（笑）。

――そんな"相思相愛"対談が実現しました。この対談はもともと坂井さんが博士さんの大ファンで……。

**坂井**　（さえぎって）というか僕、パソコンを買って、最初にブックマークしたのは博士さんのブログですから！　それに博士さんが新宿のDDT事務所の近辺を、ｉ－ｐｏｄを聴きながら疾走する姿だって何度も目撃してるんですよ！

――なるほど（笑）。で、昨年、博士さんが坂井さん監修の『八百長★野郎』（小社刊）を読まれて、『マッスル』にハマり、ついに初対面ですね。

**博士**　最近は、毎日、『マッスル』漬けだ。昨日も朝6時まで『マッスル』のDVDを観てたから……まだ、夢の中にいるようだよ（笑）。

**坂井**　それ完全に、ただの寝不足じゃないですか！（笑）。

**博士**　もともとは、ウチに何度もDVDを持ってきて、「まだ観ていないんですか？」とか執拗にアプローチする人がいてさ。そこの（阿修羅）チョロくんなんだけど（笑）。

――ワハハハハ！

**博士**　彼は本来、差し出がましいことって一切しない性格だし、そのチョロくんほどのボンクラがこれほどの熱意で他人を売り込むって相当なことだと思ってね、観るようになった。

**チョロ**　……どうもすみません。

**坂井**　僕も何度かチョロさんに、「一緒に博士さんの家までついていって、自分からも直接お願いしてみます！」とか言ってたくらいですもん。

――ハマった一番のきっかけは、やはり『八百長★野郎』ですか？

**博士**　そう。この時点で、『マッスル』を観てなかったけど、本を読んだだけで、"才能の埋蔵量"を確認できたし、「この人、もう才能証明は終えてるじゃん」と思った。それで"才能"の先物取引は、もともと好きだから、ハマった。

**坂井**　な、なんてことを言いだすんですか、いきなり！

**博士**　もう、プロレス油田は底が見えてて、掘りつくしたのに、代替エネルギーを発見！　みたいな、「さとうきびでエタノールを作るのを実用化してんだ」って感じなのかな。やっと、遅れてきた"アントンハイセル"が実現しているみたいだな。

**坂井**　こじつけますね～。

**博士**　で、「この人は劇作家なんだな」と思いつつ、「焼け野原のプロレス界によくぞ、こんな才能が現われたな」と。お笑いで言えば、リングというフリップを与えられ、かたちを変えた大喜利に、常にいままでにないユニークな答えをしているな、と。ただ今後、武道館とかに向かうなら、「その先、行き場がなくなるんじゃないか？」っていう不安はあるよね。（格闘探偵団）バトラーツの法則というか。トラウマがある。

――両国国技館まで到達し、そこでピークを迎えてしまったバトラーツのようになってしまうんじゃないか、と。

**坂井**　いや、そもそも、みんな『マッスル』を"通過点"とか、"踏み台"としてしか捉えてないですから（笑）。

**博士**　あと、こうやって精神的ストリップをしながら、自己言及を続ける人が、松尾スズキ（劇団『大人計画』主宰）みたいに、「うつ」とか、精神崩壊とか破滅的な方向に行くのでは？」とも思った。それから、「俺が本から想像した劇空間が、文章で読んだものより劣るんじゃないか」って思ったけど、DVDで実際の試合を観て一番、痛感したのは……。

――おお、なんでしょう？

**博士**　マッスル坂井は、デビル雅美に似ているってことかな（笑）

――そんな感想ですか？（笑）。

**博士**　いや、「この人は仲間を見捨てない人だな」って……（しみじみと）。

**坂井**　そこですか⁉

### 対談の"原点"はこの2冊にアリ！

『筋肉バカの壁（博士の異常な健康PART2）』
（水道橋博士著／アスペクト）
坂井が絶賛！　生粋の文系人間の博士が肉体改造に挑み、「東京マラソン」に挑戦したドキュメント。

『八百長★野郎』
（マッスル坂井監修／小社刊）
博士が絶賛！　カミングアウト時代の観客論という視点から、『マッスル』の魅力を掘り下げたプロレス再入門書。坂井の対談、インタビューも収録。

——ワハハハハハ！
**坂井**　いや、くしくもそういうことを、ここ1年よく考えていました。
——作家として一人だけ違うステージに行くのではなく、『マッスル』の仲間は捨てない、と。
**博士**　『マッスル』に留まる理由が本だけではわからなかったけど、実際、このリングに引き寄せられている個々のレスラーを観て「これは捨てがたい魅力あるなぁ」って。
**坂井**　1試合、5000円以下のギャラの人ばっかり集めて始めた興行なんで、もう素直に嬉しいです！
**博士**　あと、AVのバクシーシ山下監督（★注1）も思い浮かべちゃうんだよ。
——リアルな作風で知られる社会派のAV監督ですね。
**博士**　汁男優の活かし方、距離感とか。フックのかかる物語を創る方法論が似通うなぁって。バクシーシはビデ倫で発売禁止になるような作品群もあって、AVなのに「抜けない」って世界観があるじゃない。『マッスル』もプロレスなのに強さでもなく、エンタメじゃないって部分が似通うよね。ただ、俺も、このアングラ感、抜けの悪さには、「プロレスのインディーなんかと関わってはならない！」みたいな気持ちもある（笑）。
**坂井**　これ、しっかり書いといてください（笑）。
**博士**　でも、俺も『浅草お兄さん会』（★注2）っていう〝団体〟を率いていた時期があったじゃない？
——浅草キッドが主宰してたハチャメチャなライブシリーズですね。
**博士**　ターザン山本をフルチンにしたり、鈴木その子や小川直也を出したり。興行としてエスカレートしていったんだけど、俺も行き詰まった。結局、団員たちに行き場を見つけてあげられなかったから。のちに東京ダイナマイト、U字工事、マキタスポーツ、鳥肌実も出たから、「いい団体だったな」とは思うけど（笑）。当時は、彼らに所属事務所を探してやれなかったから、「自分でマネージャーをやるしかない」とまで考えてさ。

博士の言う「かたちを変えた大喜利」のごとく、斬新なコンセプトを提示し続ける『マッスル』。才能証明を終えたあと、よりプロレスの本質に向かうのか？

**坂井**　そこまで考えましたか？
**博士**　でも、それをやったら、芸人として自分のことができなくなるし、「出口がない」と思いつめたよね。
**坂井**　『マッスル』のレスラーは、本来、レスラーになれないのに、なりたくてなってる人がほとんどで、すでに、夢がかなっちゃってますから。
**博士**　だけどね、現実は夢の向こう側があるじゃない。劇団っていうベクトルは小劇場から紀伊國屋ホールを目指すとか、ゴールを見つけていくけど、普通、役者をプロダクションに預けたら作家は離れていくじゃない？　役者を食えるようにして安心するじゃない。長い人生、ずっと汁男優ではいられないから。
——そんな博士さんは、マッスル坂井の分身であり、『マッスル』総合演出家・鶴見亜門に関しても「古舘伊知郎レベルの才能」と絶賛されてましたね。
**博士**　あ、鶴見亜門は売れるんじゃない？
**坂井**　マジっすか！
**博士**　あのしゃべりはオバマ大統領の演説能力に匹敵するんじゃない（笑）。
**坂井**　ほめすぎですよ（笑）
**博士**　じゃあ、スピーチライターが凄いんだよ（笑）。そういえば、先週、日生劇場で藤原紀香さんが出る『ドロウジー・シャペロン』（★注3）っていうトニー賞を獲ったミュージカルを観に行ったの。くしくも宮本亜門さんが演出してたんだけどさ。
**坂井**　元祖・演出家キャラですね（笑）。
**博士**　で、冒頭で小堺一機さんが、レコードをかけながら、架空のミュージカルを解説するんだけど、「ミュージカルって、苦手なシーンがたくさんあるんですよ、お客さんのところに降りて、唄いだすときの困りようったらないでしょ？」とか言うの。
——ミュージカルの構造に言及するわけですね。
**博士**　そう、劇中でミュージカルそのものを風刺するわけだけど、この二重構造の解体ぶりは「何かに似てるな？」と思ってたら、「そうだ！鶴見亜門だ！」って。
**坂井**　ワハハハハハ！
**博士**　完全に本末転倒なの（笑）。でも、いまの俺には共演の川平慈英すら、『マッスル』のアントーニオ本多に見えちゃうのよ
——『マッスル』の見すぎですね（笑）。
**博士**　これは、ブロードウェイじゃなく、『マッスル・ミュージカル』かって（笑）。「なんで日生劇場の商業演劇を見ながら、俺は『マッスル』と比較してるんだ」と（笑）。
**坂井**　……それは、もはや博士さんのほうの問題であって（笑）。
——一方、坂井さんもウチの携帯サイトで、『筋肉バカの壁』（アスペクト）を絶賛されてましたよね。
**博士**　嬉しかったね。ただ、俺は老眼で、携帯の文字って読めなくてさ（笑）。
**坂井**　僕の中では、あの本は、現代にマッチした活字プロレスだと思うんですよ。それまでの博士さんが『お笑い男の星座』（文春文庫）や『本業』（文春文庫）とかでプロレスメディアがやっていたプロレスや格闘技をドラマチックに描くスタイルから、完全に脱皮したじゃないですか。
——ドキュメント色が強くなって。
**坂井**　有益な情報も入ってて、普通の人が感じてる閉塞感にも有効だと思うし。昔は、芸能人やプロレスラーとか、きらびやかなスターを見て出ていた幸せの脳内物質……いわゆる〝セロトニン〟が出て、それでみんなハッピーになっていたんです。いまの時代、景気悪いし、スターもいないし、どこに行くにもチケットは高い、と。じゃあ、他人が作った何かを享受して、どうこうしてもらおうとするんじゃなくて、自分で目標を作ってトレーニングしてると、それだけで幸せを実感できる生活が見つけられるんだなって。
**博士**　……俺はね。サブカルを享受する側にいる人っていうのは、精神に欠落の多い〝人生の障害者だ〟と思ってるのね。
**坂井**　うわ〜！　つまり、マイノリティですね。
**博士**　でも、サブカルって始まってから30〜40年ほどだから、加齢してからの対処の方法ってないのね、それで振り切って、あえてこういう本を書いてるの。自分自身が「俺はサブカル育ちだから、結婚や子どもを育てたり、まっとうな人間にはなれない」と40歳くらいまで思ってたんだよ。同時に「芸人として、たけしさんにもなれない」とも思ったし。
——坂井さんも『八百長★野郎』で「シーザーを知るためには、シーザーになる必要はない」と言ってましたね。
**博士**　ホント、そのとおりなの！　たけし軍団に入ったとき、「たけしさんをなぞろう」と思ってムチャクチャやったけど、なれないことが30歳くらいでわかったの。それと、坂井さんも以前、『kamipro』の記事で「お笑い＝強さである」と言及してたね。
**坂井**　ええ。「芸人もプロレスラーも強いヤツが勝つ」とか「テレビの世界は、芸能人のパワーバランスの強さで笑ってるんだ」とか。
**博士**　それも常々思ってたことなんだよ。20年くらい前にダウンタウンの『ガキの使いやあらへんで!!』（日

## 「焼け野原のプロレス界によくぞ、こんな才能が現われたな」と（博士）

## 『マッスル』のみんなは“通過点”や“踏み台”と捉えてます（笑）（坂井）

本テレビ系、★注4）が始まって、最初の感想は「この人たちは強い！」ってことなの。これは同じ競技やってるからわかる皮膚感なのね。「強さ」って。「お笑い＝強さの絶対値」って指摘は、そのとおりなんだよ。だからこそ、マイク1本のフリートークであれだけ強い人がいるなら、逆に「1カ月ネタを考えて、作り込んだ漫才をやろう」とかね、「異端の人を使って猛獣使いで傑出しよう」とか、自分の出場する競技のルールを変えてるの。自分の戦力を、そこに適応させてるのね。『マッスル』もレスラーとして、弱いからこそ、方法論を変えてリングに適応させてるでしょ。

**坂井** 僕は、ここ10年で一番才能のある人が集まったのはお笑い界だと思うんです。それも結局、吉本興業の芸能の天才たちが作ったシステムに乗ったからでしょうし、お笑いブームもプロレスの天才・力道山が作ったシステムと一緒だろうな、と。

——力道山も、山口組や吉本興業と組んで、地方巡業のシステムを設定したうえでブームを起こしましたし。

**博士** でも、ホントの強さってそこなのよ！　ビートたけしも松本人志も、発想や能力も天才的だけど、そのポジションを、「何人たりとも、奪うことは許さない」というヒエラルキーを構成し、ボス猿として君臨するところまで含めて才能なのよ！

——力道山が絶対服従のヒエラルキーを作ったように。

**博士** 新日本プロレスがアントニオ猪木の座長芝居でしかないようにね。でも、坂井さんも、バラエティの大喜利大会の『ダイナマイト関西』（★注5）に出場して決勝に行くわけじゃない？　いまプロレスよりお笑いのほうが上位概念だから、そこを研ぎすませば、飛び級だってできるんだよ。いまの時代は、長州小力のほうが多くのレスラーより報酬を受けるわけでしょ。それに発想を完成度に変えるなら、うしろ盾として製作費も必要だし、そこをちゃんと整えてから、踏み出す方法もあるでしょ。

**坂井** ぜひ、教えてください！

**博士** 俺はいま苫米地英人（とまべち・ひでと、★注6）って人にハマってんの。脳機能学者であり、言語学者なんだけど、功績をわかりやすく言えば、たとえば〝ことえり〟の開発者なんだけど。

**坂井** あ、マック（Macintosh）の言語システムの！

**博士** 頭がよすぎて、ほとんどバカみたいにしか見えないけど、間違いなく天才で、自分で「彼らが真価がわかれば、ノーベル賞も当然もらえる」って断言するくらいなんだけど。この人、まともな研究の一方で「オッパイが大きくなる着うた」なんて、いかがわしいビジネスも平気でやっててね。もろもろおもしろい話はあるけど省くね。凄く興味深いのは、前田日明や『THE OUTSIDER』も後援しているのよ。ちなみに、角川春樹さんの後援者でもある。

——へぇ——っ。

**博士** いま、前田日明と角川春樹を押さえているってだけでも異端じゃない？　普通じゃないよ。

**坂井** どんだけ凄いんすか⁉

**博士**　で、『八百長★野郎』の中で、菊地成孔さんが「いま、観たいのは大別してA系とB系だ」と言ってたじゃない？

――かつて『ハッスル』というサーカスとPRIDEというボクシングを持っていたDSEが、リング上のカルチャーの両極を支配してたけど、いまの両極はA（アキバ）系の『マッスル』とB（ブラック、ヤンキー）系の『THE OUTSIDER』だ、と。

**博士**　それを読んで、「なんだ、苫米地英人と『マッスル』を結びつければ、A系とB系を傘下に収められるじゃん」って。『マッスル』と〝前田日明〟が結びつけば、これは究極の化学反応だよ。苫米地さんは孫正義ともつながってるから、資本提携を受けてソフトバンクもついたら、メガネスーパーどころじゃないよ！

**坂井**　なんてデカい話なんだ……。

**博士**　苫米地さんって洗脳の専門家だから、『マッスル』の興行の陶酔感をより専門化、実験できるでしょう。

**坂井**　観客を洗脳状態にするわけですね。

**博士**　あるいは、坂井さんが『八百長★野郎』で言ってた、「最強の団体になるため、大相撲化を推し進める」と。そのためには、横審の内舘牧子に『マッスル』を観てもらう。彼女だって脚本家でプロレスマニアなんだから、『マッスル』の真価はわかるでしょう。

**坂井**　そうですか？　わかりますかね？　「趙雲子龍は美しい」って思いますか？（笑）

**博士**　洗脳次第だよ。で、根回しの末、文科省の財団法人に認可される（笑）。

**坂井**　なるほど。だんだん洗脳されてきた（笑）。

**博士**　でも、脚本家として内舘さんの感想には興味あるから、チョロくん、DVD持っていってよ（笑）。

『マッスル』の「最高傑作」と評価が高いのが、07年5月、鈴木みのる登場の『マッスルハウス4』。『マッスル』的世界観を超えて、プロレスの醍醐味を表現しきった。

**チョロ**　了解しました（笑）。

**坂井**　じつは洗脳とか脳科学とか、いまずっと考えてて、結局、一番早いのは生活をドラッグにするしかないんじゃないか、と。『筋肉バカの壁』はそういう本だし、科学でも証明されてるんです。LSDでもエクスタシーでも、どんなに上質なドラッグをやったとしても脳内から出る物質には限界があって、一番頭の中に多幸感を感じる数値って、女性が出産したときに初めて子どもを見たとき一番出るようプログラムされてるらしいんです。それがあるから親は子どもを育てるし。どれだけの量のドラッグでもその瞬間、脳内に放出されるセロトニンの量にはかなわないらしいですから。

**博士**　「日常の中にも、〝それ〟はある」ってことだよね。

**坂井**　そういう世界すらも『マッスル』で描きたいけど、ホント、タブーっぽいことを興行でやると、心配されるんですよ！　僕らが、〝死〟をテーマにしたときもそうでしたし、単純に下ネタだからダメだって反応する人もいるし、どこに地雷があるかわからないですね。

**博士**　俺は『マッスル』が取りあげたテーマで「これはない」と思ったことはなかったけどね。ただ、坂井さんが自己言及するのは、永遠に続くだろうけど、それを出来不出来で評価するのは批評的すぎるね。作家の気持ちがローならローのものを観たいわけだし。むしろ、いま自分の内面世界を表現するから、息苦しいでしょ？

**坂井**　そう、自分の話以外なら、いくらでも書ける気がします。

**博士**　宮藤官九郎なんて本職の演劇ではなくて、テレビドラマなら息を吐くように脚本を書けるわけだから、それと同じだよ。

――逆に、プロレスから離れた博士さんが、『マッスル』だけは評価されてるのもおもしろいなって。

**博士**　普通のプロレス中継は反応しなくなったね。でも、鈴木みのるが出た回（『マッスルハウス4』）なんか、オチを知ってても全然おもしろくて、「これが普遍的にドラマチックってことなんだな」と感心した。……ただ、いまのプロレス界は、「橋本真也vs小川直也みたいなことをなんでやらないんだろう？」とは思うな。

**坂井**　あれをリアリティを持ってできるキャストがいま集められないからじゃないですか。あれはアントニオ猪木の狂気や、小川直也、橋本真也という大スターが存在して初めて成立すると思うんです。僕が晴れてスターになった暁には、絶対やりますよ！

**博士**　あの試合は一見、二人が共存共栄してるように見えないから、謎めくし、なんであれほど興奮しながら、何回も繰り返し観たのかなって。

**坂井**　そういう熱狂ポイントで言うと、僕みたいなレスラーが鈴木みのるさんと試合したら、直感的に「ハマるだろうな」と思ったし、『マッスル』という一つの物語があるとするなら「これ、事実上の最終回だよなあ」とも思ったんです。若手が先輩に立ち向かう構図やサプライズ要素、ファンがおもしろがるサイコロジーがすべて詰まってたし、僕らが提供できるプロレスのおもしろさはすべて表現しきっちゃったので、「あの麻薬感は超えないだろうな」と。

**博士**　確かに、あれは〝プロレスの向こう側〟に到達してる気がしたな。

――そんな『マッスル』や、マッスル坂井は今後、どうなっていったらいいと思いますか？

**坂井**　ちょっと、そんな重要なことサラッと質問しないでくださいよ（笑）。

## 〝相思相愛〟対談注釈

**注1★バクシーシ山下**

レイプ作品『女犯』（VRプランニング、写真）など、リアルかつドキュメンタリータッチの作品群と特異なキャラクターの汁男優を使うことで知られる「抜けない」AV監督。

**注2★浅草お兄さん会**

97年から浅草キッドが主催した新人発掘目的のお笑いライブ。回ごとにエスカレート。ターザン山本が全裸まんぐり返しなど、異様な熱を生むも2000年で終了した。

**注3★『ドロウジー・シャペロン』**

ブロードウェイミュージカルを藤原紀香、小堺一機らのキャストで、日本で舞台化。演出は宮本亜門。ミュージカルおたくの妄想が物語として展開する。

**注4★『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!』**

日本テレビ系で放送。破天荒な企画のオープニングとダウンタウンの話芸が堪能できるフリートークの2部構成。いまや日テレを代表する長寿番組。

**注5★ダイナマイト関西**

バッファロー吾郎の木村明浩が主催するお笑いイベント。形式は、大喜利の勝ち抜きトーナメント。マッスル坂井は、07年6月に準優勝している。

**注6★苫米地英人**

脳機能学者、計算言語学者、認知心理学者など、様々な肩書きを持つ。オウム信者の脱洗脳も担当（写真は『洗脳原論』春秋社）。

ここだけノートとっていいですか?

**博士** どの業界もいつも才能を探しているから、新しいクリエーターに『週刊真木よう子』を一本お願いします」みたいな話は絶対に来ると思う。それもかたちを変えた大喜利じゃない? いまの『マッスル』を観て、チープだとか限界があるってことは誰でもわかるけど、それは単純に制作費の問題だけだもん! ただ、違う業界のオファーが来たときに「照れるか、照れないか」ってのは問題だよ。文系で伸びてきた若い人って才能に照れたり、先輩を持ち上げすぎて遠慮しちゃうから。

——博士さんもそういう部分は?

**博士** 照れる。ただ、20何年やってるから、自分の性能と折り合いつけてるけど。ビートたけしや松本人志的な、強くて最高に完成されたものじゃなくても道はあるし、自分の性能を分析して、「この道を行けば、確実にここに到達する」ってナビゲートする、抽象度の高さは重要だよ。だから、自分の話ではなく、他人の話なら、まるで息を吐くかのように脚本が書ける坂井さんも、自分の才能量を意識して、もっと抽象度を高めて先の道を見ながら進むべきだと思う。

**坂井** なるほど……(真剣な表情で)。

**博士** プロレス界の大洪水のあと、ノアの箱舟の舵取りは任されてるわけだし。「もう出港してるんだ」って意識があれば引き返せないし。でも、そこで一人で泳いで、凄い動力とスクリューの船を持ってきて、曳航するイメージも方法論としてアリだろうし。

**坂井** 2年前に「会場は受けてるけど、外ではどうなんだ?」「北沢タウンホールや後楽園ホールだけ、と言われたら悔しいな」と思ったときに『ダイナマイト関西』に出たんですが、それってプロレスラーが総合格闘技に出るのと同じですよね。

——笑いという強さの測定ですね。

**坂井** そういう場で強さを証明すれば、お客さんに「僕らの笑いも本物なんだ、と見てくれるかな」って。

**博士** だからこそ、世間も無視できなくなる。ただ、いままで俺に勇気を与えてくれたプロレスラーたちが最終的に本人が報われない限りは、心から「ありがとう」とは言いにくいじゃない? だから、『マッスル』も大成功してほしいよ。みんなが危惧する袋小路の可能性もあるけど、オセロにも必勝法があるように、世の中には必勝法や迂回路はあるんだから。

**坂井** あ、オセロは強いです(笑)。

**博士** 四隅を取ればいいのは、誰でも知っている。ただ、ビートたけしも松本人志もオセロの四隅の取り方から、ヒエラルキーの作り方、後輩やスタッフへの恫喝、人心掌握の仕方まですべて見えてるから、才能を証明し続けられてるわけだよね。

**坂井** 景気が悪くてテレビ界に予算がなくなるんなら、「そういう理由で仕事を振ってくれてもいいのになぁ」と。僕、超ギャラ安いですよ!

## ビートたけしや松本人志的な最高に完成されたもの以外にも道はある(博士)

## プロレスラーが総合に出るような気持ちで『ダイナマイト関西』に出た(坂井)

まっする・さかい■本名、坂井良宏。1977年11月5日生まれ。新潟県新潟市出身。有限会社DDTテック代表、早稲田大学第二文学部在学時にDDTに参加。04年10月には『マッスル』を旗揚げ。お笑いへの進出、短編映画作品の監督など、その多彩な才能ぶりが注目を浴びる。監修を務めた『八百長★野郎』(小社刊)が絶賛発売中。186cm、120kg。

すいどうばし・はかせ■本名、小野正芳。1962年8月18日生まれ。岡山県倉敷市出身。明治大学経済学部中退。86年にビートたけしに弟子入りし、87年、相方の玉袋筋太郎と「浅草キッド」結成。漫才やコントのほか、ライターとしても才能を発揮、著書も多数。熱狂的格闘技ファンとしても知られ、本誌にもたびたび登場、祭り囃子を鳴らしている。

**博士** ドラマの脚本や演出をやって、『マッスル』のレスラーをドンドン送り込めばいいんじゃない? ……って、三谷(幸喜)さんもそうしてるし。なんで劇作家論を延々しゃべってるのかわからないけど。ま、1年後には「チョロさんの歯の治療費用、200万円くらいなら出しますよ」とか言えるんじゃない?(笑)。

**坂井** 「借金も払いますよ」と(笑)。

**チョロ** ぜひ、お願いします(笑)

**博士** 「そんなの『SMAP×SMAP』に4回脚本書けばオッケーです」みたいな(笑)。でも、汁レスラーたちが、いつ温水(洋一、俳優)さんみたいになるか、ホントわかんないよ。

——狙えるポジションはある、と。じゃあ1年後に期待しましょう!

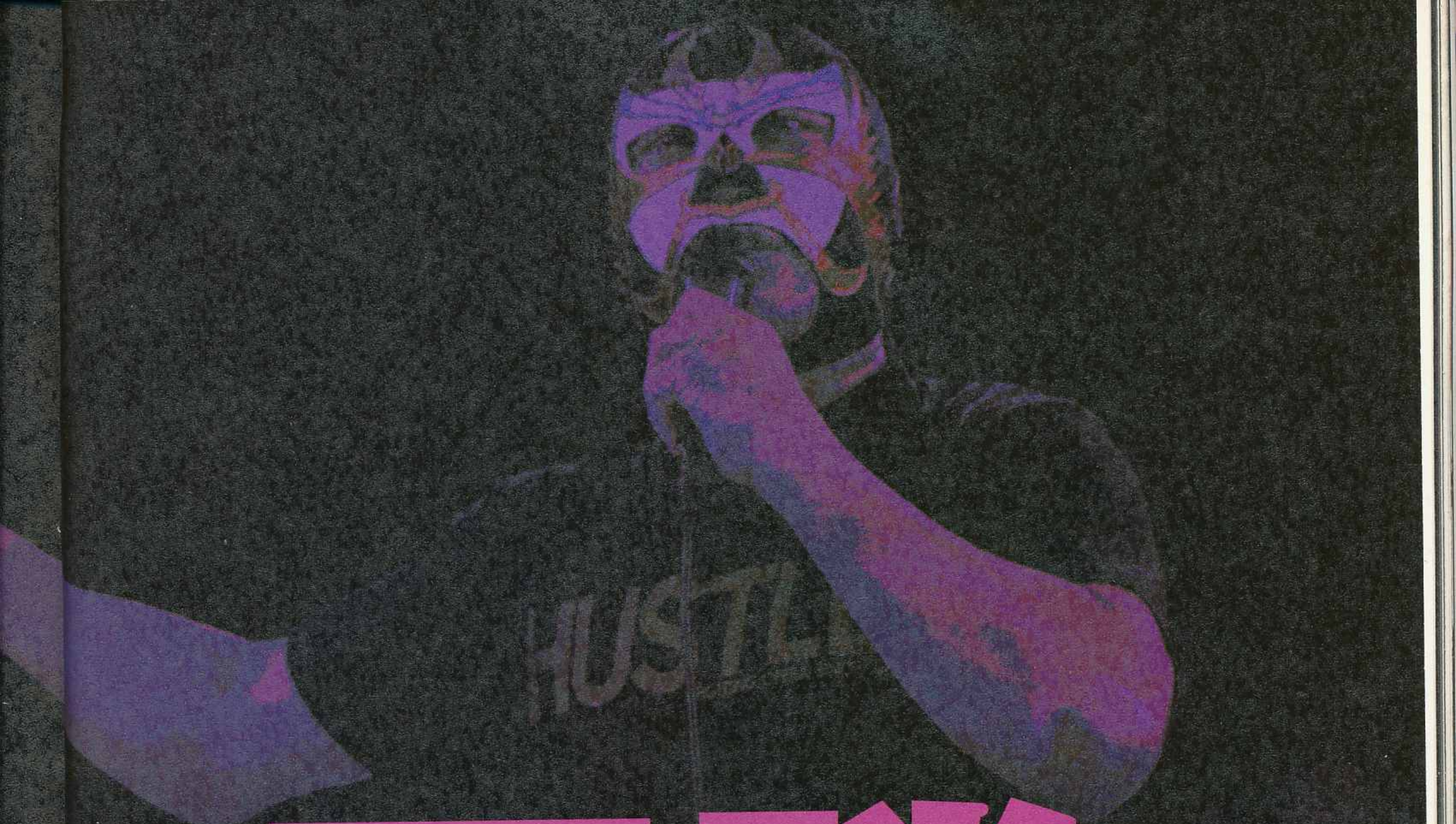
**坂井** でも、1年って……、今年じゃないっすか!!

——ワハハハハハハ!

**博士** じゃあ、2、3年の猶予をもって待ってます!!(笑)。

【09年2月7日/『kami-pro』編集部にて収録】

### 二人のサイン入り本をプレゼント!

この対談の"震源地"となった水道橋博士の『筋肉バカの壁』、マッスル坂井監修の『八百長★野郎』をサイン入りで各1名様にプレゼント! 詳細は111ページの応募要項をチェック!

# の圧勝!!

## こんな時代のプロレス・スキャンダルには<br>どう向き合えばいいのか?

文　ジャン齋藤

「スキャンダルをビジネスにつなげろ!」とはアントニオ猪木の言葉であり、けだし名言だ。実際にスキャンダルをビジネスにつなげることは難しい。いまの世の中はスキャンダルやトラブルに対して敏感であり、対応次第によってはファン離れやスポンサーの撤退、ウェブ炎上という事態に発展する。

そうでなくても最近は、スキャンダルが起きると「これだからプロレスは……と世間に思われてしまう」というファンの反応をよく目にし、耳にする。外からの視線に身構えてしまっている人は多い。しかし、だ。プロレスというジャンル、それ自体がいかがわしいものじゃないか。なんだよ、反則5カウントって？　だいたいプロレスで物事が解決したことがあるのかよ？……何をやったところでプロレスはずっと蔑まれてきた。きっとこれからもそうだ。

「どうせプロレスでしょ?」

我々は、そのクールに気どった世間をたとえ一瞬でも、喜ばせ、怒らせ、悲しませ、驚かせる——。また再び、蔑むような目で見られてもかまわない。プロレスがプロレスたる所以を知らしめるために、プロレスに殉じる人々の姿を誇りとしてきた。

今回、プロレス界を二つのスキャンダルが襲った。一つは『ハッスル』によるインリン・オブ・ジョイトイへのギャラ未払い騒動である。その経緯は次のページを参照してほしいが、『ハッスル』が悪いのか、インリン・オブ・ジョイトイが契約違反なのか、はたまたインリンの旦那であるZERO1社員が原因なのか。いろんな見立てができるのだが、そこは法廷で決着でもなんでもつけてくれ!

問題は、今回の騒動で裏側がさらされた

# サスケの

結果、感動的だった引退試合のドラマ性が一気に失なわれてしまったということだ。『ハッスル』側もインリン側も、週刊誌報道によって生まれたほころびを飲み込もうとするのではなく、妥協したうえでの引退試合だったことがあきらかになってしまった。そんなことでインリン様はいなくなってしまったのか。いや、両サイドからすれば〝そんなこと〟ではなく、やむをえない事情なのかもしれないが、エスペランサーがなぜ生まれたのかを振り返れば、このほころびすらリングで表現してほしかった。あらゆる感情、人間関係を排除して、『ハッスル』側もインリン側も、〝インリン様〟という誰もが愛したファンタジーに殉じてほしかった。

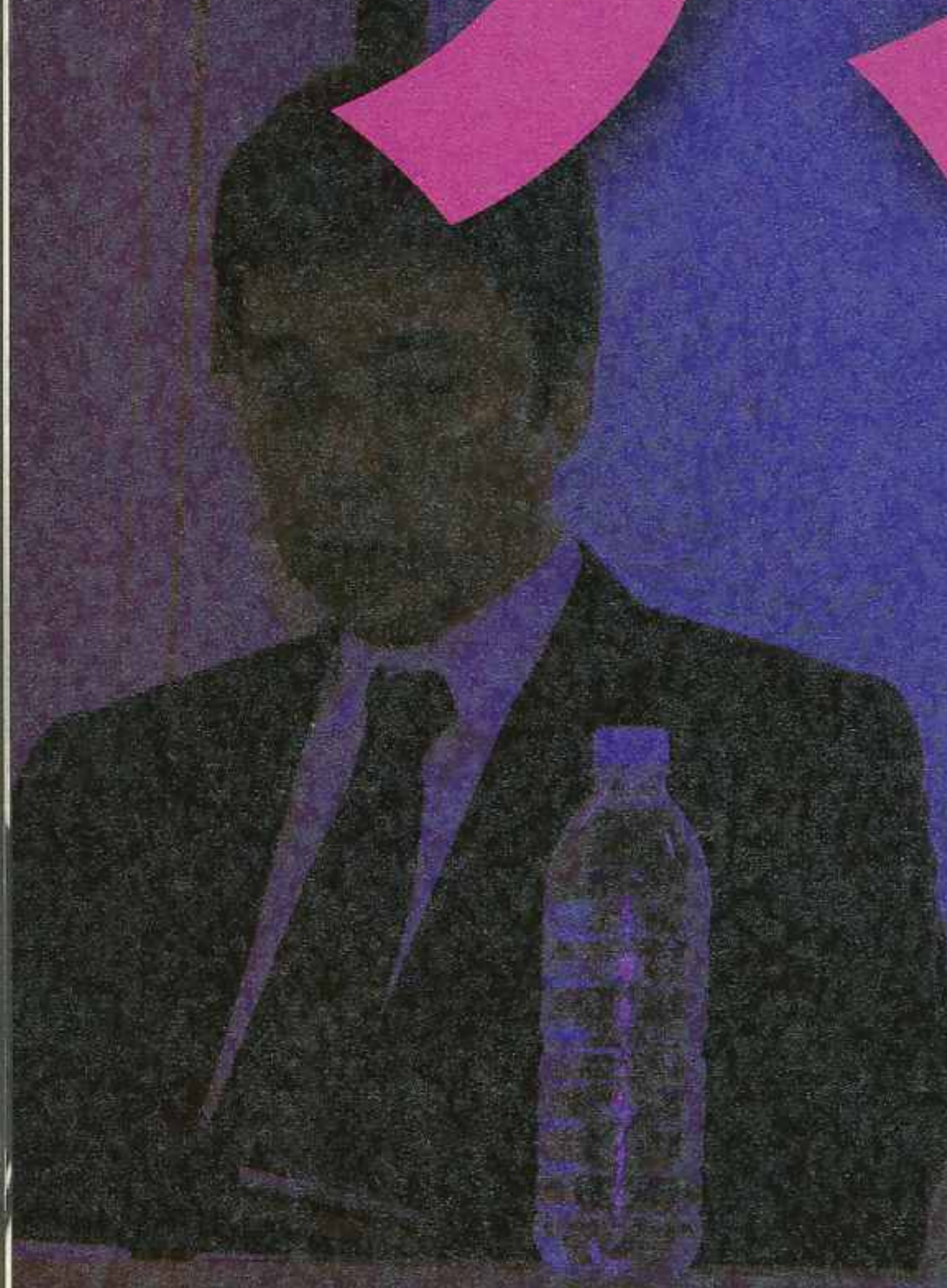
もう一つのスキャンダルは、サスケの暴行事件だ。電車内において、携帯電話で無断撮影してきた乗客の胸ぐらをつかんだことは、確かにいけない。マスクを被っているのだから、写真を撮られたくらいで怒るな！ ……という、世間のモノサシはもっともだ（無表情で）。いまの時代、娑婆じゃないはずのプロレス界ですら、世間のモノサシで測ることを要求される。

サスケも反省した。でも、警察の事情聴取で「サスケであることは間違いない。でも本名は名乗らない」のだ！

サスケの本名は●●●●でしょ？ みんな知ってるし、今回も普通に報道されている。なぜそこで意地を張るのか？

サスケは留置場規則によって、強制的にマスクを脱がされたそうだ。なぜそこでも一筋縄ではいかないのか？ それはマスクマンは正体不明じゃないといけないから。

処分保留で釈放されたサスケは、「被害者と記念撮影をしたい」という言葉を残し、再び覆面姿のまま電車で帰っていった。のちの取材では「自殺を考えた」と振り返っているが、本誌読者ならおわかりのようにこの〝底がまる見えの底なし沼〟な一連の振る舞いは、ザ・グレート・サスケそのものだ。隙だらけのようで隙は作っていない。プロレスに殉じている。

我々一般市民には、スキャンダルをビジネスにつなげるなんていう荒技は到底不可能だ。だからこそ異端なジャンルの住人であるプロレスラーにはその表現を求めたい。たとえつながらなくとも、その姿勢は感じたい。スキャンダルに群がる世間を一瞬でも唖然とさせてやってほしい。「謝る」とか「反省する」とか、そんなことはわかってるんだ。常識を超えたところでザ・グレート・サスケを表現する、『ハッスル』というものを表現してほしいのである。

未払い問題に関する『ハッスル』サイドのアナウンスは、2.19後楽園大会後に実施された記者会見のみ。今後は弁護士を通してインリンサイドと話し合っていくつもりだという。

# 未払い騒動泥沼化？

# インリンを追う!!

**インリン・オブ・ジョイトイのブログから端を発した『ハッスル』未払い騒動。両サイドのやり取りからは、早くも泥沼化の兆候も見せているが、いったん騒動の経緯をまとめてみよう（2月22日現在）。**

**▼2月17日**

この日のインリン・オブ・ジョイトイのブログで、インリンが所属する有限会社ステイトリーズ・ガーデンが『ハッスル』時代の出演料（計424万6603円）などが未払いであるとして、『ハッスル』に対し民事訴訟を起こしたことを明かした。

インリンはブログの中で、「今日は、ハッスルのインリン様を応援していただいたファンの皆様に、私、インリンからの悲しいお知らせがあります」という書き出しで、「ハッスルエンターテインメント株式会社には、私の出演料などについて多額の未払いがあり、私はそれを支払ってくれるようにと何ケ月にも渡り交渉してきました」「しかし、期限の約束が何度も破られ、未だに出演料などの支払が完了されていません」と未払い問題を告白！

さらに「これまでの対応、交渉経過などを考えると、このままの状態を放置することは、私たちの常識と理解の限界を越えました」と、『ハッスル』に対し、出演料などの支払いを求める民事訴訟を起こしたことをあきらかにしている。

これに対し、この日午後1時から別の記者会見を行なっていた『ハッスル』は、この問題に関して「現時点では、訴状が届いていないため、訴状が届いてからキチンと対応させていただきます」と広報がコメントするにとどめている。このニュースは、Yahoo! JAPANのトップトピックスとして長らくアップされ、夕方のニュース番組でも報道されるという事態に発展した。

**▼2月18日**

翌日のスポーツ新聞では、昨年の年末に参戦した泰葉にもギャラが振り込まれてないことが報じられ、未払い騒動はさらに火がつくかたちに（ただし、泰葉への振り込み期日は3月末日とのこと）。この日はインリン、『ハッスル』サイドともに動きはなし。

**▼2月19日**

後楽園ホールで開催された『ハッスル・ツアー』後楽園大会の試合終了後、ハッスルエンターテインメント代表の山口昇代表が経緯説明会見を実施。インリンへのギャラ未払い騒動について、正式に声明文を発表した。

この問題はこれから民事裁判で争われる問題であること、またこの問題に関する発言自体が裁判に直接的な影響を及ぼす恐れのあることから記者からの質疑応答には応じず、ハッスルエンターテインメント側が用意した文面を山口昇氏が読み上げるかたちで、この問題に対する『ハッスル』側の声明が発表された。以下は、会見における山口昇氏の発言全文。

「これから述べることに関してはデリケートな問題等もあったり、弁護士さんから止められている部分もありますが、伝えなければならないところは伝えなければならないので、アンチョコというわけではないんですが、メモを用意してきましたので、これを読み上げるかたちでお知らせできればと思います。

このたびの民事提訴という事態は、インリンさんのブログの内容をソースとしたマスコミ報道により初めて知ることとなり、またいまだ正式に裁判所から訴状が届いていない状況ですので、コメント等の対応が本日まで延びてしまい、関係各位等にご心配、ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。お騒がせしております今回の騒動につきまして、事情をお話しさせていただきます。

弊社としましては、このような会見を開かざるをえなかったこと自体が大変やるせない気持ちでいっぱいです。皆さまにまずご理解いただきたいことは、今回の問題が単なるギャラの未払いということでなく、過去に〝出演契約違反の問題〟とせざるをえないような事象が発生しており、これにつき弊社としましても、弊社が被ったイベント展開上の支障だとか、あるいは損失といったものに関してインリンさんサイドにご理解いただきたかったのですが、その件に関してはまったくご理解していただけず、結果として暫定的にギャラの残金が残っているという状況です。

弊社としては問題ケアについて裁判も視野に入れた対応も検討しておりましたが、先方のインリンさんのイメージもあるので、穏便な解決を望んでおりました。しかし、今回このようになってしまったことを非常に残念に思います。現時点で正式に訴状が届いていませんので、可能な範囲でこれからお話しさせていただきたいと思います。ちょっと長くなってしまいますけれども、よろしくお願い申し上げます。

そもそもの発端は、昨年の3月に発売された写真週刊誌の記事にあります。〝交際発覚〟と題して、その決定的な写真が公開されている記事ですが、その記事によりますと、インリンさんの所属の会社である有限会社ステイトリーズ・ガーデンの社長が撮影した写真を自ら売り込みをかけて作成された記事だということで

# ハッスル×イ

す。『マスコミにスッパ抜かれるくらいなら、自分たちでその一件を広めてしまおう』という趣旨である、所属事務所スタッフのコメントも、その記事に掲載されております。

弊社としましても、この事実にただただ驚くばかりでした。弊社としてはインリンさんのプライベートにまでモノ申すつもりは毛頭ありませんし、もちろんお二人がご結婚するということにつきましては祝福すべきことだと思っています。そして、いまでもそう思っています。

ただ、連続ドラマの主役である女優が、そのドラマの制作先の元社員と熱愛関係にあるということを制作先の会社に——つまり我々ですね——なんの断りもなく写真週刊誌にある種、悪ノリふうに売り込んだこと、またその売り込んだ側が、あろうことか〝一般投稿〟というかたちではなく、出演している連続ドラマのキャラクター任務を尊重する義務を負うマネージメント会社——つまり所属先のステイトリーズ・ガーデンさんですね——であったことについて、我々は遺憾の意を表明してまいりました。

また、交際相手の男性が元『ハッスル』スタッフであったことや、あるいは報道によって〝元『ハッスル』社員〟を強調された報道のされ方をしたため、数社の芸能プロダクションを介して『ハッスルエンターテインメントの管理体制、および社員管理はどうなってるのか、これでは安心してウチのタレントを預けることができない』と、そういった旨のキツいお叱り、それからその後のタレントブッキングの際、実際に支障をきたすことも多々ありました。

このようなインリンさんサイドの一方的な言動により、多くの関係者やスタッフに多大な不信感や不安感を抱かせてしまうこととなり、弊社としては、インリンさんとの出演契約を早期に終了させ、関係各位にご説明とご理解をいただき、なんとか自体を鎮静化させた次第でした。

そもそもインリンさんは、2004年のクリスマスイベント以来、『ハッスル』の主役として長きにわたりイベントを支えてきました。もちろん、彼女をストーリーの重要人物として欠くことのできない存在にまで、お互い努力して大きなものに育ててきました。しかし、今回の一件により、急遽、昨年5月の『ハッスル・エイド』にて早期引退となってしまいました。

この引退は弊社としても悩みに悩んだ末の、苦渋の決断でした。当然『ハッスル』のイベントとしても大きな損失でした。主役を失なうことにより、その後のプラン、演出、ストーリーを大幅に変更せざるをえず、弊社としては会社運営上においても多大な支障をきたすこととなりました。この危機を乗り切るためにスタッフ一丸となり、何度も何度もミーティングを重ね、また多方面でご協力を仰ぎ、危機を乗り越えたというのが当時の偽らざる心境です。

弊社はインリンさんサイドがとった一連の行動が『イベントのイメージ、〝インリン様〟のイメージ、それから弊社のイメージを損なわないようにしましょう』という〝イメージの尊重〟を謳っている契約書の規定に反するものではないかと考え、専門家にも相談してまいりました。

契約が終了した昨年の5月31日以降、このことを踏まえたうえで、インリンさんサイドとはギャラの支払いとともに、契約書に書かれている約束事をお互いにどのように遵守していくか、守っていくのか、こちらの負った被害にどのように対応していただけるのかという点で話し合いの申し入れを何度かしてまいりました。

しかし、インリンさんサイドの対応としては、その件に関してはまったく理解していただけてない状況でした。ただ一方的なギャラの支払いのみの連絡しか来ないという状況が続いていました。話し合いはまとまっておりませんでしたが、夏にはギャラの一部の支払いをさせていただきました。秋口におきましても——昨年の秋口ですね——弊社としては支払いの意思が当然あることをインリンさんサイドに意思表示をさせていただきました。

弊社としましては、弊社の主張をいかにしたらインリンさんサイドにもご理解いただけるか、専門家も含めて検討してまいりましたので、今回の突然のインリンさんのブログでの民事提訴宣言が出され、大変驚いています。弊社としましては、裁判での争いを本意としてはおりません。これからもドロ試合にはならないように、穏便に話を終結させたいと思っておりますが、先ほど申し上げたに件につきましては、インリンさんサイドにしっかりと理解していただきたいなという思いです。

弁護士を通じてインリンさんサイドと、今後話を続けていきたいと思っています。またインリンさんサイドもブログ等で『弁護士さんに今後お任せしていく』という意向があるということを書いていた認識でおりますので、弊社といたしましては直接のコメントを何か発表するというのは、今回で終わりにしたいと思います。

『ハッスル』ファンの方、そしてインリンさんファンの方、スタッフ、関係者、それからスポンサーの皆さま方、そして世間の皆さま方を含めて、お騒がせいたしまして申し訳ありません。なにとぞ、これからもよろしくお願い致します。

もう一つ、一昨日報道されておりました泰葉さんの支払いの件ですが、これも契約に基づいて3月末に、間違いなくお支払いをする予定となっております。契約書では3月末の支払いということにさせていただいております。今後、しっかりと合意していただいております。

日頃お世話になっているマスコミの皆さんに一つお願いがあるのですが、我々もイベントを主催している立場ですし、おもしろおかしい方向だったり、話を膨らましていくということに関しては、非常に理解できるんですけれども、会社としての信頼問題につながりかねないので、もう少し冷静なご判断をお願いできればと思っております。

最後になりましたが、今回の一件につきましては、速やかに解決したのち、そのあと誠意を持って話し合えば、必ずインリンさんサイドと話し合えば、わかり合えるんではないかと、そう信じております。

また、再びインリン様が『ハッスル』のリングに上がっていただけるような日が来ることを、そしてそういう環境を我々がしっかり創り上げていくことを、スタッフ一同望んでおります。今後も誠意ある対応をしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします」

『ハッスル』の象徴的存在だったインリン様。彼女なくしていまの『ハッスル』はないだろうし、『ハッスル』というリングだからこそ、そのキャラクターが磨かれていった。それだけに今回のスキャンダルは残念すぎる。

**▼2月20日**

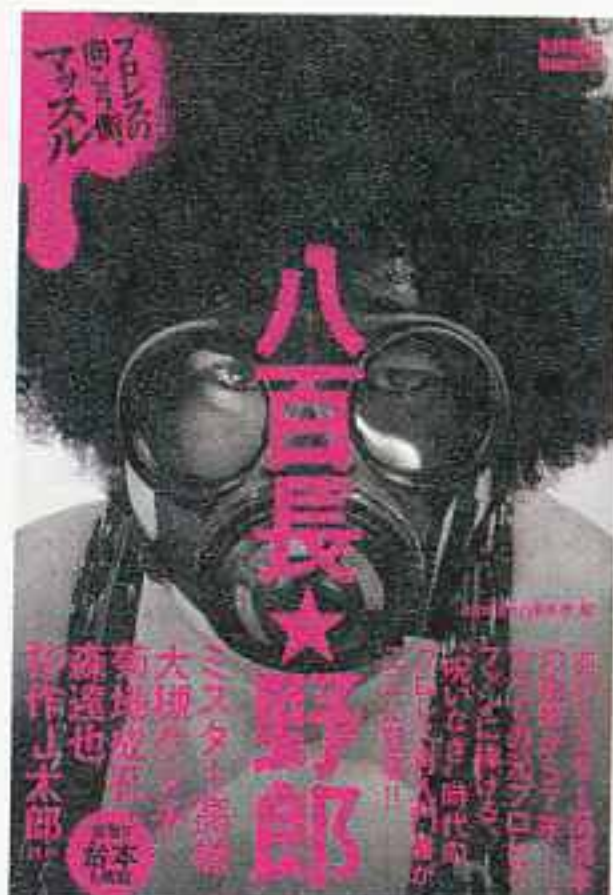
前日の会見を受けて、インリンは20日付けのブログ記事の中で「私のプライベートライフなんですけど」「昨日ハッスルの山口氏が会見したらしいけど、事実とは違うことを並べ立ててみたい（笑）」と反論。インリンは「法廷ではっきりさせるので楽しみにしといてください」と裁判で争う構えをあらためて示した。

**▼2月22日**

小川直也が『東京スポーツ』携帯サイトのコラムにて「オレ的には噂は聞いていた」「選手、関係者の給料が遅延したって話は聞こえてたからな」「オレがキャプテンだった頃は勢いもあったし、その辺の不満はなかったけどね」「あそこが大体、どういう（経営）状況になってきたか分かってきた。それでハッスルのために、オレから引いたほうがいいかなと思って」と内情を暴露!! でも、離脱の原因は微妙に違いと思います（笑）。チャオ！（セレブ小川調）。

kamipro books

# 驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ!<br>死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

## 八百長★野郎

ミスター高橋本から7年……<br>“呪いなき”時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初“台本”全文掲載!

カミングアウト当事者から元プロレスファンの知識人まで総動員してプロレスを考え直す。一冊! “プロレスの向こう側、『マッスル』”の世界に迫る!

B6変型判 296ページ<br>定価=1,680円(本体1,600円+税)

## PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!!<br>PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★“皇帝”ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早1年あまり——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判 292ページ<br>定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 生前追悼 ターザン山本!

え、ターザンが死んだ!?<br>90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判 304ページ<br>定価=1,470円(本体1,400円+税)

## U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる<br>“変態”とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ<br>定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

吉田豪インタビュー11連発!!<br>インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★廣芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ<br>定価=1,890円(本体1,800円+税)

## プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇

プロレス狂がシビれる<br>凄玉たちのインタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り!

B6変型判 304ページ<br>定価=1,890円(本体1,800円+税)

## 底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本

井上義啓とは底が丸見えの<br>底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

“活字プロレスの父”井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録!

B6変型判 312ページ<br>定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 殺し 活字プロレスの哲人 井上義啓 追悼本

“殺し”文句が心を打つ!<br>井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★I語録★井上義啓とは何か?/アントニオ猪木/水道橋博士/金沢克彦/松島弥生(井上義啓・姪)★『kamipro』未公開“喫茶店トーク” ほか

多くの“プロレス者”に影響を与えた“I編集長”の追悼本!! プロレスという“底が丸見えの底なし沼”に浸かり続けた男の凄みを感じろ!!

B6変型判 304ページ<br>定価=1,680円(本体1,600円+税)

## 紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集

破壊王の三回忌追善本!!<br>泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景(獣神サンダー・ライガー夫人)★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔(横浜ベイスターズ投手)★折鶴兄弟 ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん! みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録!

B6変型判 304ページ<br>定価=1,890円(本体1,800円+税)

## 紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也

惜しまれつつ急逝した<br>“愛すべき馬鹿”のすべて!

★小川直也★哀川翔★アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ★船木誠勝★ドン荒川★武藤敬司★佐々木健介★安田忠夫★勝俣州和★橋本かずみ★破壊王爆笑名言★破壊王エピソードコラム ほか

05年7月11日に急逝した“破壊王”橋本真也。“最後のトンパチレスラー”の魅力満載の追悼本! 読めばますます破壊王が好きになる!

B6変型判 304ページ<br>定価=1,680円(本体1,600円+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

## いつだって破壊王は
# 愛すべきバカだった——

### トンパチレスラーの代名詞
# 橋本真也
# 伝説

何度でも読みたい
**プロレス**
**最狂伝説!**

僕らが愛した破壊王、再び!「伝説特集」トップバッターはやっぱりこの男、
橋本真也である。破壊王のエピソードはこれまで多くの人に語り継がれているが、
有名ネタを一挙ご披露。トンパチレスラーとは、まさに破壊王のような人のことを言うのである!

構成/松下ミワ

# 橋本真也伝説

「現代のプロレス」もいいけれど、やっぱりトンパチレスラーのエピソードにもシビれたい！

そんな声にお応えして、今回はトンパチエピソードには事欠かない破壊王の仰天エピソードを再構成した。古くからの『kami-pro』読者なら当然ご存知だろうが、破壊王のエピソードといえば、必ずと言っていいくらい〝被害者〟が発生してしまうのが特徴だ。最大の被害者・天山広吉をはじめ、同期の武藤敬司、後輩の西村修、小島聡、そして元夫人である橋本かずみさん、さらにはイヌやスズメ、魚類などの生物に至るまで、破壊王に関わった人すべてに被害をもたらしているから凄いのだ。

とくに新日本プロレス道場近辺で起こった〝事件〟を並べると、いったいどんな職業の人なのかがわからないくらい、じつに子どもじみたイタズラばかりなのである。

しかし、そんな破壊王の伝説は、亡くなってから何年経ってもまったく色あせず爆笑を誘導するものばかり。今回のような「伝説特集」にも外せないのは、現在進行形のバカ話をはるかに上回る破壊力を持っているからだろう。

被害を被るのは絶対にイヤだけど、確実に笑わせてくれる〝愛すべきバカ〟は、いまなお語られるべきプロレスラーなのである！

## 伝説1 空気銃でスズメに発砲！ それを食べた天山は なんと体重が10キロ減!?

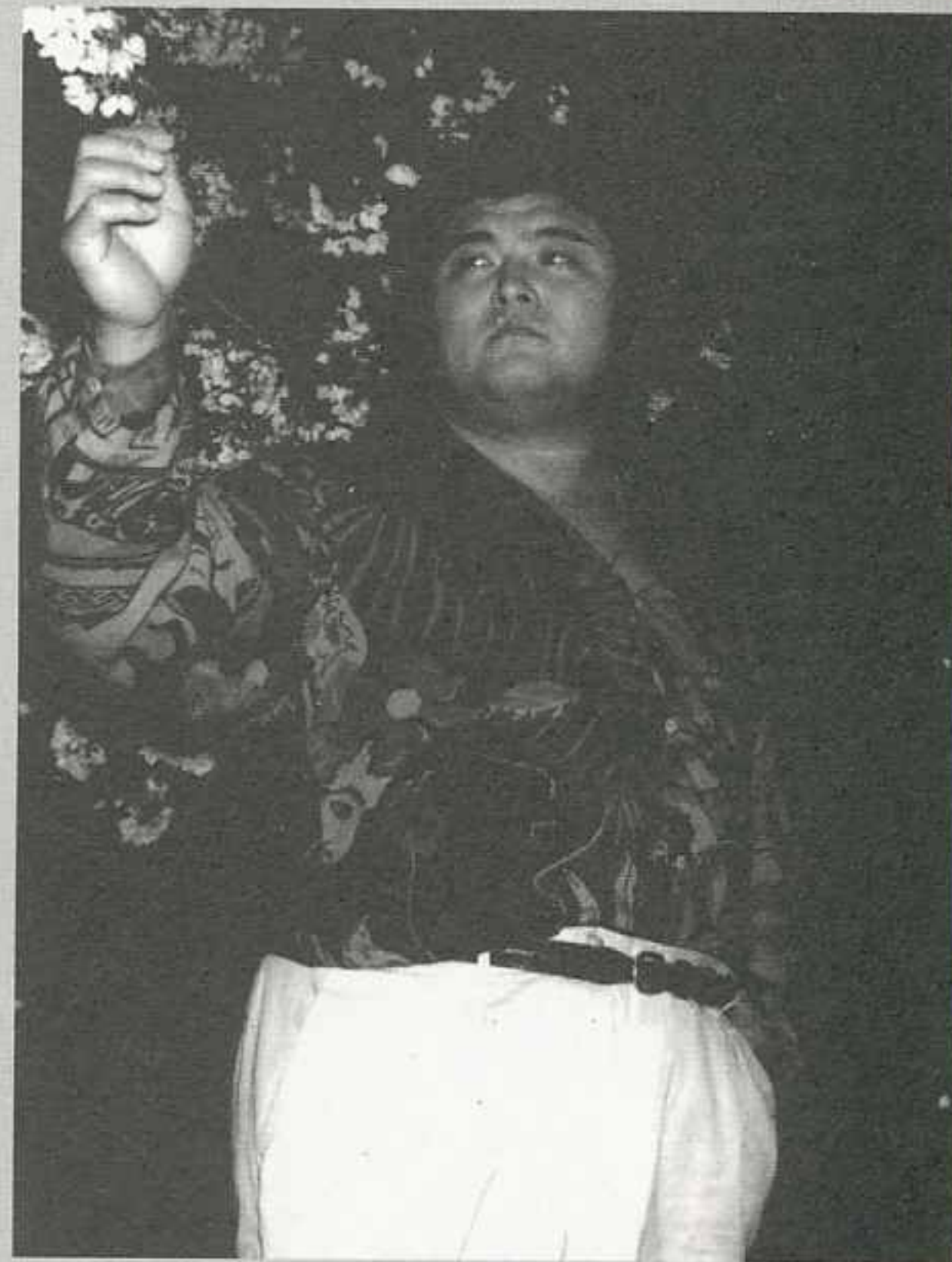
イタズラ好きの破壊王伝説といえば、やっぱりこのエピソード！　破壊王が空気銃でズズメやカラスを撃って遊んでいたというのは有名な話だが、なんと破壊王の後輩である天山広吉はそのスズメを食べさせられていた！

天山の証言によると、捕獲したスズメを「煮て焼いて、さらに沸騰したお湯に入れて毛をむしった」というなんとも生々しい方法で自ら処理したという破壊王。続いて醤油とみりんで味つけをし、自分から率先して試食したという。

そこまでだったらまだ影響はないのだが、調理したスズメが満足いく出来映えだったのか、「うまいぞ、食え食え！」と天山に押しつけたというから大変だ。

しょうがないから、それを試食したという天山。それを食べるほうも食べるほうなんだが……、なんと合計7羽も食べさせられたというから、もう手の施しようがない！

このあと、天山は体重がみるみるうちに減少するという謎の症状に襲われ、先輩である西村修に目黒の寄生虫博物館に連れていかれたというから恐ろしいのであった。

ちなみに、このスズメ試食騒動はほかにも被害者が発生しており、なんと元夫人である橋本かずみさんも「私もほんのちょっと食べさせられた」と証言している。

## 伝説2 新日本の道場犬ワカが みるみるノイローゼに

新日本プロレスの巡業中に西村修が拾ったという道場犬のワカ。最初、西村は「どうせ迷い犬だから、一晩だけかわいがろう」と思っていたそうだが、それを見つけた破壊王が「かわいいから持って帰ろう！」と道場に連れて帰ったという。

当初、破壊王は子犬だったワカを家に持って帰ったりして存分にかわいがってたそうだが、成長し次第に大きくなっていくと、なんと破壊王はワカを見かけただけで叩くようになったという。なんという男だ！

西村の証言では「最初はかわいらしい柴犬が、だんだん困ったような顔になっていった」と語っており、ロッカールームに入ってきた破壊王を物陰からじーっと観察し、〝敵〟の様子をビクビクしながらうかがっているワカを目撃したとも語っている。犬にそこまでの心労を負わせるとは……。破壊王はつくづく動物の敵なのだった。

## 伝説3 大雨&台風の日は 多摩川で投網を決行

破壊王伝説の代名詞といえる「投網」も忘れてはならない。大雨もしくは台風で新日本プロレス道場の近くを流れている多摩川が大氾濫するときが、破壊王の投網決行のゴーサインだ。

投網の道具は破壊王のお手製だそうで、川に網を投げるときも漁師のように美しく放っていたというからどんだけ器用なんだって話である。

そんなある台風の日、破壊王は天山を引き連れてこの投網に出かけたのだそう。このツーショットだけでも充分嫌な予感満載なのだが……まさにその予感は的中。破壊王は投網をきれいに川に放つと、天山に向かって「おまえも投げてみろ！」とまたもや強要。嫌がる天山に無理強いするかたちで網を渡したのだが、仕方なく網を放った天山は「ウワーッ！」と投げたら網がグルグルに絡まり、残念ながらその日は漁ができなくなってしまったという。これを見た破壊王は「何しに来たんだ、コラ！」と大激怒。天山いわく「あの目はマジだったよ！」と証言している。

ちなみにこの投網には破壊王と並ぶほどのイタズラ好きな獣神サンダー・ライガーや藤田和之、安田忠夫、そしてこの投網を破壊王に伝授した張本人である道場近くの中華料理屋『紅蘭』のマスターも経験しており、実際に鮎などの魚が捕まえられ、ちゃんと食べていたという。ムダな殺生はしないのが破壊王の流儀であった。

## 伝説4 "真ちゃんラーメン"に続き1丁10万円の豆腐作りも強行！

破壊王といえば、『美味しんぼ』（小学館）のファンだったということが知られているが、有名な"真ちゃんラーメン"作りにも余念がなかった。

道場近くの中華料理屋『紅蘭』のマスターに「オヤジ！　ラーメンの作り方を教えろ！」などと強要していたそうで、鶏ガラから何からすべて試行錯誤しながら作っていたのだそうだ。また巡業で全国各地のラーメンを食べ歩いていた破壊王はいろんな店でレシピを聞いては、さっそく"実験"に取りかかっていたというからホントにいい迷惑です。

そのラーメンの次は豆腐作りにも励んだという破壊王。豆腐を作る機具まで買いそろえて作り、結局できあがったのは1丁10万円の豆腐だったというから、ズバリ言って理解不能！

ちなみに、のちの西村修の証言によると"真ちゃんラーメン"は「かつおだしが効いて、けっこうおいしかった」のだそうだ。まったく本職を見失なうエピソードである。

## 伝説5 小島聡の部屋に大量のセミをばらまいた！

破壊王の耳に"苦手情報"が入ると大変なことになると証明してくれたのが小島聡のケース。破壊王は小島が虫が苦手だということを聞きつけると、道場の前に住んでいた子どもに虫捕りカゴを借りてさっそくセミ捕りを敢行だ！

何十匹ものセミ（一部では何百匹とも言われているが……）を多摩川付近で捕獲してそのまま道場に戻ってくると、なんの躊躇もなく小島の部屋に分散！　ズバリ、子どもの発想だ。

嬉しくなった破壊王は、その日家に帰ってかずみ元夫人に「アイツ、帰ってきたら絶叫してんだろうな〜」とご機嫌だったという。

「今日も疲れた〜」と何も知らずに部屋に戻ってきた小島の様子はご想像にお任せする。

## 伝説6 趣味の武器収拾が転じて矢ガモ事件の容疑者に!?

破壊王のおもちゃ好きはこれまた有名な話だが、中でも武器コレクションは素晴らしい。"生粋のハンター"らしく、スズメを撃っていたという空気銃をはじめ、水中銃、ボウガンなど本当に使える武器を所持していたのだ！

その銃を持って、ボンベ役の天山、ライト役の西村を引き連れ、破壊王はまたもや多摩川へ。水中で鮎や鯉を撃っていたというが、当時、多摩川にはよく鯉が上がっていたというから恐ろしい……。

そんな破壊王だけに一時期大きな話題となった「矢ガモ事件」については、周囲の人は「これはさすがにヤバいんじゃ……」とみんな破壊王を疑っていたという。いったいどんなハンターなんだよ！

念のために言うと、実際はそうじゃないそうなので安心してください。

ちなみに、そういう弱ったカモを見た破壊王は、天山に「ちょっと手当してやれ」と言ったそうだが、天山は「自分でやってよ！」と思ったそう。日頃の"恨み"もあるのだろうが、あきらかに"疑いの目"で見ている発言である。

## 伝説7 得意の替え歌のせいで武藤のテーマ曲が変更に！

破壊王といえば、歌に関するエピソードも多彩だ。衝撃のCDデビューとなった『栄光への独白』は「俺は　自分のことを弱虫だと思う」というセリフに始まり、「♪さあ〜がしてるぅ〜　い〜まもぉ〜」と熱唱するサビに至るまで完璧すぎる名曲である。

また、替え歌に至っては、武藤敬司のテーマ曲『HOLD OUT』のメインテーマに合わせて「♪む〜と〜ちゃんはハゲる〜〜」と歌っていたのは有名だが、武藤はこの破壊王の替え歌のせいで名曲『HOLD OUT』から別のテーマ曲に変えたというから大変だ。当時の武藤は女性ファンに大人気で、唯一、徐々に薄くなってきている後頭部が悩みのタネだったのだが……。破壊王のこの替え歌に"トドメ"を刺されたのだった。

さすがの破壊王もこの一件には「申し訳ない」と反省していたとのこと。ホントかよ！

# 橋本真也の破壊的人生相談

## エピソード集 番外編

破壊王の名物企画といえば人生相談。ここでは『kamipro』の前身誌『Rintama』と『kamipro Hand』に掲載された相談事を厳選して再録する。破壊王のアンサーをしかと受け止めよ!

**Q** 破壊王は他人に凄く慕われてますが、どうしたら破壊王のように人徳のある人間になれますか？　心掛けていることを教えてください。

（泰二・男・会社員・29歳）

**A** **まずは、自分に正直になることや。**自分のことをちゃんと説明できるようになることが先決だ。他人を思いやることができなければ人から慕われるっていうのは無理な話だからな。自分がどんな人物かわからなくて伝えられない人は、最終的には信用してもらえないんや。**俺はこうだ、こういう人間だってことを、ちゃんと伝えられると他人も安心するんだよ。**……というわけで、人から慕われる前に、まずは自分のことをもっと知れ！　そして**裸になれ！**　っていうことや。

**Q** 最近ドンドンお腹が出てきて、穿けないズボンが増えてきました。どうやったら、破壊王のような逆三角形の肉体を維持できるんでしょうか？

（ブッチャマン・男・会社員・34歳）

**A** コイツ、俺のことバカにしてんだろ⁉　でも、そうだな。体型を維持したいんだったら通販で売ってるトレーニンググッズとかダイエットグッズを買えばいいんじゃないか？（笑）。まあ、買ったところでやるかやらないかはアナタ次第だけどな。それが一番安上がりだし。

関係ないけど、**俺も通販でよく買い物してるんだよ。**包丁セットも買ったし、スライサーも買ったし、高枝切りバサミも買ったし、まあほかにもたくさん利用してるよ。宣伝がうまいからすぐ騙されて、たいして使いもしねえのにすぐ買っちゃうんだよ（笑）。

よく通販の番組で、お客さんの「エ～ッ⁉」って声が入ってるけど、あれなんかドリフと一緒だろ（笑）。**俺なんか、ドリフ好きだから、なんか見ちゃうんだよな。**ちょっと、脱線しちゃったけど、でもな、この人が言ってんのは、やることがわかっててやらない人が言うこと。

相談するより前に身体を動かせ！　**……オイ、チ●ポ動かしても意味ねえからな！**　以上!!

**Q** ここ3年ぐらい性欲がまったく湧かず5年付き合っていた彼女にフラれてしまいました。どうすれば性欲が湧くのでしょうか？　また破壊王には、そんな時期はありませんでしたか？

（マサ・28歳・男・デザイナー）

**A** （顔をしかめて）28歳で情けないッ！　**おまえはイマジネーションが足りないんや！**　それから、機械に触れすぎなんだろ。インターネットとかやって電磁波を受けすぎてるんだと思う。人間はもともと動物なんだから、もっと第六感とか本能を働かせないとダメなんや！　だから、**必ず休みのときには自然に触れろ！**　樹とか森林から力をもらわないと、人間はロボットじゃないから気を吸い取られてしまうんだよ。そういう人間がいまは多いけどな。俺たちが若い頃なんて、ホントにギットギトしてたからな（笑）。**もっともっと脂ぎらなきゃダメだよ。**28歳とかでスカスカになってどうすんだ。まあ、俺からのアドバイスとしては、自然回帰しなさい！　男は野獣でなければいけない!!　そういうことだ。

ちなみに、俺は性欲が湧かなかった時期など一度もないぞ！　皆無や!!　**いまでも五発はイケるからな!!**（キッパリ）。

**Q** 突然ですが、私は恋をしています。好きで好きでたまらない人がいます。その人とは天山広吉選手のことです。これまでに何人もの人と、お付き合いをしたり恋をしたことがありますが、そのレベルをはるかに超えるほど天山選手に夢中なのです。どうしたら天山選手のそばにいることができるでしょうか？

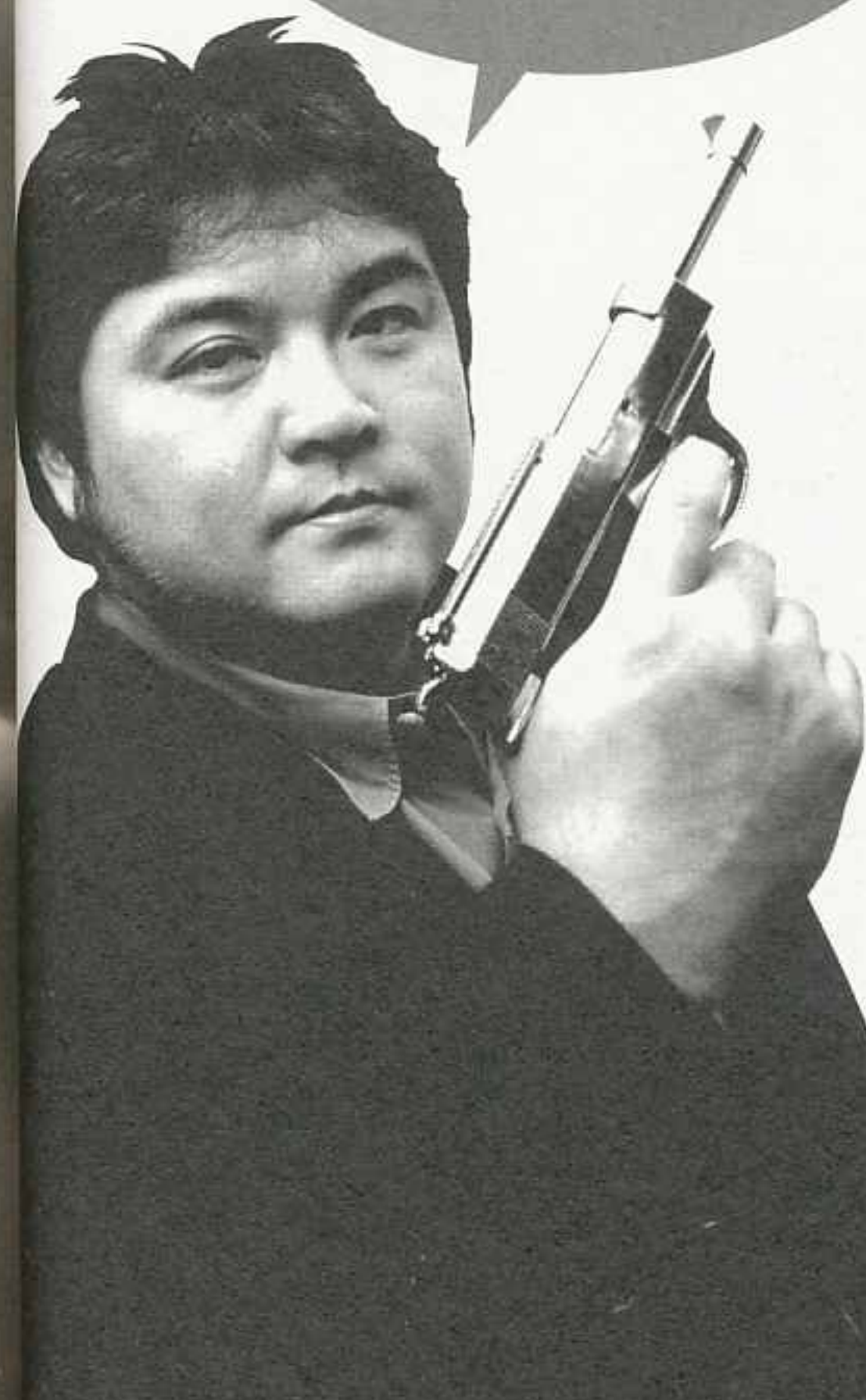
（鹿児島県・河野まり・？歳）

**A** ハッキリ言って、おまえがもしキレイなら即OKだ！　なぜなら天山は手が早いからだ！　この手紙にいままで何人とも付き合ったことがあると書いているから、そこそこキレイだろう。まりちゃんよ、自信を持て！

レスラーはいいぞぉ。ほかの人とはひと味違う。寝かしてくれないぞ、コノヤロー！　とにかく天山に手紙を書いたり、直接プレゼントするなりしてみな。きっと天山は手を出してくる。ああ、それは間違いない。**アイツを信用しろ！　アイツは飢えた狼だ。**まさに狼軍団なんだよ。

それでもダメならあいだにオレが入ってやろう。相談を受けたのはオレなんだから、オレに手紙を書いてこい。そして、写真も入れておけ。**美人ならオレが相手してやってもいいがな。**ワッハッハッハ。以上！

**Q** オレはいま恋をしている。これはべつに浮気じゃないからいいんだが、つい、「オレ、恋をしてるんだよ」とみんなに自分から言っちゃうんだな、これが。だからよく、話が曲げられて嫁に伝わってしまうんだ。これが揉める原因となってめんどくさいんだよ。オレのおしゃべりのくせを直す方法はないか？　誰か教えろ！

（橋本真也・プロレスラー・30歳）

YES, WE NOAH!!

三沢さんだけはガチ!!

## 男も惚れる箱船の盟主

# 三沢光晴伝説

何度でも読みたい プロレス最狂伝説!

ノアから取材拒否されている『kamipro』で、なぜだか三沢さんを唐突に特集!
それもこれも三沢さんには、プロレスファンにとってたまらない、
珠玉の素敵エピソードが数多く存在するからだ! 全日本プロレス、そしてノアでの極限の闘いに加えて、
リング外でもその人間力であまたの人々を惹きつけてきた箱船の盟主。
そのエメラルドグリーンに輝く魅力を徹底検証!

構成／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

## レスラーから見た三沢さんとは？

# 三沢さんは裏表がなくてぶっちゃけた感じの人です
# 池田大輔

**開国路線に乗って全日に参戦した"外様レスラー"は数多いが、その中で誰よりも三沢さんにかわいがられた選手といえば池田大輔だ。ここでは池田が、三沢さんの男気あふれるエピソードを披露！ せ～の、イナズマッ！**

いけだ・だいすけ■1968年2月13日、熊本県出身。93年に藤原組でデビュー。藤原組解散後はバトラーツ、全日本プロレス、ノアで活躍。04年にノアを退団し、05年3月にフーテン・プロモーションを設立。180cm、105kg

——今日は池田さんに三沢さんの男らしい"ちょっといい話"をお聞きしたいと思います！

池田　それ、俺でいいんですか？ ていうか、『Kamipro』はノアと仲直りしたんですか？

——えー、まだ絶賛国交断絶中です（笑）。池田さんは全日～ノアを通じて三沢さんとリング外でも親交が深かったとうかがいまして。ノアの旗揚げ会見でも「三沢光晴という大人物についていこうと思います」とコメントされてたことですし。

池田　まぁ、三沢さんには全日の頃からよく夜の街に連れてってもらいましたね。参戦してない時期でも声をかけていただいて、普通に飲んでカラオケ大会をやったり。三沢さんはウルトラマンレオとかヒーローものを好んで歌うんですよ。

——三沢さんの歌声は『リーブ21』のCMでも有名ですね（笑）。三沢さんはエロ社長キャラが浸透してますけど実際は？

池田　女の子がいる店に行くとそんな感じですよ、ある部分でそれも男らしさですけど（笑）。周りからも言われましたけど、なぜか俺は三沢さんにかわいがってもらいましたね。外様っていうこともあってか、上下関係って部分で全日本育ちの選手よりも壁がなかったのかもしれないですね。

——池田さんから見て三沢さんはどういった方ですか？

池田　大先輩に対して失礼ですが、とっつきやすい方ですね。とくに共通の話題とかないんですけど性格的にウマが合って。三沢さんは裏表がなくてハッキリものを言うというか、いつでもぶっちゃけた感じの人なんですよ。俺も三沢さんの前ではぶっちゃけてましたし。

——その中でも印象的なエピソードというと？

池田　そうですね……俺がバトラーツを辞めてフリーになった00年頃に、PRIDEに出るって話があったんですよ。

——へ～！　あの頃はプロレスラーがよく参戦してた時期ですね。

池田　で、三沢さんにポロッと「PRIDEに出ようと思ってるんです」みたいな感じで打ち明けたんです。そうしたら三沢さんに「次、新しいのやるから大ちゃんも参加してよ」っていうふうに誘われて。要はノアのことなんですけど、まだ名前も決まってなかった頃で。

——直々に声をかけられたわけですね。

池田　「（大ちゃんが参加するのは）もう決まってるから」って言われて、こっちも「あ、あぁ、そうですか」って答えて（笑）。ちゃんと頭数に入れてくれてることが嬉しかったですね。もともとノアの旗揚げメンバーはWAVE（三沢、小川良成、垣原賢人、丸藤正道）だけって話だったんですけど、蓋を開けたらあれだけの人数がついてきたっていうのが、三沢さんの人望を表わしてるんじゃないですか？

——ノアは池田さんにとってどんな団体でした？

池田　ちょっと浮いてたんじゃないですかね（笑）。俺はハードコアスタイルというか場外乱闘とか好き勝手やってたし。でも、それでも三沢さんは俺のこと認めてくれてたんですよ。「1シリーズで10台までなら机を壊してもいいよ、会社でもつから。でもそれ以上は自腹ね」って言ってくれて（笑）。

——度量が広いですね。

池田　そういうところに男気を感じますよね。でも、試合中に俺が三沢さんのハンマースルーを受けて机が壊れたときは「これは三沢さんが壊したことになるんだよな？　カウントされないよな？」って思いましたけど（笑）。まぁ、たとえ10個超えようがギャラから天引きしなかったと思いますよ、あれは三沢さん一流のジョークというか。

——そんなかたちでノアでポジションを築いたにもかかわらず、池田さんは退団されるわけですが。

池田　ぶっちゃけたこと言えば、旗揚げ戦でカッキー（垣原賢人）が暴走気味のファイトをしてすぐに退団したときに、「あぁ、俺も辞めてえな」って思ったんですよ。

——え、そうだったんですか？

池田　俺も本当はあぁいうことがしたかったんで。でも、酒の席で自分が酔っぱらいたい気持ちがあっても、もっと酔ってる人がいたらどこか冷静になるもんじゃないですか？

——なるほど（笑）。実際に退団するときは三沢さんとどういった話し合いに？

池田　退団の1年くらい前から打診はしてたんですよ。たしか銀座のしゃぶしゃぶ屋で、三沢さんが「大ちゃん、何がやりたいの？」って進路相談みたいに親身に聞いてくれて。そのときは「あと1年やれば3年になるな、石の上にもなんとかじゃないけど自分の中でも納得いくな」って思い直して。で、1年経ってから、地方のホテルのロビーで三沢さんに退団の意志を伝えたんです。そのときは「うん、わかった。でもこれからもフリーでウチに上がってね」ってありがたい言葉をかけてくれて。

——円満退団に至った、と。

池田　だから退団してからも上がらせてもらってたんです。逆にウチのバチバチにも快く選手を貸してくれましたし。「大ちゃんならノーギャラでもいいよ」って話もあったんですけど、もちろん「いやいや、そんな！」って払いましたけどね。

——嬉しい心意気ですね。あと、最近の池田さんのブログに書いてあったんですけど、夢の中に三沢さんが出てきたとか？

池田　あ、やっぱバレました？　一応、三●さんて名前を伏せ字にしてたんですけど（笑）。急に夢に出てきたから俺もビックリしましたよ！　まぁ、三沢さんは夢にまで見るほどいい男ってことですよ（笑）。

——きれいにまとめましたね（笑）。今日はありがとうございました。

**【09年2月4日／電話インタビューにて収録】**

レッグラリアートのあとに「イナズマ!」と叫ぶ池田。なぜか食らった側なのに、一緒になって天を指さすお茶目な三沢さん。全日時代には見られなかったようなシーンだ。ちなみに「イナズマ!」は池田が三沢さんたちのウケを狙って始めたとか。

あさの・たつくに■1952年10月1日、宮城県出身。23歳のときに上京し、飲食店経営のかたわら、さまざまなプロレス団体のプロモーターを務める。現在はIジャの社長として、新宿二丁目劇場をはじめ、リング内外で活躍中。

## プロモーターから見た三沢さんとは?

## この業界じゃ珍しいくらい三沢選手は信頼できるのよ

# 浅野起州

**古くから三沢さんと親交がある浅野IWAジャパン社長。プロレスをビジネスと捉えたときに、社長レスラーである三沢さんの凄さとはいったいなんなのか? 新宿二丁目の名物社長がややおネエ言葉で激語り!**

——浅野社長は三沢さんとは昔からお知り合いだとか?

**浅野**　もともと僕はIジャの社長をやる前に、全日本プロレスとかいろんな団体のプロモーターをやってたんですよ。だから三沢選手のことは、それこそ二代目タイガーマスクになる前から知ってるしね。やっぱり若手の頃からこの選手は伸びるなって素質を感じさせましたよ。一番印象深いのはSWSに選手が大量離脱したときの東京体育館大会(平成2年5月14日)。あのときは会場がガラガラでね～(シミジミと)。でも、マスクを脱いで自己主張する三沢選手を見て、これは馬場さんに恩返しするなって思ったもん。僕はあのときは最前列で観てたんだけど自然に涙が出ましたよ。これから背負ってくのは三沢選手だなって思いましたね。

——プロモーターとしても思い入れのある選手なんですね。

**浅野**　僕も三沢選手にはお世話になって儲けさせてもらいましたよ。あの人はこの業界じゃ珍しいくらいに信頼できるんです、まず嘘つかないしね。僕は他の団体をプロモートしてさんざん々ひどい目に遭ってるからさ(笑)。全日本女子とかFMWとか、ホント適当だもん! ちゃんとこっちがお金を用意しても、向こうは約束したことを「あぁ、忘れてた」とか平気で破ったりね。タイトルマッチをやるって言ってやらなかったり、予定してた外国人選手が来なかったりとかザラですよ。その点、三沢選手はそういうことは絶対しないからね。ほら、ノアを立ちあげて全日を退団するって決まったときに、すでに契約してた興行に穴を開けるとプロモーターに申し訳ないからって、全日の地方大会に出場したことがあったじゃない?

——あぁ、ありましたね。

**浅野**　それ一つとっても筋を通す人よね。そのときも「全日本から要請がなくても出るつもりだった」って本人は言ってたみたいだし。ちゃんと大会が終わればプロモーターに必ず丁寧なお礼の手紙も送るしね。こういうあたりまえのことをあたりまえにやるっていうのは難しいんだから。とくにこの業界だとね(笑)。

——律儀なんですね。03～05年頃にはIジャにノアの選手がたびたび参戦して。

**浅野**　三沢選手はウチみたいな吹けば飛ぶようなインディーにも、秋山(準)選手とか丸藤(正道)選手みたいな一線級を貸してくれてね。あのときはウチに参戦予定だった大物外国人が来れなくなって、三沢社長に助け船を頼んだのよ。そうしたら二つ返事で「いいよ」って言ってくれて。三沢選手も「金六ちゃん(浅野社長のアダ名)なら貸しても安心だ」って信用してくれてるんじゃないかな。僕も選手には嘘つかないし、言ったことは守るし。選手はウチを裏切ることは多いよ、ターザン後藤とか(笑)。それはともかく、三沢選手はプロモーターとして一緒に仕事をしてて一番気持ちいい人ですよ。

——頼りがいがあるというか。

**浅野**　そうそう。あと、ウチとノアの話で言うと、「のあのあクジ」(1回500円でグッズが当たるクジ引き)っていうのがあるでしょ? あれなんかは僕がやるように勧めたんですよ。

——仲田龍さんの本(『NOAHを創った男』)にも書かれてましたね。

**浅野**　ノアは選手も多いしファンもそれだけいるわけだから、こういうことやると儲かるよって、同じ経営者としてアドバイスして。で、けっこうヒットしたみたいで、累計の売り上げが1億円に届いたらしいのね。そうしたら、わざわざ三沢選手がどこかの地方会場から「おかげさまでこれだけ売り上げいきましたよ」って電話一本くれてさ。そういう気遣いが嬉しいじゃない、こっちも言った甲斐があったって思えるし。僕もいろんな商売してきたけど、あれだけ律儀な人はなかなかいないね。僕が経営する店に来てくれたこともあるけど、一緒に飲んでても楽しい人だしね。乱れるようなこともないし。

——プライベートでもお付き合いがあるんですね。

**浅野**　あの人は錦糸町とか上野とか、意外とそういう素朴なところが好きなのよね。たぶん僕くらいじゃないかな、三沢社長に「ねぇ、帰りのタクシー代ちょうだいよ!」って言うのは(笑)。三沢選手はとにかく口が固いんですよ。だから安心して楽しく話ができるの。普通、レスラーっていうと口が軽くてお馬鹿さんが多いから(笑)。僕なんかも飲んだらついつい、いろいろ言っちゃうんだけど、三沢社長はそれを絶対にほかに言わないんだよね。そういうところが凄い好きですね。

——そういう場にはほかのレスラーも同席するんですか?

**浅野**　いることもありますよ。若い選手との接し方を見てても素敵だなぁって思うよね。三沢選手は部下を人前では絶対に怒ったりしないんですよ。あれなんかは経営哲学の一つだと思いますよ、人前で怒るのは最低の経営者だからさ。そういうところからも、レスラーたちが働きやすい環境を作って、いい試合をしてもらおうっていう気持ちが見えるよね。

——下の選手から慕われる理由というか。

**浅野**　三沢選手は自分についてくる人間を大事に扱って、最後まで面倒見ようとするところが素晴らしいですよ。正直、僕が言うのもなんだけど、いまはなかなか大変だと思うんですよ。テレビ放送も打ち切られるとかそんな噂もあるしね。微力だけど、僕も協力できることがあれば協力したいですよ。もちろんこれからもウチに協力してほしいしね(笑)。

**【09年2月2日/都内・新宿二丁目にて収録】**

ノア旗揚げ会見には総勢26名が参加。会見をディファ有明で行なったのは、ホテルで開く金がなかったからとか。まだ正式な団体名も旗揚げ戦日程も道場も何も決まっていないという、慌ただしい中での船出であったが、"箱船乗組員"の表情は希望に満ちていた。

# 三沢さん エピソード集

## ハッキリ言って、実話です！

まだまだあります、三沢さんのハッとしてグッとくるいい話！
2・9プロレスばりにエンドレスに続く三沢さんの、
人間味あふれるエピソードを一挙に紹介！

### Episode 1 礼節を重んじる姿に長老ジョーさんも感激!!

その軽快なレフェリングや、レスラーに巻き込まれて失神する姿でおなじみだった名レフェリー、ジョー樋口。このジョーが、97年のチャンピオンカーニバルで42年のレフェリー生活にピリオドを打つことに。初の巴戦による決勝を裁いた直後に行なわれた引退セレモニー、リングを降りるジョーの目前には驚くべき光景が——。なんと直前に2試合闘い、満身創痍のはずの三沢さんが律儀に下で待っていてくれたのだ！「お疲れさまでした」と両手で握手を求めた三沢さんの姿を「いまでも忘れられない」と語るジョー。そのジョーは現在、GHCのタイトル管理委員長に就任。功労者に対して最大の敬意を払う三沢さんは、高齢化社会にも優しい男なのである。

### Episode 2 小川を押し上げた男も惚れる口説き文句!!

98年、ジャイアント馬場からマッチメイク権を譲渡された三沢さんは、いままでの全日では考えられなかったような〝三沢革命〟を敢行！　その象徴的なものが、三沢さんのパートナーとして当時ジュニアだった小川良成を抜擢したこと。戸惑いを隠せない小川は、「本当に俺でいいんですか？」と三沢さんに確認。すると三沢さんは「おまえで、じゃなく、おまえがいいんだよ」と、素敵な言葉を投げかけたとか。「小川には小ささを補う技術がある、そんなところでくすぶってる選手じゃないだろうというのがあった」と語る三沢さんによって、俄然注目度が高まった小川は、のちにGHCヘビー級王者にも君臨。「おまえで、じゃなく、おまえがいいんだよ」——こんな男も惚れる口説き文句、一度でいいから三沢さんに言われてみたい！

### Episode 3 誠意には誠意でお返し！マスコミにも筋を通す男!!

99年、大相撲の力櫻（現・力皇猛）が全日入りした際の話。その情報をつかんだとある新聞記者が、当時社長であった三沢さんに真相を尋ねた。すると三沢さんは「正式発表するまでは誌面に載せるのは控えてくれないかな」と返答、記者はその申し出を素直に受け入れた。しかし、それから数日後、他の新聞に「大相撲の力櫻、全日本プロレス入り！」という大々的な文字が——三沢さんの事情など関係ないとばかりに、他紙が出し抜いてしまったのだ。急きょ、全日は会見を開いて、力櫻の入団を正式に発表。会見後に三沢さんは、ライバル紙に特ダネを横取りされてしまい落ち込む記者を別室に呼ぶと、「約束守ってくれてありがとう。何かほかに聞きたいことはない？　なんでも話すから」と、気遣いあふれる一言。約束を守ってくれたことに対する三沢さんの誠意、偉大な男はアフターフォローもバッチリなのだ！

### Episode 4 そのビッグハートにミヤマ仮面が泣いた日!!

00年のノアの旗揚げ戦。華々しい雰囲気の中で一人殺伐としていたのが、全日時代に三沢さん率いる「アンタッチャブル」の一員でもあったカッキー（垣原賢人）。カッキーは格闘スタイルで対戦相手の一人であった大森隆男をタコ殴りにして大暴走！　数年後、カッキーはこのときのことを「首の怪我もあって、もう現役は長くないなって焦ってたんです。うまくいかず落ち込みましたね……」。悩みに悩んで、結果的にノアを離れたカッキーにとって、あの試合は17年のプロレス生活で唯一の汚点として挙げるほどのトラウマに。カッキーは「レスラーの中で一番ハートがデカいのは三沢さんだと思うんです。そんな人を、ある意味裏切ったっていうのが凄く心残りで」と後悔していた。しかし、06年のカッキーの引退試合、三沢さんはその門出に対して豪華な花を贈呈。わだかまりを残したかつての仲間に対してもこの心配り。カッキーはその器のデカさに涙が出そうになったとか。クワクワ（涙）！

### Episode 5 高山を全面バックアップ！とにかく話がわかる男!!

01年2月、当時ノアに所属していた高山善廣がPRIDE参戦を宣言、それに伴ないフリー転向を発表した。この発表の陰にも、三沢さんの男気あふれる思いやりが——。総合格闘技挑戦を決心していた高山は、「このままだとノア優先のスケジュールになる。PRIDEと重なる場合もあるからフリーになるしかない」と、三沢に退団を申し入れる。すると、「所属のままでもいい。PRIDEに出るための準備が必要なら、そのあいだは休んでもいい」と、PRIDE出陣に理解を示しただけでなく、バックアップする姿勢まで見せた三沢さん。高山はこのときのことを「絶対にダメだとは言わない人だとは思ってたけど、けっこう簡単にいいよって言われてちょっと驚いた」と述懐。さらに「ノアに不義理はできない。僕がこうしていろいろ挑戦できるのは三沢社長の心の広さがあってのことだから」と、ノアへの思い入れを吐露。06年、高山が脳梗塞から復帰するときも、三沢さんは日本武道館のメインという最高の舞台を用意（高山善廣＆佐々木健介vs三沢光晴＆秋山準）。フリーとして縦横無尽に活躍する〝帝王〟高山にとって、三沢さんの存在はエベレストジャーマンのように大きいことだろう。

### Episode 6 青春をともにすごした〝理不尽大王〟との友情!!

〝理不尽大王〟の異名で一時代を築いた冬木弘道。全日時代に三沢と妙にウマが合い、所属団体が変わってもプライベートでは親友同士だった。その二人が02年の4月に12年ぶりに再会マッチを敢行。しかし、その2日後、なんと冬木が大腸ガンに侵されていたことが発覚！　冬木はその日、自らがプロモートする大会で引退を発表。しかし、そのことを聞きつけた三沢は「最後はしっかり（幕引きを）やらなきゃダメだ！」と急きょ会場に駆けつけ、その日からわずか5日後にノア主催による『冬木弘道引退興行』の開催を発表した。その引退興行を三沢との6人タッグマッチで終えた冬木は最後に「勝手に思ってるだけかもしれないけど、俺にも親友がいたってことかな」とポツリ。ちなみに三沢さんは収益のすべてを冬木に贈ったとか。のちに三沢はこのことについて「べつに深い意味はない。冬木さんは大切な友だちだからです」と述べている。冬木は03年3月にガン性腹膜炎および水腎症を併発し42歳の若さで逝去。その最期のときにも三沢さんは立ち会ったとか。ともに青春をすごした仲間に対する友情あふれる行動……。もう一生、三沢さんについていきます！（涙）。

いつだってアントンは
とにかく狂っていた!!

魔性のビジネスマン

# アントニオ猪木伝説

何度でも読みたい
プロレス
最狂伝説!

伝説特集のトリを飾るのは、もちろん我らがアントンしかいねえんです!
常人じゃ計り知ることのできないアントンにまつわるトンデモエピソードを徹底追求ダーッ!!
とにもかくにも迷わず読めよ、読めばわかるさ!　ありがとー!!

構成／ジャン斉藤

元気があれば発電もできるッ! 05年12月30日、花やしきに登場した闘魂神社で噂のアントン発明『闘魂パワー』(not永久電機)がお披露目! ぼんやりした光が点灯しアントンはガッツポーズも、システムの説明は一切なし!

## マテ茶にアントンハイセル、永久電機まで!!

# 発明家・猪木は こうして生まれた!

**最近のファンにとって、アントニオ猪木は偉大なプロレスラーというよりは、トンデモ実業家であり胡散臭い発明家なのかもしれない。なぜ猪木は事業に走るのか? そこには血と宿命があったのだ!**

いまさら言うまでもなく、アントニオ猪木の旺盛な事業欲は、これまでのプロレス史にドラマチックに絡みついてきた。猪木が何か事業に走れば走るほど、その魔性ぶりは浮き上がり、業界は地殻変動を起こして、ある種のエンターテインメントとして我々を楽しませてくれた。

古くはブラジルの物産販売を目的とする「アントントレーディング」の設立から始まって、マテ茶やアントンナッツ（ひまわりのタネ）、タバスコの輸入、スペアリブレストラン「アントンリブ」、そして新日本プロレスを傾かせたアントンハイセル！（サトウキビからアルコールを絞り出したときに排出されるアルコール廃液、絞りカスを家畜飼料にするプロジェクト）。そして、最近ではわずかな磁力で半永久的にエネルギーを生み出す大発明、永久電機がおなじみだ。地球にやさしい〝絵の暖房〟ビジネスには少し説明がいる。暖房が効いた部屋に飾られたペンキ絵。アントンはそれを見渡しながら「この絵から暖房が出ているんだ」と胸を張ったという……。北朝鮮海域のフグ漁業権獲得プランは、のちに〝拉致問題〟の時節柄、不謹慎すぎるということで街宣車まで出動する騒ぎとなった「北朝鮮～ふぐ松茸食べ放題ツアー～」につながっている。

いずれも成功の話は聞こえてこないが、こうした事業欲が芽生えたのは、ゴルフ場やサウナなどの多角経営で鳴らした力道山のもとで青年期をすごした影響もあったのだろう。さらに猪木の父親は石炭業を営んでいた。エネルギー事業や投資に挑むのは、猪木の血であり、宿命なのだ。そこに「俺はプロレスだけじゃない」というコンプレックスが拍車をかけた。

「レスリングしかやれないのだからおとなしくレスリングをやってなさいと、裏で薄笑いを浮かべているのだ。逆に私は、よし、絶対にやってやると、燃えた。見せてやる、俺の可能性を!!」（『苦しみの中から立ち上がれ』より）

だからこそ、新日本プロレス名誉顧問で元・総理大臣の福田赳夫(故人)に「ブラジルという国は非常にインフレ率の高い国」だから、ハイセルに「投資することには反対なんだ」という適切なアドバイスを送られても、まったく耳を貸さなかった。

こうした猪木の精神面に影響を及ぼしたと思われる人物がいる。その名は政木和三（まさき・かずみ、故人）。生涯に1000件以上の発明品に携わり、自動炊飯器、自動ドア、格安テレビ、エレキギターを〝インスピレーション〟で発明したと本人は主張する。そのうえアトランティス語をしゃべるという政木先生の素晴らしさを、ホームページから引用する以下の文章から理解してほしい。

「過去、政木氏の周りには通常では考えられないことが数多く発生している。口の中から真珠が出てきたり、空の壺から果実酒が湧き出したり、数日にして庭の三つ葉が四葉のクローバーに変わってしまう。遠方に忘れてきたはずの鍵や資料が手元に発生する。さらに極めつけは、下記に掲載した空間から突如として発生した仏像群である。これらの多くの現象には物的証拠がある。それも生き証人が必ず同伴しているのだ。そして、これらの仏像は今も現存するのである」（原文ママ）

どう？ 凄いでしょ？ 猪木は月に一度はこの偉人に会いに行き、同伴した倍賞美津子・前夫人は〝頭の良くなる機械〟の実験台になったという記述もある。マット界は猪木の〝インスピレーション〟よって狂わされたのかもしれないが、プロレスラーは僕らと違って常人じゃない。これでいいのだ！

## 保守王国・熱海の歴史を変えた男!?

# 猪木の兄はもっとスゴイ!!

**アントニオ猪木の狂気は"血"でもある。それは実兄の快守氏を見ればわかること。常人では計れないスケールを持っているのだ。フリーメイソンから池田大作までつながるビッグな男にぜひしびれてほしい!**

猪木快守氏といえば、アントニオ猪木の実兄にして、時折一般週刊誌などでその名が騒がれる怪人物。アントン以上にぶっ飛んだ男で、この兄にしてあの弟ありなのだ。

経歴がとにかく胡散臭い。ざっと説明すると、ブラジル移民時代にフリーメイソンとの関わり合いを持ち、アントンハイセル事業で奔走し、"神のお告げ"で五大宗教の統一に目覚め、スポーツ平和党にも参画し、キューバのカストロ議長から島を譲渡された。ご存知あの永久電機事業にも携わるかたわら、国際連合承認プロレスイベント"国連ボンバイエ"の開催や、全国パチンコ店の駐車場の照明を闘魂モーターで灯すという、320億円ビジネスプロジェクトも計画(全国1万6000店舗×モーター10機×一機20万円というアバウトな計算)。

こちらも弟同様、プランは派手だが何か実現したという話はとんと聞かない。それでこそ猪木だ!

ここ最近で一番ビッグなプロジェクトといえば、全国都道府県の闘魂神社設立。その一環として、日本のある土地に「有名なお城を再現して建てて、そこに宿場町も作ろうと思ってる」と力説した。その"日本のある土地"とは、彼が06年に市長選に出馬した熱海市だった。

とくに熱海にゆかりがあったわけでもないのにどうして? 熱海市内ホテルの宴会場で行なわれた出馬会見に集まった記者たちは、戸惑いと冷笑を隠せなかった。完全アウェイの中、快守氏は雄弁に語った。

「じつはね、創価学会の池田大作先生がブラジルに入られたときにボクが骨を折ったんですよ。そんな関係で何度か食事をご一緒してますし、(今回の出馬の件で)お手紙を書きました」と、久本雅美もビックリの関係を披露したかと思えば、「(出馬することが決まって)正直、命を狙われております。ハッキリ申しますが、脅しが3件ぐらい入っております(笑)。市長選とはそんなもんかなと身に染みて感じております」と、熱海のイメージを壊しかねない大胆な告白!

「4年前から熱海に家を探してて、6000坪の土地を買うつもりだったんですよ。安かったんで」

快守氏の話が進めば進むほど、メモを取ることをやめる記者が増えていく。

「一つ大きなプロジェクトを抱えております。熱海と初島の4キロのあいだを海底水族館、海底道路を作るという何千億円の計画です!」

「ボクは浅草サンバカーニバルの仕掛人なんですけど。震いつきたくなるようなサンビストをブラジルから呼んでコンテストを三日三晩やれば、泊まり客も増えるし、町の活性化になると思います」

サンバのダンサーを「サンビスト」と呼ぶそのセンスは決して見逃せないが、まさか快守氏が浅草サンバカーニバルの仕掛人だったなんて(関連性は不明だが、アントンの姪っ子である猪木亜弥子ファニーは、「ウニアンドスアマドーリス」の一員として浅草サンバカーニバルに参加)。

夢や野望はわかった。どうして市長選に出馬したのか? 快守氏は「このままでは熱海は夕張市になる!」と経済破綻の危機を訴えたが、地元記者からの具体的な質問(市の財政状況)に一切答えられず、「いいかげんにしろ!」と詰められた。

抜群の知名度を誇る弟も応援演説に訪れたが、「俺は俺、兄貴は兄貴」と微妙な距離を保っていた。開票の結果、771票を獲得、4候補者中、最下位で快守氏はあたりまえのように落選した。当選者と次点の票数はたった62票。保守王国の熱海に、民主系の市長が誕生した。もし快守氏が出馬してなかったら——? ドン・キホーテなチャレンジは、確かに熱海を変えたのかもしれない。

衝撃の快守氏の熱海市長選出馬会見、報道陣の財政に関する質問では「これから勉強します」と苦しい弁明で、立候補理由も「子どもの頃、熱海の父の別荘によく遊びに来たから」という説明だから、記者がキレるのも当然だ。

『猪木祭り』の象徴といえば伝説の百八つビンタの大乱闘騒動! あれだけの騒動だったのに、なぜかケガ人が出なかった理由を本誌・ジャン斉藤は「30年経ったら明かす」と話しているが……、いったい何があったんだ?

## 数々の伝説を残した"ズンドコ黒帯"イベント

# 猪木祭りのちょっといい話

**伝説のズンドコ興行、03年『猪木祭り』。とても1ページで収まらないが、アントン特集で触れないわけにはいきません。ズンドコ興行マニアにして、アントン研究家のジャン斉藤がいかに『猪木祭り』が凄かったかを語ります。**

――猪木さんといえば、なんといっても2003年の大晦日に開催された日本テレビ版『猪木祭り』の話題は避けて通れません。

**斉藤**　最初に言っておくと、03年の大晦日3局同時開催って、どうしてもヤ○ザの話にまとめて断罪しちゃう正義感あふれるマスコミが多いんだけど、あんなにおもしろかったイベント戦争はなかったということなんですよ。それに、日テレ版『猪木祭り』に比べたら、DREAMや『戦極』のズンドコなんてずいぶんとスケールは小さいし、誰もリスペクトを含んだ言い方はしてないでしょ？　DREAMなんて"ズンドコ白帯"もいいところですよ!!

――"ズンドコ白帯"！　嬉しいような悲しいような（笑）。

**斉藤**　で、確かに『猪木祭り』の視聴率は惨敗だったけど、実券はけっこう売れていた。あんまり招待券は撒いてない。それは日テレが大反対したから。

――それはどうしてですか？

**斉藤**　『猪木祭り』は継続していくイベントだから、招待券が出るイベントだと思われると今後チケットが売れなくなるということらしい。日テレは『猪木祭り』と3年契約を結んで、継続的に興行を打つ計画だった。猪木さんは「毎月『猪木祭り』をやりたい!!」って言ってたけど、あんなズンドコなイベント、毎月やったら死人が出ますよ（笑）

――有名なズンドコ話でいえば、試合直前までゴングがなかったんですよね。

**斉藤**　真剣に鍋を叩くプランがあったと聞くけど（笑）。前日のリハーサルでもゴングがないことに誰も気がつかなくて、まさに大会当日、試合開始4時間前にゴングがないことが発覚した。

――それであわてて三島☆ド根性ノ介に連絡して持ってきてもらった、と（笑）。

**斉藤**　でも、"『猪木祭り』帰り"は、みんな出世してるんです。ヒョードル、ジョシュ、シュルト、それにリョート・マチダなんかいまやUFCライトヘビー級のトップコンテンダー。あとアリスター・オーフレイム。これも有名な話だけど、アリスターの対戦相手が決まらないから、なぜか、えべっさん（菊タロー）の名前が浮上したらしくて。ただ、えべっさんのバックボーンがレスリングだから、アリスターはイヤがったとか。

――絶対にウソですよ！（笑）。

**斉藤**　結局、橋本（友彦）に決まったんだけど、なぜか超巨漢ライターの橋本宗洋に連絡がいったというオチがあって。どこを切ってもズンドコだよ（笑）。そうそう、忘れちゃいけないのは、小倉優子、岩佐真悠子、若槻千夏、杏さゆりのボンバイエガールズ！

――みんな出世している!!

**斉藤**　ついでに『レコード大賞新人賞』受賞の演歌歌手、森山愛子ちゃんは猪木さんが名付け親で、デビュー前は猪木事務所の事務員をやってたんだから。愛子ちゃんはこないだテレビ東京の『田舎に泊まろう！』に出てて、宿泊のお礼に手製の箸と箸入れを作ってたよ。さすが猪木軍、いい人揃いだねぇ。

――もう関係ないでしょ（笑）。まあ、ともかく『猪木祭り』帰りは出世するということで。

**斉藤**　だから、もしノアが『猪木祭り』に協力していたら、今回騒がれている地上波中継打ち切り問題はなかったかもしれない。

――え？　どういうことですか？

**斉藤**　あのとき『東スポ』が「ミルコvs小橋実現か？」なんて報道したでしょ？　噂によると、激怒した日テレのノアH担当が交渉の席すら設けないようにシャットアウトしたんだって。そんな非協力的な姿勢が打ち切り騒動を呼んだのかもしれないなあ……。

――そんなわけはありません。

# 猪木を殺すまで私は死ねない

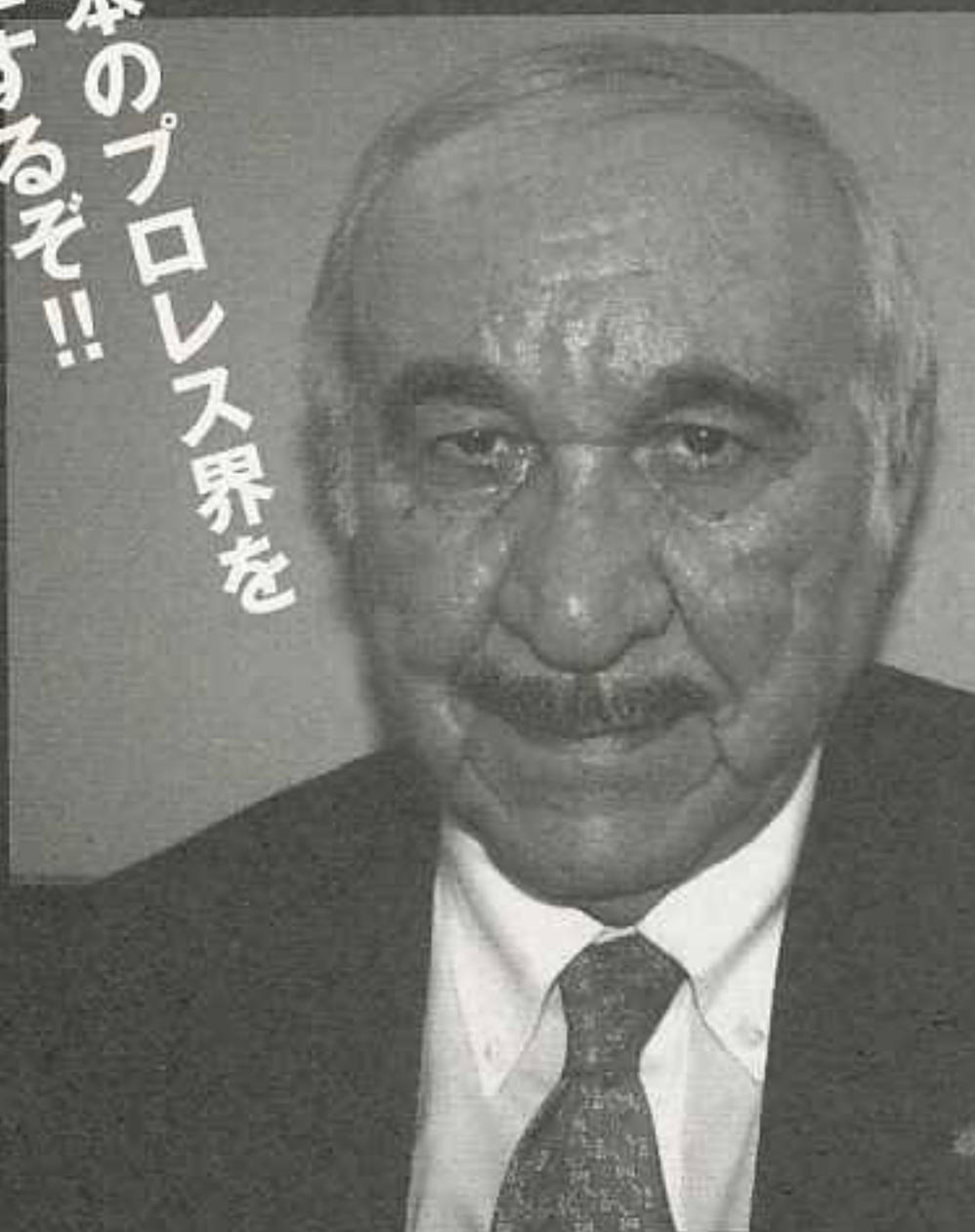
日本のプロレス界を統一するぞ!!

燃え盛るオスマントルコ魂で
物騒な発言の真相を激白!!

# ユセフ・トルコ

ユセフ・トルコが燃えている! といっても、最近の読者にはなんのことかわからないだろう。本誌の前身である小さい版型の『紙のプロレス』時代からたびたび登場してエキセントリックなトークで大人気だった。そんなトルコさんがひさしぶりに編集部に電話をかけてきた。その電話とは「猪木を半殺しにしないと気が済まないんだよ!!」という衝撃的なものだった。いったい何があったんだ〜っ!?

聞き手／坂井ノブ

# 猪木を殺すまで私は死ねない

―お忙しいところ、すみません。『kamipro』にはひさびさの登場ですが、あいかわらずお元気そうですね！

**トルコ**　いま俺78歳だけどな、まだまだ元気だよ！

―78歳なんですか！

**トルコ**　そうですよ。当年とって78歳！　おヘソの下は40歳！

―出たっ！　伝説の名フレーズ（笑）。

**トルコ**　今日は玉利齋さん（※注＝財団法人日本健康スポーツ連盟理事長で三島由紀夫のボディビル・トレーナーを務めたこともある）が旭日双光章を叙勲したパーティで、こっちに出てきたんだ。発起人は森（喜朗）元首相だよ。

―す、凄まじいパーティですね。

**トルコ**　ところで、こないだあれと電話でしゃべったんだよ。力道山の息子の……。

―「あれ」ですか（笑）。百田光雄さんですね。

**トルコ**　そうそう！　あれに「モアだかノアだかわかんないような会社はやめろ！　おまえ、力道山の息子だろ？　株式会社力道山道場って名前を張れ」って言ったんだよ。各レスラーの道場には力道山の写真もなければおかしいじゃないか!?　プロレスっていうのは力道山がいたから始まって、その2年前には俺がやってたんだよ。遠藤幸吉と柔道の木村（政彦）と。そのときはいまのK―1みたいな柔拳をやってたわけだよ。

―柔拳で全国を回ってたんですよね？　柔拳ってどんなルールだったんですか？

**トルコ**　こっちはボクシングのグローブはめて、相手は柔道家だろ。こっちはぶん殴るだけだよ。

―トルコさんはボクシング側ですか。

**トルコ**　そうそう。白井義男って知ってるだろ？

―ボクシングの元世界フライ級チャンピオンですね。

**トルコ**　うん、あいつと同じ道場でやってたんだよ。俺はピストン堀口と仲よかったから。

―〝拳聖〟ピストン堀口と！　力道山先生との接点というのは？

**トルコ**　ある日、プロレスが始まるっていうんで遠藤幸吉が行ったんだ。そして俺も行ったわけだよ、人形町へ。

―日本プロレスの道場があったところですね。

**トルコ**　うん。俺は力道山っていうのは凄いなと思ったよな。シャープ兄弟も凄かった。いまのレスラーは重量挙げで作ってきた身体だよな。昔のレスラーは生まれたときからそういう格闘技の身体なんだよ。もうガーッとな！　それは凄かったよ。いまのレスラーは、ああいうのいなくなっちゃったよな。いま日本の選手を見てても、力道山時代はみんな自分のスタイルがあっただろ。トルコにはトルコのスタイル、遠藤には遠藤のスタイルっていうのがあったよ。いまはないだろ？　どれもこれもがみんな同じようなんだよ。

―そうですね。

**トルコ**　ロープの上に上がってさ、サルじゃあるまいし。あれがタイガーマスクみたいにブワーッと飛ぶならわかるよ。それが普通のレスラーまでさ、倒れたヤツを持ち上げてコーナーに上げてさ、やられたヤツもバカみたいにそこ上がってく。やられて倒れてるヤツがコーナーに上がるかっていうんだよ！

―おっしゃるとおりです！（笑）。

**トルコ**　だからいまはピャーッと客が離れちゃったんだよ。K―1がなぜいいかっていったら、K―1は一発でバーンてやったらボーンって倒れるじゃんか。それでおしまいだろ。

―何がリアルかってことですよね。

**トルコ**　客がそういうふうに思っちゃうよな。ところが、悪いけどK―1に出てるヤツだってみんな素人だからね。それは一発食らえば倒れるよ。まともにやったことないヤツらだから。みんなヨーロッパかどっかの重量挙げの学校行ってる生徒だから。悔しかったらプロレスで挑戦したらいいよ。「プロレスでやろう」と。やらないだろ？

強豪外国人を空手チョップでなぎ倒してきた力道山は戦後日本の国民的英雄だった(写真中央)。当時のプロレスは大衆娯楽の王様として君臨しており、観客動員や視聴率でも圧倒的だった。そんな時代にトルコさんはレフェリーやレスラーとして活躍。舞台や映画にも出演して人気を博した。

## 力道山が「トルコ野郎」って言うから「なんだ朝鮮野郎！」って言い返したよ！

―たまにやったりしてますけど、まったくお話にならないレベルですよね。

**トルコ**　とにかく俺たちの時代は他人のマネなんかしたら……、力道山がバババババーンだよ。大会の最初から最後まで隙間から見てるから。あの人、ゴルフ始めてパター持ってたから、それでバコーンと。大木金太郎があそこまで頭が強くなったのは、あれ毎日リキさんにぶん殴られたから強くなったんだからさ。

―やはり、そういうお目付け役はプロレスに必要なんでしょうね。

**トルコ**　昔、羅生門（綱五郎）ってデカいヤツがいたでしょ？　あいつの出身地、台湾にプロレスで行ったとき、花を持たせなきゃいけないのにボコボコにしちゃったんだよな。そしたら試合が終わって力道山が血相変えてきて「トルコ野郎！」って言うから、「なんだ朝鮮野郎！」って俺が言ったわけだよ。「何が朝鮮だ！」「おまえがいまトルコ野郎って言ったじゃねえか。おまえ、日本人になっても朝鮮の魂あるじゃん。俺だって日本人になってもトルコの魂あるぞ」とか言ってね。力道山に「朝鮮野郎」って言ったのは私だけだよ。

―ほかの人は絶対言えませんよ。

**トルコ**　そのあとに宮崎に行って一升瓶を10本空けて仲直りしたよ。私と力道山とハロルド坂田、それとガイジン選手の4人で飲んだんだよ。俺はそのとき酒があんまり飲めなかったから酔っぱらっちゃってね、あくる日の試合で勝ち名乗りを挙げるとき、間違えてガイジンの手を上げち

## あいつは半殺しですよ、半殺し！ 猪木がプロレスを壊したガンだよ

ゃったんだよ。力道山は怒りたいんだけど、もう仲直りしたから文句言えないだろ。そういうことがあったね。

――力道山が亡くなったあと、トルコさんは猪木さんと行動を共にしてますよね？ そこで今日の本題なんですが、猪木さんに対して、どんな感じなんですか？

**トルコ** （凄い剣幕で）あいつは半殺しですよ、半殺し！ あいつがプロレスのガンだから。あいつがプロレスを壊した。あんなボクサーなんか連れてきてな！

――あんなボクサーってモハメド・アリのことですか。

**トルコ** な、あのときネコ踏んじゃったって格好したろ？ 俺があだ名つけたんだよ、「ネコ踏んじゃった」って。あいつはそうだよ。ほかのヤツは全員レスラーなんだよ。アマレスとかいろいろやってるじゃん。あいつは何もやったことがないんだよ。

――砲丸投げ出身ですよね。

**トルコ** 嘘つけ！ 砲丸もないんだよ、それはリキさんが作ったんだよ！ あんな内股の人間に砲丸なんかやれるはずないよ。ハワイに連れてきて、遠藤幸吉が3ヵ月か4ヵ月プロレスを教えたんだよ。それで日本に入ってきて、「日本に来たら日本語しゃべるなよ。ヘタな日本語をしゃべれ」と力道山に言われたんだよ。だからいつも英語の新聞を読めもしないのに見てたんだから。で、横浜市鶴見の試合のときに切符売りが「トルコさん、猪木さんの同級生が来たよ」って言うんだよ。「同級生？ なんで鶴見に同級生がいるんだよ？ あいつはブラジルの人間だろ」と思って。それでその同級生に「なんだ？ ブラジルから来たのか？」って聞いたんだ。そしたら「いやいや、猪木さんはこないだまでここにいたんですよ、私の同級生なんです」って言うんだよ。それでみんなであいつを袋叩きにして、「この野郎、嘘つきやがって！」って。猪木は「いや、リキさんに言われて仕方なくやったんだ」と。

――そりゃ仕方ないのかもしれないですけどね。

**トルコ** だからプロレスのガンだよね。俺、タイガーマスクのリアルジャパンプロレスのリングの上で「猪木、来い。いつでも78歳の俺が相手してやる」って言ってんだよ。1対1でやろうと思ってんの。

――一番大きな猪木さんの罪っていうのはなんですか？ プロレスを壊したっていうのはどのへんが大きいですか？

**トルコ** だからアリから全部。そういう悪い人間と付き合ってさ、もうプロレスじゃないよな。チャンピオンベルトが獲れたのも全部俺のおかげだよ？ あいつをチャンピオンにするために何回もやったんだよ。デストロイヤーは俺に言ったよ、「俺は猪木とやったんじゃない、トルコと試合やったんだ」って。俺のカウント、「ワンツースリー」で速いからな。とにかく馬場のほうが強いんだから。馬場と猪木がやっても馬場のほうが強い。馬場は稽古を、なんだかってガイジンのところにいてやってたんでしょ？

08年11月に開催されたIGF名古屋大会では、かつて猪木と袂を分かった藤波辰爾や初代タイガーマスクなど新日本プロレスの黄金期を支えたメンバーが集まった。

――フレッド・アトキンスですね。

**トルコ** そうそうアトキンス。彼がそこにいたことが最高だよ。猪木はどこにいたのよ？

――カール・ゴッチさんとはずっと練習をやってたんですよね？

**トルコ** カーッ！ 冗談じゃねえよ！ 力道山が一度、カール・ゴッチ呼んだよ、ワールドリーグで。それであいつの試合を観て、もう二度と呼ばなかったもん。あいつの試合は小学校の生徒がレスリングやってるのと一緒だっていうんだよ。迫力がない！ 学校の先生のスタイルだ。

――つまり基本はできてるけども魅せる要素がない、と。

**トルコ** そうそう、なんでもない。トルコに行ってアマレスでさんざんやられたから、よく「トルコ人って怖い」って言ってたもん。誰もアメリカではあいつを相手にしなかったんだから。もう前座の一番か二番の試合だったんだよ。それを猪木が呼んだから、もう嬉しくてしょうがないんでしょ。それでみんな「カール・ゴッチは神様」とか言いだして。何が神様だっていうんだよ！ 梶原一騎にも怒ったよ、「神様って描くな」って。

――最近プロレスの人気がちょっと下火になってますが、その頃のプロレスと現在のプロレスでは何が違うと思いますか？

**トルコ** 昔はレフェリーがちゃんとしてたんだよ。選手も一発ボーンとやられたらスッと倒れるよな。あんなロープを使ってへんなバカなことしない。倒れてバターンってなったらすぐにレフェリーが間に入って相手は引く。最近のプロレスを観たらレフェリーもクソもないんだよな。タッグマッチでも紐がねえじゃねえか。

――ああ、タッチロープがない、と。

**トルコ** 昔はあれをうまく使ってやってたんだよ。だからシャープ兄弟のタッグマッチは最高だったろ？ あんなタッグマッチはないもの。いかにこうしてやろうというさ。いまは真逆。片方がやられたら、もう片方が入って試合を壊して、タッチしたかしてないかもわかんないだろ。だから俺のレフェリーのときはそうはさせないもん。

――要するにいまはプロレスが壊れちゃってるんですね。

**トルコ** 壊れてる。初めからやり直さなきゃダメだ。だから俺が力道山の息子に言ったんだよ。「おまえが力道山道場の社

## 猪木を殺すまで私は死ねない

### やっぱりプロレスを統一して力道山のところに行きたいよ

長になって、タイガーマスクとか（ザ・グレート・）サスケとかいいのがいるから、みんなまとめて仲良くやっていい試合をやれ。そしたらスポンサーもちゃんとつくから。そうじゃないとみんな離れちゃうよ」って。俺は「猪木とはもう縁切って、あいつをやっつけるから」と。

――あいつをやっつける（笑）。

**トルコ**　俺があいつの急所狙ったらおしまいなんだから。二度と立ち上がれない。大衆の前でやったら第二のグレート東郷事件だよ。グレート東郷は俺にぶん殴られてもう出られなくなったろ？

――トルコさんがグレート東郷をボコボコにしたんですよね？　当時は「レフェリーより弱い世紀の悪玉」って話題になったそうですが。

**トルコ**　俺は隠れて殴りたくないんだよ。俺は弁護士とも話してるんだから。「凶器使わないでやりますから」って。レスラー同士のケンカだもん、しょうがねえじゃねえか。俺は78歳だから。裁判したって負けっこないよ、俺には凄い弁護士がついてるからな。

――トルコさんにとっての悲願なわけですね、猪木さんとやるのは。

**トルコ**　そう。やらないと天国に行けないよ。力道山のところに行けない。やっぱりプロレスを統一して力道山のとこに行きたいよ、俺はね。

――ところでトルコさん、佐山聡さんとの親交は昔からですよね。

**トルコ**　その昔、梶原一騎の事務所に行ったとき、いろんな漫画があったんだよ。ボクシングのとか野球のとか、いろんな漫画があったよな。

――たぶん『あしたのジョー』とか『巨人の星』ですね。

**トルコ**　俺は漫画は『のらくろ』しか読まねえからよく知らないんだけど、そこでふと『タイガーマスク』を読んだのよ。タイガーマスクがいろんな技やって飛んだりしておもしろいなと思って。そしたら梶原一騎が「トルちゃん、ずいぶん夢中になってるね」って言うから、「先生、これいろんな技やって凄いですよ。先生は技もやったことねえのにこんなの描いて、たいしたもんだなと思って。こんなヤツ日本にいないから」って言ったら、「俺がお金払うから、アメリカ全土回ってこれに合うヤツ探してくれ」って言うんだよ。「じゃあ、そうしようか」って言ってるうちに、そこへ猪木が来たんだよ。それで話してるときに

ゆせふ・とるこ■1930年5月23日、樺太出身。本名ユセフ・オマー。日本プロレス旗揚げ前から柔拳などで活躍したプロレス創成期の数少ない生き証人。プロレスラー&レフェリーとして活躍した。エノケンや由利徹などの舞台でも活躍。一方で、日本プロレスを裏切って国際プロレスのブッカーになったグレート東郷を鉄拳制裁するなど武闘派でもある。

「ウチにアマレスやって凄いジャンプするヤツがいて、いまメキシコに行ってる」って言うから、すぐ調べたらもうイギリスに行ったっていうから、すぐに電話して帰国させたんだ。それで俺と梶原一騎とで見て、ほかにも猪木がいて、新間寿がいたかな。それでタイガーマスクともう一人の試合を道場で観たんだよな。最初は「なんだこんなもんか」とか言ってたのが、だんだん引き込まれていったんだよ。

――じゃあ、佐山タイガーマスク誕生はトルコさんがきっかけだったんですね。

**トルコ**　俺があの漫画を読んでなかったら、なかったよ。

――そこから佐山さんとはずっと親交が続いてるんですか？

**トルコ**　うん。あいつも猪木とケンカしてるんだよな。そしたら猪木が俺に「トルコさん、気をつけて。あいつすぐキレるからね」って言うんだよ。「誰が？」「佐山です」「おい、キレるって刀かなんかで切るのか？」って言ってやったの。だからみんなそうなんだよ、出てったヤツっていうのはな。髙田（延彦）にしろ、長州（力）にしろ、猪木の本性をわかるとみんな逃げるよ。

――リングに上がってるアントニオ猪木は最高だけど、猪木寛至は最低っていろんな選手や関係者が言ってますよね。

**トルコ**　俺は猪木の泊まってるホテルに乗り込んだこともあるんだよ。フロントのマネージャーに「新聞記者だ」「インタビューだ」って言ったら、あいつが電話に出たんだよな。「俺だよ、いまから行くから待ってろ！」って言ったら、電話がガチャンと切られてサーッと非常階段から逃げたんだから。で、●●●ってマネージャーか？　その●●●から「会いたい」って電話かかってきたよ。それで俺が言ったんだよ、「おまえ、プロレスもわかんないのに、なんでおまえが俺に会うんだよ。猪木を連れてくるなら話はわかるが、おまえと話したって意味がないんだよ。おまえにはわからないんだから。猪木が謝りたいんなら俺のところに来い」と。それ以後、俺から逃げてるわけだよ。

――トルコさんの悲願であるプロレス界統一をするには、それしか方法はないですか？

**トルコ**　以前、日本テレビでプロレス中継のプロデューサーだった原（章）さん、いまはＦＢＳ福岡放送の社長やってるけど、彼が福岡に行く前に一緒に飯を食ったんだよな。その席で「プロレス界を統一したら私が氏家（齋一郎・日本テレビ代表取締役）に話して……」って言ってたよ。あいつ、なんだっけ？　『読売新聞』の偉いヤツ。

――ナベツネ（渡邉恒雄）さんですか？

**トルコ**　そうそうそう！　ナベツネにも言うって。「統一すれば、自分が頭下げてなんとかやる」って。そしたら8時台に戻れるって言うんだよ。もう、プロレス復興にはそれしかないよ。

――やっぱりプロレス復興にはテレビの力は不可欠ですか。

**トルコ**　それしかないよ。一つにすれば、みんなちゃんとやれるじゃない。今日のパーティに出席する政治家も、俺に協力すると言ってくれてるんだよ。

――つまり、トルコさんはプロレス復活のためにも、一度みんなでまとまるしかないっていう状況を作りたいわけですね。

**トルコ**　そうそう、それが俺にとっての最後の夢だよね。それをしなきゃ死ねないよ。それで終わったあとにはね、リキさんのところでゆっくり休みたいな。

**【09年2月10日／東京・赤坂「コピア・アラビカ」にて収録】**

Aja Kong
Takeshi Yanagisawa

# 1993年の女子プロレス

あの柳澤健が女子プロ絶頂期の立役者に肉薄！

## アジャ・コングが語る
# 狂った季節

『1993年の女子プロレス』――。どこかで聞いたことのあるタイトルと思う方もいるだろうが、元ネタは2年前に発売され話題を呼んだ『1976年のアントニオ猪木』。じつはこの本の著者・柳澤健氏は知る人ぞ知る女子プロファンでもあるのだ。そこで今回、柳澤氏を聞き手に、対抗戦の盛り上がりで最後（？）の女子プロブームとなった"1993年"をクローズアップ。ブームの立役者、アジャ・コングが"狂った季節"を激白！

聞き手／柳澤健　構成／阿修羅チョロ　撮影・試合写真／乾普也

ここ数年、低迷状態が続いている女子プロレス界だが、これまでビューティ・ペアやクラッシュギャルズのブレイクで何度か世間を巻き込む大ブームを巻き起こしているのはご存知の方も多いことだろう。

そんな女子プロの最後のブームと言えるのが団体対抗戦の盛り上がりで横浜アリーナや日本武道館など大会場での興行を連発し、オールスター戦も開催された〝1993年〟だ。

翌94年には全日本女子プロレスが東京ドーム進出をはたし一応の成功は収めるも、その後の女子プロ人気は徐々にフェードアウトし、現在に至っているというのが実状だが、確かに1993年の女子プロは選手も関係者、そしてもちろんファンもやたらと熱く、そして狂っていた。

そんな〝1993年の女子プロレス〟の魅力について、以前別の企画で取材をした際に熱弁していたのが、好きなプロレスラーのベスト3は「アントニオ猪木、北斗晶、広田さくら」という、『1976年のアントニオ猪木』の著者、柳澤健氏だ。

今回、女子プロ企画をやるにあたり、「1993年の女子プロレスを検証するという企画をやりたいのですが、協力していただけますか」と柳澤氏にあらためて取材の依頼をしたところ、「やりたい！」と即答。

柳澤氏は「1993年の女子プロレスを検証するにあたって、絶対に話を聞いておきたいのはアジャ・コング」と取材対象まで自らリクエストするほどのノリノリぶり。

柳澤氏は、1993年の女子プロブームは、91年に設立されたルチャ団体ユニバーサルプロレスでアジャがブレイクし、男性ファンを女子プロの会場に引っぱってきたことがきっかけで、その後、伝説となっている〝金網からのギロチン〟が飛び出したブル中野との一連の死闘がいい意味でも悪い意味でも〝女子プロレス〟というジャンルを変えてしまったという認識があり、その当事者でもあるアジャの話は必須というのだ。

そういった経緯で実現した今回のアジャインタビュー。まず最初に、長与千種に憧れ全女に入団するに至った経緯、会社からヒールになることを宣告され絶望したという新人レスラー時代の話などをひと通り語ってもらったあと、核心とも言えるユニバ参戦前のアジャの心境に肉迫！

『Number』在籍時代はデスクとして多くのプロレス&格闘技特集を手がけたという柳澤氏。かつて一度だけ組まれた北斗晶が表紙の女子プロ特集も柳澤氏の熱意により実現したものだとか。さすが！

——極悪同盟のダンプ松本さんが引退して、その後、ブル中野さんが獄門党を作って、アジャさんもそこに続くかたちになったわけですけど、やっぱり極悪にいた頃と立場は変わったんですか?

**アジャ** 変わったというか、変えられましたね。極悪同盟のときは、自分の中でヒールをやる決心が全然ついていなかったから。「いつかここを抜けるんだ」とずっと思ったまま最後までいたので。正直、ダンプさんが辞めるのを指折り数えてましたから。

——そうだったんですか（笑）。

**アジャ** ホントにカレンダーに毎日×印つけてましたからね（笑）。で、中野さんが極悪同盟をやり続ける気がないということも噂で聞いていたので、これでリセットされてベビーに戻れるっていうのが自分の中でありましたから。

——なるほど。じゃあ、中野さんが「あんたたちを見捨てるわけにはいかないから獄門党をやるよ」と言いだしたときには、アジャさんとしてはビックリしたんですか?

**アジャ** ちょっと「え～っ⁉」て感じはありましたね。極悪同盟のときはとにかく目立たず控えめに、その他大勢のヒール構成員の一員でいればいいと思ってたんで。

——そういうものなんですか。一刻も早くトップになりたいというわけではなかった。

**アジャ** まったくなかったですね。

——それは、ダンプさんがリスペクトできる人ではなかったということでしょうか。

**アジャ** 正直言えばそうですね。もちろんクラッシュ（ギャルズ）のファンで入ってきたっていうこともありますけど、やっぱり自分の中で合わなかったですね。大先輩ですから、言われたことには「はい」しか言えないですし。

## ユニバに出たのは全女で一番いらない選手だったからです

——ブル中野さんが獄門党を始めたということは、アジャさんにとっては、ベビーに戻る希望が完全に失なわれたということですけど、そのときの気持ちは?

**アジャ** やっぱり世の中そんなに甘くないかっていうのはありましたね。ただそのとき中野さんの中では「ヒールだからってベストバウトをもらっちゃいけないことはないだろ」っていう思いが凄くあったみたいで。

——そこがあの人の非凡なところですよね。

**アジャ** 「そういうこと（ベストバウト）ができるようなヒールになりましょう」っていう。「そのためにはいままで極悪同盟でやってきたことは変えていく。メイクも変えよう」と。極悪同盟っていうのはみんな揃いのメイクで、デーモン小暮さんがしてるような、ダンプさんのメイクを基調にしたメイクをみんなが同じようにしてたじゃないですか。

——そうでしたね。

**アジャ** 中野さんは「それはもうやめよう」と。「各自で自分に合ったものを考えろ」と。中野さんもあそこになるまで思考錯誤してますからね。最初は顔半分青く塗ってみたりとか。

——初期の頃は怪奇派でしたもんね。自らも思考錯誤しながら、「自分で考えろ」と部下の子に言ったってことですね。

**アジャ** そうですね。「何をしてもいいから」と。

——それまでは、ヒールというものが凄く狭い範囲に閉じ込められていたものが、一挙に自分の頭で考えることになったんですね。

**アジャ** そうですね。そこからですね、プロレスって考えなきゃできないってことがわかったのは。

——それから間もなくしてユニバ（ーサルプロレス）に上がってブレイクするわけですけど、最初はバイソン（木村）とグリズリー（岩本）が上がって、アジャ様はそのセコンドだったそうですね。

**アジャ** 当時、全女の本隊ではべつに試合に出なくてもいい選手たちをユニバーサルに貸していたんです。その中でも、自分は試合じゃなくてセコンド。つまり、一番いらない選手だったんですよ。

——なるほど。

**アジャ** バイソンは同期だったですけど、グリズリーさんは先輩だったし、中野さんにはついてる選手がいたんで「おまえはそっちに行っていいよ」と言われて、セコンドでついたんですけど。

——じゃあブル中野さんにとって、その頃のアジャさんはあまり視界に入ってくる選手じゃなかった?

**アジャ** 獄門党を作ってから、中野さんは練習とかもの凄く厳しくなったんです。とくに自分に対しては。

——それはどういう意味があったんですか?

long

i Yagisawa

**アジャ**　全女のトップに立った中野さんが、ベビーのタッグチームの対抗馬として作ったのがバイソンとグリズリーのアウトサイダースで、それをベビーのチームぶつけていくっていうかたちにした。だから中野さんは「同期のバイソンがそうやって出た（注目を浴びた）のにおまえはそれでいいのか?」って、一生懸命自分を引き上げようとしてくれたんです。

――「悔しくないのか」と?

**アジャ**　そんな感じですね。バイソンとグリズリーが組むと、自分は必然的に中野さんと組むことが多くなる。中野さんと組めば、どうしたってやられて終わりじゃないですか。

90年3月、後楽園ホールで旗揚げしたユニバーサルプロレス。このリングで脚光を浴びたのがモヒカンにペイント姿のアジャ。パートナーのバイソンとともに「ゴーゴー、バイソン!」「ウーッ、アジャ!」という声援を浴び人気者となったアジャは、女性ファンがほとんどだった全女に多くの男性ファンを持ち帰った。

――そうでしょうね。やられて帰ってきて中野さんになんとかしてもらうって役回りですからね。

**アジャ**　役回りもそうですけど、実際の実力としても何もできなかったんで。「早く試合終わってくんないかな」と思ってましたから。

――それはやる気がなかったってことですか?

**アジャ**　自分が頑張ったところで、どうせ誰も評価しないし、どうにもならないと思っていた。とりあえずここにいれば、なんとか食いつないでいけるしって。最悪ですよね（苦笑）。

――のちのアジャ様からは考えられないですね。

**アジャ**　いまこんな考えを持ってる新人がいたら、即行で「辞めろ」って言いますけどね。「ふざけんな」って。

――言い方は悪いですけど、当時の全女にはそういう考えの選手を飼っておくだけの余裕があった?

**アジャ**　人数合わせで置いとくにはちょうどよかったって部分もあるでしょうし。自分から辞めるって言わない限り、クビってことは言わない会社でしたからね。よっぽど何かしでかさない限りは。

――そういった、どこかやさぐれた気持ちのままユニバーサルに上がった?

**アジャ**　そうですね。

――で、ユニバーサルで組まれた全女の試合で、セコンドについたアジャ様を観た男子のファンが「あれは誰だ?」ってことになった、というのは有名な話です。

**アジャ**　セコンドについたら「そこのセコンドのおまえは誰だ?」ってお客さんが言ってて、うるせえなと思ってたら、違うお客さんが「アジャだ」「アジャってなんだ?」「アジャはアジャだ!」って（笑）。試合よりもそれが沸いちゃって。それを聞いた当時の全女の広報部長をやってた（ロッシー）小川さんが、次の日のカードに入っていた岩本さんを外して私を入れた。ユニバーサルとしては、べつに誰が出ても一緒ですから。

――ユニバーサルにとっては人数合わせだった?

**アジャ**　女子の試合を一つ組んでくれれば、誰が来たってかまわないっていう感じだったんで。

――実際にユニバーサルの試合に初めて出てどう感じました?

**アジャ**　正直言って、試合するのは面倒くさいと思ってた時期なんで、セコンドで行ってるだけなのに、次の日試合とか言われて面倒くせえなと思ってましたね。

――そのときも面倒くさかったんだ（笑）。

**アジャ**　自分が代わりに試合に入ったことで、岩本さんはヘソ曲げちゃうし、いろんなことが面倒くせえなと思いながら。でもとりあえず「試合しろ」って言われたらやるしかないですからね。

――対戦相手は誰だったんですか?

**アジャ**　バイソンと組んでハニーウイングス（前田薫&高橋美華）ですね。相手は同期だし、べつにやりづらいこともないし、いつもやってる相手だから、いつもどおりの試合をすればいいやって。ただ後楽園ホールという場所でできるのはいいかな、ぐらいの感じで。

――でも試合は異常に盛り上がったんですよね。

**アジャ**　やることなすこと全部ウケるんですよ。普段と同じことしかしてないのに。普段全女でやってる中ではウンともスンとも言わないようなことが、何をやってもすべてが沸いて。

――「どうしちゃったの」みたいな感じ?

**アジャ**　でしたね。そうなると人間、勘違いしますよね。控室に帰ったらメキシコ人から「エストレージャ」って言われて、「そんなことないよ」って照れながらも、もう「スーパースターかもしれねえ」と思った（笑）。

――最初はやる気ないなと思ってリングに上がっても、やることなすこと沸くんだったら……。

**アジャ**　どんどんノッてきますね。ただやれることは限られてた。結局自分の中のできることっていうのは決まってましたから。

――技の種類ということですか?

**アジャ**　技の種類もそうですし、自分のスキルがそこまでしかない時期ですからね。それまで、スキルアップをする気がなかったわけですから。でも、普段やってることがこんなに沸くんだったら、もうちょっといろ

## 何をやってもすべて沸いて そうなると人間、勘違いしますね

んなことができたら、もっと楽しませられるんじゃないか、という気になる。初めてプロレスやって楽しいと思った試合でしたね。

――普段やってる全女のプロレスでこれだけ沸くんだったら、この延長線上に、ひょっとしたら新しい女子プロレスを見つけられるかもしれないというような感じは？

**アジャ**　そこまでの頭はなかったですね。ただ、そのあともユニバーサルに呼んでもらえて、お客さんも沸いてくれるんで、どんどん楽しくなって。それに、せっかくルチャの団体にいるんだから、普段とは違うこともしてみようと思ってメキシカンの練習にも出たりして、メキシコ流の動きなんかも取り入れたんです。

――もう受け身のレスラーじゃなくなってたんですね。

**アジャ**　そうですね。ユニバーサルの試合が楽しくなってきたところに、試合がない全女の先輩たちが観に来た。試合のあと、先輩に呼び出されて「普段と違うことをして客を沸かせて調子に乗ってるんじゃねえ」って怒られたんですよ。

――嫉妬してるわけですね。一言で言うと。

**アジャ**　まあ、いま考えればそうですね。ただ自分からすると、もう有頂天になっちゃってますから、「調子に乗って何が悪いの？　目立てばいいって教えをしたのはあなたじゃなかったですか？」という感覚が、中野さんに対してあったんです。

――あ、中野さんもやっぱり怒ってきたんですか。

**アジャ**　最終的に言ってきましたね。周りからそういう話を聞いて、やっぱりトップとして釘を刺さなきゃいけない立場だったっていうのもあったんでしょうけど。中野さんからも「調子に乗ってんじゃないよ」と言われました。その裏には、たぶん岩本さんなんかの嫉妬心があったんじゃないかなとは思います。自分のせいで試合から外されたので。

――獄門党のトップであるブル中野さんには、獄門党の上下関係やピラミッド構造を崩したくないっていう思いがあったっていうことですか？

**アジャ**　獄門党だけじゃなくて、全女全体として。

――たとえば北斗晶さんからもそういう空気は感じた？

**アジャ**　直接は言われなかったですけど、たぶんあの当時の自分より上の選手は、全員そう思ってたんじゃないでしょうか。

――でも、どうして調子に乗っちゃいけないんですかね？

**アジャ**　おまえたちは全女で結果を出してないだろ、ということだと思います。先輩の目がないところで調子に乗ったことしてんじゃないよ、という感覚だったみたいで。

――アジャさんとしては、尊敬する中野さんから「自分で考えろ、好きにやっていい」って言われて、実際に好きにやって客を沸かせた。にもかかわらず文句を言われたことに反発があったということなんですね。

**アジャ**　反発はありましたね。言われた時期が、徐々にユニバーサルを観た男の子たちが全女に流れ始めてきたときで、全女でも「ゴーゴー！バイソン」、「ウ～ッ、アジャ！」というコールが出てきた頃で。

――男子のお客さんを全女に引っぱってきたのは私たちじゃないか、と。

**アジャ**　そうですね。そうなれば当然、全女の会場でも調子に乗り始めますから。そこで釘刺さなきゃと思ったんでしょうけど、逆効果でしたね、自分には。

――獄門党のリーダーたるブル中野と、新しい男性ファンを全女に連れてきて何が悪いと思ってるアジャ・コングのあいだに感情的な対立が生まれた、と。

**アジャ**　そうですね。「調子に乗りやがって。おまえらがユニバーサルでやってるのは嘘のプロレスだよ」ってことを言われたわけですよ。

――そこまで言う！

**アジャ**　それが本当にわからなかった。自分は何も変わらないことをやってるんだから。中野さんが言うのはどういう意味なのか、どうしてもわからないから、長与千種に聞きに行ったんです。

――憧れだった長与さんに話を聞きに行った、と。

**アジャ**　「嘘のプロレス、本当のプロレスってなんなんですか？」って。当時、長与さんはプロレス界から離れてだいぶ経ってましたけど、外に行ってわかることってあるのかなと思って、そこで初めて長与さんとまともに話をしたんですよ。そのとき言われたことは、「嘘も本当もない。でも千種からするとうらやましい。千種はそれがやりたくて、いろんなことをUWFから取り入れた。でも結局、男のファンは観てくれなかった。それをやってるおまえたちがうらやましくてしょうがない」と言われて。

## 長与さんに「うらやましい」って言われてよけい調子に乗りました

――それはいいことを言ってもらえましたね。

**アジャ**　はい。その瞬間に「あ、正解なんだ」って思いましたね。

――女子プロレスについてはいろいろ読み込んだつもりなんですけど、アジャさんが千種さんからそういう言葉をかけてもらった、という記事を読んだ記憶はないですね。

**アジャ**　あんまり言ってないですね。

――あの天下の長与千種に「うらやましい」って言われるのは凄いことですよね。

**アジャ**　そうですね。自分が憧れてた人間に「おまえがうらやましい」って言わせた時点で、「あ、自分がやってることは間違いじゃないんだな」って確信が持てて、よけい調子に乗っちゃいましたね。それからはもう怖いもんなしって感じですよね。先輩から何を言われようが、自分はこれでやっていくしかないんだって。

――プロレスラーとして確固たる自信が持てるようになったんですね。

**アジャ**　そうですね。それでも獄門党の一員ではありましたし、抜ける必要性も感じなかったんですよ。獄門党を抜けようって言いだしたのはバイソンだったんです。

――バイソンは、どうして獄門党を抜けようと言いだしたんですか？

**アジャ**　なんなんですかね。そこはバイソンと詳しくは話してないですよね。バイソンがある日突然「もう獄門党でやっていく気はない」っていきなりヒールメイクをしないでリングに上がったことがあって。中野さんからすると「だったら抜けなよ」って。「あんた一人でできるならやればいいじゃん」となって、抜けることになるんですけど。

――それはアジャさんにとっても突然？

**アジャ**　突然でしたね。バイソンは会社に「抜けますから」って言いに行ったんですけど、自分からするとバイソンの考えはバイソンの考えなんで。

――中野さんは「抜ける」と言ったバイソンになんて言ったんですか？

**アジャ**　バイソンは「行くなら一人で行きな。アジャは出さないから」ってことを言われたらしいです。バイソンの中で、最初から「二人で一緒に抜ける」という感覚があったかどうかはわからないですけど、一応会社としてもとりあえず収めなきゃいけないということで、自分も一緒に呼ばれて「おまえらどうするんだ」と。私は何も言ってなかったんですけど。

――事情聴取のような感じで？

**アジャ**　そうですね。「調子に乗ってる」とは言われたものの、それっきり何をしてくるわけでもないから、このままでもいいかなと思っていたら、バイソンとしては「もうこのまま中野さんの下でやっていく必要はない」と言いだした。そういう話の流れで、バイソンから「アジャと二人でやっていこうと思います」って言いだされ

た瞬間は、「えっ⁉」って感じでしたよ。「あ、そうなの？」みたいな。
――それって会社がバイソンに焚きつけたんじゃないですか。バイソンとアジャを獄門党から離して、アジャとブルの対立構造で売っていこうって思ったような気もしますけど。
**アジャ**　そこまではわかんないですね。でもそうはいっても、会社としては「とりあえず穏便にやっていけよ」みたいな感じでそのときは終わったんですけど、もう穏便にしようがないので。
――まあ、そうですよね。
**アジャ**　こっちも硬くなってるし、向こうも硬くなってる、という最中にタッグリーグのシリーズがあって、アジャ&バイソンvsブル&グリズリー戦っていうのがあったんです。
――凄まじい試合になったそうですね。
**アジャ**　なりましたね（苦笑）。いままでヒール対決っていうのは血みどろになりながらも最後に抱き合って終わるっていうのがパターンだったんですけど、でもここまでこじれたら、もういいかなと思ったので、バイソンと試合前に「どんな結果になろうと、とりあえず最後に抱き合ってお涙ちょうだいで帰るのだけはやめよう」と話したんです。
――なるほど。
**アジャ**　自分たちが会社にそういうふうな話をして不穏な空気を出していることは当然向こうもわかってますから。ぶっちゃけ、勝敗とか度外視ですよね。試合として成立させる気もほぼなかったでしょうね、お互い。ホントにやるかやられるかで。
――仕方がない、と。

## 当時のブル中野を敵に回すってことは全女全部を敵に回すことですから

こちらが90年11月14日、全女横浜大会で行なわれたアジャvsブルの金網マッチだ。フィニッシュは金網のてっぺん（約4メートル）で合掌してからのギロチンドロップ。敗れて呆然とするアジャに対し、勝ったブルは目に涙を浮かべリング外を一周。場内は大「ナカノ」コールで包まれたのだった。

Aja K
Takeshi Yana

**アジャ**　自分としてもケンカ売っちゃったからにはやらなきゃしょうがないし。売っちゃったからにはあとには引けなくなるんだからっていうのがありましたね。ケンカ売ったあとに引けなくなるってことは、結局……それこそブル中野を敵に回す、イコール、その当時の全女全部を敵に回すことですから。
――全女を敵に回すってことに対しては、全然悩まなかったですか？
**アジャ**　そのへんは単純っていったらへんなんですけど、調子に乗ってる時期なんで、このまま、行くとこまで行っちゃえるかもしれないっていうほうが勝っちゃってましたね。「行くならいましかないな」とも思ってたんで。獄門党にいても、それなりにやってはいけるだろうけど、いつまで経ってもブル中野の二番手にしかなれないという思いはありました。
――プロレスラーとしての欲が出てきたわけですね。
**アジャ**　そこまできて、初めて欲が出てきた。二番手で終わりたくないなって。へんに自信がついてきて、二番手でいる必要性もないじゃんって感覚になってきたんです。人間、欲が出ると怖いですね。それまで溜めて溜めてきたっていうか、できるだけ控えめに控えめにって思ってたのが、一気に欲が噴出したって感じで。
――バイソンにもそういう欲があったからこそ獄門党を離れたってことですか、それともそういう上下関係が嫌になって、もうやってられないっていう感覚だった？
**アジャ**　たぶん自分より欲はあったと思いますよ。

――そういった話は、タッグチーム内部で深く話し合ったりするものなんですか？

**アジャ**　バイソンとは、普段はほとんど話をしなかったですね。

――でも、周りはみんな敵で、味方はバイソンしかいないのに？

**アジャ**　まあ、やるって決めたらやることは一つなんで、べつにいちいち話し合わなくてもいいかって。二人で話し合ってどうしようこうしようなんて言ってると、お互い傷をなめ合ってどんどん暗い話になっていくのが嫌だったんですよね。先が見えないとか、やっぱりみんなを敵に回しちゃってどうしようとか、どっちかが泣き言を言ったら、そのまま崩れそうだった。虚勢張ってないといられなかったというか、バイソンが凄く虚勢張ってるのはわかったんで、だからこそ自分も虚勢を張ってないといられないっていう。たまに話してもバカ話ぐらいでしたね。

――本質的な話には触れなかった？

**アジャ**　そうですね。現に中野さんにケンカを売った次の日から、もう「二人で勝手にやってくって言ったんだから勝手にやってけば？」って感じで、巡業バスにも「乗るな」って言われて、「じゃあいいです」って二人で電車移動とか始めるようになって。

――天龍さんと阿修羅原の龍原砲みたいですね（笑）。

**アジャ**　そんな感じで（笑）。会場着いてもバスで着替えることもできないんで、体育館とかだったら倉庫を見つけてそこで着替えたり。

――表に出ている緊張関係と、内部の緊張関係が一致してるところが、全女という団体の恐ろしいところだと思うんですけど。

**アジャ**　そうですね、全女は、自然発生的な因縁の宝庫ですからね。会社が作り上げてスターにしようと思ってもほぼ成功しない。なんせ（会社の感覚が）ズレてますから（笑）。

――要するに、優秀なフロントがナイスなアイデアを出し、フロント主導で売れるプロレス団体が経営していくということではまったくない、と。

**アジャ**　そうですね。だからよく言われますけど、ペア組んでる同士は仲悪いってけっこうありますからね。口も利かないという。クラッシュなんかでも途中で（ライオネス）飛鳥さんがリング上で「今日でもう歌うのはやめました。芸能活動もやりません」って言ったのもいきなりですからね。横にいる長与さんは寝耳に水ですから。もちろん会社も知らない。

――そういう生の人間関係がモロに出るところが全女の魅力です。

**アジャ**　作られたものではないですね。女の感情がそのまま出てますから。

――観る側にとってはそこがおもしろいんです。先ほどのアジャ&バイソンvsブル&グリズリー戦について、もう少し教えていただけますか？

# 全女は自然発生的な因縁の宝庫。女の感情がそのまま出てますから

92年11月26日に川崎市体育館で行なわれた3団体参加のプレ・オールスター戦。この日、ブルに勝って悲願のWWWA世界王者となったアジャ。「ヒール同士、抱き合って泣いて終わるのはやめよう」との思いもあったというアジャだが、宿敵ブルからのベルト奪取に試合後は感極まって思わず涙。

**アジャ**　もうグッチャグチャですよね。もちろん技も出すんですけど、とにかく相手をどうやって潰すか。へんな話、「アイツをどうやって殺そうか？」って感覚でしたから。

――そこまで考えてたんですか！

**アジャ**　たぶん、向こうもそうですね。中野さんは普段使わないような竹刀とかでバッシバシやってきて、竹刀の先が全部折れて、それでも殴り続けましたから。

――目にでも入ったら危ないですよね。

**アジャ**　そうですね。でもそんなことは考えてないですから。どれだけ殴られようが、負けてたまるか、倒れてたまるかって感覚だったんで、試合としては最悪最低ですね。いい試合かどうかといえば最低の試合だったと思うんですけど。人間の本気の意地が出るとあそこまでなるっていうか、収拾つかなくなるとこうなるんだなと思いました。でもお互いやっぱりプロレスラーなんで、最後はキチンと収拾つけましたけど。

――お互い本能的に行くとこまで行っちゃったけど、プロレスラーとしてのプライドが最後に試合を終わらせたっていうことですか？

**アジャ**　そうですね。あとは客が観てるっていうのはありましたね。お客さんの前だから……そこですよ、最後の線引きは。お客さんが観てる前で殺し合いはできないんで。

――最後はプロレスという枠組みに入れないといけない？

**アジャ**　そうですね。お客さんはプロレスを観に来てるんだからっていう感覚はどっかにありました。ほかの3人が持ってなくても、自分だけはプロでいたいっていう感覚ですね。でも同じことをたぶん中野さんも思ってたはずです。

――お互いの中に消えようがなく刻み込まれてるものとして、お客さんっていう存在があるわけですね。

**アジャ**　それはありますね。

――とても興味深いです。結局あの試合はバイソンがグリズリーをフォールしたと思うんですけど、「こんなんじゃ納得できない」とジャングル・ジャック結成って話になる、と。

**アジャ**　そうですね。「もうおまえの下ではできない」って中野さんに宣戦布告をして、「出ていきたかったら出てけ！」って言われて「ああ、出てくよ」というかたちで出ていきましたね。

――リング上の言葉は、全部本音だったんですね。

**アジャ**　全部本音ですね。

――アジャさんが離れたことは、中野さんにとっても大きなチャンスになったような気もします。

**アジャ**　まあ、あとから考えればそうなのかなと思いましたけど、当時の中野さんの心境はわからない。その後2年間、一切口を利かない時期があって、自分が中野さんから赤いベルトを獲って初めて和解というかたちになるんですけど。「ヒール同士で抱き合って泣いて終わるのはやめようね」と言ってたのが、結局それで終わったんですけど（笑）。

――2年間も口を利かなかったんですか？

**アジャ**　そうですね。でもそのあとも中野さんと接触することはあった

けど……やっぱり、普通のいち後輩には戻してくれなかったですね。自分も戻る気がなかったって言ったらへんですけど、赤いベルトをブル中野から獲ったからには今度は自分が、という思いはありました。赤いベルトは全女の顔だと思ってるんで、人気面とかではほかの選手のほうが上かもしれないですけど、すべてをまとめ上げるっていう部分では、赤いベルトを巻いてる人が全女の中の総長で、表の顔であり、裏の顔でもあり、という部分はあったと思うんで。

――赤いベルトは全女の象徴ですからね。

**アジャ** 自分がチャンピオンになったとき、たぶん中野さんの中にも、いままでかわいがってきた後輩のアジャ・コングとしてものが言えなくなった部分もあるだろうし、逆にこっちもそこに甘えるわけにはいかなくなりましたから。以前とは違って、バス移動とかも一緒にしたりはしても、会話することはなくなりましたね。

――凄い関係性ですねぇ。

**アジャ** ちょっと寂しくもありましたけどね。2年間、中野さんとバチバチやり合ってるときは、最初のうちはやり合いながら憎しみが凄く前面に出てたんですけど、途中からは、自分の中ではどこかでスイッチしていきましたから。

――具体的にはどういう感覚なんですか？

**アジャ** それまでは憎しみだけだったのが、リングの上で闘うことによって、会話ができるようになった。下にいて、いろんなことを教えてもらうという意味の会話ではなく、リングの上で対レスラーとしての会話を常にしているような感じです。最初の半年、1年くらいは、中野さんと試合をするたびに「殺してやりたい」でも試合をするのは痛いしつらいし嫌だ」と思っていました。試合が終わると「このまま朝がこなきゃいいのに」って感じだったんですけど、そのうちに「プロレスラーとしてこの人を抜きたい」って思うようになった。リングの上で「あなたを抜きたいんです」「まだ抜かせないよ」みたいな会話を、ずっとしてきたような気がしますね。

# 中野さんとは憎しみを超えて リングで会話ができていたと思う

ある意味、対抗戦ブームのクライマックスとも言える94年11月20日の全女東京ドーム大会。アジャはこの大会の目玉企画「V★TOPトーナメント」決勝で北斗晶と対戦するもノーザンライトボム3連発で敗戦。試合後、北斗は「来年、ドームに帰ってくる」と意味深発言。正解はアレでした（各自調査）。

――闘いを通して会話ができるようになったんですね。

**アジャ** 中野さんとの試合は精神的にも肉体的にもキツいんですけど、そのうちに試合を心待ちにするようになった。それが自分が赤いベルトを獲ったことで一つの区切りがつき、対抗戦時代に入ったことによって、また区切りがついてしまって、中野さんとそういう会話ができなくなったのは凄く寂しくなりましたね。

――闘いの途中で二人の関係が変わっていったわけですね。

**アジャ** 変わりましたね。

――伝説となったブル様の金網の上からのギロチンについて教えてください。僕はあの頃は『週プロ』を毎号読んでいて、ブル様が手を合わせてからギロチンをしたあのページは、いまでもレイアウトまで覚えてます。プロレス雑誌を見て「これは凄い！」と思ったのは、なんといってもあの見開きでした。

**アジャ** 表紙にもなりましたからね。

――ええ。あの試合の前にもブル中野とアジャ・コングは金網マッチをやって、そのときはレフェリーを務めた外道さんが介入して、アジャさんは勝つには勝ったけど、内容的には満足できないという試合でしたね。

**アジャ** そうですね。当時は、「ブル中野に勝ったという結果がすべてなんだから、それが一番だ」とは言いましたけど、でも、あんなかたちで勝ちたかったわけじゃないしっていうのは当然ありましたから。向こうも納得いかないでしょうし、それ以上に自分でも納得いかなかったんで。それで2戦目はノールール、ノーレフェリーで、フィニッシュが金網からのギロチン。いま考えると、あんなもん練習してできるもんじゃないですからね。

――それが信じられないんですけど、ヘタすりゃ死にますよ！ ブル様が飛んだのも信じられないんですけど、あそこで下にいたアジャ様は「死ぬかも」って覚悟を決めたんじゃないですか。

**アジャ** 死ぬとは思わなかったです。この人は確実に自分の上に落ちてくるんだろうなって。いつもどおりにキチンとしたかたちでギロチンで落ちてくるんだろうなって思ってましたね。

――あの人ならそれができる、と？

**アジャ** あの人はそれをする人だなって。だから勝てねえんだなって。

――でも、顔面に落ちたりしたらアジャ様は死んでましたよ！

**アジャ** いま考えると恐ろしいですよね（苦笑）。どこに降ってくるかわからないわけで、目測を誤ることも充分考えられることですからね。

――「おかしいよ、この人たち！」って、あの写真を見ただけで思いました。あのずいぶんあとにWWEでシェーン・マクマホンが凄い高さから落ちて……あれは練習の成果でしょうけど、ブル様のパクリなんじゃないかって思ったこともありましたけど。僕にとっての女子プロレスの決定的瞬間は、あのギロチンの写真を見たときなんです。だから、あの技を受けたアジャ様の気持ちをいま聞けるのはもの凄く光栄です。

**アジャ** 怖いとは思わなかったんですけど、「あぁ、上から飛んでくるんだ、やっぱりこの人すげえな。やっぱこれ抜かなきゃダメだ。でもまだ勝てねえな、もういっぺんやり直しだな」って。

――そんなに冷静にいろんなことを考えていたんですか？

**アジャ** 考えてましたね。

――そのときはプロレスラーの醍醐味みたいなものが、怖いとかそういうものも超えて存在してたってことでしょうか。

**アジャ** そうですね。そのあとに金網じゃないですけど、普通の試合をしたときに、中野さんのムーンサルトのヒザが自分の頬に当たったこと

があって。
——もの凄く腫れちゃったんですよね。
**アジャ**　そうです。そのときに、金網マッチのときに目測を誤ってたら、もっとひどいことになってたかもしれないなって。
——そこで初めて思った？
**アジャ**　そのときに初めて思いましたね。でも顔が腫れたときに思ったのは、中野さんでも目測を誤ることがあるんだっていうか。
——プロレスラーとしてのブル様に対する絶大なる信頼感があったわけですね。
**アジャ**　それはありましたね。でも目測を誤ったのは、あの時点で中野さんが眼窩底骨折をしてたからなんです。開始早々に私の頭突きがおもいっきり入ってしまって。
——それじゃあ、目測を誤っても仕方ないですね。
**アジャ**　あのときは自分の顔がもの凄く腫れたことがクローズアップされたんですけど、もっと重傷だったのは中野さんのほうだったんですよ。
——そうだったんですか！
**アジャ**　顔がおもいっきり腫れちゃったから、救急車を呼んでもらって、「救急車来たよ」って言われて下に降りたら救急車がいない。「あれ、救急車は？」って聞いたら「中野さんが乗っていきました」って（笑）。結局は同じ病院に行ったんですけど。そんなこともありましたねぇ……（しみじみと）。
——あのときはクラッシュがいなくなって、「私たちが引っぱっていく、全女イコール、私たちである」っていう使命感みたいなものがあって、あそこまでの試合になったのか、それともプロレスラーとしてブル中野という人を抜きたいっていう気持ちが勝っていたんでしょうか。
**アジャ**　全女を引っぱるとかそんな気はサラッサラなかったですね。会社にもハッキリ言われましたから。

# Aja Kong
# Takeshi Yanagisawa

## 全女を引っぱるとか、会社のためとか、そんな気はサラッサラなかったです

## あらためて全女が世界最狂の団体であったことがわかりました

とりあえず男のファンが来てくれて、お客さんが入るようになったんですけど、「おまえとブルの闘いだと男しか来ねえからな。男の客はいらねえんだ」って。
——ひどいこと言いますねぇ。
**アジャ**　会社はまだベビーフェイスのスターが出てくると思ってたんで。要は神風吹くのを待ってましたからね（苦笑）。
——さすがは松永兄弟（笑）。アジャ様の話をお聞きして、あらためて全女こそが世界最狂のプロレス団体であったことがわかりました。

**【09年2月10日／都内・大森にて収録】**

やなぎさわ・たけし■1960年、東京都出身。慶應義塾大学法学部卒。在学中からまんが専門誌『ぱふ』の編集を手がける。空調機メーカーを経て84年に文藝春秋に入社。『週刊文春』、『Number』編集部を経て03年退社。以後フリーとして各誌紙に寄稿。07年、デビュー作『1976年のアントニオ猪木』を発表。

あじゃ・こんぐ■本名、宍戸江利花。1970年9月25日、東京都出身。中学卒業後、全日本女子プロレスに入門し、86年9月にデビュー。その後、全女の象徴WWWA世界王者にも君臨。全女退団後はアルシオン、ガイア、『ハッスル』などさまざまなリングで活躍。現在はOZアカデミー所属。165cm、103kg。

ど～ですか、お客さん!?　女子プロ絶頂期の立役者アジャ・コング本人の口から語られた壮絶すぎる全女の実態、そしてアジャやブル中野のプロレスラーとしての覚悟に驚いた人も多いんじゃないだろうか。
　じつは今回の取材は約3時間の長丁場となり、インタビューを文字に起こしたところ、なんと総文字数は約6万字という大ボリュームに！
　どれもこれも目から鱗の深い話の連発だったのだが、今回は〝1993年の女子プロレス〟がテーマということで、93年以降の話の大部分は泣く泣く削って掲載したかたちになる。ほかにも、アジャによる〝デンジャラスクイーン〟北斗晶論や、柳澤氏の「女子プロレス」を最終的に解体したのは広田さくら」という持論に対するアジャの見解など、興味深い話はまだまだいっぱいあるって！
　ならばというわけで、この春からケータイサイト『kamipro Move』にて柳澤氏の新連載「1993年の女子プロレス」をスタートさせちゃいます！　もちろん、アジャ以外にも〝93年〟の女子プロ界のキーになる選手・関係者にも徹底取材を行なう予定。詳細は決定次第、本誌でも紹介するので、乞うご期待！

クラッシュから松永会長、ミゼットプロレス、アイスリボンまで！

# 女子プロレス“変態”座談会

リスペクト宍倉ジチョー

女子プロレス
萌え伝道師
掟ポルシェ
参戦!!

毎度おなじみ『変態座談会』シリーズが、ついに女子プロレスをテーマに語る日が来た！
松永兄弟という稀代の山師が運営し、女だけの世界ということで、異常なエピソードの宝庫であるプロレス界の中でも、
とくに狂っている女子プロレスの世界を変態たちがおおいに語ります！

構成／堀江ガンツ

**ガンツ**　さて、毎度おなじみ変態座談会なんですけど、UWFから遠く離れて、ついに女子プロレスにたどり着いてしまいました（笑）。

**椎名**　でも、女子プロで「変態」っていうと、ホントにやばい変態野郎って感じだよね。

**掟**　まあ、いまの女子プロ客はホントの意味で変態ですからね。性癖歪んでますよ！　俺を含めて！

**ガンツ**　まあ、そういう性癖はともかく、今日はいろんな意味で、女子プロレスの素晴らしかった思い出を語っていきたいと思います！

**椎名**　今日は生徒として聞かせてもらいますよ。女子プロマニアの話を。

**掟**　え、女子プロ興味ないんですか？

**椎名**　いや、興味は津々だけど、語るほどの知識がない。

**掟**　俺もクラッシュ時代とかほとんど観てないですよ。

**ガンツ**　となると一番詳しいのは、今日はテープ起こしのために同席してるだけで、座談会出席者ではないジャイ子じゃないの？

**ジャイ子**　違う！　ガンツが一番詳しいんじゃん。この人、UWFとかPRIDEが好きなふりして、昔は超全女ヲタだったんですよ！　それを隠してたの！

**ガンツ**　べつに隠してないよ（笑）。

**椎名**　やっぱりガンツ、変態だね（笑）。

**ガンツ**　確かにボクはクラッシュ時代から女子プロ観てますけど、当時は前田（日明）と長与千種の関係で、UWFと全女って一応つながってる部分があったんですよ。

**椎名**　そうだ。前田日明の最初のスキャンダルは長与千種なんだよね。『UWF無限大記念日』のときさ、選手の愛用品オークションがあったんだけど、なぜか前田は長与のパネルをオークションにかけて、会場から「ヒューヒュー！」みたいに言われてたんだよ。

**ガンツ**　だから、いまでいう福原愛ちゃんと錦織くんみたいな、さわやかスポーツカップルふうでしたからね。いまでは信じられないかもしれないけど（笑）。

**掟**　谷（佳知）選手がYAWARAちゃんのパネル持って出てくるような感じ？

**ガンツ**　そういうことではないと思います（笑）。当時の長与千種はホントにスーパーアイドルでしたからね。

**椎名**　ライオネス飛鳥は？

**ガンツ**　飛鳥は男でアイドル視してたのって少ないんじゃないですか。長与千種は一人スレンダーで男に人気があったんですよ。

女子プロレス史上最大のスーパースター、クラッシュギャルズ。その人気はプロレスの枠を大きく超えて、当時のトップアイドルの一角を占めるほどだった。

プロレス”座談会

**掟**　そういや快楽亭ブラック師匠が言ってましたもんね、当時の自分の最高のズリネタは、長与千種をバックから犯してるところを、うしろで羽交い絞めにされてるライオネス飛鳥が「やめろ！　やめろ！」って言ってるところだったって。

**ガンツ**　最低ですね（笑）。

**掟**　宝塚的カップリングをまとめて凌辱（笑）。燃えるんでしょうねぇ……。

**椎名**　まさに快楽亭ブラックですね え、もの凄く（笑）。

**ガンツ**　でも極悪同盟との抗争なんて、それに近いものがありましたよ。アイドルが集団で痛ぶられ、血まみれにされて、髪切りマッチでは坊主にされちゃうんですから。

**掟**　あの「髪切りマッチ」ってペナルティ的な側面があったって話を聞いたことがありましたけどね。男ができた選手が、男っ気なくなるように坊主にされちゃうって。

**椎名**　尼さんみたいなもんだ。

**掟**　そうです、出家ですよ。

**椎名**　寂聴？

**掟**　仮出家。仮寂聴（笑）。

**椎名**　じゃあ、アジャ・コングとバイソン木村が丸坊主になったことあったけど、あれはアジャに男ができたってこと!?

**掟**　この髪切りもそうなのか真相は知りませんけど、タッグだから連帯責任だったんじゃないですかね。

**椎名**　パートナーに男ができたから自分も丸坊主って、それがホントだったらアジャがかわいそすぎるよ！（笑）。

**ガンツ**　そんな妄想はともかく（笑）、長与千種が丸坊主にされてから男のファンがいなくなり、会場は完全に女子中高生で埋めつくされるようになりましたよね。

**椎名**　でも、ティーンの女子だけで経営が成り立つんだからすげえなっ

**椎名基樹**
変態座談会シリーズではすっかりおなじみのライター、構成作家。じつは女子プロレスもけっこう好きで、かつて本誌でワッキー（脇澤美穂）に告白したこともある。

**掟ポルシェ**
本誌好評連載『萌え萌え女々苑』で、女子プロレスの萌えについて啓蒙し続ける、当座談会唯一の現在進行形女子プロファン。好きなレスラーは幸薄そうな長嶋美智子。

“変態”座談会出席者

**堀江ガンツ**
ちっちゃい頃からプロレスばっかり観てきた本誌変態座談会主宰者。じつはクラッシュ時代からの全女ファンで、90年代前半は後楽園ホール通いが日課だった変態。

**ジャイ子**
「テープ起こしとフェ○なら誰にも負けない」と豪語する巨女。ティーンの頃、全女のオーディションに応募したが、こんなにデカいのに書類選考で落ちた経験を持つ。

## 全女は平成になっても興行形態はどこまでいっても〝昭和〟でしたね

て。

**ガンツ** それぐらい人気ありましたからね。当時、『女子プロレスを10倍楽しく見る方法』っていう特番があったんですけど、それが視聴率20パーセント近く獲って、裏番組の猪木vsブロディに視聴率で完勝したぐらいですから。それでブロディがひどくショックを受けて（笑）。

**椎名** 猪木はまだしもブロディも？

**掟** 「オレハナンノタメニホンニヤッテキタノカ……」（笑）。

**ガンツ** そこからブロディが、ますますマッチメイクに口出しするようになったらしいです（笑）。

**椎名** それって『プロレス・スーパースター列伝』的な伝説だね（笑）。

**掟** プロレスラーである以前に、女子プロレスラーが完全にアイドルだった時代ですね。

**椎名** 歌もうたってたよね。なんだっけ？

**ガンツ** 『炎の聖書』とか『嵐の伝説』とか。

**掟** まったくわかんないです！

**ガンツ** そのへんのレコードは全部持ってたりするんですけど（笑）。

**掟** 変態！ 変態がここにいた！

**ガンツ** でも当時、ウチのクラスで人気があったアイドルって、クラッシュ、おニャン子、C-C-Bでしたから（笑）。普通だと思うんですけどね。

**掟** そういう場合って、どういう目線で女子プロ観てるんですか？ ズリネタ的な要素は一切なしで？

**ガンツ** ないですね。小学5〜6年生でしたし（笑）。

**椎名** 俺は立野記代がすっごいかわいいと思ってた。

**掟** 10代の頃は〝女子プロレスの聖子ちゃん〟って呼ばれてましたよね。

**椎名** 聖子ちゃんっていうか、小泉今日子に似てると思って。

**掟** ……似てましたかね？

**椎名** わからない！ いま見ると天地真理なんだけどね（笑）。俺、天地真理も好きだったんだけど。

**掟** 同じラインなんだ（笑）。

これが全女直営喫茶店『SUN族』。若手レスラーが働いていたりして、先物買いのマニアにはたまらない店だったのだ。ちなみに1階が道場で2階隣は事務所。3階は合宿所だ。

**椎名** あの二人がなんで好きだったのか、いま思うと不思議なんだけど。

**掟** やっぱり宝塚じゃないけど、男役がいるからこそ娘役がよりかわいく見えてくるっていうことですかね。これはジャイ子に聞きたいんだけど、女の子にとって女子レスラーはセックスを超越したもんなんですか？ レズ的な興味が女子プロ観てるうちに後天的に作られるのか……。

**ジャイ子** そんなのないよ！ 嵐を観るのと一緒！

**ガンツ** 嵐って高木功？

**ジャイ子** 違う！ レスラーじゃなくて、アイドル（グループ）の嵐！

**椎名** WARじゃないんだ（笑）。それは同性を異性として見ていたってこと？

**ジャイ子** 違う違う、聖子ちゃんと一緒。憧れの対象。性的にどうとか、なんかされてもいいとかまで思いつかないし。

**椎名** でも、プラトニックだからこそっていうのは基本なんだろうな。

**掟** 絶対ヤレない女の子、みたいな。

**椎名** 射精したら終わっちゃうからね。

**ガンツ** だからエンドレスで金を払い続ける、と。掟さんはいつ頃、女子プロが好きになったんですか？

**掟** 90年代前半かな。一時は全女の後楽園年間シートを買おうと思ったから。ハマるきっかけになったのは、ブル中野とアジャ・コングの二度目の金網デスマッチですね。

**椎名** あれ凄いよね！ 昨日、『YouTube』で観てきましたよ。3メートルの金網のてっぺんから拝んでギロチンでしょ。

**掟** 「失敗して半身不随になりませんように」って祈ったんだよね。

**椎名** シビれたよねえ！ そういう部分ではガンツの言ってる男女関係ないっていう意味はわかるね。プロレスとしてすげえっていう。

**掟** でも、ブルやアジャの時代になる前って、クラッシュが引退してホントに客が減ったみたいで「これはヤバい、普通のことやってちゃダメだ」とブル中野は思って、意図的に体重を100キロまで上げて怪物的なルックス作ったらしいですね。

**椎名** しかももの凄い髪の毛逆立てたりしてたよね。

**掟** BUCK-TICKのあっちゃんみたいな。衣装のTシャツも「ガイコツのついてるなんか悪そうなの買ってこい！」って長谷川咲恵に言って買ってこさせたら、買ってきたのがナパーム・デスのTシャツだったっていう（笑）。一時、ナパーム・デスとグレートフル・デッドのTシャツを交互に着てましたよ。中野さん、早いなって思いましたね（笑）。

**ガンツ** あとブルはどこか観ていて神々しかったですよね。

**椎名** ちょっと頭がいいっていうか、悲しげなんだよね。引退したあとは全然出てこないし。

**掟** プロゴルファーのテストに合格するまで帰ってこないって言ってましたけど、日本のファンはゴルフなんかやめて中野さんがプロレスに戻ってきてくれることを祈ってますよ！

**椎名** ブルの時代の前って誰がいたっけ？

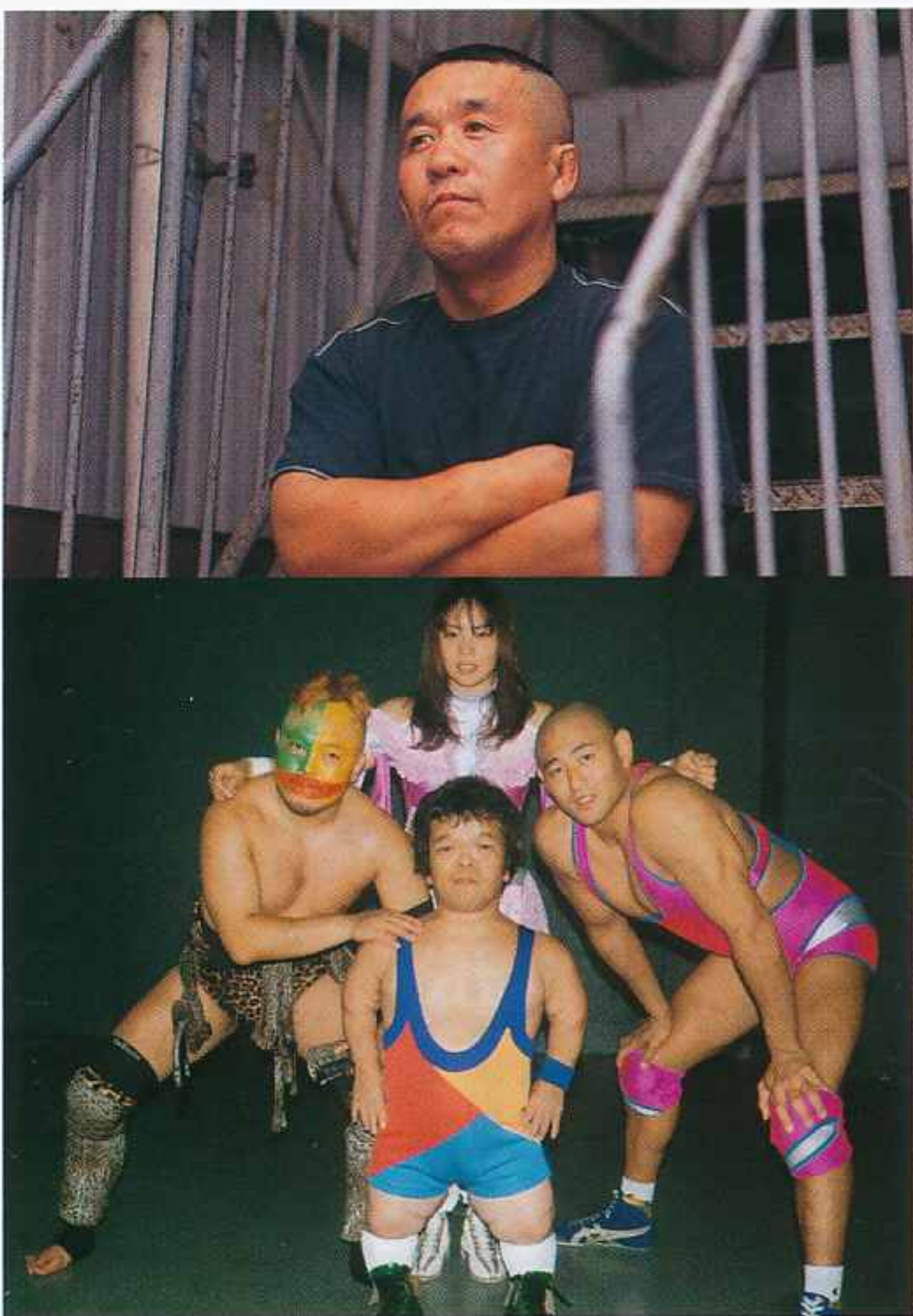
**ガンツ** 西脇充子とメデューサの美女タッグとかで売ってたんですけど、ちっとも客が入らなかったんですよ。西脇はいま相撲部屋のおかみさんやってますけど。

**椎名** 誰と結婚したんだっけ？

**ガンツ** 大関・魁皇ですね。

**椎名** あ、魁皇だ！ 素晴らしいね。こんないい結婚もないなと思った。ホントによかったよ。やっぱり女子レスラーの末路って気になるじゃん。

**掟** 昔は25歳定年で引退すると、全女が経営するカラオケボックスの店長になるっていうのが基本でしたけどね。

**椎名** なるほど。それで楽しく暮らしてるんでしょ。

写真上が「あと1000円で前に座れますよ」でおなじみの角掛留造。現在は田舎に帰っているという。下の不動のミゼット王者リトル・フランキーが亡くなってミゼットプロレスの火が消えた。

**掟**　いや、もう全女倒産で全店人手に渡っちゃってます！　松永会長は頻繁にベンチャービジネスに手を出しちゃうから倒産もやむなしで。一番ひどかったのが羅漢果ラーメン！

**ガンツ**　ありましたね（笑）。

**掟**　羅漢果という、身体にいいと言われてる甘い果実の漬物みたいなのがラーメンに乗ってるっていう、どう考えても「誰が食べるんだこれ？」的代物で（笑）。

**ガンツ**　なんでラーメンと羅漢果を一緒にするんだって（笑）。

**掟**　別に売りゃいいじゃねえかっていう。

**椎名**　ダンプ（松本）のタコヤキラーメンよりひどいね（笑）。

**掟**　松永会長には、あやしいビジネスを持ちかける人が凄く多かったっていいますね。結局投資を持ちかけられて、失敗して。株の借金だのなんだので30億円ぐらいに膨らんじゃって、一気に倒産ですよね。

**ガンツ**　そのへんが"山師"って感じで、全女らしくもあるんですけど（笑）。

**掟**　長与さんにインタビューしたことあるんですけど、武道館の興行でグッズ売り場をたまたま見たら、段ボール箱の中にグッズの売り上げで満杯のお札が入ってたそうで。お札がかさばって入りきらないからと足でお金を踏んづけたのを見て「人間こうなったらダメだ」と思った、と。松永会長の話では、じつはさらにひどくて、そのあとトラックにボーンと放り込んでて、事務所に帰ってくるとその段ボールが何個かなくなってたって（笑）。でも、「まいっか」程度で誰も気にもとめなかったって。

"ミスター山師"松永会長がいたからこそ、ハチャメチャな全女が生まれた。事業の失敗で全女が傾いたあとも、関綾子にバスを引っぱらせたり、クルーザーを買う夢を捨てなかったり、最後まで「ひと山当てよう」精神は健在だった。

**ガンツ**　あきらかに不正経理というか（笑）。

**掟**　でも我々からしてみたら、人間がお金に狂ってる姿を、チケット代5000円やそこらで見れるわけですから、そりゃたまんないですよね。『カイジ』の金持ち客気分がその値段で味わえるなんてのはなかなかないです！

**ガンツ**　全女は興行というものが持

## すべてがドンブリ勘定でトンパチを受け入れてきた松永会長は凄い！

つ、古き良きいかがわしさを最後まで持ってましたよね（笑）。地方巡業なんて、入口でミゼットがチケット売ってるわけじゃないですか。

**椎名**　俺が行ったときは、（極悪レフェリーの）阿部四郎がモギリやってて、リングでは悪いことばっかりやってるのに、おまえはいったいなんなんだって（笑）。

**ガンツ**　全女はホント、平成になってもどんだけ昭和なんだって感じでしたよね（笑）。

**掟**　ミゼットがチケット販売やってるって、いつの時代のサーカス団だよって話ですからね。

**ガンツ**　あの時代錯誤感がたまらなかったですよ。だって立ち見券で会場に入ると、途中でミゼットの角掛留造とかが来て「あと1000円出したら前に座れるよ」とか持ちかけてくるんですよ！

**掟**　そうそうそう！　指定席が5000円、立ち見が2500円ぐらいなんですけど、結局、途中で1000円払って、3500円ぐらいで座って観てたんですよね。

**ジャイ子**　その立ち見のスペースが凄く狭いんだよね。席はガラガラなのに、立ち見スペースは凄くギュウギュウなの。

**掟**　それでみんな解放されたがるんですよ、1000円払って。

**椎名**　すげえ！

**ガンツ**　落ち着かない状況をあえて作って、そこへ角掛留造が助けにくるわけですよね（笑）。

**椎名**　『チャーリーとチョコレート工場』みたい。楽しい！って感じで。

**ガンツ**　あと角掛留造って、凄いバカにされるキャラだったじゃないですか。いま一般社会では、ああいったハンディキャップを持った人っていうのは、ある種、アンタッチャブルで、バカにするなんてもってのほかですけど、留造にはみんな公然と野次ってるわけですからね。これは逆に差別のない世界だと思いますよ。

**掟**　リング上でバカ役で出てきた奴に「バカ」って言ってるだけだからね。差別じゃなくてむしろ声援。

**ガンツ**　だから全女の会場って、ある意味、健全ですよ。

**掟**　全女も90年代前半までは、後楽園ホールでもミゼットプロレスがでてきたんだけど、そうするとなぜか障害者団体からクレームが来るらしいんですよ。「障害者は弱者じゃなきゃいけない」っていうことを商売にしている人がいるから。障害者プロレスの方も同じことを言ってましたけど。

**ガンツ**　それでいまやミゼットプロレスは絶滅状態ですからね。

**椎名**　ホント残念だね。

**ガンツ**　古き良きプロレス興行がなくなっちゃって。

**掟**　いい時代でしたよね。でも、全女がドーム興行までやるようになって、キング・オブ・スポーツ的になってから、全女らしいすべてがドンブリ勘定的なおもしろさがなくなりました

プロレス座談会

# いまオススメはリキプロ道場で練習していたアイスリボンですよ！

よね。

**ガンツ**　ボクもそのあたりで、長年観続けてた全女をまったく観なくなっちゃったんで。

**掟**　プロレスラーとして正統派じゃない人間を排除してった結果、人間的にもちゃんとしてない人がいづらい全女になっちゃったんですよ。中原奈々っていう元ヤンキーの少年院上がりが入ってきたときは期待したんだけど、やっぱりなじめませんでしたね。ただ巨漢新人レスラーの関綾子が、グレート・アントニオみたいにバスを引っぱって歩いたときは、もう涙が出るほど感動しました！

**椎名**　え～、バス引っぱったの！

**ガンツ**　そのへんは、もちろん松永会長主導ですよね。「バス引っぱれ！」って（笑）。

**椎名**　それ、いまなら『東スポ』の1面いけそうだけどね。

**掟**　一応、試合もテレビで放映されたんですけど、勝利者インタビューでなぜかずっと弁当食ってるんですよ！「おめえなんかと試合したから腹減っちゃったじゃねえかよ！」とか言いながら、ガツガツ弁当食うところが延々と放送されてて！

**椎名**　もちろん、それって台本あるんでしょ？

**掟**　あるでしょうけど、実際大食いだったらしくて、事務所にある弁当を10個ぐらいたて続けで食ったんですって。そしたら急に「気持ち悪い気持ち悪い」って言いだして、ウェーッて全部吐いて。その翌日気付いたらいなくなってたって話を聞きました（笑）。

**椎名**　なんだその話（笑）。

**掟**　キャラでやってるわけじゃなかったんだっていう（笑）。そういうギリギリアウトな人も含めて「プロレスラー」と呼んでいた時代が懐かしいですね。本物のトンパチまで食わせていけなくなったのがプロレスの衰退の原因っていうかね。

**ガンツ**　あんなに厳しいオーディションしてるのに、そういうバカを採ってましたよね、なぜか。

**掟**　90年代後半からは、なり手が少ないからけっこう誰でもOKの時代でしたよ。あの頃放送された『荒野の女子プロレスラー』っていうドキュメンタリー番組でも一番の見どころが、高橋麻由美っていう新人で。すぐ貧血起こして練習中にバッタリ倒れるという（笑）。で、ついたあだ名が「バッタン麻由美」。

**ガンツ**　ドリフの「もしもコーナー」みたいですよね。「もしもこんな女子プロレスラーがいたら」（笑）。

**掟**　基礎練習の縄跳びぐらいで気持悪くなって急にバタッと倒れるんですよ（笑）。いくら給料の未払いが始まってて贅沢が言えなかったとはいえ、そんな人まで採ってた松永会長は凄いと思うんですよね。かわいかったんですよ、その子がまた。若干暗い顔つきだけどアイドル的な風貌という、女子プロファンが食いつきそうなルックスで。好きな男の話とか聞くと、「男の人はみんな騙すから……」って言って黙っちゃったり。

**ガンツ**　どんなトラウマがあるんだって（笑）。

**掟**　そんなトラウマ持ちの暗い美少女ばかりが集まってる団体がいまあったら、絶対に観に行きたいです！

**ガンツ**　じゃあ今度、みんなで一度、いまの女子プロレスを観に行くってどうですか？

全女が生んだ最後のスター、キッスの世界（ミホカヨ&ナナモモ）。プチブレイクであったが、つんく♂プロデュースで人気を博した。なお、椎名基樹は本誌の企画で脇澤美穂に告白。ホントにファンになったという。

**掟**　変態座談会なのに、近年の女子プロレスを観てるのって俺だけなんですよね？

**ガンツ**　ボクもここ10年ぐらいはまったくわからないですからね。

**掟**　いま、お薦めはアイスリボンですよ！

**椎名**　何それ？

**掟**　さくらえみが主宰してる団体なんですけど、以前は小学生がプロレスやってたり。

**椎名**　そんなのあるんだ！

**掟**　しかも、アイスリボンはリキプロの道場を借りて練習してたんですよね。だから長州力の上がってるリングで女子児童たちが練習してるって異常事態が起きてたんですよ！

**椎名**　すげえ！（笑）。

**ガンツ**　ウチが去年、初めて長州力のインタビューしたとき、ちょうどアイスリボンの練習時間に当たっちゃって、長州がバツ悪そうにしてましたけどね（笑）。

**掟**　ああいうものを全否定してきた人だからね。「俺は一切わからん」とは言ってましたけど。

**ガンツ**　長州が知らんぷりしてるのに、みんなが挨拶に来ちゃって、「お疲れさまでした－っ！」って（笑）。

**椎名**　でも、そういう女子小学生目当ての客もいるんだよね？

**掟**　そりゃいますよ！　変態が！　俺もですけど！

**椎名**　そこまでいくと凄いなあ。まだ、紅夜叉のオッパイがでかいとか言ってたほうが健全だよ。

**掟**　それは（『週刊プロレス』の）宍倉ジチョーが騒いでたんですよね。

**椎名**　バカだよね（笑）。

**掟**　女子プロで〝変態〟といえば宍倉ジチョーですからね！　いい意味で変態！　尊敬してますよ！

**ガンツ**　この座談会もリスペクト宍倉ジチョー企画ですから（笑）。

**掟**　『週プロ』の編集後記に自分の好きな女子レスラーを延々と列記したりとか。バイソン木村、吉田万里子、長谷川咲恵……いったい何をアピールしてるんだっていう。

**ガンツ**　それどころか「正直言って誰のヌードを見たいかといったらバイソン木村である」とか書いてましたよね（笑）。

**一同**　ガハハハハ！

**掟**　そんな正直いらないぞっていうね（笑）。

**椎名**　素晴らしいね（笑）。

**掟**　グリズリー岩本のことも好きなんですよね。でも俺がグリズリーにインタビューしたときは「宍倉さんはね、ホントにいい人なんだけど、いい人なんだけど……」って、若干言葉を濁してました。

**椎名**　かわいそう（笑）。

**ガンツ**　いつか掟さんに宍倉ジチョーのインタビューをしてほしいですね。

**掟**　聞けない話ばっかりだよ！　聞いたが最後、極真会館本部で培った直接打撃でブチ殺されます！

**ガンツ**　では、いつの日か〝大御所〟宍倉ジチョー特別参加の第2回「女子プロレス変態座談会」開催を夢見て、今日はお開きにさせていただきたいと思います。ありがとうございました！

【09年2月9日／『kamipro編集部』にて収録】

女子プロ〝変態〟

## テレ朝一番の“超新日本プロレスLOVE”男が

# 吠えまくり!!

『ワールドプロレスロング』実況

# 吉野真治

アナウンサー

**04年11月の新日本プロレスの大阪ドーム大会において、「『ハッスル』なんてクソくらえ!」「コスプレ、下品なポーズはいらない!」と、ほとばしる新日本プロレス愛を炸裂させた、テレビ朝日『ワールドプロレスリング』実況・吉野真治アナウンサーが本誌初登場!!　胸ヤケするほど熱い“超新日本プロレスLOVE”に耳を傾けろ!**

聞き手＆撮影／真下義之　大会写真／平工幸雄

――今回は『ワールドプロレスリング』（テレビ朝日系）実況一番の〝新日本プロレス狂〟アナウンサー、吉野さんの〝プロレスLOVE〟ぶりをうかがいに来ました。

**吉野**　いや〜。こういう取材はホントに嬉しいし、大歓迎ですよ！

――吉野さんが、テレ朝でプロレス担当になったのはどういう経緯で？

**吉野**　経緯も何も、もともと僕は高校のときにプロレス研究会を主催していたほどのプロレスファンであり、熱狂的な新日本プロレスファンだったんですよ！

――高校のときから筋金入りの新日本プロレスファンでしたか（笑）。

**吉野**　当時は、闘魂三銃士も全員揃っている新日本プロレス絶頂期でしたから。だから、自分が「テレビ朝日に入社する」イコール、「『ワールドプロレスリング』で実況することだ」と思っていました。ですから、入社してすぐプロレス中継の現場見学を直訴したんですよ。

――新入社員がいきなり直訴を。

**吉野**　ええ。まだ新人研修の期間中の身なのに中邑真輔くんのデビュー戦（02年8月29日、日本武道館大会）に無理矢理行かせてもらいました。そこで当時の『ワールドプロレスリング』のプロデューサーが「そんなに熱意があるんならウチに来い！」と言ってくれまして、僕のほうも「自分は、頭のてっぺんから足のつま先まで、セルリアンブルーの血が流れています！」とお願いしたんです。

――凄まじい一直線ぶりですね。

**吉野**　ええ。僕はプライベートでもホントにセルリアンブルーが大好きなんですよ！　緑なんて気持ち悪い色は絶対着ませんから。

――ノアカラーの緑は問題外（笑）。ただ、吉野さんが入社した頃（02年）は、プロレスがK―1やPRIDEにかなり押されていましたね。永田（裕志）さんがヒョードルやミルコに秒殺されたり。

**吉野**　つらい時期でしたね……。でも「だからこそ、自分がどうにかしなきゃ！」って。普通のファンは新日本のレスラーがPRIDEやK―1で負けると裏切られた気になったんでしょうけど、僕の場合は「いつか、俺がヒョードルをやってやる！」って。

――俺がやってやりますよ！　と（笑）。

**吉野**　しかも、僕は新人の頃、ずっと仕事がなかったので、ひたすらプロレスのVTRを観てたんですよ！

――ある意味、困った社員ですね（笑）。

**吉野**　そんなことないですよ！　ウチのビデオ関連会社の地下倉庫には、いままで出したプロレスの映像がすべて保管してあるんですが、そこに頼み込んで古舘（伊知郎）さんや辻（よしなり）さんの実況を全部観て。それに、テレ朝はプロレス好きな人が多くて、いろんな部署の人から「頑張れよ！」って言われますから。

――むしろ応援されてましたか。そういえば、3月で日テレのノアの中継が終了するというウワサがありますけど、テレ朝さんは大丈夫ですか？

**吉野**　ウチは大丈夫です！　「テレ朝も一時に比べてプロレスに冷たいんじゃないか」とか誤解されますが、そんなことないです。こんな時代に放送が続いていること自体、画期的なことじゃないですか。

――なるほど。じつは『kamipro』が最初に吉野さんに注目したのは、

## 吉野アナ 伝説の暴走実況をプレイバック！

04年11月13日、新日本プロレス大阪ドーム大会にて、新日本に当時ハッスル軍の小川＆川田組が電撃参戦し、天山＆棚橋と対戦。「ハッスルポーズする・しない」で揉めまくったこの試合の実況で、『ハッスル』を罵倒した暴走実況を再録!!

【小川直也入場】

**吉野アナ**　小川直也が帰ってきました。かつて新日本で橋本真也と激闘を繰り広げた〝ストロングスタイル〟の化身。（中略）ここは新日本のリング。ここはストロングスタイルのリングヴ！　ファイティング・オペラなるものの、**闘いを忘れたピエロでは闘うことのできないリング！**　闘いを忘れた小川直也にあえて言わせていただきます！　**小川直也、目を覚ましてくださ〜い！（自分の言葉に酔いしれるかのように）。コスプレはいらない！　下品なポーズはいらない！**

【小川が川田を呼び込む】

**吉野**　（中略）王道プロレスの頂点に立つ男、川田利明！　全日本プロレス三冠王にしてデンジャラスK。**しかし、今日の川田は〝ハッスルK〟のいでたち！**（中略）**この新日本のリングで〝ハッスルK〟は見たくない。デンジャラスKなら、ウェルカム・トゥ・ザ・新日本！**

【天山＆棚橋が入場】

**吉野**　（中略）誰よりもストロングスタイルに誇りを持つ棚橋と天山にすべては託されました。プロレスは**フ**

――04年の11月のことなんですが……。

**吉野** （即座に）あ、新日本の大阪ドーム大会ですね？

――ええ。まだ旗揚げ間もない当時のハッスル軍（小川直也、川田利明）が乗り込んで、「ハッスルする・しない」でモメるという異常な試合だったんですが、吉野さんの実況のインパクトがあまりに凄かったんで。

**吉野** あの実況は地上波で放送されたんですけど……、言っちゃいけない言葉を連発しちゃって（笑）。

――ええ。「『ハッスル』なんてクソくらえ！」とか（笑）。

**吉野** 2回言いましたね（キッパリ）。ただ、ホントはアナウンサーが「クソくらえ！」なんて絶対言っちゃいけないんです！　でも、ついつい本音が出てしまって……。

――あれは心の叫びでしたか（笑）。

**吉野** ただ、自分も「ハッ」と我に返って、放送席の横にいたプロデューサーの顔をパッと見たんです。そしたら「ウンウン」とうなずいていたんで、「これは大丈夫だ‼」と（笑）。

――「ゴーサインが出た」と自己判断されて。

**吉野** あの顔はいまでも忘れられません。オーケーが出たと思ったので2回目の「クソくらえ！」は確信犯で、よりおもいきっていきました（笑）。

――2回目は確信犯で（笑）。あと、実況ではハッスル軍に「帰れ！」コールが起きた瞬間に「この声を待っていた！」と叫んだり。

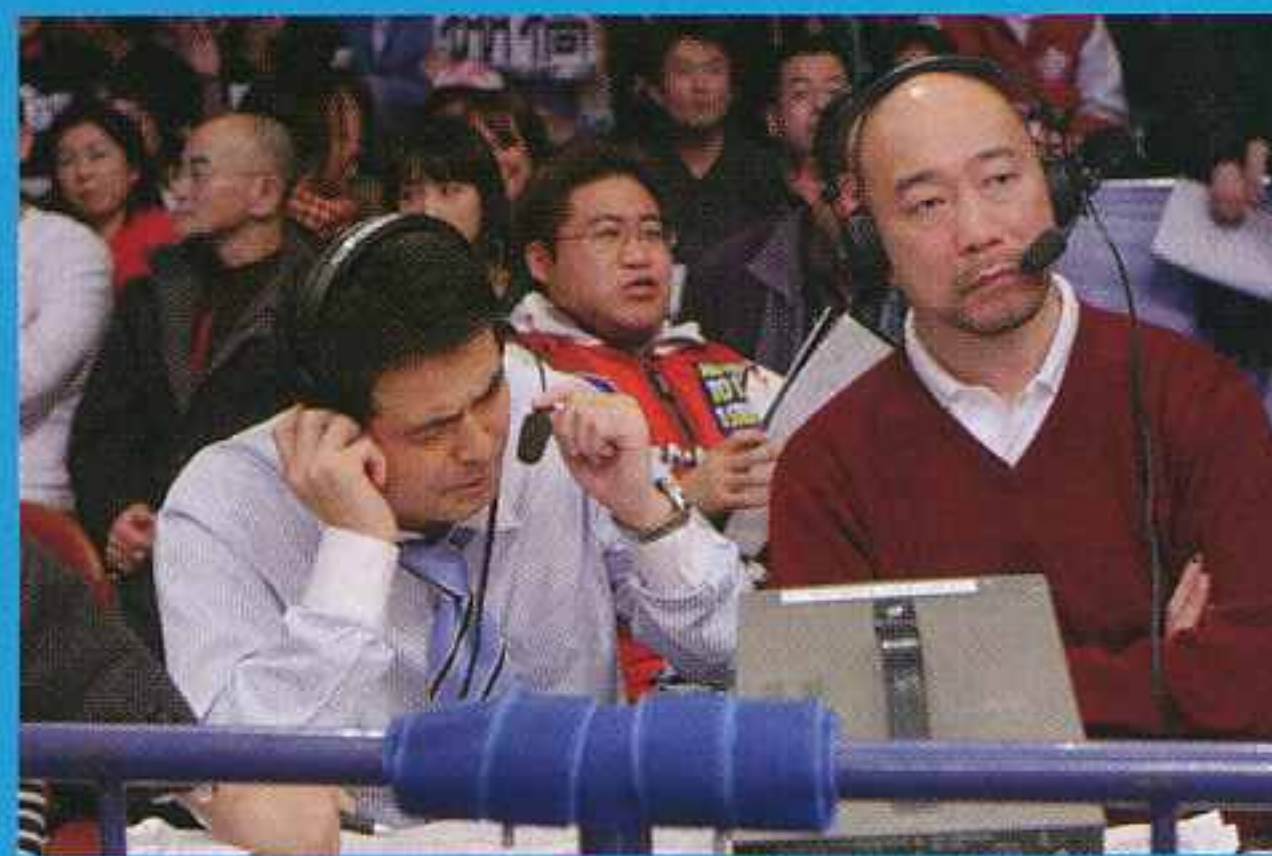
## 永田さんがヒョードルに負けたとき「いつか俺がやってやる！」と

**吉野** 言っちゃいましたねぇ。

――小川選手の「この声が聞こえないのかよ！」という言葉に「聞こえなぃっ！」と切り返したり、まるで吉野さんが主役でしたね。

**吉野** いやいや、主役じゃないですよ。ただ、あの対抗戦はアントニオ猪木さんが大会直前でカードをひっくり返して、強引に組んだものでしたし、反発したいけどできない現場のつらさもあったんで。「新日本ファンの気持ちを俺ができるだけ代弁しないと」と思っていましたね。

――そんな使命感に燃えてましたか。

**吉野** それに、あんな実況でも放送後に抗議や批判はまったくなかったんです。当時の『ハッスル』は、僕らが目指すものとは違っていたし、絶対に負けられなかったので、放送に適してない下品な言葉を〝内なる自分〟が叫ばせてしまったというか……。

よしの・しんじ■1978年7月25日、東京都八王子市出身。02年、テレビ朝日入社。『ワールドプロレスリング』をはじめ、スポーツ実況を担当。ときに、感情のリミッターをフッ飛ばす実況スタイルで絶賛活躍中。

（真剣な表情で）。

――でも、あれだけズバズバ言えると、気持ちいいでしょうね。

**吉野** そこはサラリーマンなので、それなりの覚悟を持って言ってます。ただハッキリ言って、自分はサラリーマンである前に新日本プロレスのファンなんですよ！（一際大きな声で）。

――いちサラリーマンの前にいち新日本プロレスファンでありたい、と（笑）。

**吉野** ええ。言ったあとでプロデューサーを見たのはサラリーマンとしての自分ですけど（笑）。ただ、僕は『ハッスル』はなんて失礼なヤツらなんだ！」と思っていたので、『ハッスル』寄りの『kamipro』もしばらく買いませんでした。

――そこでも闘ってましたか。

**吉野** そのあとGK（金沢克彦）さんが、『kamipro』に書くようになってからは、読むようにしていましたけど。

――GKで判断された、と。でも、吉野さんの実況のインパクトは絶大でしたよ。

**吉野** ありがとうございます！　プロレスの実況って、テレビで唯一、直接的な表現でズバッと斬ることが許されていると思うんですよ。

――そういう部分はありますね。

**吉野** それに、深夜ワクですけど、テレ朝も1・4東京ドームという新日本のビッグマッチを当日中継してるプロレス思いの会社なんで、僕もそういう部分に応えたいんです。だから1・4の前、年末年始は実況に備えて、毎年お酒も飲みませんから。

――自主的に酒断ちまで⁉

**吉野** ええ。大晦日の格闘技イベントも減ってる中、ドーム大会の実況ができるのは幸せですから。その時期は、必要以上に自分を厳しく律してますね。

――でも、ご家族は大変でしょう。

**吉野** 妻には「いつまでプロレスの実況やるの？」って言われています（笑）。

――最後に、吉野さんも一度はゴールデンタイムで実況してみたいですか？

**吉野** う〜ん。それはそうなんですが、もしプロレスをもう一度ゴールデンで放送して数字がよかったらいいですけど、数字が獲れなかったら……。

――レギュラー中継すら危うくなりますからね。

**吉野** そうなんですよ！　自分はプロレスの実況で名を上げようという気持ちもないし、僕の夢は70歳のおじいちゃんになっても、現役でプロレスの実況していることですから。なんとかテレ朝でずーっとプロレスというジャンルを守り続けたいんです！

――自分よりプロレス中継優先！　これからも、吉野アナの振りきれた実況を楽しみにしてます。

**吉野** ありがとうございます！　じつはね、今年の1・4東京ドームの大会でも、ノアvs新日本の実況で後藤（洋央紀）がエプロンにいた三沢（光晴）にフライングニールキックを出したとき、思わずって言っちゃったんですよね……。「余裕ブッこいてんじゃねえぞ、三沢ッ‼」と。

――ワハハハハ！　もしかして、それも確信犯で？

**吉野** いや、心の叫びです（笑）。

【09年2月9日／都内・テレビ朝日本社にて収録】

べては託されました。プロレスは**ファイティング・オペラなんかではなく闘いなんだぁ‼　プロレスは命のやりとり！　コスプレや下品なポーズはいらない！**

【小川が試合中にハッスルポーズ】

**吉野** **ここは新日本のリングゥ！（怒）。『ハッスル』なんてクソくらえぇぇ！（大炎上）。大阪ドーム、ブーイングです！**

【ハッスル軍が勝利。小川がマイク】

**吉野** ここは新日本のリングだ！　おまえらは帰れ！　おまえらこそ帰れ！　**『ハッスル』なんてクソくらえ！**　帰れ――っ！

【新日本勢がハッスルポーズを阻止】

**小川** なんだよ？　ケツの穴がちっちゃいな。俺はハッスル（ポーズ）をやりに来たんですよ！

**吉野** **（即座に）ハッスルはいらない！**

**小川** 皆さん、ハッスルをやってもいいですか――ッ⁉

**吉野** **（すかさず）ハッスルはいらないっっっ‼**

**小川** おまえらよ、この声が聞こえないのかよ！

**吉野** **（間髪入れず）聞こえないっ！**

**小川** お客さんは何を望んでるんだ？

**吉野** **（即座に）お客はハッスルを望んでいないっ！**

【新日本ファンは「帰れ」コール】

**吉野** さぁ、ファンは「帰れ」コールだ！　**この声を待っていた‼**

【小川のハッスルポーズをタックルで止める成瀬昌由】

**吉野** いいぞ成瀬！　成瀬いいぞ！

（中略）小川直也、帰っていきます！　**新日本の貞操は守られました！**

【ハッスル軍退場後、蝶野がマイク】

**蝶野** 『ハッスル』！　新日本もケツの穴もちっちゃいこと言ってんじゃねぇぞ、オラ！　やりてぇなら来い！

**吉野** **蝶野正洋、おまえなんてこと言うんだぁ‼　この新日本で闘ってきて、これはあまりにもないじゃないかぁぁ！**（怒）。

# 09年 本気のプロレスはこの男が支える……はず

2008年プロレス大賞新人賞　まさかの受賞

# 澤田敦士

小川直也のもとでIGFに参戦し、試合数こそ多くはないが、観る者の心に強烈に引っかかる存在、
それが08年プロレス大賞新人賞受賞の澤田敦士だ。
過剰な表情と爆発する感情を持つこの男に『kamipro』初取材!!

聞き手／坂井ノブ　撮影／乾晋也　試合写真／平工幸雄

澤田　じつは、『東スポ』プロレス大賞の新人賞を獲れたのは『kamipro』さんがキッカケなんですよ。

――え、どういうことですか？

澤田　北海道でタカ・クノウ選手とやったときに負けたんですけど、そのときの『kamipro』に「キュートな顔がかわいい」「本誌が選ぶ新人賞次点間違いなし」って書いてあって。これは使えるなと思って。

――それがキッカケで自分発信でどんどん「新人賞」って言いだしたんですか？

澤田　そうですね。石井（慧）くんと僕が小川道場で闘ったときにマスコミがいっぱいいたから、これはチャンスだから言ってやろうと思って。それまでは、どうやったら世間とかプロレスファンに届くのかなと考えてたんですけど（笑）。

――小川さんのプロデュースではなくて？

澤田　はい。自分で勝手に言っちゃったんですよ、マスコミの前でバーッと！　あのときも小川さんはプロレスマッチは想定してなくてビックリしてましたけど。リング上の闘いに関しては小川さんが教えてくれてます。

――そもそも小川さんのところに入るきっかけは？

澤田　僕はもともとプロレスファンで、橋本vs小川戦を観て凄い身震いしたんです。当時、プロレス最強の橋本真也選手が負けたじゃないですか。「やっぱ柔道つええな」と思って。そのときに凄い小川さんのことをリスペクトして。で、明治大学に入ったときに小川さんが練習に来て、「うわ～っ、凄い人だな」って。もともとプロレスも好きだったんで、小川さんについていけばプロレスできるかもと思って。小川さんがZERO-ONEに上がってた頃ですね。

――プロレスの練習を始めたのは？

澤田　小川さんが『ハッスル』にいたとき、僕は『ハッスル』で練習させてもらってたんですよ。だからプロレスの基礎を教えてもらったのは『ハッスル』ですね。正直、プロレスはただの闘いとしか思ってなかったんですけど、奥が深いんですね。ただ闘うんじゃなくてお客さんを相手にして闘わなきゃいけないっていうことを凄い教わって。そういうところはカルチャーショックじゃないですけど、ガーンときました。

**柔道時代、全日本の強化合宿で青木（真也）選手と同部屋でした**

IGF総帥アントニオ猪木、その弟子である小川直也のDNAを注入された澤田。ある意味で猪木直系ともいえる、ムチャ振り的な公開練習をもいとわない闘魂遺伝子だ。もともと柔道では高校日本一、02年全日本ジュニア柔道選手権－100kg級で優勝した実績の持ち主。ちなみに澤田は小川道場でちびっこ相手に柔道を指導している。

――IGFでは澤田選手の表情とか気迫が凄く前面に出てるんですよ。あれがどこで培われたのかが謎なんですけど（笑）。

澤田　デビューするときに小川さんに言われたのが、「ありのままの自分で、元気出していきゃいいんだよ。思いきった闘いをしてこい。焦る必要もないし、迷う必要もないから」って。で、そのままの自分を出したんですけど……。

――元気といえば猪木さんですが、接点はありますか？

澤田　何度かお会いさせてもらったんですけど、やっぱり雲の上の存在ですよね。猪木さんの本を読むと、よく「対世間」と書かれてるじゃないですか。なるほどなっていう教わるところいっぱいありますね。あと、「元気があればなんでもできる」って。あれはホントにそう思うんですよね。元気がなかったら、何もできないじゃないですか。元気があるからこそ、なんでもできる。そんな単純なことがいかに難しいか。

――普段、どんな練習してるんですか？

澤田　柔道とUWFのスネークピット・ジャパンでの練習ですね。最近は『ハッスル』の安生（アン・ジョー司令長官）さんから「いつでも来いよ」って電話をいただいたりしました。

――柔道では凄い経歴じゃないですか。でも、プロレス入りを決意したのはどうしてですか？

澤田　自分、普通の人生が嫌だったんですよ。そうじゃなくて、もっと違う道で自分の力を試しながらスポットライトを浴びてくっていう、そういう人生がやりたかったんです。小川さんは「プロレスはそんな甘いもんじゃないよ」とは言ってましたけど、それでもやりたかった。

――実際入ってみてどうですか？

澤田　甘いもんじゃないです！　肌で痛感してますね。プロレスラーはサラリーマンでもあって経営者でもあるじゃないですか。揉まれながらやるしかないです。あのまま柔道をやってても、いずれはプロレスラーになってたと思いますよ。じつは柔道時代、全日本の強化合宿とかで青木（真也）選手と同部屋だったんですよ（笑）。

――へ～！　それは意外な接点ですね。

澤田　彼は健康的な生活をしてましたね。夜も早い時間に寝てましたから。自分は外に出て次の日の朝練も出ないわけですよ。僕が起きたとき、青木くんは朝練を終えて汗ダラダラで帰ってきて。

――当時はどんな感じですか？

澤田　トリッキーでしたね。当時からいまのまんまでした。人と違うことをやってましたね。それに柔術の練習に行ったり、サンボもやってました。

――澤田さんはそっち方面は興味なかっ

ご覧の表情はどうだ！　プロレス界を見渡しても、このキャリアでこの顔はなかなかいないはず。元気があれば、プロレス大賞新人賞も獲れる!!

たんですか？

**澤田**　なかったです。いまプロレス入ってホントに思ってるのは、格闘技ってある意味ショービジネスかもしれないですけど、結局相手と闘って勝ってなんぼじゃないですか。プロレスは勝ち負けもあるんですけど、お客さんとの闘い。そこが凄く魅力的なんですよ、いま。

――お客さんとの闘いが楽しい？

**澤田**　はい。それは小川さんと猪木さんの教えでもあるんですけど。それにも「やってやるぞ！」って気持ちになってます。人々に感動を与えたり、その人の人生の転機になるような闘いをしてみたいな、と。そこが究極の目標ですね。

――小川さんを間近で見てて、ここが凄いなっていうのはどんなところですか？

**澤田**　いつでも闘える身体を作ってる。そして、常に対世間を意識してる。イコール、日ごろからプロの精神でいらっしゃるっていう部分、それが一番凄いなと思います。食生活にしろ、身体の維持にしろ。そういうのが凄いなと思いますね。

――ブログで拝見したんですけど、ファスティング（断食）してるんですよね？

**澤田**　はい。いままで3回やったんですよ。明日からまたやるんですけど。ちょっと10キロほど落とそうかな、と。いまの状態でデビューのときより15キロは落ちてますね。じつはこないだとあるパーティで小川さんと猪木さんに挨拶に行ったとき「腹（の肉）を落とせ、腹を落とすんだ！」と言われまして（笑）。

――落とさないわけにはいかないですね。

**澤田**　プレッシャーがきついですけど、頑張ります（笑）。

――あとは石井さんとの親交のお話をうかがいます。石井さんとはそもそもどういうきっかけだったんですか？

**澤田**　彼は国士舘で、僕は講道学舎だったんですが、その二つはライバル関係なんですよ。最初は彼が中学生で僕が高校生の頃ですね。当時、高校3年生で講道学舎のキャプテンで、講道学舎の中学生たちを引き連れて試合に行ったんです。そしたら講道学舎の後輩が石井くんと引き分けたんですね。で、帰りにエレベーターに乗ったときに、その石井くんと引き分けたヤツに対して「おまえ、何やってんだよ。弱いな、この野郎！」って怒鳴ってたんですよね。そしたら、たまたまそこに彼がいたらしいんですけど。当時、まったく知らなかったんです、全然強くなかったんで。僕のほうが全然強かったんで（笑）。

――そんな昔から！　でも、それじゃあ第一印象は最悪ですよね（笑）。

石井慧は11.24IGF名古屋大会に出現。澤田のセコンドについた。なんと入場時にはグレイシートレインで花道を歩いてくるというパフォーマンスを披露した。

hiSawada

## 地元の旭山動物園で凱旋興行をしたい！ 観客は動物たちです

**澤田**　「自分、先輩の忘れられない出来事があります」って言うから、「なんだ？」って言ったら「僕がいるのにもかかわらず、エレベーターで僕と引き分けたヤツに対して『あんな弱っちいわけわかんないヤツと引き分けやがって、この野郎！』って怒ってたんですよ」って。石井くんは「自分がいるってわかってたくせに」って言うんですけど、僕はホントに知らなくて。

――凄い話ですね。

**澤田**　石井くんも本当は講道学舎も視野に入れてたらしいんですけど、それがきっかけで行きたくなくなって国士舘に行ったらしいです。それで僕が大学4年になって、彼が大学1年になって出稽古に来るようになって、話すようになりましたね。そのとき「先輩に昔こういうこと言われたんですよ」って言われて（笑）。大学のときは普通に会話して、一緒に食事したりしてました。それがいまや世界のチャンピオンですからね。

――あれだけの実績を残しながら、かなり破天荒なパフォーマンスをやってますけど、ああいう部分はどう思いますか？

**澤田**　いいことだと思いますよ、ああやって自分をアピールするっていうのは。

――「プロレスやらないの？」みたいな話とかはしませんでした？

**澤田**　あ、まったくそういう話はしなかったです。ただ、プロに行くときに「僕、先輩にホウレンソウ忘れてました」って言うから、「なに、ホウレンソウって？」「報告、連絡、相談です。自分、プロに行くって決意してます」って風呂の中で言ったんですよ。それはビックリしましたけどね。

――そして、IGFで一緒にグレイシートレインで入場しましたよね。

**澤田**　あれも彼が助けに来てくれたっていうか、いきなり当日に控室に入ってきて。「えーっ、何してんだよ！」って。新聞では来場するという記事を読んでいたんですけど、自分には連絡がなかったんで。

――あ、そこもホウレンソウはなかったんですか（笑）。

**澤田**　あまりに突然だったんで、思わず僕も「よく控室まで入ってこれたね」って言っちゃいましたけど。

――ホント神出鬼没ですよね。『ハッスル』のときも小路（晃）選手を通じて前日に来場予告があったみたいですよ。

**澤田**　KUSHIDA選手にチョップしたんですよね？　石井くんこそプロですね。プロレスやってほしいですけど。パフォーマンスできますもんね。猪木さんも言ってましたよ。「やっと稼げる日本人が出てきた」って（笑）。

――さて、澤田さんの将来的な野望はどんな感じなんですか？

**澤田**　とりあえずですね、いま考えてるのは海外武者修業！　どこでもいいです、アメリカを中心にプエルトリコ、メキシコ、片道のチケットだけを自分で買って、なんもない状態から自分で始めたいんです。何もないところからやるのが修行じゃないですか。ちなみに帰国するときはファーストクラスで！　というのが理想です

批判されても否定は肯定の裏返し
注目されてるいまがチャンスです

Atsushi S

ね。人生すべて修行なんで。あとは地元の旭山動物園で凱旋興行をしてみたい！　観客は動物たちです。

――人もいっぱいいるじゃないですか。

**澤田**　普段観られてる側の動物たちに、プロレスを観させてやりたいんです。

――ゴリラと闘ったり？

**澤田**　白熊と闘うのもいいでしょう。ペンギン100羽vs僕とか、どうですか？

――さすがにペンギンには圧勝しそうですけど（笑）。おもしろいですね、そういう派手な仕掛けは。

**澤田**　それぐらいしないと世間は目を向けてくれないですね。プロレスラーは世間を見なきゃいけないですからね。

――そんな世間の中でプロレスのポジションがどんどん落ちてきてますよね。

**澤田**　落ちてきてますね。実際、初めて会う人に「プロレスやってるよ」とか紹介されても、鼻で笑いますもんね。「え、格闘技やってないの？」って。そのときは「やってますよ」って言いますけど（笑）。

――いまはプロレスを観たことない人のほうが圧倒的に多いんでしょうね。

**澤田**　でも、やっぱり世間の人も猪木さん、小川さん、武藤敬司さんとか馳浩さんのことは知ってるんですよ。あと、北斗晶さん＆佐々木健介さん夫婦のことはみんな知ってますからね。

――そう考えると世間に刺激を与えるような仕掛けが必要ですね。その一環なのかどうか知りませんけど『東スポ』の取材で寒い中、茅ヶ崎の海に入ってトレーニングをしてましたよね。

**澤田**　あれは予想外でした。小川さんが「おう、おまえ、ちょっと行ってこいよ」「え、なんですか？」「海入ってこいよ！」……参りましたね。

――いままで『東スポ』のトレーニング取材でキツいのってありました？

**澤田**　闘魂棒トレーニングですね。真昼間の公園で、公園デビューした赤ちゃんがいたり、犬の散歩してるようなところで、小川さんと闘魂棒を振り回して（笑）。周囲から人がサーッといなくなっちゃって。

――まあ、ちょっと怖い人たちですよね。

**澤田**　これからもあるんじゃないですか、六本木で真剣を突きつけられたりとか。

――あのとき現場にいたんですけど、ビビりましたね。周りに人いなかったからよかったですけど。土下座ですからね。

**澤田**　いきなりやったんですか？　ヤバいですね。

――まあ、それが猪木さんですからね。

**澤田**　そうですね。小川さんも言ってましたけど、「俺もこういうのよくやってたんだから。あたりまえなんだよ」って。

――そういうムチャ振りに対して、ある程度の耐性はついてるんですか？

**澤田**　いや、べつにムチャとは思ってないんで！　それもプロだし。

――じゃあそれが載ってる新聞とか見て、「ああ、よかった」と。

**澤田**　もうちょっと載せてほしいなって（笑）。せっかくやったんだから。

――プロは身を削ってやらなきゃいけないから大変ですね。澤田さんの思い描くヒーロー像って、どんな感じですか？

**澤田**　小川さんや猪木さんのように世間を巻き込んでスキャンダラスに盛り上げてくっていうのが理想ですね。亀田兄弟とか朝青龍関も凄いと思うんですよ。ヒールだろうがなんだろうが、注目を浴びてるじゃないですか。批判はされてますけど、結局、否定は肯定の裏返しって言葉がありますけど、朝青龍関で視聴率がバッと上がったりしてるじゃないですか。それは凄いことなんだなって思いますね。自分はプロレスの世界で新人王を獲って、批判も凄かったらしいんですけど。

――直接耳には入ってきました？

**澤田**　友だちに「2ちゃんねる凄いよ！」って教えてもらったぐらいです。あとは記者の方に「ウチにも抗議の手紙が来ました」とか言われましたけど。

――批判の声があるっていうことについてはいかがですか？

**澤田**　批判をされたときには「何を？　この野郎！」と凄く思ったんですけど、でも冷静に考えて否定は肯定の裏返しなんだ、注目されてるいまがチャンスだ、と。「このチャンスに何かやらなきゃいけない」って小川さんと話してたら、「まずは肉体改造して批判を黙らせろ」と。「いままでのおまえのプロレスは誰も受け入れてくれなかったから批判されてるんだよ。それも注目されてる証拠なんだけど、でも何かをガラッと変えなきゃいけない。だったら肉体改造して、プロレスの技術も身につけなきゃいけない。逆にいまチャンスなんだ」と言われて。ちょうどIGFの大会も期間が開いてるんで。

――じゃあ3月にはガラッと変わった澤田さんが観られるわけですね。

**澤田**　そう思っておいてください（笑）。新人王獲った次の年は、プロ野球界でも2年目のジンクスってありますからね。プロレス界にあるのかわかんないですけど、それに負けないようにやってかなきゃいけないですから。

――期待してます。

【09年2月10日／都内・表参道にて収録】

さわだ・あつし■1983年8月20日、北海道旭川市出身。小学校1年生より柔道を始め、中学校から講道学舎に入門。世田谷学園で高校日本一となり、大学1年生で全日本ジュニア柔道選手権-100kg級で優勝。卒業後は小川直也のもとでプロレス活動を開始。07年9月8日、IGF名古屋大会でデビュー。酔っぱらうと壁とプロレスすることもあるという。180cm 95kg

ニュース、動画、コラムがテンコ盛りの携帯サイト

# kamipro Move
# カミプロムーブ

今月の注目動画

## 『週刊kamipro動画コラム』では動画コンテンツを毎週配信!!
## 最新動画(09年3月3日現在)は4.5『DREAM.8』出場3選手が意気込みを語る!!

## 青木真也／ミノワマン
## 桜井"マッハ"速人

ダナ・ホワイト
UFC代表

エメリヤーエンコ・ヒョードル

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

掟ポルシェ&石岡沙織(禅道会)

佐伯繁
DEEP代表

ほかにも豪華な動画配信中!!

毎日ブログ

## 川尻達也『筋肉日記』／MIKU『格闘ブロガール』

kamipro編集部による『kamiブログ』も毎日更新!!

## 充実のコラム連載陣も要チェック!!

| 曜日 | 連載 | 内容 |
|---|---|---|
| 月 | 郷野聡寛の『MONDAY NIGHT FEVER』 | UFCで活躍中の郷野聡寛が本音トークで語る! 試合やパフォーマンス同様に文章でもマルチな才能を発揮しています! |
| 火 | ニュース特選『kamiの一週間』 | ここ一週間の出来事をヨタ話で振り返るいろんな意味で反響が大きい爆弾企画。これを読まずにマット界は語れない! |
| 水 | 橋本宗洋の『格闘裏グルメ』 | 昨年、激痩せした元・重量級ライター(現在は中量級?)橋本宗洋が格闘技界の見どころをズバリ解説! |
| 木 | 世界のMMA最新情報『USA cool 宅急便モバイル』 | 日本のMMA界と密接に連動している海外MMA事情を週一回総まくりします。ホットな情報をクールにお届け!! |
| 金 | 注目選手への『スペシャル・インタビュー』 | いま最も旬な選手に、旬な話題を直撃インタビュー。2月には『TUFシーズン8』でコーチとして活躍中のダン・ヘンダーソンが登場!! |
| 土 | マット界の事件を徹底追求『kamipro事件簿』 | マット界には日々、さまざまな事件が起こる。そんな迷宮入りの事件をピックアップして真相を解明する大反響連載! |
| 日 | マッスル坂井の『ゴー・フォー・ブログ! 週刊マッスル坂井』 | 鬼才・マッスル坂井がその華麗なる日常を大公開! いかにしてマッスルが生み出されるのかをここでチェック! |

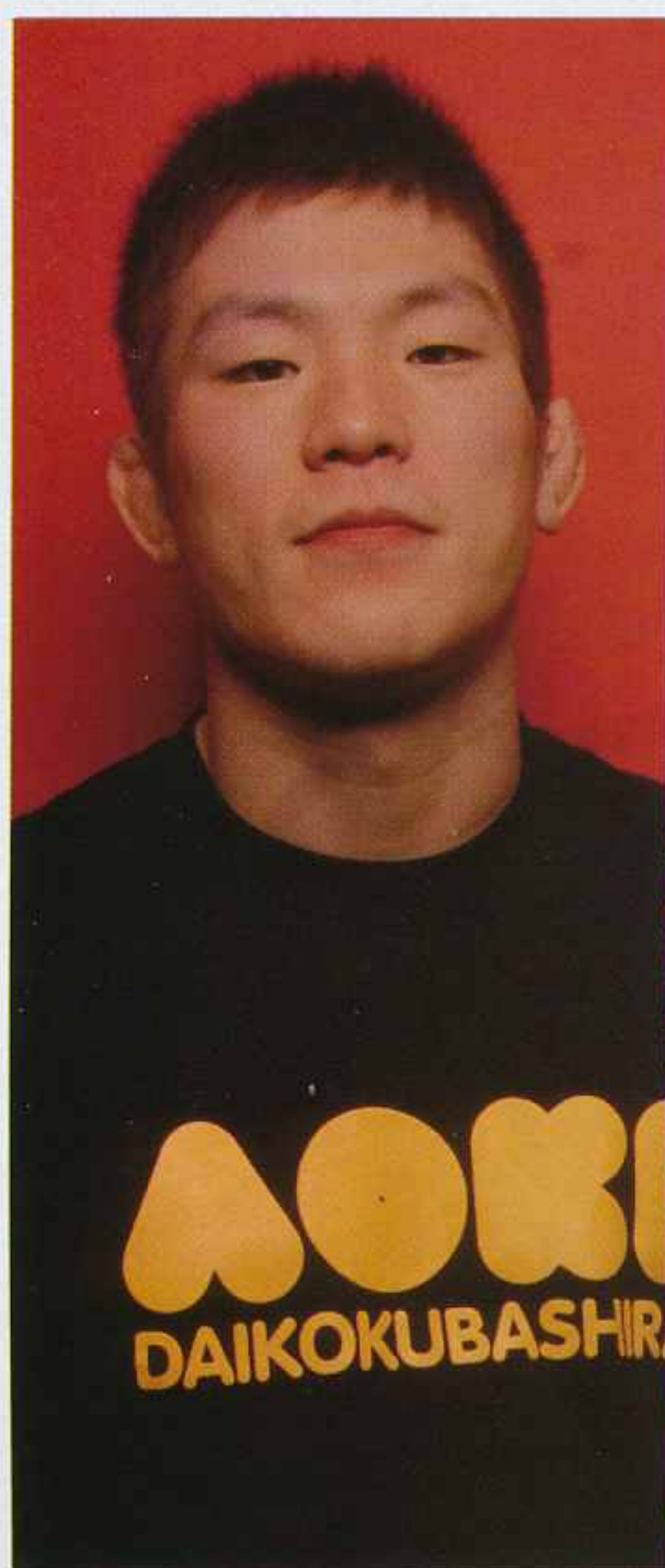
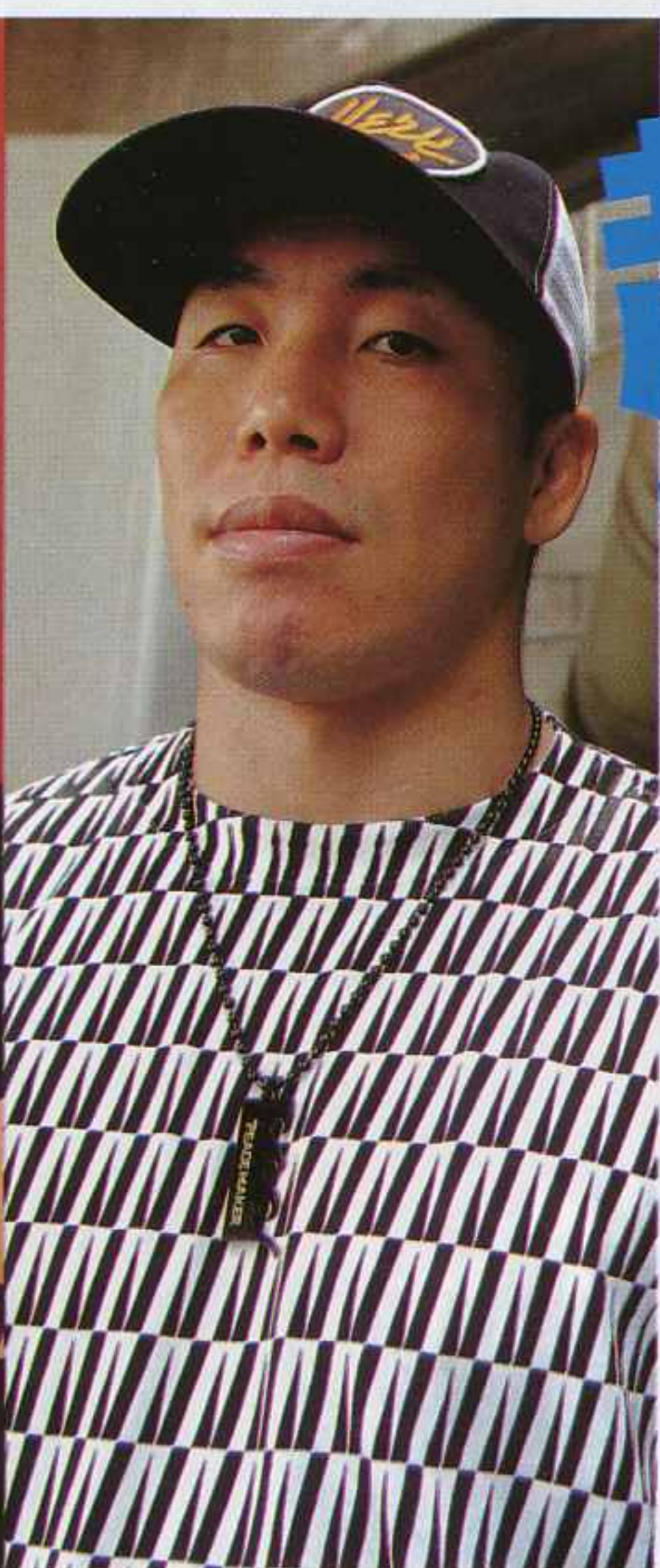
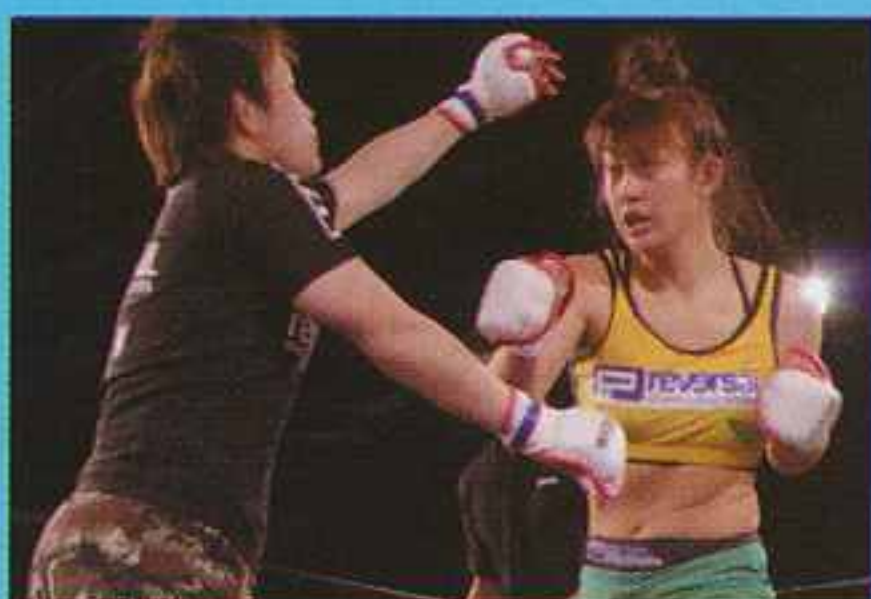
主要3キャリア全端末対応(※端末により一部非対応コンテンツあり)

**アクセス方法**

| キャリア | | | | |
|---|---|---|---|---|
| iモード | iメニュー | メニューリスト | スポーツ | 格闘技/大相撲 |
| EZweb | EZトップメニュー | スポーツ・レジャー | 格闘技 | |
| Yahoo!ケータイ | メニューリスト | スポーツ | 格闘技 | |

サービス利用料
月額315円
(税込)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1

[お問い合わせ] 株式会社エンターブレイン カスタマーサポート TEL.0570-060-555 (受付時間/土日祝祭日を除く 12:00 ~ 17:00) メールでのお問い合わせは support@ml.enterbrain.co.jp まで。

※写真は「レッスルマニア24」ビッグショーvsフロイド・メイウェザー


4.5『レッスルマニア25』テキサス州ヒューストンで開催! 今年はランディ・オートンvsビンス・マクマホン実現!?

今年の『レッスルマニア』も

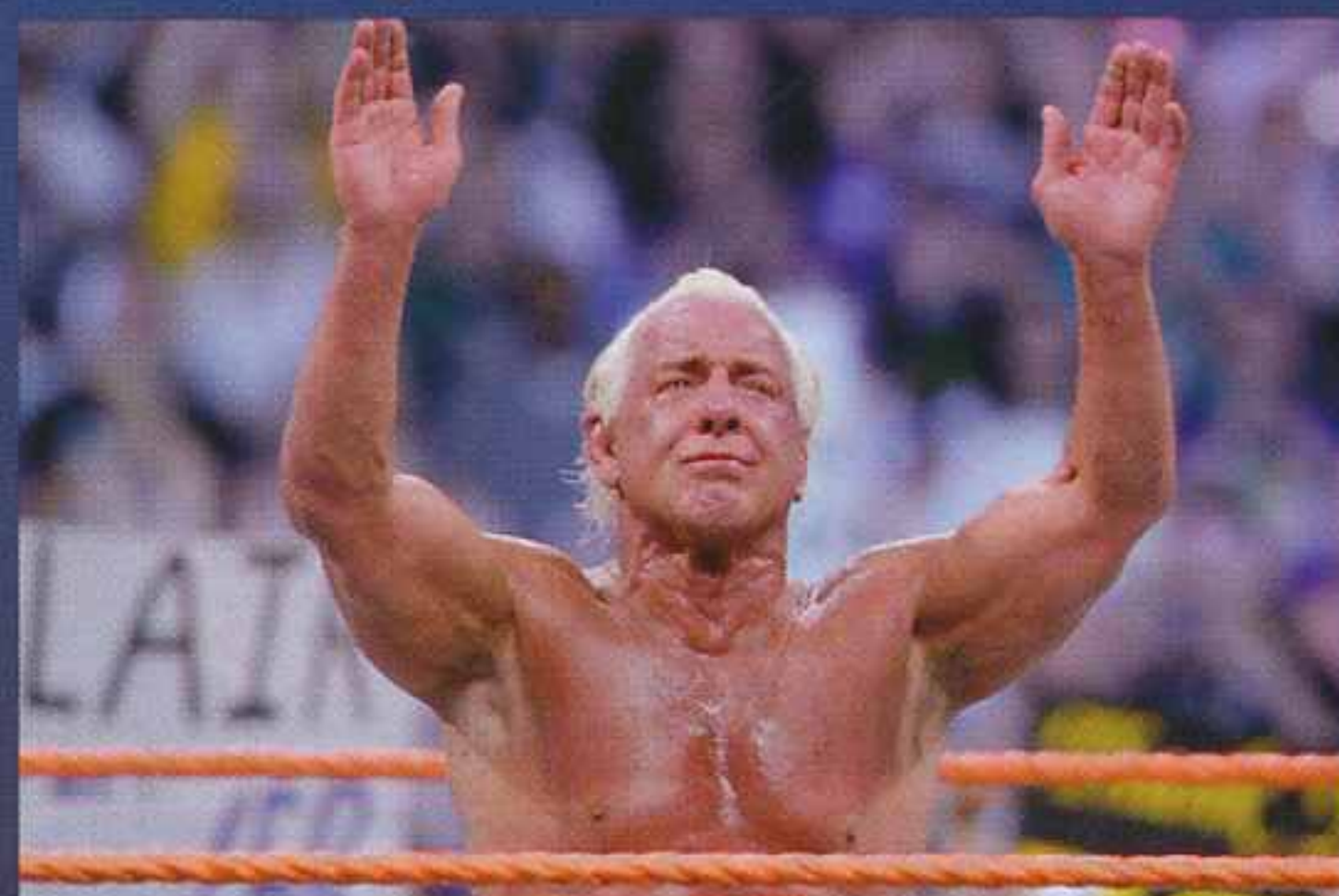
# プロレス史上最大のバカ騒ぎ!

ネタバレ注意!

世界が「百年の一度の経済危機」に襲われている現在。その震源地・アメリカでは今年も例年どおりプロレス史上最大のお祭り騒ぎ『レッスルマニア25』が行なわれる。今年の舞台は米国テキサス州ヒューストン・レリアントスタジアムという巨大な球場だ。

映画『レスラー』でアカデミー賞主演男優賞候補にノミネートされたミッキー・ロークがクリス・ジェリコと対戦するかと思われたが、アカデミー賞受賞レースへの影響を懸念してか、試合出場はしない模様（結局、受賞できず!!）。プロレスの内側をモロに描いてしまったオスカー候補の俳優が、現役バリバリのトップと対戦したら、それはそれでいろんな意味でスキャンダルだ。WWEの懐の広さにはあらためて感服させられる。

さらにオーナーであるビンス・マクマホンの身体を張った奮闘が今年も観られる……はずだ。相手は若手ナンバーワンのランディ・オートンが有力視されている。3月5日に日本で放送されるPPV『ノー・ウェイ・アウト』でオートンvs息子シェイン・マクマホンが組まれている。ネタバレを気にせず書いてしまうと、この試合で勝ったオートンが、『レッスルマニア25』でビンス・マクマホンと対戦する可能性は高い。リアルに億万長者のWWEオーナーでありながら、流血したり、ぶん殴られたりと身体を張るビンスの激闘は年1～2回程度しか拝むことができない貴重な機会。

今年は冒頭で書いた不景気や会場サイズの影響もあり、チケットは即完売とはなっていない模様。現地に渡航して観るのもありだろう。NFLスーパーボウルと並んで、アメリカのプロスポーツで最も豪華絢爛なイベント『レッスルマニア』は必見だ!

昨年の『レッスルマニア』で引退したリック・フレアーは、インディー団体ROHと試合以外の部分で契約。今年はストーンコールド・スティーブ・オースチンが殿堂（Hall of Fame）入りする。

## 『レッスルマニア』はスカパー!で観よう

スカパー!、スカパー!e2で放送中のPPVスペシャル番組は4月放送予定の『レッスルマニア25』よりハイビジョン化、イベント開催日から11日後に短縮した編成枠にて放送開始。

### ▶WWE『レッスルマニア25』

4月16日（木）22:00～ 初回放送よりハイビジョン化、繰り上げ枠放送。

- 番組タイトルは「レッスルマニア09」となります。
- 詳しい放送スケジュールはスカパー!WEBサイトにてご確認ください。
- 放送時間は変更となる場合があります。

## J SPORTS レギュラー3番組ハイビジョン化&10日以上繰り上げて放送開始!!

スポーツ専門チャンネル Jスポーツは09年3月よりWWE（World Wrestling Entertainment）の『ロウ』、『スマックダウン』、『ECW』のレギュラー3番組および、スカパー!、スカパー!e2、J:COM オンデマンドで放送している『PPVスペシャル』番組のハイビジョン放送を開始する。さらに、アメリカ国内放送からの時間差を大幅に短縮し、よりWWEの魅力を高める編成で放送されることになる。WWEの2大看板番組である『ロウ』、『スマックダウン』と第3のブランド『ECW』3番組を3月中旬にそれぞれハイビジョン化。その後、現地放送との時間差を短縮するため、新エピソードを2週間で計4回放送する変則編成期間を経て、3月下旬からは現地放送から約10日後となる新編成枠で放送開始。

### ▶WWE『ロウ』

ハイビジョン化 #821／3月9日（月）15:00～ J sports Plus
繰り上げ放送開始 #825／3月27日（金）15:00～ J sports Plus 新編成枠 毎週金曜日 14:00～（120分）J sports Plus

### ▶WWE『スマックダウン』

ハイビジョン化 #496／3月11日（水）12:00～ J sports Plus
繰り上げ放送開始 #500／3月30日（月）15:00～ J sports Plus 新編成枠 毎週月曜日 15:00～（105分）J sports Plus

### ▶WWE『ECW』

ハイビジョン化 #141／3月11日（水）18:00～ J sports Plus（再放送枠）
繰り上げ放送開始 #145／3月27日（金）17:00～ J sports 1 新編成枠 毎週金曜日 16:00～（60分）J sports 1

※WWE ヴィンテージ・コレクションのハイビジョン化、編成枠の変更はありません。
詳しい放送スケジュールはJ SPORTS WEBサイトまたはカスタマーセンターまで。
※放送時間は変更となる場合があります。

不景気にベイダーハンマー！
新木場に大物ガイジン!!

# 採算度外視のベイダー興行はなぜやっていけるのか!?

キミは『ベイダータイム』を知ってるか？
『ベイダータイム』とは、この不況下にキャパ300人程度の新木場1stRINGにて毎回のように大型ガイジンから、
高山、曙、みのる、小島といった豪華メンバーを集結させている採算度外視がウリ(?)のベイダー・プロデュース興行である。
今回、この謎だらけのベイダー興行の秘密に"ガンバッテー!"迫ってみました!

構成／阿修羅チョロ

大会プロデューサーのベイダー不在の旗揚げ戦、大物ガイジンの大会直前の来日キャンセルが続くなど、トラブル続出ながらも、キャパ300人程度の新木場1stRINGに大型ガイジンや、鈴木みのる、高山善廣、曙といった日本のトップレスラー、さらには女ベイダー（ヘイリー・ヘイトレッド）をはじめとした女子レスラーまで、やたらと豪華でバラエティに富んだ選手を集結させ、ベイダーファンのみならず、プロレスマニアからも注目を集めているのがベイダー興行（大会名は『ベイダータイム』）だ。

世間もマット界も不況下の中、なぜベイダー興行は新木場クラスの会場に多くのガイジンやメジャー選手を呼び続けられるのか？　ベイダーはホントにプロデューサーなのか？　実際のところベイダー興行を主催してる人って誰なの？　数多くのベイダー興行にまつわる謎を解消すべく、2月3日の新木場大会に潜入取材を敢行！

もう少し詳しくベイダー興行について説明しよう。ベイダー興行は今年の2月大会前まで6回の興行を開催（すべてベイダー不在）。コンセプトは「デカくて怖くて強いヤツらのぶつかり合い、潰し合い」という、じつにベイダーイズムあふれるもの。そんなベイダー興行がまたしても新木場で約4ヵ月ぶりの興行を開催するという。しかも今回はベイダー興行としては初のベイダー本人が来場すると早くから発表されていた。

ついにあの男がやってくる!!

……と、大げさに書いてみたものの、自分の名前が興行名に入り、プロデューサーという肩書きもあるため、来場して当然と言えば当然。しかし、そこはベイダー興行だけに油断も隙もありゃしない。現在53歳になるベイダーは昨年8月に古傷の両ヒザを手術したということもあり、ここ数年は選手としてはセミリタイア中。その間は地元コロラド州で不動産業やカーディーラーなどの仕事をしていたというベイダーがひさびさに来日したのが昨年の1月。

冒頭で旗揚げ戦は本人不在と書いたが、ベイダーは来日はしていたのだ。ベイダー興行の旗揚げ戦はベイダーの来日20周年記念興行として開催され、場内にはベイダーのこれまでの激闘を振り返るVTRが流され、多くのファンや関係者から祝福を受ける……はずだったのだが、ベイダーは会場に姿を現わすことはなかった。

じつはベイダーは大会前日に倒れ、都内の病院に緊急入院。大会当日はドクターストップがかかり本人不在のまま記念セレモニーが行なわれるという異常事態に（ちなみにベイダーに花束を贈呈するはずだった藤波辰爾は会場に姿を現わすもベイダーの不在を知りセレモニーを欠席……）。

過去にそんなトラブルもあったため若干不安な気持ちを胸に大会開始2時間前に新木場に到着。すでに会場周辺には熱心なファンが開場を待ってうろうろしている。

いざ開場となるとファンが続々と押し寄せ、最終的には主催者発表で450人超満員札止めとなる大盛況に（中には芸能界で一、二を争うプロレスファンのハチミツ二郎の姿も）。肝心の試合も第1試合から熱戦が続出。自らがスカウトしたというランス・ホイトやアーロン・ニールの試合の際には本部席にどっかり腰を下ろし、「オ～、グッド！」「ガンバッテー！（ガイジンには意味不明）」などゲキを飛ばしながら満足げに観戦していたベイダー。

休憩後にはリングインし、「毎回日本に来るのが楽しみなんだ。なぜなら、ファイターをリスペクトしてくれる日本のファンを愛してるからだ。ガンバッテー！」と上機嫌でマイクアピールを行なったベイダー。メイン後には大プッシュするマイク・フェース

## WWE戦士に寝技王、借金王から女子プロまで！　これがベイダータイムだ!!

メインは"信頼"と書かれたコスチュームがインパクト大なベイダー期待の大型ファイター、マイク・フェースと小島聡が激突。本部席のベイダーから「ガンバッテー!」と盛んにゲキを受け健闘したフェースだったが、最後は小島のラリアットで撃沈!

昨年の9月大会では大会前に来日キャンセルとなったステファニー・マクマホン（アングル）やステイシー（ガチ）の元恋人としても有名な元WWE戦士のテストがベイダー興行初登場。長井満也の足関節に苦しみながらも勝利!

今大会がベイダー興行初参戦のWAKASHOYOは対戦相手の嵐だけでなく、パートナーの安田忠夫にまで攻撃を受けるというさんざんな目に。安田は試合途中WAKASHOYOにドロップキックをかますと、試合放棄しとっとと退場。

"女ベイダー"のふれこみで第3回大会からベイダー興行にレギュラー参戦しているのがヘイリー・ヘイトレッドだ。"女ベイダー"を名乗るだけあって177センチ、77キロの大型ファイター。現在TLW&WWC女子2冠王でもある。

なぜか毎回のようにベイダー興行に参戦しているのが自称・寝技日本一にしてチーム・ベイダー所属の高瀬大樹。昨年9月の大会ではマイク・デビアスの持つベルトに鈴木みのると3WAYマッチで挑戦するも残念ながら敗退。

## 悪気はないけど、ハプニング満載！
## ベイダー興行ヒストリー

**『チーム・ベイダー主催興行ビッグバンクラッシュ！～皇帝降臨！ レッスル・ウォーズ～』**

▼08年1月5日、ディファ有明＝観衆600人

［主な参戦選手&出来事］マイク・フェース、エンジェル・ウイリアムス、デイジー・ヘイズ、大森隆男、吉江豊、金村キンタロー。大晦日の『ハッスル』でミルコに受けたハイキックにより欠場していた金村キンタローが復帰戦を行なう。

**『ビッグバンクラッシュ！～レッスル・ウォーズ2～』**

▼08年4月25日、新木場1stRING＝観衆152人

［主な参戦選手&出来事］マイク・フェース、ランス・ホイト、エンジェル・ウイリアムス、JTラモタ、吉江豊、関本大介、橋本友彦。第2回大会から会場は新木場1stRINGに。

**『ビッグバンクラッシュ！～レッスル・ウォーズ3～』**

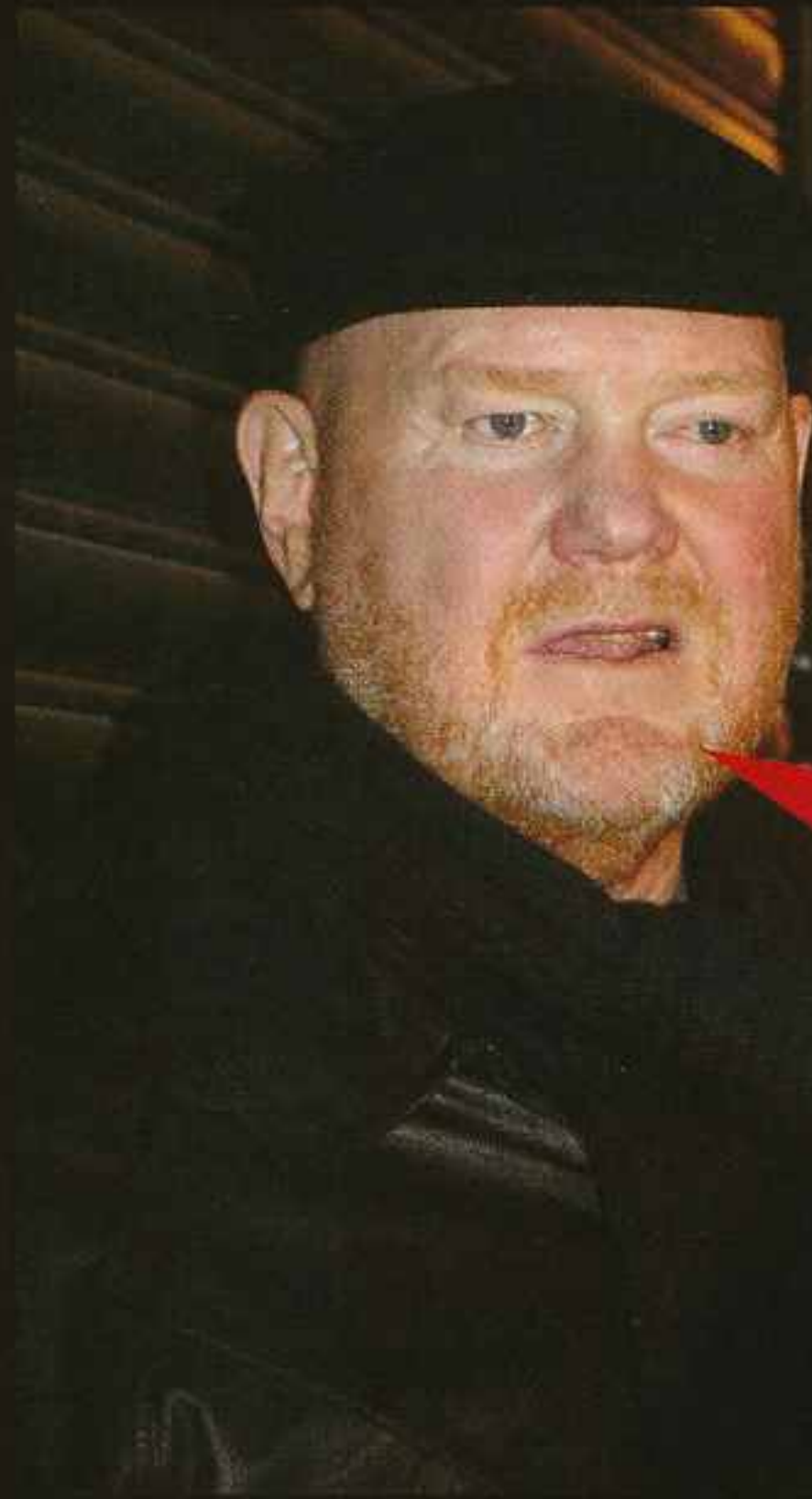
▼08年7月25日、新木場1stRING＝観衆112人

［主な参戦選手&出来事］マイク・デビアス、マイク・フェース、エンジェル・ウイリアムス、ヘイリー・ヘイトレッド、ビッグバン・ウォルター、ミスター雁之助。テッド・デビアスの息子マイクや"女ベイダー"ことヘイトレッドが初参戦。元WWE戦士のハイデンライクが大会直前に来日キャンセル。

を下した小島聡とガッチリ握手。新日本時代は雲の上の存在だったベイダーからしきりに「グッド!」と言われていた小島は恐縮しつつも、「ベイダーは復帰したがってるみたいなんで、そのときは自分が闘ってみたい」と復帰戦での対戦を表明。このアピールにベイダーも「ガンバッテー!」と小島の肩を叩き、再度握手。場内からは「頑張るのはおまえだ!」なんて野暮なツッコミもなく、両者に惜しみない拍手を送り、大盛況のうちに大会は幕を閉じたのだった。

うーん、いい興行だった!

……なんて、満足してる場合ではない。ベイダー興行の謎に迫るという使命を思い出し、早速ベイダー興行の黒幕を探すことに。大会を手伝っている元某団体の関係者やチーム・ベイダー所属の橋本友彦らに話を聞いてみると、確かにベイダー興行の代表は存在した(あたりまえ)。その代表の方は基本的に表には出ないというポリシーのため名前は出せないものの、古くからのベイダーファンで、数年前からさまざまな面でベイダーをサポートしているんだとか。

単刀直入に「ぶっちゃけ、新木場クラスの会場でこんなに豪華な選手を集めて大丈夫なんですか?」と質問してみると「正直言って採算は度外視ですね(苦笑)。SWSの頃からスポンサーとかを前面に出すのは日本のファンはあまりよく思わないところがあるので、あえて強調はしてないですが、ベイダーには昔から応援してくれる人だったり企業がたくさんあるんですよ。あとは大会の動画配信とかもやっているので、それで補えればと思ってるんですけど……、やっぱり、新木場にこれだけの選手を呼んじゃうと赤字ですね」と苦笑い。

確かにベイダーといえば、そのキャラクターが買われて、古くはソニーの「ドデカホーン」のCMに出たり、ここ最近も携帯電話ショッピングサイトの広告キャラクターに

# 驚ガク!? 皇帝戦士はホントにプロデューサーだった!!

It's Vader Time!

起用されるなど一般誌の広告に登場することも多い。そういったスポンサー的な人たちの協力もあり採算度外視の興行をこれまで継続できているという。

「次回大会はいつ頃を予定していますか?」と聞いてみると、「いや、決まってないですね。次にやるのはベイダーが復帰するときじゃないですか。さすがに復帰戦はもっと大きな会場でやりたいと思ってるんですけど」と、再度苦笑い。「まあ、僕なんかよりベイダーに話を聞いてくださいよ」と言われ、「は、はい」と横を向くと、そこにはプロデューサーのベイダーの姿が!

「ベイダーさん、日本のプロレス界は最近ちょっと元気がないんですけど、明るい未来は来るんでしょうか?」

突然の本人登場に戸惑いながらも質問をぶつけると、「今日の試合を観たらわかるだろ? 日本人もガイジンもみんなハートの見える闘いをしていた。オレにはプロレスの明るい未来が見えたよ。確かに、いまはスランプかもしれないが、日本でのプロレス人気は必ず復活する! ガンバッテー!!」と自信満々に言い放ったベイダー。

「一ついいか? オレのことを名前だけのプロデューサーだと思ってる人もいるようだがそんなことはない。実際にオレが連れてきたレスラーは素晴らしかっただろ!? いずれは自分の息子もこのリングでデビューさせたいと思っている。オレの復帰戦とともにそのときを楽しみにしてくれ。それともう一つ! オレや『ベイダータイム』のことをもっと知りたければ、イカした公式サイト(http://www.bigvanvader.net/)があるのでそこでチェックしてくれ! イッツ・ベイダータイム! ガンバッテー!!」

は、はい。ボクも頑張るので、ベイダーさんも復帰とベイダー興行のさらなるビッグバンに向けて……ガンバッテー!!

**『ビッグバンクラッシュ! ~レッスル・ウォーズ4~』**
▼08年7月27日、新木場1stRING=観衆198人
[主な参戦選手&出来事]マイク・フェース、ビッグバン・ウォルター、マイク・デビアス、エンジェル・ウイリアムス、ヘイリー・ヘイトレッド、嵐、浜田文子、AKINO。メインではフェースが保持する3DWヘビー級王座にウォルターが挑戦するタイトルマッチを開催。

**『ビッグバンクラッシュ! ~レッスル・ウォーズ5~』**
▼08年9月25日、新木場1stRING=観衆180人
[主な参戦選手&出来事]ランス・ホイト、マイク・フェース、マイク・デビアス、エンジェル・ウイリアムス、ヘイリー・ヘイトレッド、曙、高山善廣、吉江豊。元WWE戦士のテストが大会直前に急病のため来日キャンセルに。

**『ビッグバンクラッシュ! ~レッスル・ウォーズ6~』**
▼08年9月27日、新木場1stRING=観衆180人
[主な参戦選手&出来事]マイク・フェース、ランス・ホイト、エンジェル・ウイリアムス、マイク・デビアス、ヘイリー・ヘイトレッド、吉江豊、スーパー宇宙パワー。鈴木みのるが初参戦。

**『皇帝降臨ビッグバン・ファイト1』**
▼09年2月1日、新木場1stRING=観衆420人
[主な参戦選手&出来事]テスト、ランス・ホイト、マイク・フェース、アーロン・ニール、ヘイリー・ヘイトレッド、安田忠夫、長井満也、後藤達俊。プロデューサーのベイダーが『ベイダータイム』初来場。現役の慶應大生の雫あきが初参戦。

**『皇帝降臨ビッグバン・ファイト2』**
▼09年2月3日、新木場1stRING=観衆450人
[主な参戦選手&出来事]テスト、マイク・フェース、ランス・ホイト、アーロン・ニール、安田忠夫、風香。小島聡、WAKASHOYOが初参戦。

東京ドームホテル

外堀通り

DEPO MART

JR水道橋駅 東口

闘魂SHOP

闘道館

白山通り

プロレスマニア館

チャンピオン

後楽園プロ格本舗
バトルロイヤル

あなたはプロレス＆格闘技の聖地・水道橋に
プロレスショップが7店舗もあることを知ってましたか？

## こんな時代になぜか元気な

# プロレスショップ徹底検証！

〝聖地〟後楽園ホールの最寄り駅にあたる水道橋。
その界隈にはプロレス人気の衰退&世間の不況もなんのその、
なんとプロレスショップが7店舗も存在しているのだ！
しかも格闘技グッズ専門店やフィットネスショップなども
合わせれば、その店舗数は2ケタにのぼるほど。
いったいどうしてこんなにひしめき合っているのか？
はたして経営は成り立っているのか？（よけいなお世話）。
これを読めば一目瞭然！　P.S.元気です、プロレス！

取材／阿修羅チヨロ　構成／鈴木佑

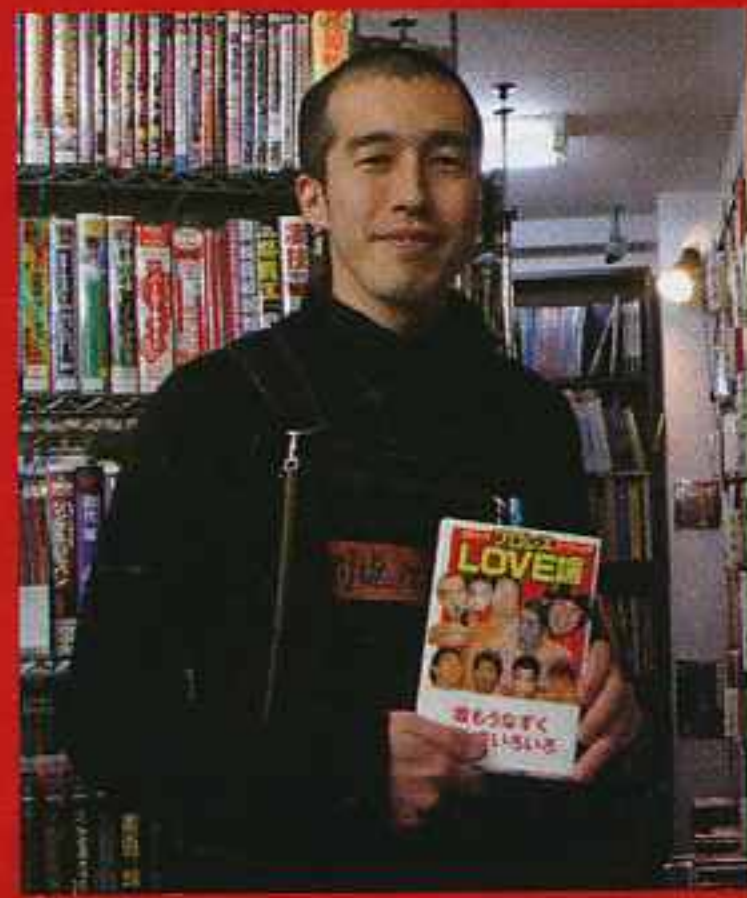
後楽園ホール

西口

チケット&トラベル
T-1

プロレスショップの情報発信基地

# 闘道館

所在地▶東京都千代田区三崎町2-9-9 ナガヤビル5F
TEL/FAX▶03-3512-2080
営業時間▶11:00～21:00（年中無休）
URL▶http://www.toudoukan.com/

## 他店とは棲み分けができているので競合というよりは共闘って感じです

現在店内に展示されている“プロレスの父”力道山のタキシード。なんでも3000人以上の各界著名人を招いた結婚披露パーティで着用したものだとか。こんな貴重なもの、どこ探したってあるわけないって!

所狭しと並べられたプロレス&格闘技本の数々。マスコミが資料探しのために、問い合わせてくることもしばしばだとか。

水道橋に立ち並ぶショップの中でも中心的存在といえばこの闘道館だ。オープンは2001年、オーナーの泉高志さんは「そもそも僕は大道塾の出身で、格闘技とプロレスが大好きだったんですね。で、学生のときから何か商売をやりたいなと思ってたんですけど、ちょうど漫画喫茶が流行り始めた頃だったので、格闘技とプロレスに特化した店を作ったらおもしろいんじゃないかなと思いまして」と、そのきっかけを語る。

「立地的には水道橋しかないって思いました。ここにはたくさんファンが集まるし、逆に言えばここでしか成り立たないというか。開店当初は厳しかったですよ。最初は図書館を謳っていて漫喫みたいなシステムだったんですけど、だんだんお客さんのニーズもわかってきて、中古販売のほうへ力を入れるようにシフトしていった感じです」

ときには海外のマニアも来店、ここまで揃ってる店は世界でもないと驚かれるとか。

「まだ、自他ともに認める格闘技オタクのジョシュ・バーネットは来店してないので、ぜひいつか来てほしいですね（笑）」

店内では過去にさまざまなイベントが催されたが、じつはあのターザン山本！の一揆塾も、一時期は闘道館で開講されていた。

「もともと僕自身が山本さんがやってた一揆塾一期生なんですよ。山本さんと知り合いになればこの業界のこともわかるかなと思って。で、はじめは渋谷で開講してたんですが、それが終わって次の場所がないってことでウチでやっていただくことになったんです。そのほかに山本さんのトークライブもよくやっていただきました。多いときは40人以上のお客さんが来てましたね、山本さんは『ギャラはいらないよ、話を聞いてもらえれば満足だから』っておっしゃっていただいて」。

……いまのターザン！の凋落ぶりからは想像できない話である。さて、水道橋界隈にはほかにも多くのショップが密集しているが、影響はないのだろうか？

「他店さんは競合というよりは共闘って感じですね。たとえばウチは中古リサイクルが中心ですが、ほかは新品専門、マスク専門、チケット専門だったりと棲み分けはできてるので。ウチにもよくほかのお店から紹介されたってお客さんがいらっしゃいますし。べつに組合があるワケじゃないんですけど、そういう連携もありますね」

その言葉を裏づけるように、闘道館の広告には他店の場所も明記され、水道橋に来たファンがショップめぐりをできるように配慮されている。とはいうものの長引くマット界不況、ぶっちゃけ気になるのはお店の売り上げだが……？

「意外に思われるかもしれないんですが、一応まだ伸び続けてます。こういうお店のお客さんは、力道山時代のものや猪木さんやタイガーマスクのものを毎週のように探しに来るマニアの方が多いんですけど、そういうコレクターには最近の業界の動向は関係ないみたいで」

なるほど、業界の不景気イコール店の売り上げ不振とはならないようだ。では、最後にこれからどんなお店を目指していきたいか、その展望を聞いてみよう！

「ウチの会社名は『我流事典』という名称なんですが、コレクターの方って我流の世界を持ってると思うんですよ。好きなものを好きなように集めるというか。そのコレクションを整理するときに、ウチを通して次のコレクターの手に渡っていけばいいな、と。全国の熱心なファンと一緒に、100年後、1000年後へ格闘文化を伝える道ができればいいなと思います」

こちらに並ぶは目が眩むほど大量なレスラーのサイン色紙。このほかにも店内にはフィギュアやポスターなど、貴重グッズがあふれ返ってます！

## 客層の中心は40～50代の男性 高級感を味わうにはうってつけ!

### 大人のための本格マスク専門店
# DEPO MART

所在地▶東京都文京区本郷1-12-7塩原ビル2F
TEL/FAX▶03-3818-6221
営業時間▶13:00～18:00　定休日▶毎週日・月曜
URL▶http://www.depomart.com/

ほかのプロレスショップが密集している場所から少し離れたところにあるのが、今年の9月でオープンから9年目を迎えるDEPO MART。いまはなき『週刊ゴング』で活躍していた大川昇カメラマンがオーナーを務めている。水道橋で開店したのは、この街がプロレスの秋葉原みたいになればいいと思ったのがきっかけだとか。

このお店がメインで取り扱っているのが"プロレスグッズの王様"であるマスク。そして、一貫して追求しているのがそのクオリティ。あくまでもレスラー本人着用の本物にこだわり、年に2回はメキシコまで買いつけに行っている。渡航費などコストをかけているぶんだけ、マスクの値段は他店より若干高めだが、本物志向のお客さんには喜ばれているとか。客層は40～50代の男性が多く、女性がブランド品を買うような感覚でマスクを購入するようだ。マスクというとニセモノも多く出回るだけに、ほかのプロレスショップが大川さんに鑑定をお願いすることもあるとか。

また、カメラマンということもありレスラーとの交流も盛んで、ミル・マスカラスがひさびさの来日をはたす『仮面貴族FIESTA 2009』（3月29日・新木場1st RING）の後援にも名を連ねている。ちなみにマスクマン本人が来日すると、その相乗効果で売り上げに反映されるとのこと。

いまの売れ筋商品はドス・カラスやエル・シコデリコを含めたマスカラスファミリー、4代目タイガーマスク、ウルティモ・ドラゴン、ザ・グレート・サスケといったところ。高級感を味わいたいファンにはうってつけの大人のためのお店である。

きれいに展示されたマスクはまるで芸術品! ウルティモ校長本人着用のモノもあります!

## 良席が揃うチケットショップ 二見社長のブログは必見です!

### "T-1ルール"にご用心!?
# チケット&トラベルT-1

所在地▶東京都千代田区三崎町2-6-7グリーンビル202号
TEL▶03-3221-6237
営業時間▶平日 12:00～19:30（毎月不定休）
土曜 11:30～19:30（時間変動あり）
日祝 11:00～19:30（19時30分以降も営業の場合あり）
URL▶http://www.t-1.jp/tk/index.html

ご存知、マット界のお騒がせ男（?）である名物社長の二見氏が構えるT-1は、厳密にはプロレスショップではなくチケットショップ。二見氏がプロレス関連のトークショーや興行をプロデュースしていることもあり、マット界との関わりがクローズアップされがちだが、野球のチケットをはじめ、新幹線の乗車券や高速券、さらには商品券なども販売している。

しかし、『kamipro』をはじめとするプロレス雑誌、さらにフィギュア、ポスターも取り扱っているため、通常のチケットショップに比べて異質な雰囲気を醸し出しているのは確か。また、チケットショップということもあり、各種イベントの良席が揃っているが、知る人ぞ知る"T-1ルール"が存在するので、購入の際には注意が必要（ルールは各自調査!）。二見社長の独特なキャラクターは、本人の毒舌ブログでご確認あれ!

悲しいかな、現在のチケットの売り上げの割合はプロ野球6に対して格闘技は3、そしてプロレスは1だとか。その中でもマット界で断トツに売れるのはDREAMのチケット。通販も行なっているというのもあるが、昨年、ライト級GPが開催された『DREAM.5』は大阪で開催されたにもかかわらず、かなりの売り上げがあったんだとか。

その他、後楽園ホールで行なわれる中堅規模の格闘技イベントだと、固定ファンをつかんで根強い人気を誇るのが修斗。プロレスでは全日本、大日本あたりが売れ筋。一般プレイガイドでは、通常は大会3日前になると購入できないが、T-1では大会当日まで前売り券で購入できるのも大きな魅力だ。

カウンターにはチケットのほかにも二見社長のインタビュー記事が掲載された本誌も陳列。いっぱいサンキュー!（二見社長調）

掘り出し物映像が盛りだくさん！

## チャンピオン

所在地▶東京都千代田区三崎町2-10-5 木下ビル2F
TEL/FAX▶03-3221-6237
営業時間▶11:00〜20:00（年中無休）

水道橋界隈の中でも老舗にあたるのがこのチャンピオンだ。数年前は駅前にあったが、現在は移転して闘魂SHOPに隣接。こちらもオーナーが同じ力道山OB会ということもあって、いまマニアのあいだで話題の昭和プロレスなど関連グッズを取り扱っている。商品のメインとなるのは歴史を感じさせるVHSのビデオとDVD。どこにも置いていないようなマニアックなMMAから、メジャー、インディーに女子プロレス、そして海外のプロレスと多岐に渡るジャンルを取り揃えている。DVD化されていない古き良き時代の映像など掘り出し物も多数あり、ほとんどのお客さんの要望に応える自信もあるとか。また、全国各地に向けてレンタルサービスを行なっているのも他店にはない強みだ。最近の売れ筋商品はドラゴンゲートもので、圧倒的に女子からの人気が高い。現在HPを制作中、近々開設予定とのことなので、今後レンタルをはじめとするさまざまなサービス面で充実すること間違いなし！

通常のレンタルショップでは借りられないようなビデオが眠る店内。「YouTube」になくてもここなら見つかるぞ！

老舗団体のオフィシャルショップ

## 闘魂SHOP

所在地▶東京都千代田区三崎町2-10-5 第1一国ビル2F
TEL▶03-3511-9901
営業時間▶11:30〜20:00（年中無休・年末年始を除く）
URL▶http://shop.njpw.co.jp/pcshop/php/index.php

新日本プロレスのオフィシャルショップである闘魂SHOP。もともとは90年代初頭に六本木にオープン。その後、渋谷や自由が丘、地方では名古屋にも出店したが、現在運営されているのはこの水道橋店と大阪店。ちなみに水道橋店は数年前から力道山OB会がオーナーを務めているということもあって、新日以外にもノアや全日本といったライバル団体のチケットも取り扱っている。来店客の多くは新日ファンということもあって、他店との差別化がうまく図れており、ここ最近、昇り調子の新日マットに比例するかたちでお店の景気も上々だとか。ウリとしては、新日の大会の席はどこのプレイガイドよりも良席を扱っていること（最前列もあり！）。さらに新日オフィシャルだけに、月に一度は所属レスラーを招いてイベントを開催。集客率ナンバーワンは棚橋弘至で、商品もタナのものが一番売れ筋だとか。また、力道山未亡人の田中敬子さんが土日には店で接客、それ目当てでマニアックなファンが訪ねに来ることも。

店内にはミニリングも設置！ 現在の売れ筋はIWGPヘビー級のレプリカベルト（税込39900円）。これで君もチャンピオン！

あの報道で知名度なら一番？

## プロレスマニア館

所在地▶東京都千代田区三崎町2-11-11 福田ビル2F
TEL/FAX▶03-5276-0304/03-5276-1964
営業時間▶12:00頃〜　定休日▶毎週火曜
URL▶http://www.p-maniakan.com/

過去に強盗に2回入られたことでワイドショーにも取り上げられ、もしかしたら知名度が一番高いかも知れないのがこのプロレスマニア館だ。その名が示すとおり、マニア垂涎のお宝グッズが所狭しと並んでいる。どこよりも高価買い取りをモットーとしているのでコレクターのみならず、インディー系や正体不明のマスクマンが秘蔵アイテムを売りに訪れることもあるとかないとか。以前は雑誌のバックナンバー販売に力を入れていたが、いまの主流はマスク販売。タイガーマスク、獣神サンダー・ライガー、ザ・グレート・サスケなどがショーケースに並んでいる。ほかにも、過去にジャパンプロレスの練習生だったコレクターから入荷したという、貴重なスーパー・ストロング・マシンやコブラなども取り揃え、まさにマニアのためのお店といったところ。お店のオーナーは鑑定モノのテレビ番組やイベントに、目利きとして担ぎ出されることもしばしばだとか。唯一の難点は開店時間が12時頃とアバウトなことか。

店先の看板には堂々と営業時間「12時頃」の表記が！ 来店するときはお店に一本連絡するのがベター？

フィギュアの品揃えなら随一！

## 後楽園プロ格本舗 バトルロイヤル

所在地▶東京都千代田区三崎町2-10-6 水道橋ニッカビル2F
TEL/FAX▶03-3556-3223/03-3263-7103
営業時間▶11:00〜19:30　定休日▶毎週月曜（祝日は営業）
URL▶http://www.depomart.com/

もともとおもちゃ関係の卸問屋だったこともあり、フィギュアの品揃えは水道橋界隈でも断トツ。コレクターの格闘家が来店することもある。しかし、現在はプロレス人気の落ち込みと世間的な不況の影響もあってか、全盛期に比べてメーカー側もフィギュアの製作数が減少している状況だとか。ちなみに一番売り上げがよかったのはPRIDE全盛期の04年あたりで、卸問屋時代も含めると96〜98年にnWoやエンセン井上の「大和魂」Tシャツがブームになった頃も羽振りがよかったとか。お店の特色としてはほぼ毎月一度、選手を招いてイベントを開催。鈴木みのるや高山善廣などフリーの大物レスラーから、チーム3Dやアニマル・ウォリアーといった外国人レスラーまで登場。ちなみに意外と知られていないが、K-1のオフィシャルショップでもあるため、過去には秋山成勲や小比類巻太信といった格闘家もイベントに参加している。なお、3月8日には小橋建太が登場する予定。

壁一面に並べられたフィギュアは圧巻！ 現在生産中止のモノもあるだけにコレクターは要チェック！

これから、の状況に向かっての……プレゼント(泥酔)

# kamipro PRESENTS

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年4月5日(日)頃発送予定です)。

応募要項

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦最も酒の強そうなプロレスラーor格闘家は?⑧『kamipro』でインタビューしてほしい人は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「あのー、ふぅー」係まで

※応募締切は2009年3月25日(水)当日消印有効

## PRESENT*01

### 新日本プロレス×映画『レッドクリフ』コラボTシャツ

[新日本プロレス株式会社/¥3,000(税込)]

すべてのプロレスTシャツのスタンダード、新日本プロレスのライオンマークTシャツが映画『レッドクリフ』とコラボ実現! サイズはL。

## PRESENT*02

### G.B.H.フラッグ

[新日本プロレス株式会社/¥2,000(税込)]

真壁&矢野や邪道&外道などが揃った極悪無法者集団G.B.H.のフラッグ! これを掲げて応援しよう。サイズは約51cm×約71cm。

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/

## PRESENT*03

### NEW MIKU Tシャツ

[リバーサル/¥5,040(税込)]

『kamipro Move』の連載が大好評!! SBでも連勝中のMIKUのNEW Tシャツがリバーサルより発売!! ほかのカラーもあるのでWEBサイトでチェック!!

リバーサル■http://www.rvddw.com/

## PRESENT*04

### 写真集『ルチャの狂気 覆面の孤独』

[壽屋/¥2,940(税込)]

ルチャを20年以上撮り続けているカメラマン「大川昇」の渾身の写真集! オールカラー192ページで3月下旬発売予定です。※表紙はイメージです。

壽屋■http://www.kotobukiya.co.jp/

## PRESENT*05

### 文庫本『完本・1976年のアントニオ猪木』

[文春文庫/¥800(税込)]

絶賛された『1976年のアントニオ猪木』が大幅加筆!『Number』掲載の著者による猪木インタビューも収録! ※表紙はイメージです。

文藝春秋■http://www.bunshun.co.jp/

## PRESENT*06

### 風香Tシャツ

[ART JUNKIE/¥3,675(税込)]

昨年はSBに出場して勝利を挙げ、今年デビュー5周年を迎えるアイドルレスラー・風香のTシャツがアートジャンキーから発売!! サイズはXS。

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

## PRESENT*07

### DVD付き柔術教則本『パラエストラ柔術・盾/佐々幸範』

[晋遊舎/¥1,995(税込)]

柔術&グラップリングで活躍する中井祐樹の一番弟子・佐々幸範が分かりやすい誌面とDVDで実演&徹底解説! 4月には『矛』発売予定。

晋遊舎■http://www.shinyusha.co.jp/

## PRESENT*08

### DVD『早川光由柔術技法(上)』

[株式会社クエスト/¥5,880(税込)]

長く日本のトップ選手に君臨。現在も活躍し、指導者としても数々の実績を残してきた早川光由が多彩なテクを披露する教則DVD。

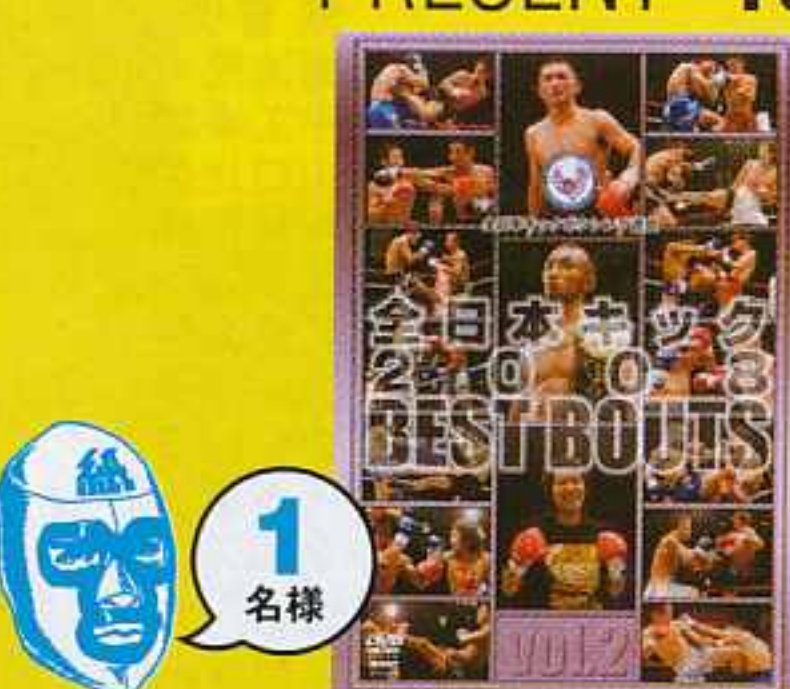
QUEST■http://www.queststation.com/

## PRESENT*09

### DVD『山田崇太郎ケトルベルトレーニング』

[株式会社クエスト/¥5,040(税込)]

体幹の強さとバランスを鍛えるのにはうってつけのトレーニングであるケトルベル。項目別、目的別に体系立てて教える初めてのDVDが登場!

## PRESENT*10

### DVD『全日本キック2008 BEST BOUT vol.2』

[株式会社クエスト/¥5,880(税込)]

見どころ満載の2008年下半期に行われた試合の中から選りすぐりの名勝負を収録。12.5藤原祭りのエキシビションマッチを収録。

## PRESENT*11

### DVD『武神 初見良昭 武神館演武編 演武とは何か?』

[株式会社クエスト/¥3,990(税込)]

古の技を今に伝える現代のニンジャ・マスター初見良昭が武道の奥義を弟子たちと行なった演武を映像化!

QUEST■http://www.queststation.com/

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

フェザー級GPついに開幕!
"ヤバイ"ヤツらがいっぱいの

# 軽い階級について重～く考えてみました!


MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
**kamipro Special**
**2009 APRIL**
2009年3月17日 発行

**発行人**
浜村弘一

**編集人**
斉藤慎一

**編集統括本部長**
ジャン斉藤

**編集スタッフ**
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎(貧乏旅行に憤慨のため非番)

**終身名誉バイザー**
吉田 豪

**助っ人**
ジャイ子

**編集次長(隠密同心)**
松林 貴

**デザイン大将**
出田さん(TwoThree)

**デザイン司令長官**
金井ヒサくん(TwoThree)

**デザイン**
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのるちゃん(以上、TwoThree)

**カメラマン**
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
丸山剛史
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト

**お勘定**
工藤ちゃん

**酩酊営業**
入江財務・金融相(TwoThree)

**雑誌営業**
堂前秀隆
中村宣忠

**助っ人営業**
上野宏樹

**業務部**
樽本"表裏差解決"義之

**編集庶務**
原 正典
山内ユリコ

**終身名誉編集庶務**
高木由美子

**編集チアガール**
金川"プレゼンター"奈津子
宮沢美奈

**編集チアマダム**
廣橋"プルメリア"久美子

**発行所**
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

**印刷**
大日本印刷株式会社

**協力**
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン スポーツ企画編集部
☎03-3265-7166


本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]☎0570-060-555(受付時間／土日祝祭日を除く12:00～17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

GENDAI
食物繊維が豊富
ヘアボールコントロール&
ダイエット効果をサポート
栄養バランス抜群
ペットの青汁
大地の恵み
—犬猫用栄養補助食—
国産・大麦若葉使用
チーズ味
かつお味
国産大麦若葉
食べやすい
粉末タイプ
健康ふりかけ
NET16g（2g×8袋）
大地の恵み
いつものごはんにかけるだけ
犬猫兼用